

第6表 第2面 V区 遺物観察表

11・25号溝

補 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42086 PL.249	11溝	陶器 碗	口縁～底部	口 器 底 *	*	脚附染付碗。主文様は欠損、口縁二重、体下部および高台部に一重崩線。	肥前陶器
第42086 PL.249	25溝	在地系上器 1 内耳綱	口縁部	口 器 底 -	-	口縁部外傾、口唇部は丸みを持つ、内外面で調整。外面上に煤付着。	遺構は(4)で報告済み
第42086 PL.249	25溝	在地系上器 2 内耳綱	口縁部	口 器 底 -	-	口縁部外傾、口唇部は丸みを持つ、内外面で調整。	遺構は(4)で報告済み
第42086 PL.249	25溝	在地系上器 3 内耳綱	脚部	口 器 底 -	-	器壁は厚く内外面で調整、成形時の指圧痕残る。	遺構は(4)で報告済み
第42086 PL.249	25溝	在地系上器 4 内耳綱	底部	口 器 底 (24.0)	-	器壁は厚く底部はやや薄手の作り、砂底。内面に煤。	遺構は(4)で報告済み

土坑・ピット

補 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42140 PL.249	91坑	在地系上器 1 内耳綱	口縁部	口 器 底 -	-	口縁部は丸みを持って外傾。口唇部は平らに成形、内外面で調整、耳は断面円形。内面に煤付着。	中世
第42140 PL.249	109%+ 1 环	須恵器 底部～体部	口縁部	口 器 底 6.0	-	ろくろ成形、底部右回転糸切り、内面端部に欠損後に付着した煤見られる。	遺構は(4)で報告済み
第42140 PL.249	368%+	在地系上器 1 足	底部	口 器 底 (17.0)	-	厚手で内面使用痕、底部右回転糸切り。	中世、遺構は(4)で報告済み
第42140 PL.249	100%+ 1 青磁 青磁碗	口縁部	口 器 (14.0) 底 -	-	-	外面に篇蓮文。	龍泉窯系

遺構外

補 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42206 PL.249	1	在地系上器 内耳綱	口縁部	口 器 底 -	(31.0)	口縁部や肥厚、全体に薄手作り。	在地系、中世
第42206 PL.249	2	在地系上器 内耳綱	口縁部	口 器 底 -	-	口縁部や外傾、縁を有す、全体に薄手作り。	中世
第42206 PL.249	3	在地系上器 焰烙	口縁部	口 器 底 -	-	口唇部やや広く、体部は僅かに膨らみを持つ。	
第42206 PL.249	4	在地系上器 碗	泥漬中 底部	口 器 底 -	6.2	ろくろ成形、内面黒色研磨、底部なで。	

2 VIII区から発見された遺構と遺物

平成29年度・30年度調査の遺構、遺物について報告する。平成31年度調査分については、全体図のみ記載し、個別の遺構、遺物については次報告とする。

(1) 番

天明烟耕作土下より、部分的ではあるが畑が検出されている。

1号畑 (第423図)

位置 42M・N・O-3・4 グリッド。

重複 無し。

平面形状 溝状。

主軸方位 N-62°-W。

規模 長さ8.0m、歛幅0.8m、高さ0.15m。

埋没土層 砂礫層。

遺物 無し。

所見 VIII区の南西隅に検出された、幅7×8m程の範囲で、畠の走行は南東方向で、天明烟と直行する。歛幅は広く、サクはやや浅い、砂礫層で埋まっていることから、洪水により埋没したと考えられる。時期は江戸時代。

2号畑 (第423図)

位置 41W-Y-21・22グリッド。

重複 無し。

平面形状 溝状。

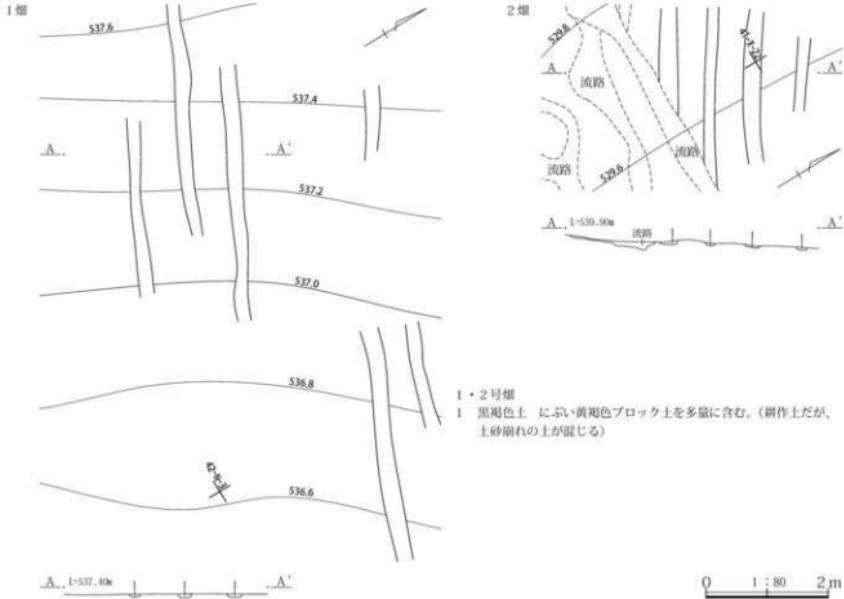
主軸方位 N-56°-W。

規模 長さ3.0m、歛幅0.8m、高さ0.1m。

埋没土層 砂礫層。

遺物 無し。

所見 VIII区の北東に検出された、幅3×3m程の小範囲で、部分的な検出に留まる。畠の走行は南東方向で、傾斜方向に作られる。歛幅はやや広く、サクはやや浅い、砂礫層で埋まっている。時期は江戸時代。



第423図 VIII区 1・2号畑

(2) 土坑

3号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42N-4 グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-65°-W。

規模 長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.50m。

埋没土層 上層に黄褐色土、下部には黒褐色土。

遺物 無し。

所見 黄褐色土主体で埋められた人為的埋土である。

4号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42M-N-4-5。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-60°-W。

規模 長軸1.92m、短軸1.2m、深さ0.65m。

埋没土層 暗褐色土主体、小礫を含む。

遺物 無し。

所見 西側部分が一段深く掘り込まれる、埋め土は一括埋土と見られる、時期は中世以降。

5号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42M-7 グリッド。

重複 無し。

平面形状 円形。

主軸方位 一。

規模 長軸0.57m、短軸0.56m、深さ0.15m。

埋没土層 黄褐色土主体。

遺物 無し。

所見 黄褐色土で埋まる。一括埋土、3号に似るが掘り込みは浅い。

6号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42M-6 グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-57°-W。

規模 長軸0.75m、短軸0.44m、深さ0.18m。

埋没土層 黄褐色土、礫が確認された。

遺物 無し。

所見 黄褐色土で埋まる。礫が入り込む、一括埋土、3・5号に似る。

7号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42J-8 グリッド。

重複 無し。

平面形状 刃丸長方形。

主軸方位 N-51°-W。

規模 長軸1.65m、短軸1.27m、深さ0.05m。

埋没土層 黄褐色土主体、の1層が確認された。

遺物 無し。

所見 掘り込みは極めて浅い。

8号土坑 (第424図、PL.236)

位置 42J-8 グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-29°-W。

規模 長軸0.7m、短軸0.51m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土で砂礫含む層が確認された。

遺物 無し。

所見 搾乱土坑か、浅く底部はV字形。

9号土坑 (第425図、PL.236)

位置 42J-9 グリッド。

重複 26号土坑を切る。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-65°-W。

規模 長軸1.0m、短軸(0.83)m、深さ一。

埋没土層 黄褐色土主体、砂礫多く含む。

遺物 無し。

所見 掘り込みは浅く、粗粒土で埋まる。中世か。

10号土坑 (第425図、PL.236)

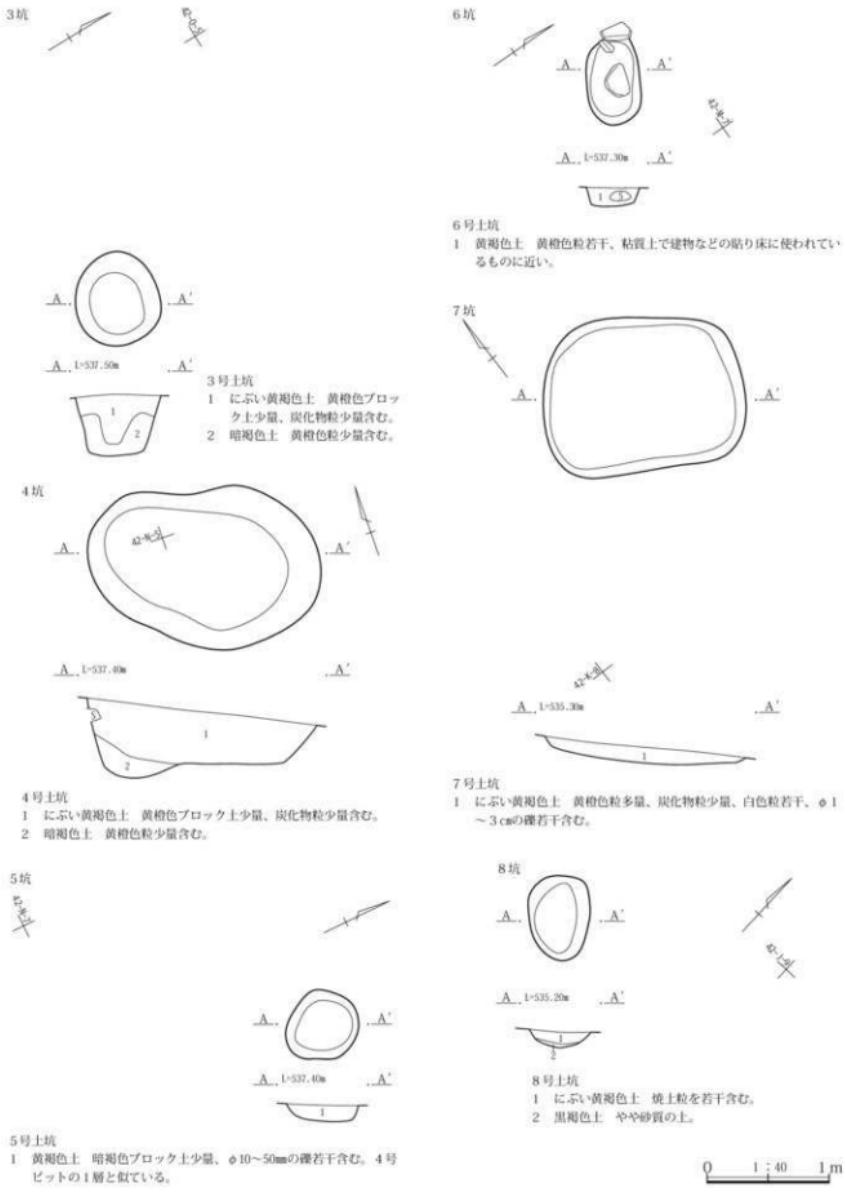
位置 42I-9 グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-35°-E。

規模 長軸0.9m、短軸0.54m、深さ0.22m。



第424図 VII区土坑 (1)

埋没土層 黄褐色土主体、縚まりがある。

遺物 無し。

所見 磨および黄色ブロック土多く含む。時期は中世以降。

11号土坑（第425図、PL.236）

位置 42 I-9・10グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-19°-E。

規模 長軸0.53m、短軸0.4m、深さ0.12m。

埋没土層 黒色土主体、I層が確認された。

遺物 無し。

所見 浅く、縚まりの弱い黒色土で埋まる。

時期は中世以降。

12号土坑（第425図、PL.236）

位置 42 H-I-8グリッド。

重複 無し。

平面形状 長方形（溝状）。

主軸方位 N-60°-W。

規模 長軸3.0m、短軸0.8m、深さ0.68m。

埋没土層 黒褐色土主体、砂小礫多く含む層が確認された。

遺物 無し。

所見 一括埋土で埋められている。溝状で掘り込みはほぼ垂直、時期は中世以降。

13号土坑（第425図、PL.236）

位置 42 G-H-10グリッド。

重複 無し。

平面形状 円形。

主軸方位 一。

規模 長軸0.8m、短軸0.77m、深さ0.15m。

埋没土層 黄褐色土主体、角礫含み縚まり強い。

遺物 無し。

所見 浅い掘り込み、明確な掘り込みは見られない。時期は中世か。

14号土坑（第425図、PL.237）

位置 42 G-10・11グリッド。

重複 無し。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-42°-E。

規模 長軸1.2m、短軸0.72m、深さ0.13m。

埋没土層 黒色土主体。

遺物 無し。

所見 黒色土が浅く落ち込む、明確な掘り込みは認められず、時期は中世以降。

15号土坑（第425図、PL.237）

位置 42 G-11・12グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.12m。

埋没土層 黒色土主体、小礫含む。

遺物 無し。

所見 浅い落ち込みで、中央にピット状の掘り込みあり。時期は中世以降。

16号土坑（第425図、PL.237）

位置 42 G-10グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-60°-E。

規模 長軸2.0m、短軸1.0m、深さ0.15m。

埋没土層 黒色土主体、小礫含む。

遺物 無し。

所見 掘り込みは浅い、時期は中世以降。

17号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 G-11グリッド。

重複 無し。

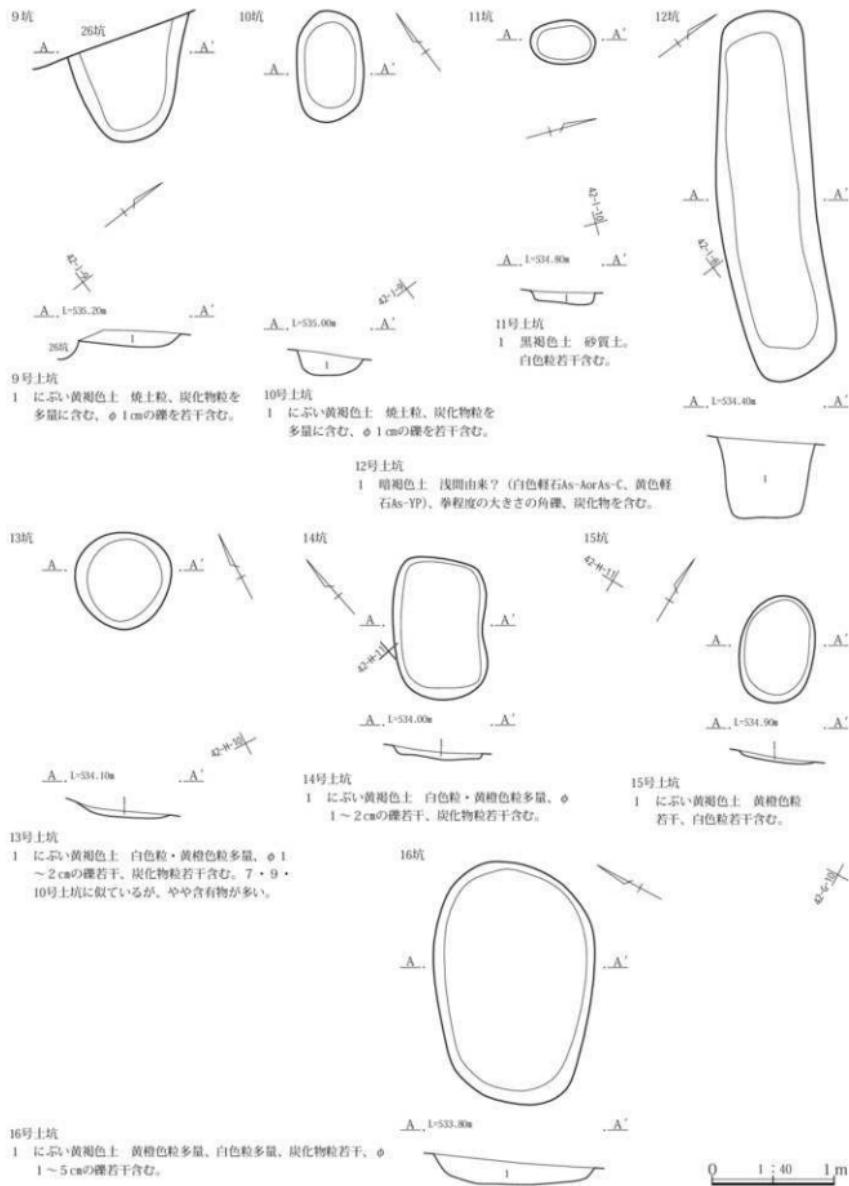
平面形状 長円形。

主軸方位 N-7°-E。

規模 長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.15m。

埋没土層 黄褐色土主体、礫を含み縚まり有り。

遺物 無し。



第425図 VIII区土坑 (2)

所見 埋土は締まった黄褐色土で掘り込みは浅い。時期は中世以降。

18号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 G-11グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸0.9m、短軸0.58m、深さ0.12m。

埋没土層 黄褐色土主体、上層は黒味あり。

遺物 無し。

所見 浅い掘り込みで礫を含む、時期は中世以降。

19号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 F・G-10グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 一。

規模 長軸(1.3)m、短軸(1.5)m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、礫を含む。

遺物 無し。

所見 規模はやや大きく、底は平坦である。掘り込みは余り深くない。時期は中世以降。

20号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 F-11グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-62°-W。

規模 長軸(0.7)m、短軸0.6m、深さ0.09m。

埋没土層 黄褐色土主体。

遺物 無し。

所見 浅い掘り込みで、中央に角礫の頭が見られる、自然の落ち込みか。

21号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 G-11・12グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-15°-W。

規模 長軸0.9m、短軸0.52m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体。

遺物 無し。

所見 掘り込みは浅い、20号土坑に似る。

22号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 E・F-11・12グリッド。

重複 無し。

平面形状 溝状。

主軸方位 N-35°-W。

規模 長軸(4.42)m、短軸0.3m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、小礫含みやや粘質土。

遺物 無し。

所見 土坑としたが、機能的には溝である、断面は半円状で、南東に向かって緩やかな傾斜を持つ。時期は中世以降。

23号土坑（第426図、PL.237）

位置 42 G-11グリッド。

重複 24号土坑。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-88°-W。

規模 長軸(1.16)m、短軸(1.10)m、深さ0.37m。

埋没土層 黒褐色土主体、角礫含む。

遺物 細かい。

所見 やや黒味を持つ粘質土で埋まり下層に礫が見られる。時期は中世以降。24号土坑を切る。

24号土坑（第426図、PL.237・249）

位置 42 F・G-11グリッド。

重複 23号土坑。

平面形状 長円形。

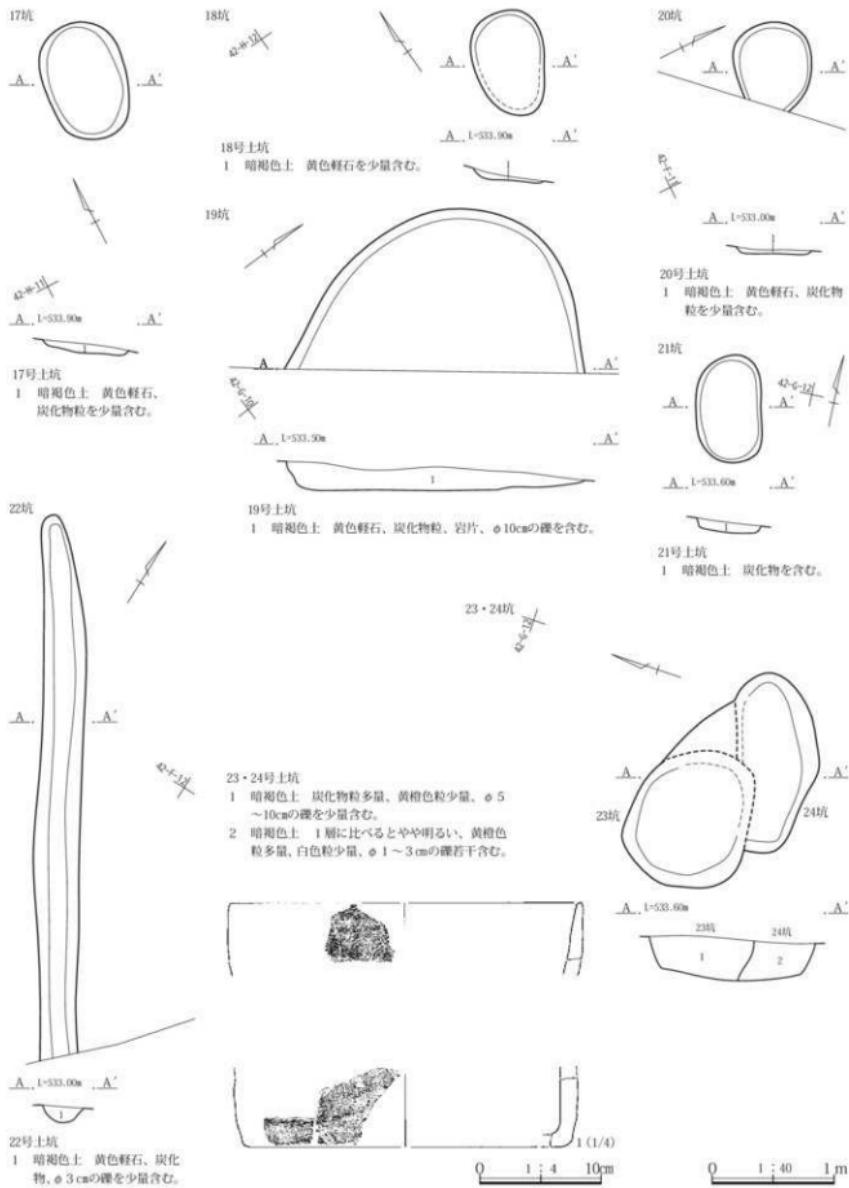
主軸方位 N-75°-E。

規模 長軸1.44m、短軸(0.7)m、深さ0.37m。

埋没土層 黄褐色土、粗粒土でやや粘性あり。

遺物 細かい。

所見 23号土坑と重複、本遺構が新しいとされる。内耳鍋片出土、時期は中世以降。



第426図 VII区土坑（3）24号土坑出土遺物

第2節 V・VII区第2面から発見された遺構と遺物

25号土坑 (第427図、PL.237)

位置 42D-14グリッド。

重複 無し。

平面形状 長円形。

主軸方位 N-28°-W。

規模 長軸0.6m、短軸0.52m、深さ0.2m。

埋没土層 黒褐色土主体、粘質土。

遺物 無し。

所見 やや黒味を持つ粘質土で埋まる。時期は中世以降。

26号土坑 (第427図、PL.237)

位置 42J-9グリッド。

重複 9号土坑に切られる。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-15°-E。

規模 長軸2.1m、短軸1.1m、深さ0.4m。

埋没土層 黒褐色土主体、角礫含む。

遺物 無し。

所見 やや黒味を持つ縁まりのある土で埋まり、小礫含む、底面南側が一段低くなる。時期は中世以降。

27号土坑 (第428図、PL.237)

位置 42I-10グリッド。

重複 無し。

平面形状 円形。

主軸方位 —。

規模 長軸0.58m、短軸0.54m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体。

遺物 無し。

所見 やや黒味を持つ粘質土で埋まる。掘り込みは浅く、時期は中世以降。

28号土坑 (第428図、PL.237)

位置 42I-10グリッド。

重複 無し。

平面形状 圓丸方形。

主軸方位 N-35°-E。

規模 長軸1.6m、短軸1.6m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、角礫含む。

遺物 無し。

所見 やや黒味を持つ粘質土で埋まり下層に礫が露出、掘り込みは浅い。時期は中世以降。

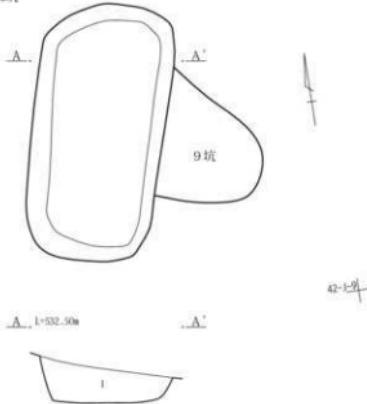
25坑



25号土坑

I 暗褐色土 黏化物を多量に含む。粘性のある土。

26坑



26号土坑

I 暗褐色土 黄褐色ブロック土少量、φ 1~5cmの礫少量、炭化物粒少量、焼土ブロック土若干含む。

0 1:40 1m

第427図 VII区土坑 (4)



第428図 VIII区土坑（5）

第7表 第2面 VIII区 遺物観察表（1）

24号土坑

探査 PL. No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第426図 PL.249	陶器 埴燒	側～底部	口 器 底 (26.0)		内外面なで、外面にすす付着。	在地系

(3) ピット (第429図)

ピットは32号建物下2面および2、3号復旧坑下において、土坑群と共にまとめて検出されている。

掘立柱建物と想定されるものは見られず、時期も明確には判別できなかった。概要は一覧表にて記載する。

4P A-A' L=537.40m A'



5P A-A' L=537.00m A'



4号ピット

- 1 黒褐色土 喰褐色ブロック上多量。黄褐色粒若干含む。し
まりややあり。
2 黑褐色土 φ 50mmの礫若干。黄褐色粒・白色粒少量含む。

5号ピット

- 1 灰黒褐色土 φ 10~20mmの礫少量、炭化物粒若干。白色
粒若干含む。2層との境に鉄分沈着あり。しまりあり。
2 黑褐色土 φ 10~20mmの礫若干。黄褐色粒若干含む。4
号ピットの2層に似ている。

6P A-A' L=535.80m A'



6号ピット

- 1 にぶい 黑褐色土 黄褐色粒・白色粒少量・鉄分沈着あり。

7号ピット

- 1 喰褐色土 黄色軽石を含む。炭化物を若干含む。

8P A-A' L=533.20m A'



8・9号ピット

- 1 喰褐色土 黄色軽石少量・炭化物を少量含む。

10P A-A' L=532.00m A'



10・11号ピット

- 1 褐灰色土 炭化物を多量に含む。粘性のある上。

12P A-A' L=535.20m A'



12号ピット

- 1 黒褐色土 黄褐色ブロック上少量、白色粒・黄褐色
粒若干、炭化物粒若干。φ 1~2cmの礫若干含む。

13号ピット

- 1 黒褐色土 黄褐色粒・白色粒若干。27号土坑と似ている。

14P A-A' L=535.00m A'



14・15号ピット

- 1 黒褐色土 黄褐色ブロック上少量、白色粒・黄褐色
粒若干、炭化物粒若干。φ 1~2cmの礫若干含む。

16P A-A' L=532.70m A'



16号ピット

- 1 にぶい 黑褐色土 黄褐色粒若干含む。

- 2 褐灰色土 白色粒若干。φ 1~2cmの礫若干含む。

0 1:40 1m

第429図 VIII区ピット

第8表 第2面 VII区ピット一覧表

排番	号	区	面	位置(グリッド)	平面形状	規模(cm)			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第429回	1	VII	1	42C-18	楕円形	30	20	25	33号建物に付随	江戸	柱材	2017
第429回	2	VII	1	42C-19	円形	20	20	13	33号建物に付随	江戸		2017
第429回	3	VII	1	42C-19	椭丸方形	30	20	15	33号建物に付随	江戸		2017
第429回	4	VII	2	42B-6	円形	24	24	17		中・近世		2017
第429回	5	VII	2	42L-6	楕円形	30	24	25		中・近世		2017
第429回	6	VII	2	42C-11	楕円形	34	30	28		中・近世		2017
第429回	7	VII	2	42F-11	円形	30	30	15		中・近世		2017
第429回	8	VII	2	42F-11	長円形	40	28	10		中・近世		2017
第429回	9	VII	2	42C-14	楕円形	34	30	17		中・近世		2017
第429回	10	VII	2	42D-14	楕円形	34	28	33		中・近世		2017
第429回	11	VII	2	42D-14	円形	30	30	27		中・近世		2017
第429回	12	VII	2	42I-10	円形	34	34	15		中・近世		2017
第429回	13	VII	2	42I-10	円形	26	26	21		中・近世		2017
第429回	14	VII	2	42I-10	椭丸方形	46	40	20	15P	中・近世		2017
第429回	15	VII	2	42I-10	楕円形	38	28	20	14P	中・近世		2017
第429回	16	VII	2	42E-12	楕円形	30	22	30		中・近世		2017

(4) 焼土

1号焼土 (第430図、PL.238)

位置 42N-6 グリッド。

重複 無し。

平面形状 円形。

主軸方位 N-°-E。

規模 長軸0.8m、短軸0.8m、深さ0.1m。

埋没土層 黒褐色土、炭化物、焼土の混土主体。

遺物 無し。

所見 1号建物の西側角において、構築面を掘り下げたところ、検出された、ほぼ円形に炭化物、焼土の堆積層が、角礫を含む浅い掘り込みを伴う。建て替え前の遺構は確認できなかったが、窓あるいは匂炉裏の痕跡か。

2号焼土 (第431図、PL.238)

位置 42J-6 グリッド。

重複 無し。

平面形状 楕円形。

主軸方位 N-35°-E。

規模 長軸0.68m、短軸0.5m、深さ0.14m。

埋没土層 焼土、炭化物含む粗粒土、角礫含む。

遺物 無し。

所見 37号石垣の南東部、1号復旧坑下で検出、数個の角礫と炭化物、焼土が認められた。浅い掘り込みを伴い、焼上面としては殆ど確認できなかった。性格は不明である。

3号焼土 (第431・432図、PL.238・249)

位置 42C-15 グリッド。

重複 無し。

平面形状 楕円形。

主軸方位 N-°-E。

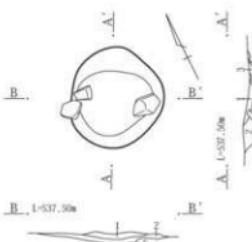
規模 長軸1.18m、短軸0.84m、深さ0.23m。

埋没土層 黄褐色土粘質土、焼土、炭化物角礫含む。

遺物 土師器窓口縁部片。

所見 45号烟下面より検出、数個の礫周りに軸を東にU字形に焼土が認められた、内部には粘性黄褐色土が見られ、下部には焼土炭化物が見られた。土師器窓の破片が出土。時期は中世以前に遡る可能性あり。

1号焼土

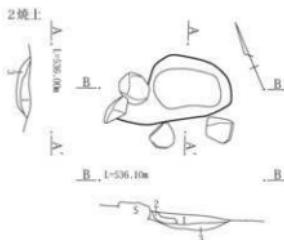


1号焼土

- 1 黒褐色土 炭化物粒多量・焼土ブロック少量含む（2の上が焼けたか？）。
- 2 黒褐色土 φ 1~5cmの礫多量。黄褐色粒若干含む。
- 3 黄褐色土 φ 100mmの大礫大量、白色粒若干、黄褐色粒若干含む（地山か？）。

0 1:40 1m

第430図 VII区焼土 (1)

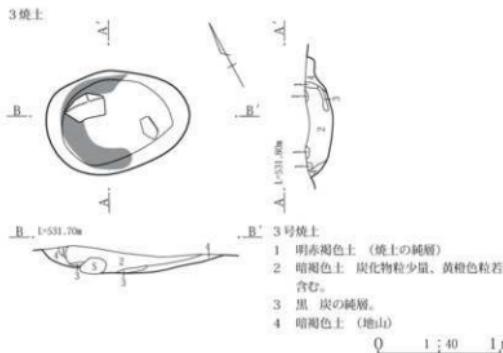


2号焼土

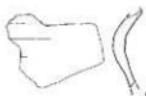
1 暗褐色土 炭化物がまとまっている。焼土粒若干干渉する(炭を捨てる上坑か?)。

2 黒 炭の純層。

3 暗褐色土 炭化物少量、黄褐色粒若干。



第431図 VIII区焼土 (2)



0 1:3 10cm

第432図 VIII区 3号焼土出土遺物

第9表 第2面 VIII区 遺物観察表 (2)

3号焼土

持 図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第432図 PL.249	1	土器 甕	口縁部	口器 底	- - 微砂粒含む/赤褐色	口唇部欠け外反、腹部幅狭で屈曲弱く、口縁部横擴、肩の張りは弱い。	平安時代

(5) 暗渠

1号暗渠 (第433図)

位置 42D・E-16グリッド。

重複 無し。

平面形状 溝状。

主軸方位 N-47°-E。

規模 長さ3.9m、幅0.8m、深さ0.5m。

埋没土層 灰黒色粘質土内に、大小の角礫が乱雑に詰められている。

遺物 無し。

所見 南東に傾斜を持つ場所にほぼ同方向に走る、大小の礫が乱雑に詰められた溝が複数確認されている。

長さは4mほどである。1号暗渠が掘り込まれた地山は粘性が強く、礫も多く含まれている。この暗渠の北東端に水場遺構が構築されている。

(6) 水場遺構

1号水場遺構 (第433図、PL.238)

位置 42D-16・17グリッド。

重複 無し。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-69°-E。

規模 長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.85m。

埋没土層 灰黒色土、礫、有機質含む粘性土で埋まる。

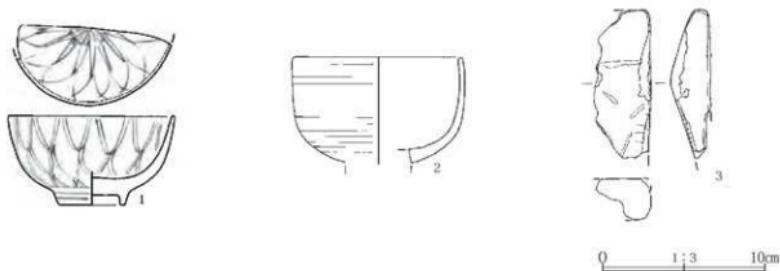
遺物 板材。

所見 1号暗渠の末端部に構築されていた。板を長方形に囲い、暗渠から取り込んだ水を一時的に溜め、生活に利用したものと考えられる。

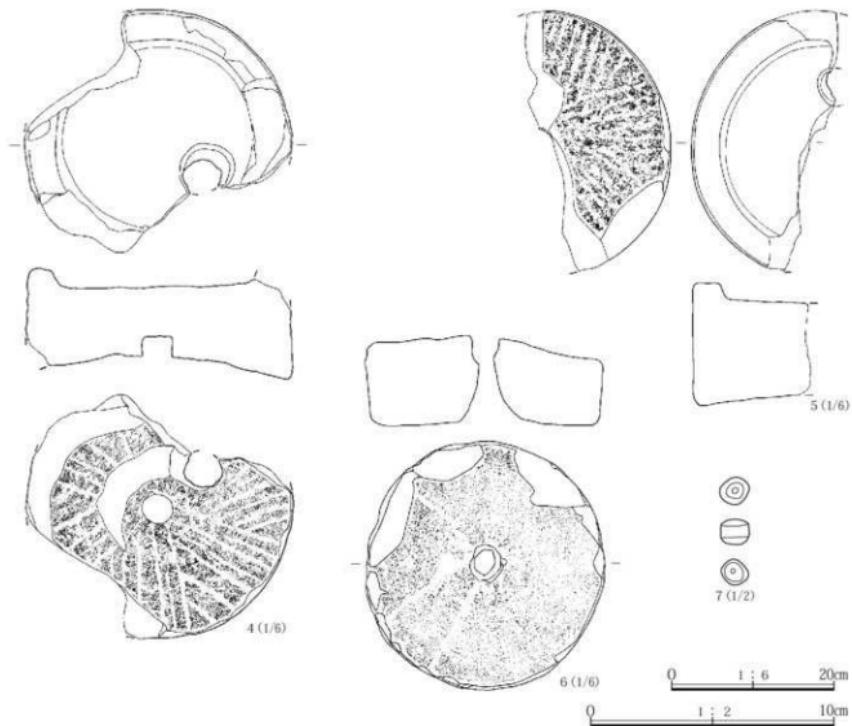
上方奥の取り入れ口に、板材を立て外側を杭で押さえた、一次浄化用の小振りの集水槽を作り、それを囲うように大きい集水槽を構築している。外側に杭を打ち込み、横板を重ねて木枠を作っている。木枠の外側には礫を入れ込む、時期は江戸時代と思われる。



第433図 VII区 1号暗渠・1号水場造構



第434図 VII区造構出土遺物 (1)



第435図 VIII区遺構外出土遺物（2）

第10表 第2面 VIII区 遺物観察表（3）

造構外

掲 図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第434図 PL.249	1	磁器 碗	8区 口縁～底部	口 (10.0) 厚 (5.4) 器 (4.0)		外面二重目。内面單目文。見込み幅の広い菊花状文。	肥前磁器
第434図 PL.249	2	陶器 碗	8区 口縁～底部	口 (10.6) 厚 器 -	-	内面から体部外面下部鉢輪、軸厚にムラあり。	瀬戸・美濃陶器
第434図 PL.249	3	磁石器 磁石	42A-18 欠損	長 (9.0) 幅 (3.3) 厚 重 (2.5) 67.7	砥沢石	両端・側面を欠く。使用面は中央高まり平滑、側面、裏面 は荒れて欠損あり。	被熱している
第435図 PL.249	4	石臼 上臼	42A-19 欠損	径 (33.4) 厚 幅 - 重 (12400)	粗粒輝石安山岩	縁は断面台形、内部は平らで径約4cmの供給口見られる。 引き手差し込み穴部分は欠損。軸受け口は径約3.5cm、深 さは2cmとやや浅い。下面には物配りの溝が三日月状に掘 られている。歯挽き目は中央部すり減る。	
第435図 PL.249	5	石臼 上臼	8区 欠損	径 (32.0) 厚 幅 - 重 (11200)	粗粒輝石安山岩	縁は低いがしっかりとした作り、内部は平らで径約4cmの 供給口見られるが、欠損している。引き手差し込み穴確認 できない。軸受け口部分についても欠損する。物配りの溝 は確認できない。歯挽き目についてはやや摩耗見られる。	
第435図 PL.249	6	石臼 下臼	42A-19 完形	径 29.6 厚 幅 - 重 (13000)	粗粒輝石安山岩	かなり使い込まれている。軸穴から放射状に3本の溝が切 付けられているが、新たに加えられたものと思われる。軸穴の 径は上面が約4cm、下面は5cm程度である。	

掲 図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	特徴等	備考
第435B PL.249	7	鉄砲玉	41V-15 完形	径 1.1 厚 重 8.2	白化した鉄製。外周に平らな面がある。	

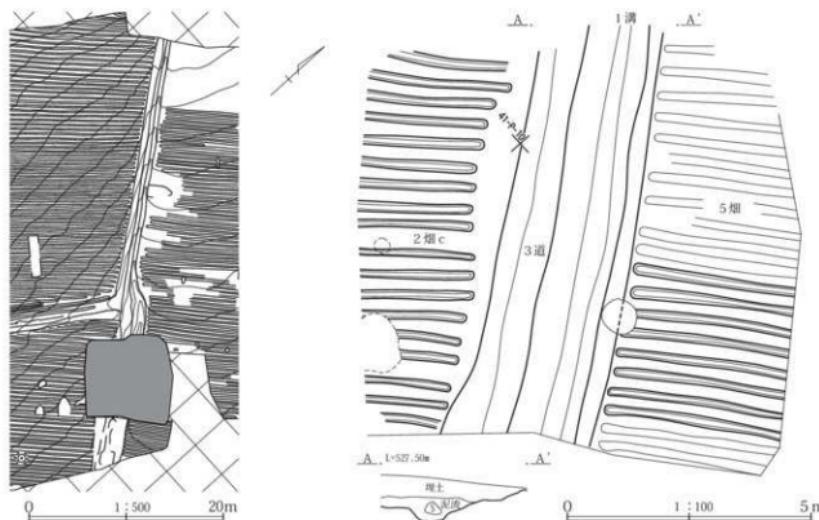
第3節 V・VIII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

1 V区から発見された遺構と遺物

前年度未調査となっていた、電柱敷き部分（41区O・P-8・9グリッド）の平成29年度調査の報告である。調査面積は約25m²である。

（1） 煙（第436図、PL.239）

中央に北西から南東に走る溝および両側に煙を確認し



第436図 V区煙・溝



第437図 V区遺構外出土遺物

第11表 第1面 V区 遺物観察表

遺構外

掲 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 泥流中	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第437図	1	在地系土器	泥流中	口 底	-	口縁部やや丸みを持って外に膨らむ、口唇部平らに成形、把手	在地系
PL.249		内耳皿	口縁部	器	-	手部裏半分欠損。赤茶褐色。	

第3節 V・VIII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

た。溝の北東側は5号烟、南西側は2号烟cの一部である。両烟とも溝に向かって、敵が傾斜している。

（2） 溝（第436図、PL.239）

1号溝 平成28年度の調査で確認された溝の続ぎである。2号烟Cと5号烟を分けている。上幅約1.3m、深さは0.4mである。緩やかな落ち込みで、西側中段には幅広な平坦部が並行しており、3号道と考えられる。溝底にはAs-Aが確認されており、烟の耕作時に溝として機能していたと考えられる。

2. VIII区から発見された遺構と遺物

VIII区1面では、建物7棟・切石石組み遺構1基、石垣6基、烟1(?)区画・復旧溝群(?)区画・道路1条、IX区から烟2区画が確認された。

本書では、平成29・30年度調査で検出された遺構および遺物について報告する。平成31年度調査分については、建物の内、前年度調査の未調査部分となっていた部分の報告を行い、その他の遺構については、全体図のみを掲載し、検出した遺構の詳細、出土遺物については、後日報告とする。

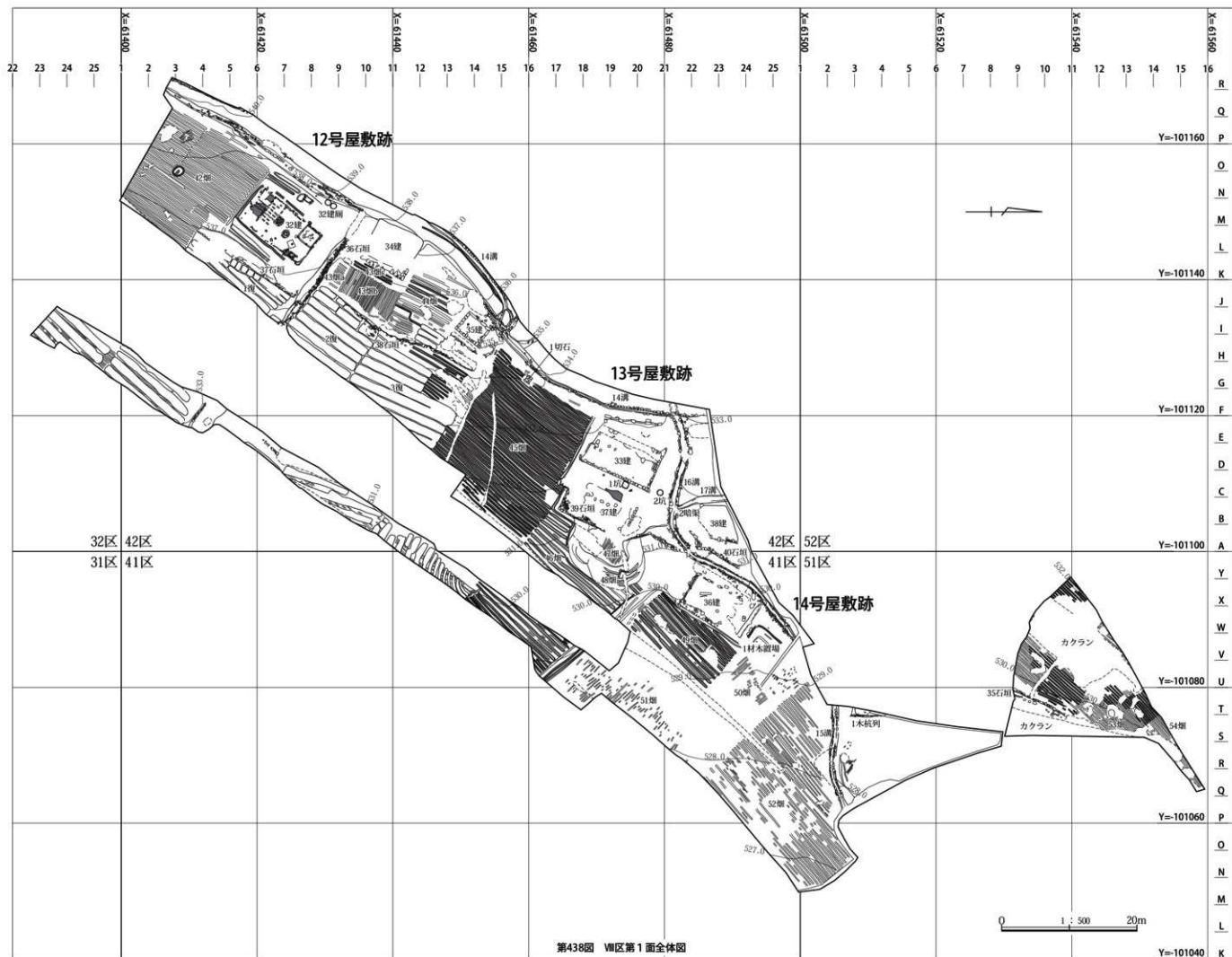
なお、遺構番号は過年度調査からの、続き番号である、

ただし、土坑、ピット、焼土については8区内で1から付番している。さらに5区との続き部分の烟、復旧坑については、5区内の番号を優先している。4・8区の調査区範囲は現道と、旧JR吾妻線線路敷きを含む細長い範囲である。調査の結果、現道下からは天明泥流で埋没した、江戸時代の道が検出された、両側には側面に石を組んだ溝が検出された、溝は所々で道を横切っており、道の上には板や材を渡してある。

建物は計7棟が検出された。38号を除き、道の直ぐ南東側に沿うように位置する。建物の間や前面部には烟が作られており、さらに南東側の5区で検出された烟へと、緩やかな傾斜を持って続いている。

第12表 第1面 東宮遺跡建物一覧表

調査	遺構名(建物)	屋敷	グリッド	備考	調査年度	報告書名	集	刊行年
I	1号建物	1号屋敷	51X・Y-2～6、52A-1～6、B-1～E-1～5	主屋。縁を想定した礎石を含める と桁行2108cm。縁及び3号施設推定位臯を含めると梁行1590cm	平20	東宮遺跡(1)	514	2011
I	2号建物	1号屋敷	41Y-23・24、42A-B-23・24	8基の桶を埋設	平20	東宮遺跡(1)	514	2011
I	3号建物	1号屋敷	41X-Y-25、42A-25、51X-Y-1、52A-1		平20	東宮遺跡(1)	514	2011
I	4号建物	1号屋敷	52A～C-6～7		平20	東宮遺跡(1)	514	2011
I	5号建物	2号屋敷	52C～F-8～9、B-10	主屋	平20	東宮遺跡(1)	514	2011
I	6号建物	2号屋敷	52C-B-7～8	掘立柱建物	平20	東宮遺跡(1)	514	2011
II	7号建物	3号屋敷	51N-22～23、0-22～25、P-21～24、0-21～23	主屋	平20			2011
I	8号建物	1号屋敷	52A-B-6・7、C-6		平20	東宮遺跡(1)	514	2011
IV	9号建物	4号屋敷	42B-18～20、I-K-16～20、J-15～20、L-16～17	主屋	平20			
IV	10号建物	5号屋敷	42G-21～22、H-J-21～24	酒蔵	平20	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	11号建物	6号屋敷	52G-1～3、H-J-1～4		平21	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	12号建物	5号屋敷	42G-24～25		平20	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	13号建物	7号屋敷	52K-3～5、L-2～6、M-1～6、N-1～5、O-2～4	主屋	平20・21	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	14号建物	7号屋敷	52J-L-6・7、K-5～7		平20・21	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	15号建物	7号屋敷	52D-P-2～3		平21			2017
IV	16号建物	8号屋敷	420～R-14～19	主屋	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	17号建物	6号屋敷	52L-W-3	方形集石造構に変更	平26			2017
IV	18号建物	9号屋敷	420～Q-10～12	主屋	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	19号建物	9号屋敷	420-P-8・9		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	20号建物	8号屋敷	42P-18～19		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	21号建物	9号屋敷	42P-Q-6～8		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	22号建物	不明		21号建物と同一	平26			2017
IV	23号建物	10号屋敷	425～U-7～11	主屋	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	24号建物	—	42R-S-9～11	屋敷跡とはしない	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	25号建物	—	42D-V-5		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	26号建物	8号屋敷	42N-Q-18～19	主屋か	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	27号建物	6号屋敷	52H-I-5・6		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	28号建物	7号屋敷	52I-J-6		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	29号建物	欠番	7号屋敷		平26			2017
IV	30号建物	10号屋敷	42R-S-12・13		平26	東宮遺跡(3)	628	2017
IV	31号建物	11号屋敷	42S-U-7～10	主屋 10号屋敷下に検出	平26	東宮遺跡(3)	628	2017
VII	32号建物←(1建)	12号屋敷	42K-N-5～8	主屋 窓1、圓柱裏1	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	33号建物←(2建)	13号屋敷	42C-E-18～20	倉	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	34号建物←(3建)	12号屋敷	42K-L-10～11	集石造構か	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	35号建物←(4建)	4号屋敷	42H-I-13～14	倉	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	36号建物←(5建)	14号屋敷	42W-Y-21～23	主屋	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	37号建物←(6建)	15号屋敷	42B-C-18～19	納屋	平29	東宮遺跡(5)	675	2021
VII	38号建物←(7建)	1号屋敷	42A-B-22～23	納屋か	合元			
VII	1号建物(合元)(39建)	12号屋敷	42A-B-22～24	廻	合元			



(1) 建物

32号建物 (12号屋敷) (第439~442・449~451図、

PL.240~242・250・251)

位置 42区K~N-5~8グリッド。

重複 無し

主軸方位 N-50°-E。

規模 柱行10.8m、梁行5.6m。

礎石 建物外郭に沿って小振りの礎が並ぶ、やや大きな石が礎石として機能していたものと考えられるが、南西壁部分には、礎石がほとんど認められない。泥流により流されたのか、調査時に除去してしまったのかは確認できないが、柱穴がほぼ等間隔に並んで検出されている。幅約20~30cmの雨落ち溝、北側部分を除き建物を廻っている。

柱穴 建物関連で16基、馬屋関連で8基が確認された。

(計測表参照)

柱間 柱間距離は以下のとおり (柱穴名-柱穴名: 距離 (単位m))。

P5-P6: 1.5m, P6-P7: 1.5m, P8-P9: 0.9m, P5-P14: 1.9m, P14-P15: 2.0m, P15-P16: 1.9m。

板間 囲炉裏の西側部分が想定される。約50cmの間隔で根太の痕跡が見られ、横方向にも大引痕が約1m間隔で認められた。

土間 中央北側が想定される。入り口か正面に竈、右奥に馬屋、右側が作業場と考えられる。比較的良く綿まつているが版築された状況は伺えなかった。作業場部分では塗の痕跡が確認されている。また、1号土坑は方形に貼られたローム土が剥っており、内部は埋没後に掘られた状況を呈していた。おそらく唐白が据えられていたものと思われ、泥流埋没後に掘り出された可能性が高い。西側に並んで検出されたP2, P3は足踏み杵を支える支点杭の柱穴であろう。

竈 建物の中央や右寄りに作られている。やや大きく長円形の礎を立て、ほぼ円形に廻らし、焚き口部には鳥居状に偏平な石を渡している。廻らした礎の上には、小振りの礎で形を整え、スサを混入した土で覆い、ドーム状に成形、鍋掛け用の上径約60cm、下径40cmの穴が設けられ、内側には煤が付着している。

検出時、竈内部には泥流が流れ込んだ状態で、中から完形の碗、水注が出土している、竈の内面には煤の付着

32号建物ピット計測表

ピットNo	長径×短径×深さ cm	ピットNo	長径×短径×深さ cm
P1	40×30×52	P9	15×12×35
P2	30×30×60	P10	50×40×24
P3	23×21×20	P11	20×18×25
P4	30×25×42	P12	25×22×40
P5	25×22×42	P13	44×35×25
P6	22×20×32	P14	30×22×46
P7	14×12×34	P15	36×30×44
P8	14×14×28	P16	43×32×45

32号建物馬屋ピット計測表

ピットNo	長径×短径×深さ cm	ピットNo	長径×短径×深さ cm
馬屋P1	22×22×25	馬屋P5	32×22×20
馬屋P2	18×12×20	馬屋P6	20×17×18
馬屋P3	25×20×26	馬屋P7	22×15×16
馬屋P4	22×18×30	馬屋P8	26×28×28

が見られ、底には焼土、灰層が互層に確認されている。

囲炉裏 建物のほぼ中央、竈からは約1m離れ、土間と板間との境に作られている。木枠部分は不明であるが、大きさ1辺約1.3mの方形であろう。基礎材となる角礎がほぼ四角に残り、内部中央には円形に焼土が残り、周囲には木炭、灰層が残っていた。

馬屋 建物の北隅に作られていた。大きさは1辺約2.5mで、4隅およびその間に計8本のピットが確認された。内部は中央部分がやや下がり、有機質土の堆積が認められる。

遺物 陶磁器類の他石製品、鉄製品、銅製品、錢貨、砥石などが多く出土している。竈内より完形の碗、水注が出土。また、鹿角も出土している。

所見 檜出時は建物西側の壁寄りには、部分的ではあるが、土壁が倒れ込んだ状態で検出された。

礎石が部分的に確認されなかった部分もあり、一部掘立柱であったか、あるいは建て替えが行われていた可能性もある。柱穴は北西側にも並んで検出されている。

また、掘方調査時に竈の痕跡と思われる、角礎を伴った焼土痕(焼土遺構)が西側寄りに確認されている。

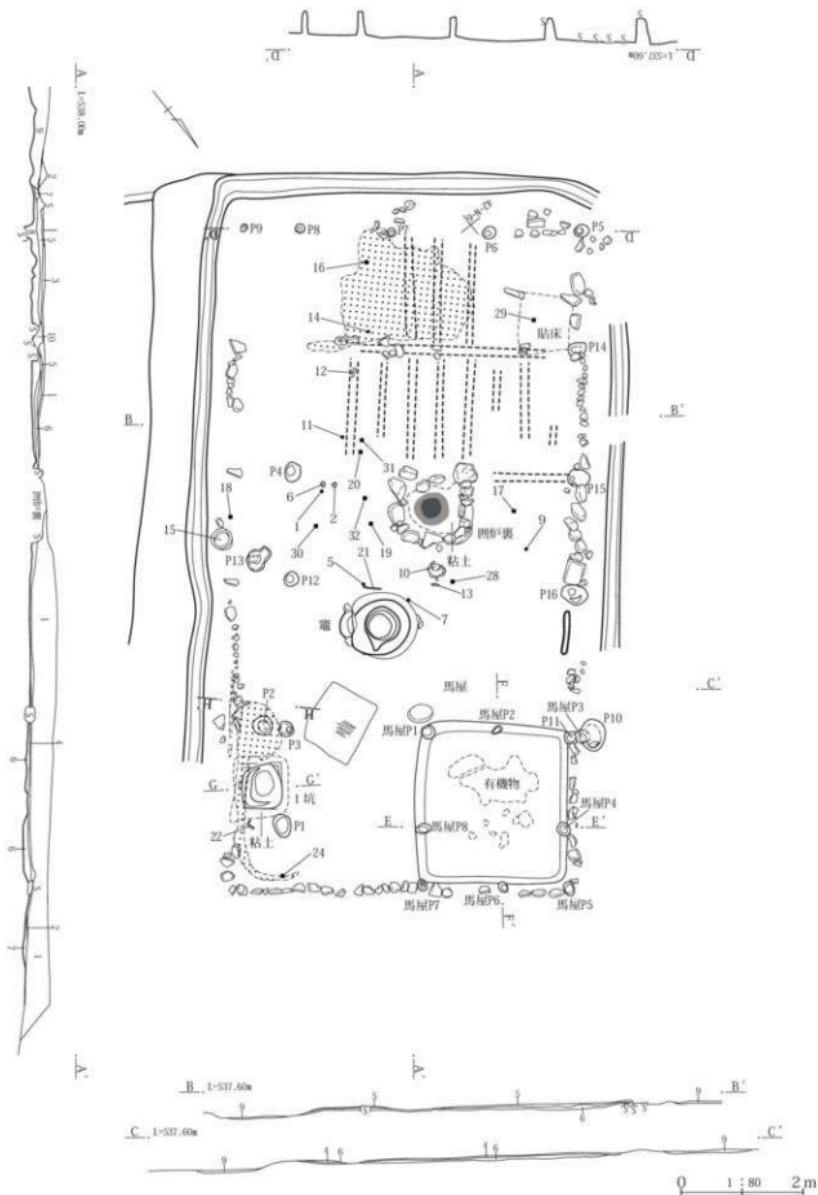
建て替え前の竈の可能性がある。建物入り口は西側に位置、裏側には、本道へと上の階段状の道が作られていた。右脇には廻が翌年度の調査で検出されている。

32号建物廻 (第442図)

位置 42M-8グリッド。32号建物の北西に約4m離れて位置する。階段状の道の右脇に位置している。

重複 無し。

主軸方位 一。



第439図 VIII区32号建物（1）

32号建物

- 1 天明泥流 黒褐色土 $\phi 5 \sim 200\text{mm}$ の礫大量に含む。 $\phi 2 \sim 100\text{mm}$ の白色・黄褐色色鉄石多量に含む、鉄分沈着あり。
- 2 As-A
- 3 明褐色土 白色粒少量含む。粘土質。(32号建物の壁の崩れか?)
- 4 黄褐色土 白色少々・黄褐色少々。しまりあり。粘土質。(32号建物の貼り床部分)
- 5 黄褐色土 白色少々・黄褐色少々。しまりあり。粘土質。(土床間部分の堅穴建物床面)
- 6 暗褐色土 黄褐色少々、 $\phi 2 \sim 50\text{mm}$ のレキ若干。しまりあり。下層に鉄分沈着層あり。(床面下のしまりのある上、整地のために人为的にいたか?)
- 7 暗褐色土 黄褐色少々、 $\phi 2 \sim 50\text{mm}$ のレキ若干。しまりあり。下層に鉄分沈着層あり。5層と似ているが、建物外のため分層
- 8 暗褐色土 にふい黄褐色土 混土層 黄褐色少々。(32号建物の地山)
- 9 暗褐色土 にふい黄褐色土 混土層 黄褐色少々。しまりあり。6層と似ているが、堅穴建物外で踏み固められており固くしまりあり。
- 10 暗褐色土 にふい黄褐色土 混土層 黄褐色ブロック土多量。周囲に石が多い。



32号建物馬屋

- 1 黒褐色土 晴褐色土、黄褐色土が層状に堆積。葉やわらなどの自然物が重なりあっている。屎や糞も混じるか?
- 2 暗褐色土 $\phi 50 \sim 100\text{mm}$ の礫大量、黄褐色少々に含む。1の土の間に鉄分沈着層が層状に広がる。
- 3 黑褐色土 黄褐色少々。炭化物粒若干含む。
- 4 噪褐色土 黄褐色少々・白色粒若干。
- 5 3と似ているが、色が少し暗く、炭化物粒を含まない。

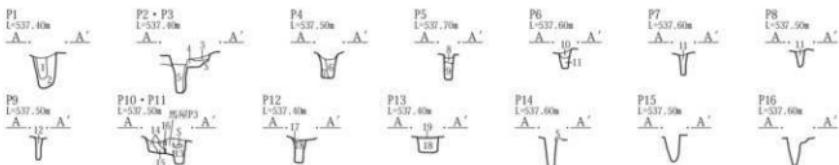


32号建物1号土坑

- 1 晴褐色土 $\phi 5 \sim 200\text{mm}$ の礫大量に含む。黄褐色少々。炭化物粒若干。(廻臼跡か?)
- 2 黄褐色土 白色粒多量、黄褐色少々に含む。粘土質。(廻臼を止めため床構成後にさらに粘土を貼っているか?)
- 3 32号建物の貼り床部分。

32号建物堅材

- 1 黄褐色土 白色粒少々、しまりあり。(32号建物の壁が天明泥流で崩れた一部だと考えられる)
- 2 天明泥流

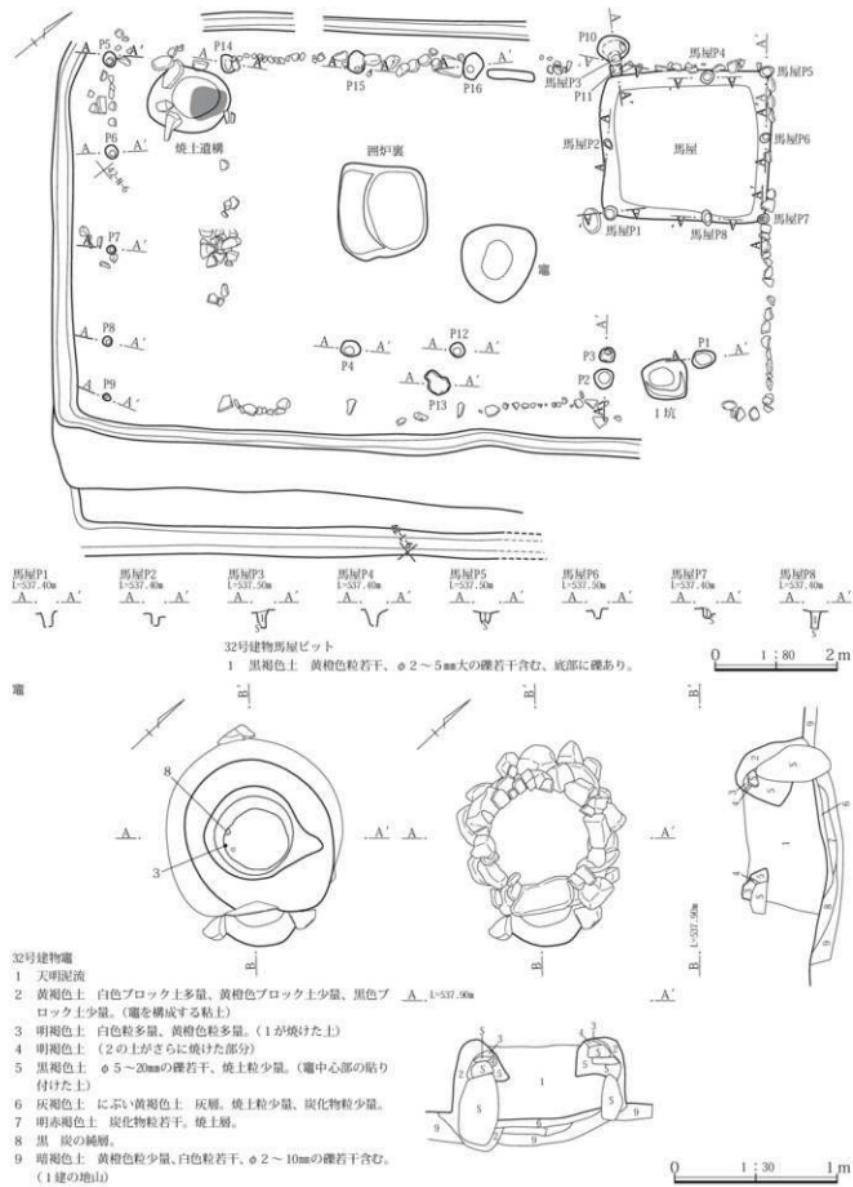


32号建物ビット

- 1 黒褐色土 $\phi 5 \sim 70\text{mm}$ の礫少々含む、黄褐色ブロックを1つ含む。
- 2 にふい黄褐色土 白色粒少々含む。
- 3 黒褐色土 $\phi 5 \sim 70\text{mm}$ の礫少々含む。黄褐色ブロック上1つ含む。天明泥流か?
- 4 にふい黄褐色土 黄褐色少々含む。廻臼の上。廻臼の上が一緒なため、2・3号ビットは同時に埋められた可能性あり。
- 5 3・4号が混在 柱穴部分か?
- 6 黒褐色土 $\phi 2 \sim 30\text{mm}$ の礫少々、黄褐色少々含む。
- 7 褐色土 黄褐色少々含む。廻臼の上。
- 8 黒褐色土 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ の礫若干含む。
- 9 暗褐色土 黄褐色少々含む。粘土質の土、しまりあまりなし。
- 10 暗褐色土 燃上粒、炭化物粒少々含む。柱痕か?
- 11 にふい黄褐色土 燃上粒若干含む、しまり弱い上。
- 12 暗褐色土 燃上粒、炭化物粒少々含む。
- 13 黒褐色土 $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ の礫多量、黄褐色少々含む。
- 14 黒褐色土 $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ の礫少々含む。天明泥流の土か?
- 15 にふい黄褐色土 黄褐色少々・白色粒若干、黒色ブロック上? 炭化物粒含む。柱痕か?
- 16 木の皮のようなものが認められる 燃上粒などがあったか?
- 17 黒褐色土 炭化物粒、黄褐色少々含む。
- 18 褐色土 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ の礫若干、黄褐色少々・白色粒若干含む。
- 19 黑褐色土 炭化物粒若干含む。

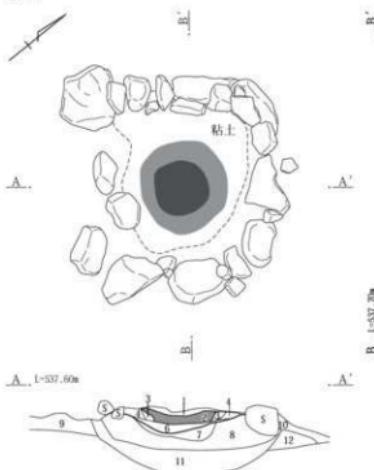
0 1 : 80 2 m

第440図 VIII区32号建物 (2)



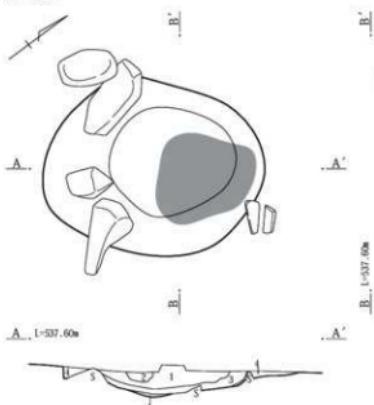
第441図 VIII区32号建物 (3)

四輪裏



32号建物四輪裏
 1 天然泥流
 2 明赤褐色土 炭化物粒少量含む。焼上。
 3 褐色土 黄化物粒少量含む。圓炉裏の粘土質の土が焼けてグラデーションのようになった土。
 4 黄褐色土 炭化物粒少量、黄褐色・白色粒若干含む。粘土質の四輪裏に張られた土。
 5 2と色が似ているが、褐灰色ブロックを多量に含む。南側の土。
 6 明褐色土 炭化物粒少量、黄褐色粒若干含む。
 7 褐灰土 焼上・灰混じりの土。しまりあまりなし。(圓炉裏掘方の土)
 8 に赤い黄褐色土 黄褐色粒多量、白色粒少量、炭化物粒少量。
 9 3と比べて含有部が多い。
 10 黒褐色土 白色粒少量、 $\phi 5\sim 10$ cmの礫若干。(32号建物掘方の土)
 11 に赤い黄褐色土 黄褐色粒少量、 $\phi 5\sim 10$ mmの礫若干。(圓炉裏掘方の土)
 12 黑褐色土 $\phi 5\sim 50$ mmの礫少量、黄褐色粒少量。(地山)

焼上遺構



32号建物焼上遺構

1 褐色土 黄褐色ブロック、焼土ブロック多量、炭化物粒少。
 2 1層と同じ土だが特にブロックを多く含む。
 3 赤褐色土 上面に炭化した層あり。
 4 暗褐色土 黄褐色粒若干、白色粒若干、 $\phi 50\sim 100$ mmの礫含む。

0 1 : 30 1 m

周



0 1 : 80 2 m

第442図 VIII区32号建物 (4)

規模 一。

礎石 無し。

柱穴 無し。

遺物 木桶2個。

所見 32号建物に付随する廐と考えられる。径約90cmの木桶が二つ並んで埋め込まれた状況で検出されている。桶内部は泥流で埋まり、木桶の側板部分は殆ど残っておらず、部分的に底板が確認された。桶の周囲には取り巻く様に、黄褐色土を主体とした粘質土により僅かに高く埴築されていた。何らかの上屋構造が想定されるが、柱穴は確認できなかった。

33号建物（13号屋敷）（第443・452・453図、

PL.243・251）

位置 42区C～E-18～20グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-25°-E。

規模 衍行10.8m、梁行（7.2）m。

礎石 外縁部の石列の他、中央部南北および西側に数個の礎石と考えられる大型礎が検出されているが、一部ずれているものもあり、失われてしまったものもあると思われる。西側長辺および、短辺西半分の石積みはかなり壊れた状況であった。

柱穴 建物内には確認されず。建物東外側に3基を確認。庇か。（計測表参照）。

竈 無し。

囲炉裏 無し

馬屋 無し

遺物 若干の陶器片、すり鉢のほかヒデ鉢、石臼が出土地している。

所見 外縁基礎に礎を2～3段積み上げ、上部は平らな面を描える。規模は6間×4間か、基礎となる礎を長方形に組み、内部には礎を敷き詰めた構造で、北側梁部中央に長方形の角礎を3石並べた、幅80cmの階段状の入り口施設が検出されている。

棟方向中央および周辺には、礎石と見られる大型礎が一部残っていた。以上の所見から本建物は倉と考えられる。また、内部に詰め込まれた礎を除去したところ、ローム土を貼ったほぼ平坦な面が部分的に残っており、焼土、炭化物が検出された。かまど、あるいは囲炉裏痕の可

33号建物ピット計測表

ピットNo.	長径×短径×深さ cm
P1	10×10×24
P2	25×20×23
P3	20×20×13
P4	25×20×14

能性も考えられ、最終的に倉として建て替えたことが考えられる。

34号建物（12号屋敷）**3号建物** （第444・454図、PL.244・251）

位置 42区K・L-10・11グリッド。

重複 集礎が覆う。

主軸方位 N-27°-E。

規模 衍行（6.0）m、梁行（3.3）m。

柱穴 磂石および柱穴は確認できなかった。

竈 無し。

囲炉裏 無し。

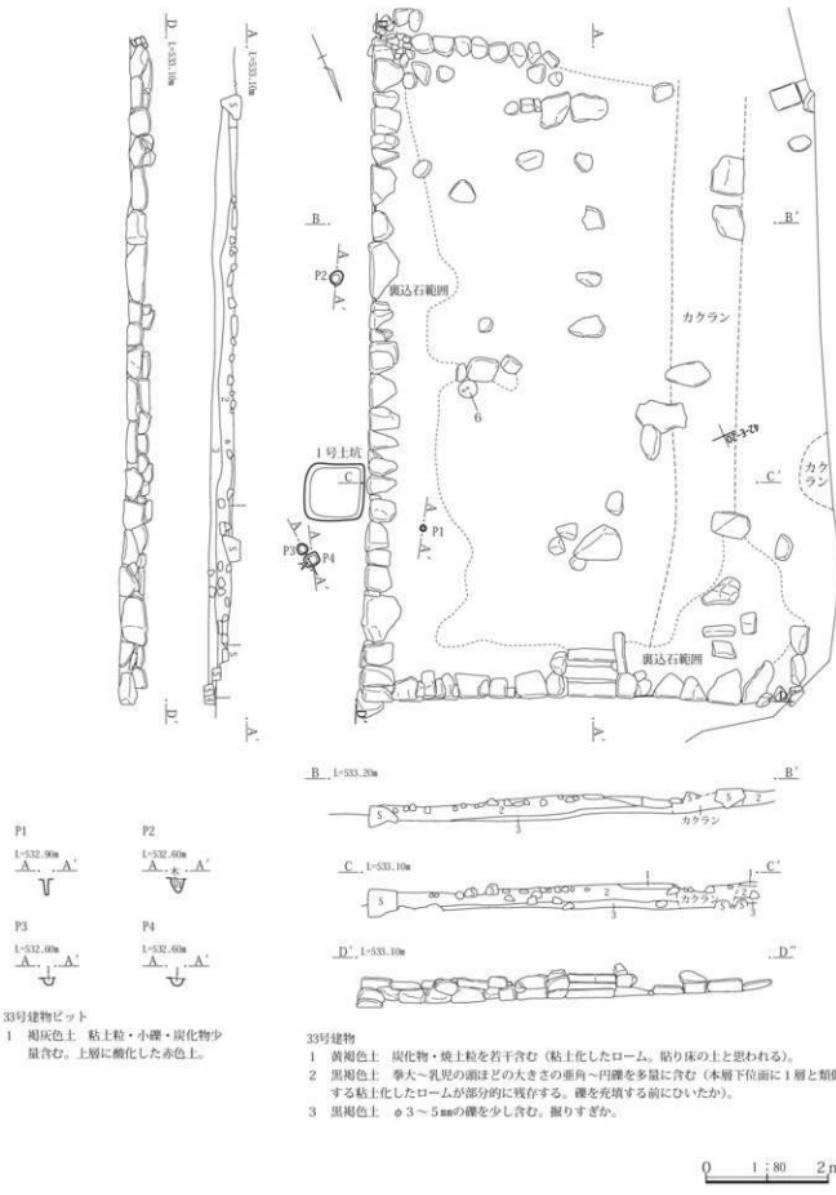
馬屋 無し。

遺物 無し。

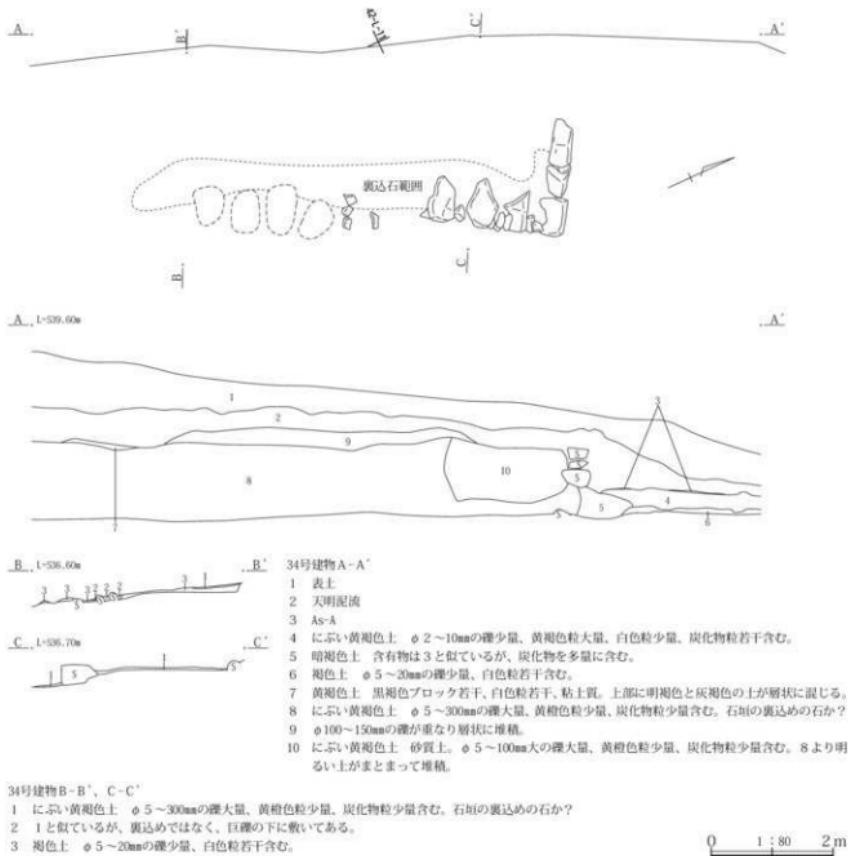
所見 南側は一段下がっており、直近まで畠が作られている。石列は一段高く、基礎の礎、北東の隅部分が少し字に確認された。長さ60～80cmのかなり大型の礎が据えられている、南側部分の礎は残っておらず、礎底部の凹みが並んで検出された。内側には裏込まれた角礎が多く見られる。

遺構が掛かっている調査区断面には、かなり高く積まれた石垣状の石積みが残っており、内側には多量の角礎が入り込む状況も認められる。こうした状況から判断すれば、建物を考えるよりも、外周を石垣状に積み上げた張り出し状の遺構と考えることもできる。断面では集礎の上面は平らな部分が確認され、鉄分凝集が認められる。軽石は確認できなかったが、上面には泥流が部分的に残っており、当時の状況を残しているものと考えられる。

遺構上部はかなり擾乱を受けていたが、調査所見から判断すれば、建物ではない可能性が高い。



第443図 VII区33号建物



第444図 VII区34号建物

35号建物 (第445図、PL.244)

4号建物

位置 42区H・I-13・14グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-40°-E。

規模 桁行 (3.9) m、梁行 (3.0) m。

礎石 大小の角礫の小口面を合わせて、上面平らに据え、外縁部の基礎石としている。使用されている礎は最大長150cmを測る。礎石柱の大きさは、外寸法で4.2m×3.3mを測る。

柱穴 P1 : 25×25×15cm。

竈 無し。

回炉裏 無し。

馬屋 無し。

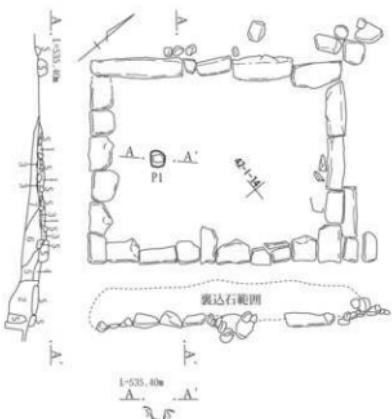
遺物 無し。

所見 平成29年度未調査となっていた、北西部分については、令和元年度に調査を実施した。

礎で四角に囲った内部には、黄褐色土ブロック土を入れ込んだ後、上部には角礫を敷き詰めた構造が観察された。内部には礎石と思われる石は見られなかったが、径25cm、深さ15cmのビットが1カ所検出されている。南東側には、建物から約1m幅の犬走り状の施設が設けられ、外端部

第3節 V・VI・IX区第1面から発見された遺構と遺物

には土留め用の礫が建物に並行して据えられていた。竈、囲炉裏などの施設は見られず、比較的小規模の倉と考えられる。



第445図 VII区35号建物

が用いられている。南側は一部で失われたものがあると思われる。最も大きなものは、 $70 \times 60\text{cm}$ である。

また、西側礎石上には土台が載った状態で出土しており、勝穴も確認された。柱穴等は検出されなかった。

また、南東側の石列内側および北東側には裏込めの石が確認されている。

竈 明確なものは確認されなかった。

囲炉裏 建物の中央からやや北東寄りに長方形の炭化物、木灰および焼土範囲が検出されており、囲炉裏の下部と考えられ、上部構造は失われていた。範囲は長辺 1.1m 、短辺 0.9m である。

馬屋 不明である。

遺物 土台、柱材などの建築材が良く残っていた。特に建物の北西側に倒れ込んだ状態で間隔を置いて土台や柱材が出土している。その他陶器器碗、上白の縁部分が出土している。

所見 規模は $5\text{m} \times 2.5\text{m}$ で、礎石立建物である。南東側には煙が近接して作られている。建物は大きな礫を一列に並べ内側に礫を入れ込み、一段高く造成したところに礎石を据えている。

35号建物

- 1 喙褐色上 備程度の大きさの亜角礫・円礫を多量に含む。本層上面に天明泥流と思われる方が認められる。
- 2 に赤い黄色上 備程度の亜角礫を多量に含む。階段の裏込め部分。
- 3 明黄褐色上 しまりの強い上。粘土化したローム、35号建物の基礎に貼っている。
- 4 に赤い黄色上 粘土化したローム、階段部の下に貼っている。
- 5 黄褐色上 烧土粒若干含む。
- 6 黄褐色上 乳児頭の大きさの亜角礫を多量に含む。段の高さ調整に礫を引いたか?
- 7 青灰色上 粘質上。部分的に酸化して赤色になっている。地山部分。

0 1 : 80 2m

囲炉裏は基礎石、構築材などは見られず、下部の灰層、焼土のみが検出されている。上層部分は平に均されたようになっていたことから、建て替えが行われたものと考えられる。

建物の北側、並行する溝との間、および北東側に大量の建築材が集積された状況が見られる。

37号建物 (13号屋敷) 第448・456図、PL.245・252

位置 42区B・C-18・19グリッド。

重複 無し

主軸方位 N-31°-E。

規模 桁行(6.5)m、梁行(5.4)m。

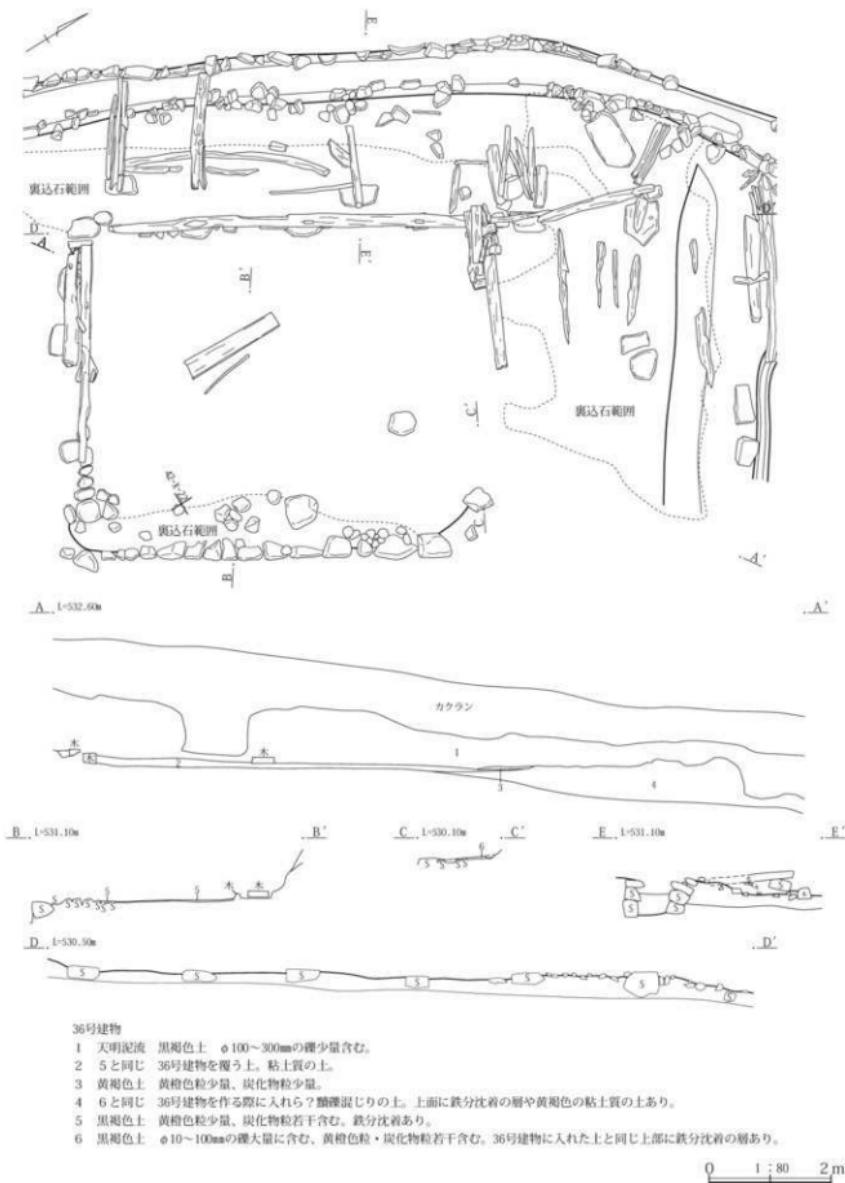
礎石 中央にはほぼ直線に並ぶ4個の礎石とやや西にずれた1個が見られる。平坦面を上にした長径50cm前後の川原石を使用。

柱穴 建物範囲と推定した範囲の外周部に、やや浅い落ち込みを複数認めたが、確定はできなかった。

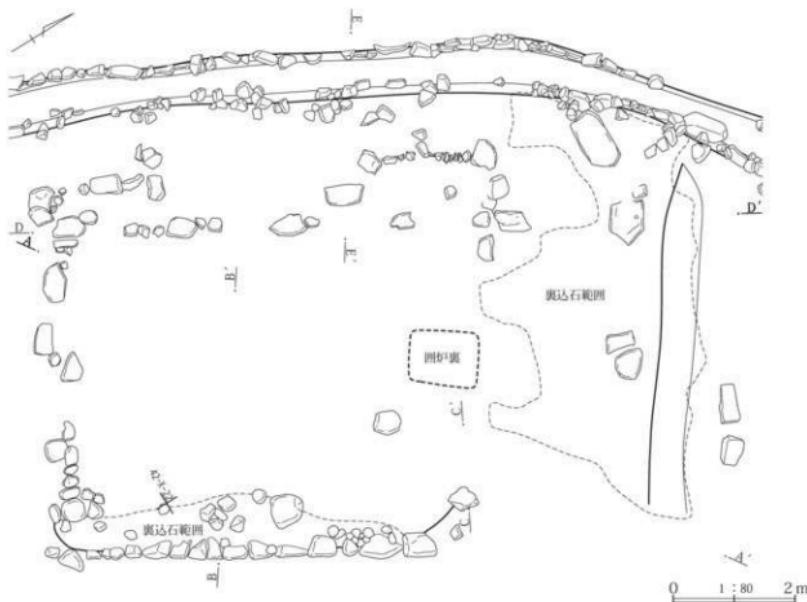
竈 無し。

囲炉裏 無し。

馬屋 無し。



第446図 VIII区36号建物（1）



第447図 VIII区36号建物（2）

遺物 陶器碗、すり鉢および錢貨1点が出土。

所見 長辺約6.5m、短辺約5.4mの範囲で、ほぼ長方形にやや高く整地され、中央部分に礎石とみられる5個の平石が北東方向に検出され、この内4個は直線的に並んで確認されている。

周囲には角礫が乱雑に敷かれており、上部には黄褐色土が入れ込まれ、部分的に版築された状況が認められた。規模は不明、屋内の施設等も確認できなかったことから、倉、もしくは納屋と考えられ、泥流被災時には建物上屋部分はすでに失われていたものと考えられる。

38号建物（第438図）

位置 42区A・B-22・23グリッド。

重複 無し

主軸方位

規模 衍行(6.5)m、梁行(5.4)m。

礎石 南北に並ぶ大小の礎を確認、大型で平らな石が礎石であろう。

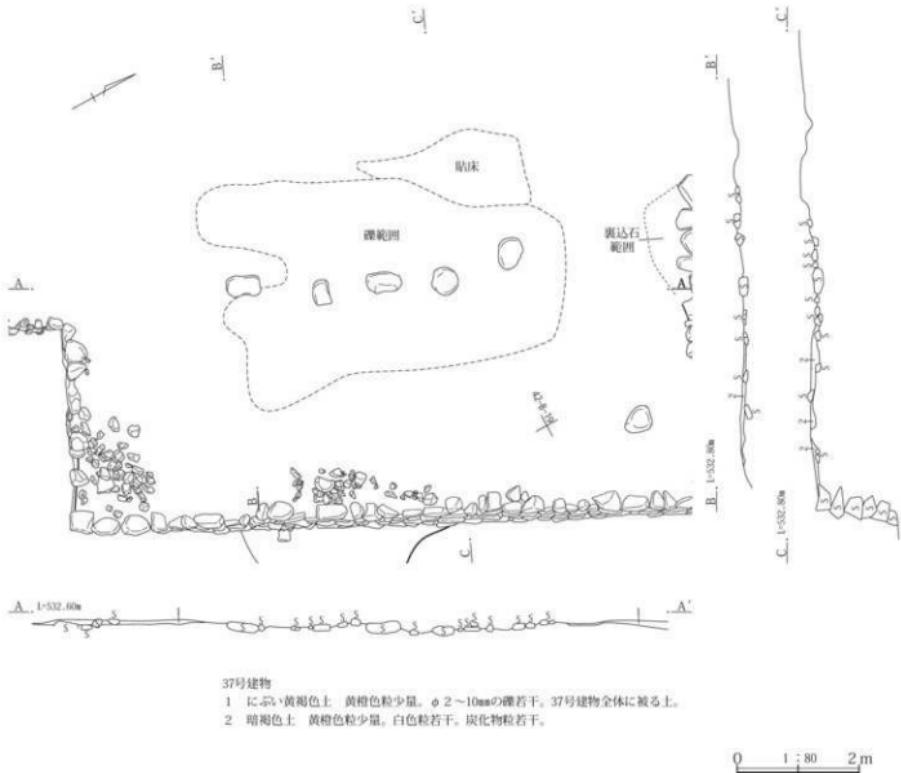
窓 無し。

窯炉裏 無し。

馬屋 無し。

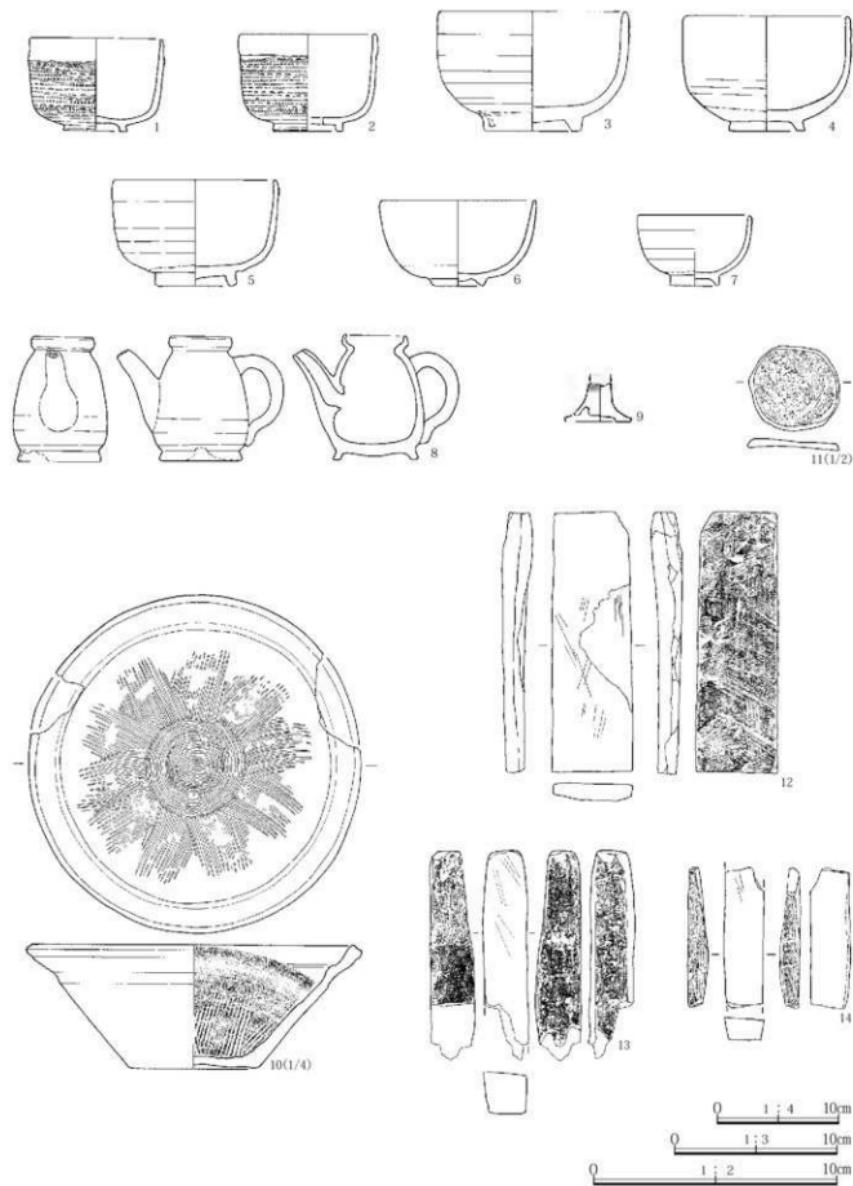
遺物 無し。

所見 南北に並ぶ礎石の西側に、黄色粘質土の張り床部分が認められた。平成20年度に調査を行った1号屋敷の2号建物の南側に近接して位置、一連の建物であった可能性もある。

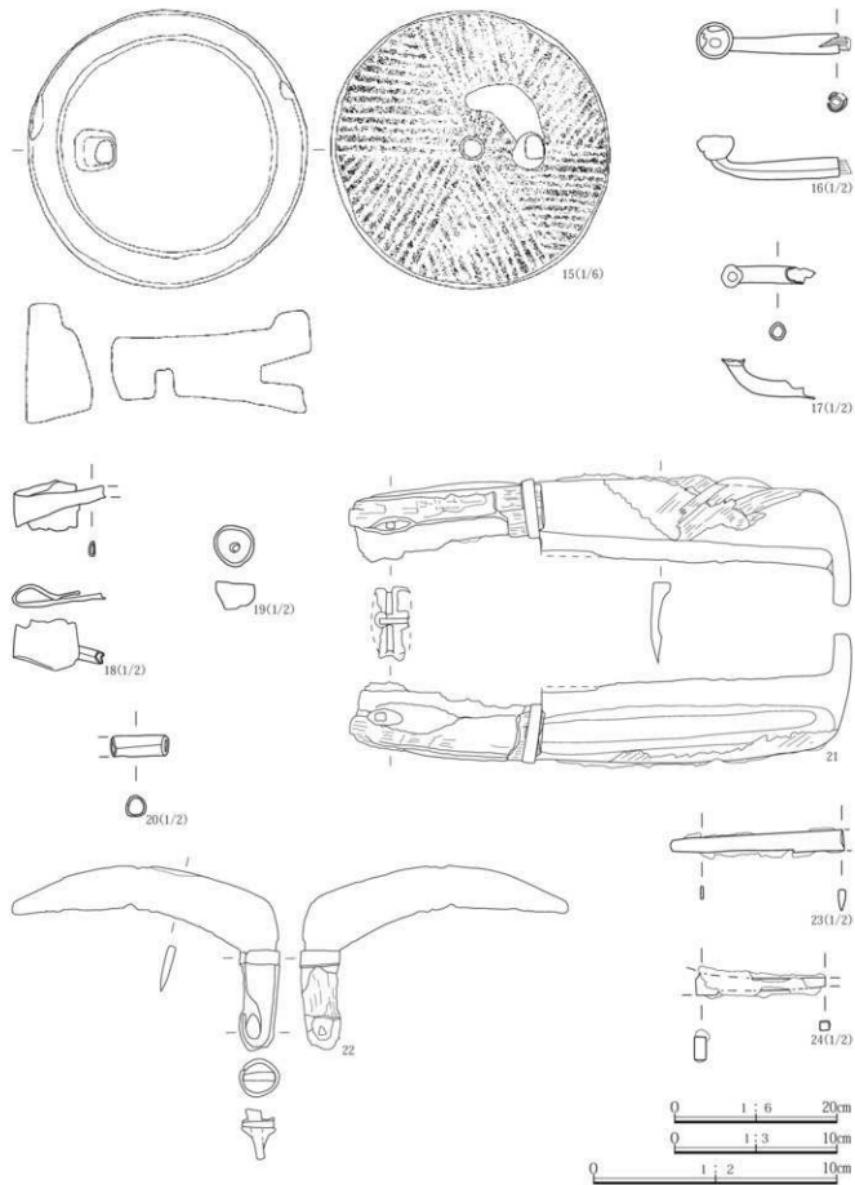


第448図 VII区37号建物

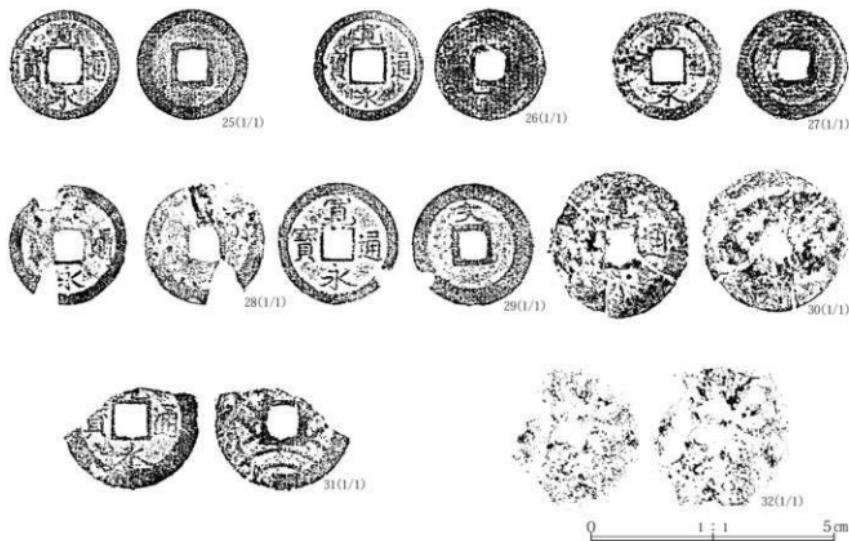
第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物



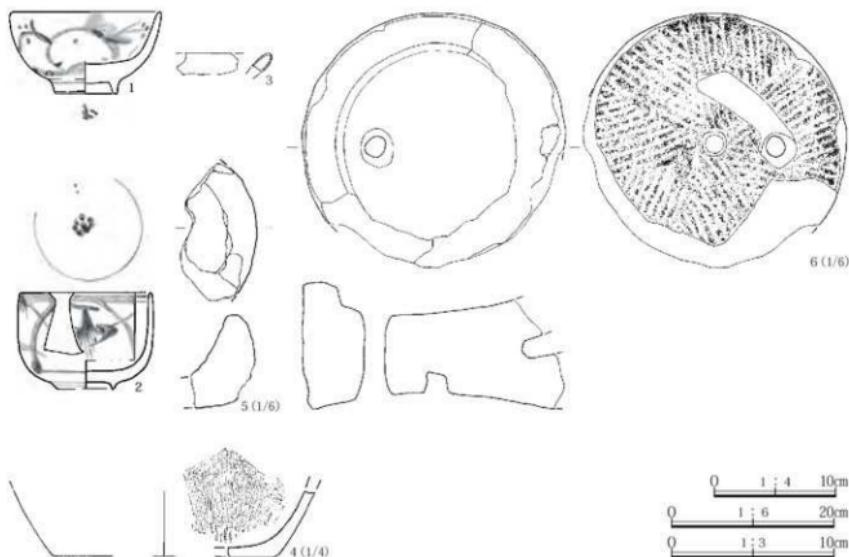
第449図 VIII区32号建物出土遺物（1）



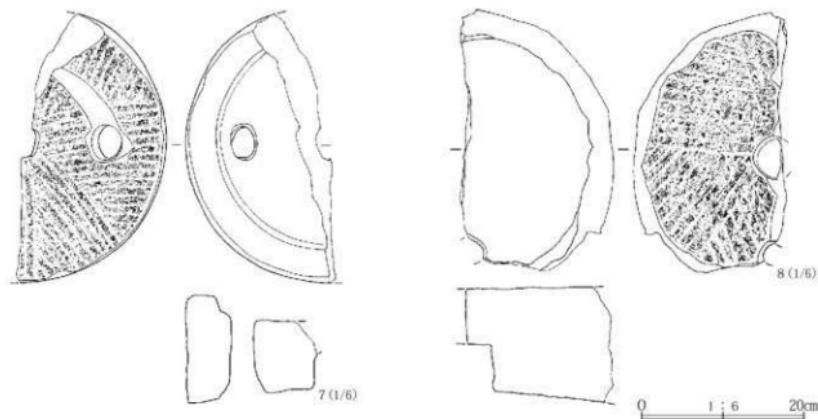
第450図 VIII区32号建物出土遺物（2）



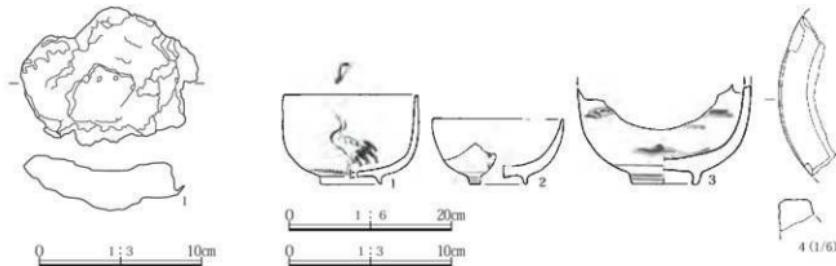
第451図 VII区32号建物出土遺物（3）



第452図 VII区33号建物出土遺物（1）

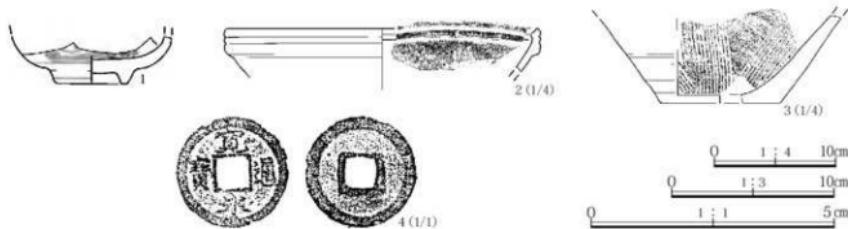


第453図 VIII区33号建物出土遺物（2）



第454図 VIII区34号建物出土遺物

第455図 VIII区36号建物出土遺物



第456図 VIII区37号建物出土遺物

(2) 切石石組み遺構

1号切石石組み遺構（第457図、PL.245）

位置 42区G-15・16。45号烟の北西端に位置する。

重複 無し。

主軸方位 N-47°-W。

規模 長軸0.75m、短軸0.73m、高さ0.35m。

遺物 無し。

所見 ほぼ方形に細長い切石を丁寧に組んでいる。切石は上面と側面部分は丁寧に削られ、平らに成形されている、内側部分については未成形である。方形に組まれた

切石内部の形は中央部が膨らんだ十字形を呈し、礫を多く含んだ砂礫土が詰まる。

手前側の切石下部には、礫が基礎固めとして据えられていた。何かしらの構造物の基礎と思われるが詳細は不明である。畠の端に位置、北西側を除き直近まで歓が作られている。

(3) 道

1号道 (第457図、PL.242)

位置 42区M-7グリッド。

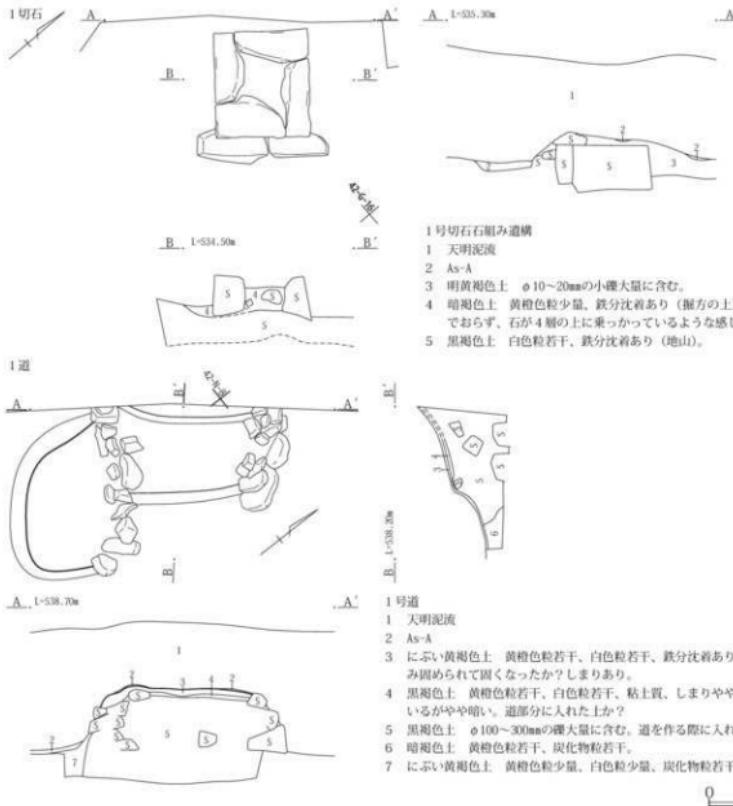
重複 無し。

主軸方位 一。

規模 長さ1.2m、幅1.5m、高さ0.8m。

遺物 無し。

所見 1号建物の北西側約2m離れて検出された、北西に向かう階段状の斜面両側に、礫を積み上げて構築している。表面は固く踏みしめられ、鉄分の凝集が見られる。道としたが、屋敷内から、直ぐ上にある本道へ上がる施設と考えられる。



第457図 VII区1号切石組み造構・1号道

(4) 石垣

35号石垣 (第458・463図、PL.245・252)

位置 51区 S-10、T-8~10グリッド。

重複 無し

主軸方位 N-22°-E。

規模 長さ8.9m、高さ0.8m。

遺物 陶器碗。

所見 53号烟の東端に築かれ、烟を区切っている。乱石積みで、下部にやや大きな石を据え、部分的に壊れた状況である。

36号石垣 (第459・463図、PL.245・252)

位置 42区 I-6・7、J-7、8グリッド。

重複 無し

主軸方位 N-55°-W。

規模 長さ(16)m、高さ1.0~1.8m。

遺物 陶器碗。

所見 1号建物の屋敷端に築かれ、北東側の烟との境に在り、段差を形成。川原石を乱積みにしており、下部にやや大きな石を置き、上部は小振りの石で構築されている、上部は部分的に崩れた状況を呈す。傾斜する南東方向へ向かって高さを増す。

37号石垣 (第460図)

位置 42区 J-6・7、K-5・6、L-3・4グリッド。

重複 無し

主軸方位 N-34°-E。

規模 長さ17.2m、高さ0.5~0.6m。

遺物 無し。

所見 1号建物南東に位置する、基礎の石以外は崩れたものが多い。屋敷周りを画す石垣で、南東側には、泥流埋没後の復旧坑が近接する。

38号石垣 (第460図)

位置 42区 G-13、H-10~13、I-9・10、J-9グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-28°-E。

規模 長さ22.0m、高さ0.4m。

遺物 無し。

所見 4号建物の南東に作られる、烟の境に作られる。2から3段積みで、基礎石はかなり大きな石を据えている。南西に方向にやや曲がりながら延びている。作りは3号に似る。南東側には、泥流埋没後の復旧坑が近接する。

39号石垣 (第461~463図、PL.245・246・252)

位置 42区 A-18~21、B-17・18、C-17グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-26°-E、N-14°-W。

規模 長さ24.6m、高さ1.5m。

遺物 煙管吸い口。

所見 6号建物の南西部に築かれ、検出時は建物の敷地を区切るように、上端面部分が直線的に折れを有す石列として見え、泥流埋没時には、石垣の南東部に丸く張り出した盛土に、下部の殆どが埋められた状況であった。

この盛土を除去したところ、埋まっていた石垣の全容が明らかになった。埋められていた石積み側面はしっかりとおり、歪みや崩れもなく、構築後程なくして埋められたものと推察できる。

裏込めは下部に多量の小角礫を入れ、さらにやや大振りな礫、黄褐色土混土の角礫含む土で埋めている。

埋められた理由ははつきりせず、盛られた土山上、斜面部は泥流埋没時には、烟として利用されていた状況が窺える。

40号石垣 (第438図)

位置 42区 A-18~21、B-17・18、C-17グリッド。

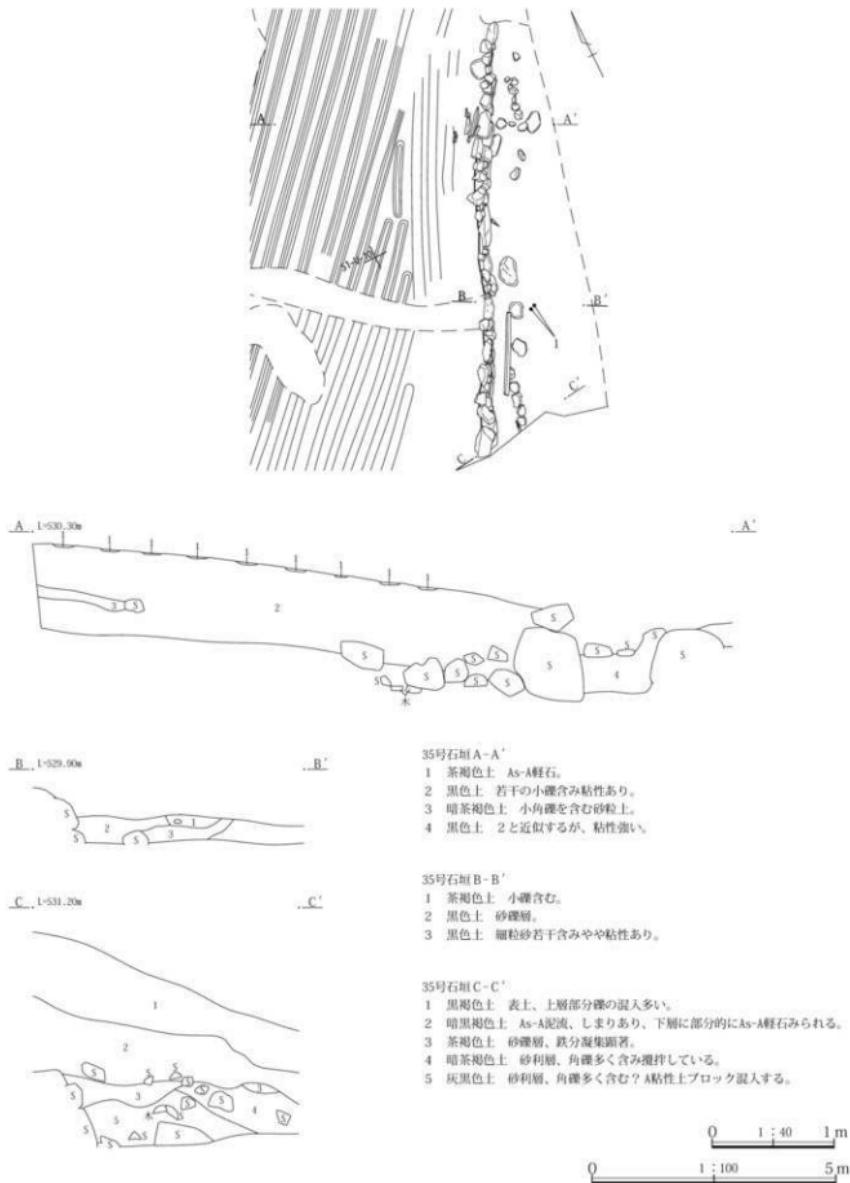
重複 無し。

主軸方位 N-32°-E。

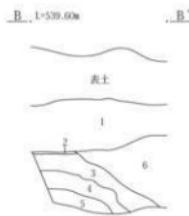
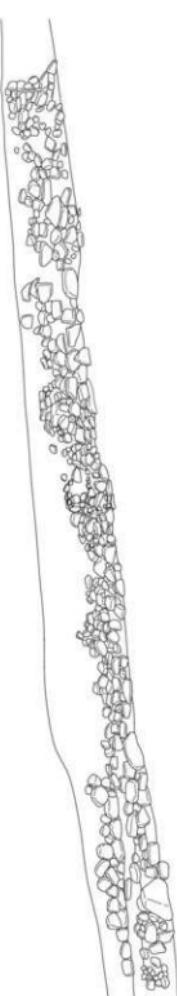
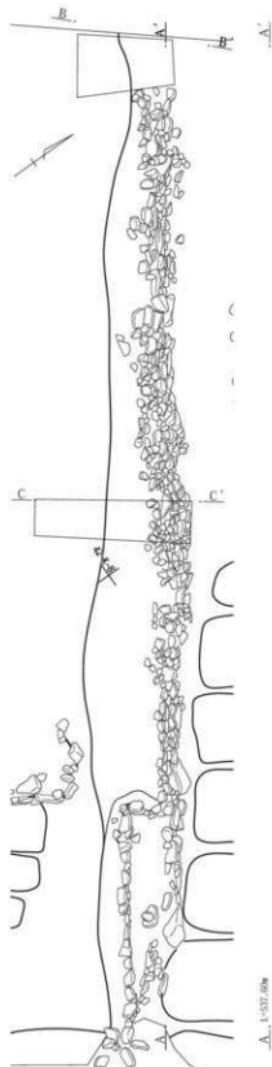
規模 長さ10.1m、高さ0.6m。

遺物 無し。

所見 1号屋敷内の38号建物の東側、道との境に作られている。道に沿って緩やかに曲がる。比較的大振りな角礫を3段程積み上げ、長さ10.1m高さ約0.60mである。



第458図 VII区35号石垣



36号石垣B-B'

- 1 表土
- 2 天明泥流
- 3 暗褐色土 $\phi 3\sim15mm$ の礫大量に含む。石垣の裏込め部分か？黄褐色粒少々。炭化物粒若干。植物痕が所々混じる。
- 4 黒褐色土 黄褐色粒少量。 $\phi 2\sim5mm$ の礫若干。1面目の地山部分か？
- 5 黄褐色土 黄褐色粒少々。黒色ブロック土若干含む。



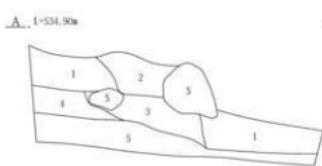
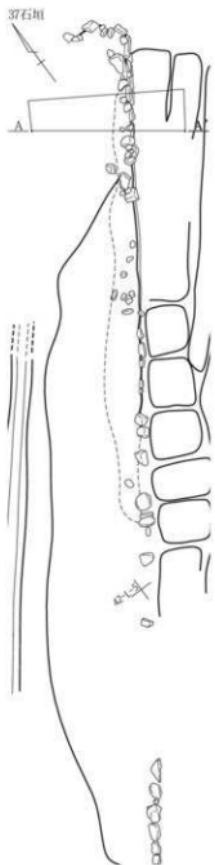
36号石垣C-C'

- 1 にぶい黄褐色 黄褐色粒少量、炭化物粒少量含む。石垣の地山部分。
- 2 にぶい黄褐色 黄褐色粒少量、黒色ブロック土若干含む。裏込め後の地山の上の2次堆積か？
- 3 黑褐色土 $\phi 20\sim100mm$ の礫多量に含む。石垣の裏込め部分。
- 4 黑褐色土 $\phi 20\sim50mm$ の礫若干、黄褐色粒若干含む。
- 5 黄褐色土 黄褐色粒少量、白色粒少量。 $\phi 20\sim50mm$ の礫若干、黒色ブロック土若干含む。

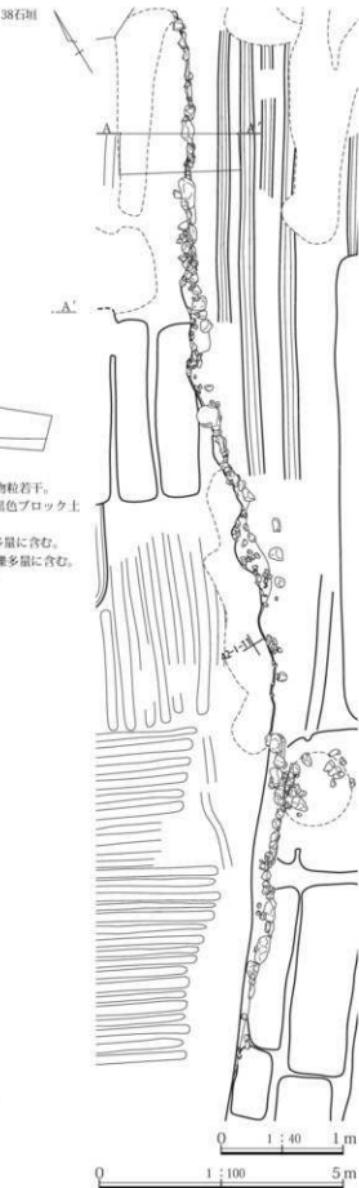
0 1 : 80 2 m

第459図 VIII区36号石垣

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物



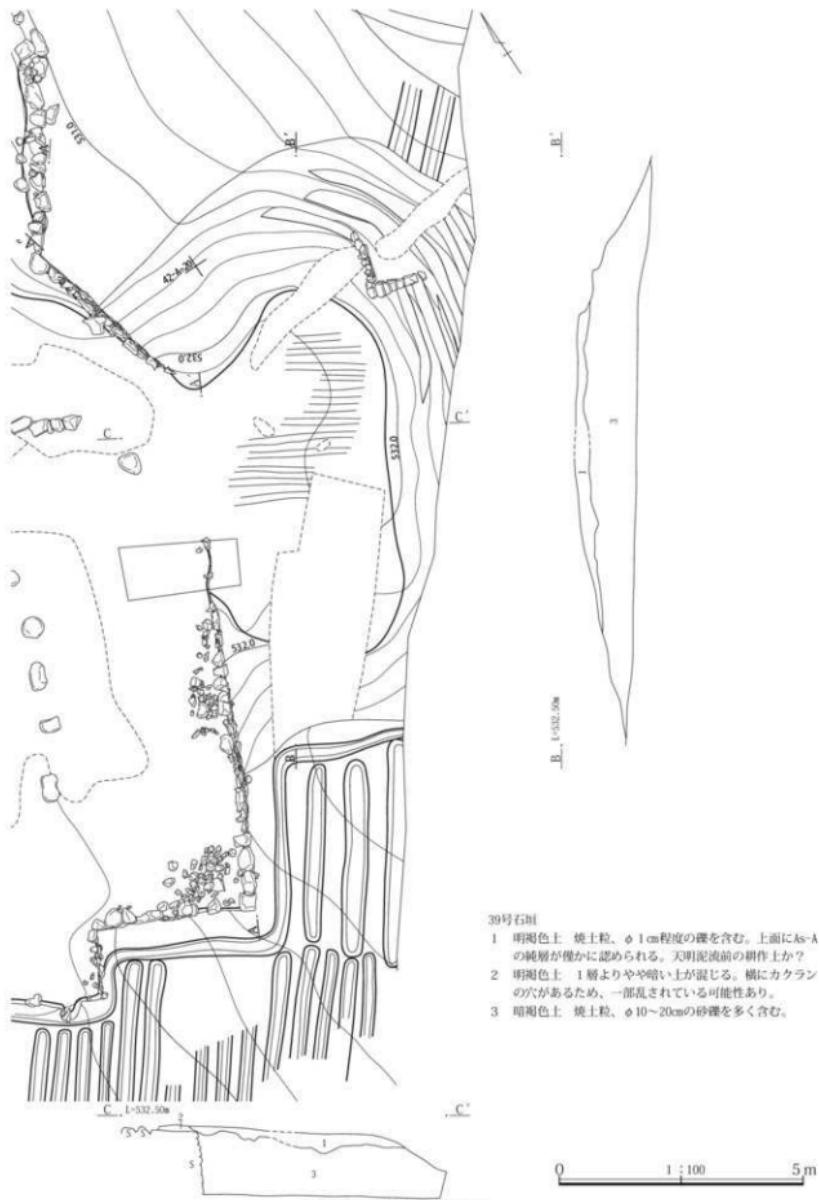
- 1 に赤い黄褐色土 黄褐色粒・白色粒・炭化物粒若干。
- 2 1よりもやくすんでいる（暗褐色土） 黒色ブロック上 少量混じる。
- 3 裏込め部分 黄褐色土 ϕ 50~200mmの礫多量に含む。
- 4 山崩れの土か？ 黄褐色土 ϕ 5~20mmの礫多量に含む。
- 5 墓青灰色土 黄褐色粒少量含む。変色か？

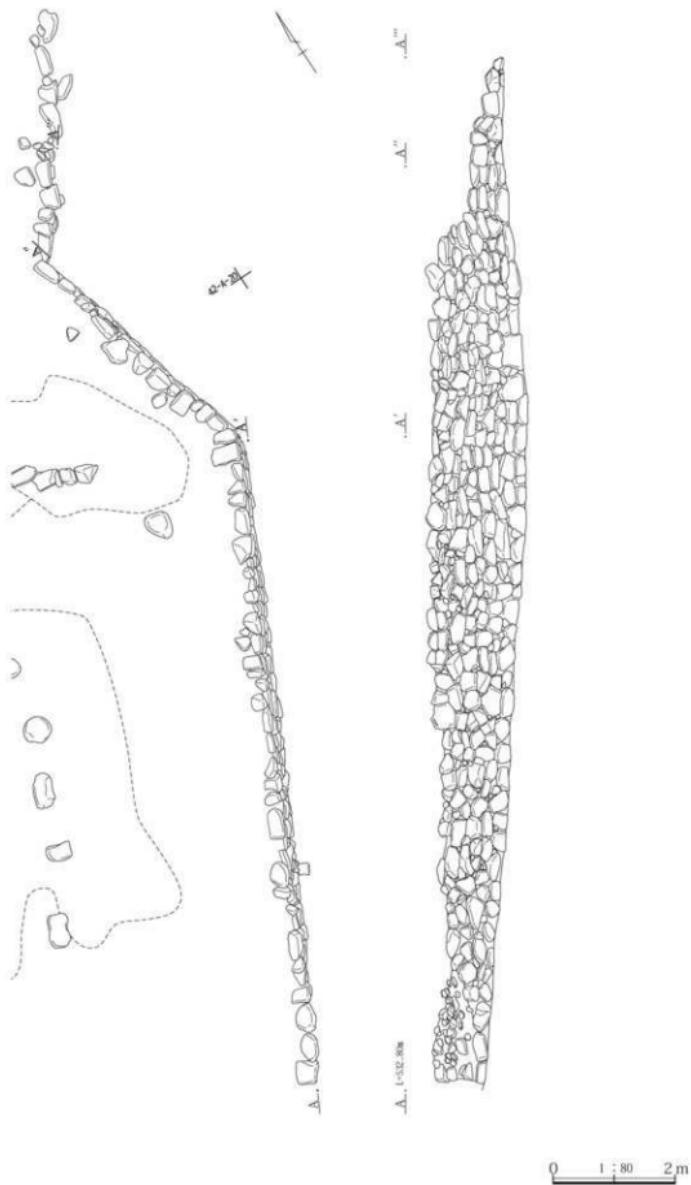


37号石垣

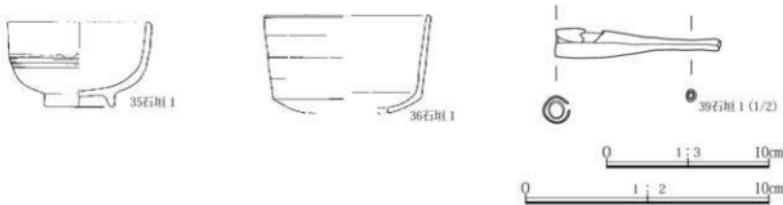
- 1 天明泥流
- 2 黄褐色土 黄褐色粒少量。植物痕若干混じる。 ϕ 2~10mmの白色軽石若干含む。
- 3 裏込め後の2次堆積 色が1に比べやくすんでいる。下層の2又4と1が張じつたか？黄褐色粒少量。黒色ブロック土若干。
- 4 石？の裏込め部分 ϕ 50~100mmの礫大量に含む。
- 5 黒褐色土 黄褐色粒少量。白色粒若干。 ϕ 2~10mmの礫若干含む。

第460図 VIII区37・38号石垣





第462図 VIII区39号石垣（2）



第463図 VII区石垣出土遺物

(5) 煙・復旧坑

調査区内において、建物を含む屋敷が確認され、左右前後に煙が作られていた。一部復旧坑も確認した。屋敷と屋敷の間に作られた煙は比較的広く、整然としているが、屋敷内の煙は比較的矮小で、歓の長さ、方向、幅にばらつきが見られる。

42号煙（第438図、PL.247）

位置 42区L～Q-1～6グリッド。

重複 無し。

主軸方位（歓方向） N-35°-E。

規模 縦17m、横16m。歓サク間0.25～0.3m。

遺物 無し。

所見 1号建物の南西側に広がる、緩やかに南東方向に傾斜を有し、中央やや南西に径180×150cmの円形平坦面が確認されている。この平坦面から上にサク替えが見られる。中央に径1.1mの円形平坦面。

43号煙a, b, c（第438図）

位置 42区I～L-8～11グリッド。

重複 無し。

規模および主軸方位（歓方向）

43号煙a 縦1.5m、横3.5m。N-33°-E。

43号煙b 縦4.5m、横8.3m。N-62°-W。

43号煙c 縦6.5m、横1.0m。N-29°-E。

遺物 無し。

所見 34号建物の南東に近接して位置、南東部は38号石垣により区切られる。長さ4～4.5mの南東に走る歓烟を中心、南西側には、歓の長さ1.5mと短い煙が作られ、北西側には43号建物との狭い範囲に、細長い歓が作られている。

44号煙（第438図）

位置 42区I～K-10～13グリッド。

重複 無し。

主軸方位（歓方向） N-29°-E。

規模 縦8.0m、横11.0m。歓サク間0.5～0.6m。

遺物 無し。

所見 34号と35号建物の間に作られる。歓は北東方向に切られているが、残りは悪く、一部に復旧坑が見られる。歓幅がやや広く作られている。南東側は38号石垣により区切られている。

45号煙（第438図）

位置 42区A～H-12～19グリッド。

重複 無し。

主軸方位（歓方向） N-42°-E。

規模 縦(20.0)m、横(19.0)m。歓サク間0.4～0.5m。

遺物 無し。

所見 2号建物の南西側に広がる、南東方向に緩く傾斜し、比較的の状態は良好であった。歓幅が比較的狭い、北西側に、1号切石組み造構が烟に一部入り込んだ形で作られる。

46号煙（第438図）

位置 41区W～Y-16～18、42区A～C-15～19グリッド。

重複 無し。

主軸方位（歓方向） N-40°-E。

規模 縦(8.0)m、横18.0m。歓サク間0.8～0.9m。

遺物 無し。

所見 39号石垣を埋めている土山の南東側、下前面を囲うよう作られている、1号溝の南西側に位置する。やや

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

敵幅広く5-3号烟と同一か。

47号烟 (第438図、PL.247)

6号烟

位置 41区Y-18・19、42区A-17グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-55°-W。

規模 縦2.0m、横3.5m。敵サク間0.25~0.3m。

遺物 無し。

所見 6号建物の南東部に僅かに検出された、敵は南棟方向で長さは3m程度であるが、残存状態は悪い。

48号烟 (第438図、PL.247)

7号烟

位置 41区X・Y-18・19グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-5°-W。

規模 縦5.5m、横2.4m。敵サク間0.4~0.6m。

遺物 無し。

所見 39号石垣を埋めていた張り出し部、東側斜面部分に、僅かに弧状の敵が検出されたことから煙としたが、実際に機能していた可能性は低い。

49号烟 (第438図)

8号烟

位置 41区U-X-19~23グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-46°-E。

規模 縦7.0m、横15.0m。敵サク間0.5~0.6m。

遺物 無し。

所見 36号建物南東側に極めて近接して作られる。建物境に細い溝が掘られ、溝は畑南西側にも廻っている。敵幅はやや広い。

50号烟 (第438図)

位置 41区S-V-23~25グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-39°-W。

規模 縦(8.0)m、横(9.5)m。敵サク間0.3~0.4m。

遺物 無し。

所見 49号烟の北東に検出された、敵は南東に走る、遺存状況は悪く、敵は断片的に確認された。

51号烟 (第438図)

位置 41区R-V-17~21グリッド。49号烟の南都に作られている

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-42°-W。

規模 縦(12.5)m、幅25.0m。敵サク間0.3~0.4m。

遺物 無し。

所見 5区1号溝の北東側に在り、敵の残りは極めて悪く、北西から南東方向に走る、煙の規模は大きいものの、敵は部分的に検出したのみである。

52号烟 (第438図)

位置 41区M-T-22~25、51区M-U-1~3グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-47°-E。

規模 縦(20.5)m、横(24.0)m。敵サク間0.35~0.4m。

遺物 無し。

所見 50、51号烟の北東側に検出、境は敵が直線的に切れており、直行して走る。北側の15号溝とは間がやや空いていることから、通路が確保されていたものと考えられる。

53号烟 (第438図、PL.247)

位置 51区S-X-8~13グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (敵方向) N-41°-E。

規模 縦(16.5)m、横(18.5)m。敵サク間0.35~0.4m。

遺物 無し。

所見 南は35号石垣で区切られる、やや南東に傾斜を持ち、北東方向に敵が切られている。中央部は大きく攢乱を受けている。

54号烟 (第438図、PL.247)

位置 51区Q-S-13~15グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (歛方向) N-47°-E。

規模 縦 (2.0) m、横 (12.0) m。歛サク間0.3~0.4m。

遺物 無し。

所見 53号畠の北東に在り、検出範囲は極めて狭く、擾乱も顕著、歛方向は35号と同方向である。

●復旧坑

1号復旧溝群 (第438図、PL.247)

位置 42区 I ~ L - 3 ~ 6 グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-42°-W。

規模(群) 長軸 5 ~ 10m、短軸 1.0m。長軸 1.0m、短軸 0.8 m。

遺物

所見 1号建物の南東側、3号石垣を挟んで位置する。二種類の形が見られる、石垣に接して1辺約1mのほぼ方形の掘り込みが並ぶものと、やや軸がずれる、幅約1m、長さ約5~10mの溝状を呈すものが近接して掘られている。深さは最大0.4mである。5区において検出されている復旧坑と一連であろう。

2号復旧溝群 ((第438図、PL.247))

位置 42区 G ~ J - 7 ~ 9 グリッド。4号石垣の南東側に、石垣に接して幅約1m、長さ2~11mの溝状を呈すものが密接して掘られている。

重複 無し。

主軸方位 N-40°-W。

規模(群) 長軸 11.5m、短軸 1.3m、深さ 0.2m。

遺物 無し。

所見 38号石垣の直近から南東に向かって、横並びに幅約1mの復旧坑が確認された。溝状を呈し、連続して掘り込まれている。

3号復旧溝群 (第438図、PL.247)

位置 42区 D ~ I - 8 ~ 13 グリッド。

重複 無し。

主軸方位 N-25°-W。

規模(群) 長軸 16.0m、短軸 1.0m。

遺物 無し。

所見 4号石垣の南東側、2号に続くように掘り込まれている、形状は2号と同じであるが、長さには10m、16mの2種類が見られる。

(6) 土坑

1号土坑 (第464図)

位置 42C-19 グリッド。

重複 無し。

平面形状 方形。

主軸方位 N-65°-W。

規模 1辺 100cm、深さ 25cm。

埋没土層 泥流および疊合む黒色粗粒土。

遺物 無し。

所見 1号建物南東側に近接、疊を混入し、泥流で埋まっていた、若干の木片出土、建物と関連するものと考えられる。

2号土坑 (第464図)

位置 42C-20 グリッド。

重複 無し。

平面形状 円形。

主軸方位 -。

規模 径 90cm、深さ 30cm。

埋没土層 黒色土、粗粒で有機物多く含む。

遺物 瓶の口縁部片。

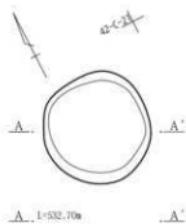
所見 疊、木片出土、時期は新しくなるものと考えられる。

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

1坑



2坑



2号土坑

- 1 自然堆積の天明泥流 黒褐色土 $\phi 5\sim10mm$ の礫を少量含む。
2 暗青灰色土 白色粒若干含む。鉄分沈着あり。しまりなし、粘性や
やあり。



1号土坑

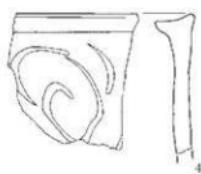
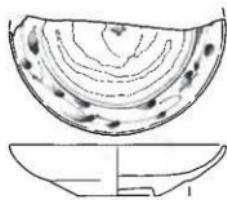
- 1 天明泥流 黒褐色土 浅間石を含む $\phi 10\sim100mm$ の礫を多量に含む。
2 黒褐色土 白色粒少量含む。
底面に青灰色の土あり。

0 1 : 40 1m



0 1 : 3 10cm

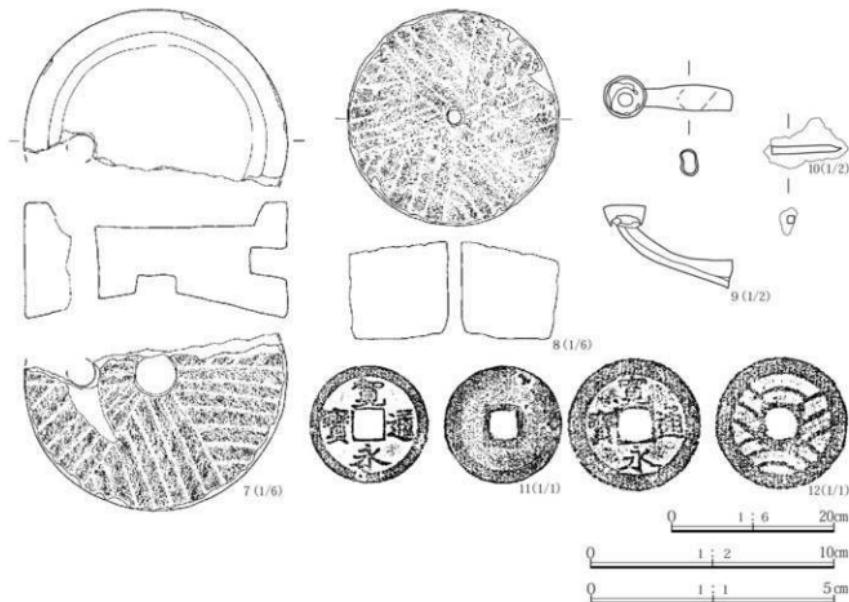
第464図 VII区土坑・出土遺物



0 1 : 4 10cm
0 1 : 3 10cm



第465図 VII区遺構外出土遺物（1）



第466図 VII区遺構出土遺物（2）

第13表 第1面 VIII区 遺物観察表

32号建物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第4494回 PL.250	1	陶器 盞碗	口縁～底部	口 8.0 厚 5.7	底 4.0	外面部回転施具による連続窪突文、内面から口縁部に鉄軸。	瀬戸・美濃陶器
第4494回 PL.250	2	陶器 盞碗	床上 口縁～底部	口 (8.0) 厚 6.0	(4.2)	外面部回転施具による連続窪突文、内面から口縁部に鉄軸。	瀬戸・美濃陶器
第4498回 PL.250	3	陶器 甕	甕～底部	口 11.8 厚 7.3	6.0	内面から外面部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第4496回 PL.250	4	陶器 甕	腹方 口縁～底部	口 (10.4) 厚 7.0	4.6	内面から体部外下部鉛釉、軸厚にムラあり。	瀬戸・美濃陶器
第4498回 PL.250	5	陶器 甕	口縁～底部	口 9.8 厚 6.5	5.0	内面から体部外下部鉛釉。	瀬戸・美濃陶器
第4498回 PL.250	6	陶器 甕	口縁～底部	口 (9.6) 厚 5.2	3.4	内面から外面部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第4496回 PL.250	7	陶器 小碗	床上 口縁～底部	口 6.9 厚 4.3	3.0	外面部下部回転削り、内面から外面部下部まで灰釉。	瀬戸・美濃陶器
第4496回 PL.250	8	陶器 水注	甕 完形	口 3.8 厚 7.7	5.2	やや小振りで肩部から口縁部ややしまる。外面部鉛釉。	瀬戸・美濃陶器
第4498回 PL.250	9	磁器 仏飯器	脚部片	口 - 厚 (2.4)	4.0	短脚で大きく開く。外面部鉛釉、底部円形の凹みのみ施釉、脚上部に染め付け楕楕。	肥前磁器
第4498回 PL.250	10	陶器 すり鉢	口縁～底部	口 27.6 厚 10.5	底 10.8	内面15本1单位のスリ目。口縁外側から体部外側中位以下回転削り成形、底部回転角切り後なで調整、外面部鉛釉。	瀬戸陶器
第4498回 PL.250	11	土製品 土製円板	完形	長 3.5 幅 3.7	厚 0.35	薄手の円形土製円板、裏面に回転糸切り痕か。	
第4498回 PL.250	12	砾石	完形	長 15.9 幅 4.9	厚 1.3 重 184	珪質粘板岩	使用により薄くすり減り中央が僅かにへこむ、裏面凹凸見られ、荒削時の剥離痕、櫛歯痕が残る。表面鉄分の沈着有り。
第4498回 PL.250	13	砾石	欠損	長 (12.7) 幅 2.7	厚 2.6 重 (140)	砾沢石	使用により薄くすり減り中央が僅かにへこむ、裏面凹凸見られ、荒削時の剥離痕、櫛歯痕が残る。表面鉄分の沈着有り。
第4498回 PL.250	14	砾石	床上 欠損	長 (8.4) 幅 2.4	厚 1.3 重 (42)	砾沢石	主使用面中央が高まり、裏面も使用。両側面に櫛歯状痕。

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

3. IX区から発見された遺構と遺物

IX区は過年度に調査を行ったⅡ区とⅢ区の間の工事用道路両脇部分で、北側は斜面地、南側は傾斜が終わる僅かな平坦部分と、さらに東側の谷部分が多くを占めている。調査は僅かに残る平坦部分を中心に10カ所のトレンチを設定して行った。

調査の結果、南側平坦部では天明泥流下の烟が確認され、道路を挟んだ北側にも僅かに烟を確認した。

道路南側の烟は、平成20年度に調査を行ったⅢ区で確認されている、烟の続きであると考えられる。

4号および7号トレンチで確認した烟については、歟方向はほぼ東西で、湧水が多く、残りはあまり良好ではない。7号トレンチにおいても烟を検出したが、残りは余り良くなかった。さらに5～9号トレンチにおいても泥流下の烟が確認されたことから、ここ東宮跡では、かなりの斜面地も耕作地として利用されていたことが明らかとなった。

(1) 烟

1号トレンチ (第468図)

位置 51区N・O-17・18グリッド。

遺物 無し。

所見 表土とその下層にある泥流混土を含め、かなりの攪乱を受けていたために、一次堆積による泥流、およびAs-Aは確認できず、明瞭な烟については確認できなかつた。

2号トレンチ (第468図、PL.248)

位置 60区X・Y-20・21グリッド。

遺物 無し。

所見 有機質土で未分解の植物を多く含む軟弱な土質であった。湧水が著しく天明泥流、烟は確認できなかつた。

3号トレンチ (第468図、PL.248)

位置 60区V・W-21・22グリッド。

遺物 無し。

所見 2号トレンチ同様、有機質土で未分解の植物を多く含む軟弱土質であった。湧水も著しく泥流、烟は確認できなかつた。

4号トレンチ (第468図、PL.248)

位置 60区R-U-22・23グリッド。

主軸方位 (歟方向) N-100°-W。

遺物 無し。

所見 2、3号同様、湧水が多かったが、段差を有す場所の下段部に天明泥流を確認、部分的にAs-Aに覆われた烟を検出、やや南に傾斜を持ち、歟は僅かに弧状を呈す。南端部に崩れた石列が認められ、烟壇に構築された石積みの区画境であろう。

5号トレンチ (第469図、PL.248)

位置 70区B-9グリッド。

遺物 無し。

所見 傾斜地内の比較的緩やかな場所に設定、天明泥流は認められず、比較的浅い場所で疊混じりの基盤層に達する。遺構は認められない。

6a号トレンチ (第468図、PL.248)

位置 70区T-7グリッド。

重複 無し。

主軸方位 (歒方向) N-103°-W。

遺物 無し。

所見 進入路工事により掘削された斜面の、上段際に設定、表土は浅かったが、下位に天明泥流、As-Aが残る烟を検出。歒はほぼ東西方向に作られ、残りは比較的良好であった。

6b号トレンチ (第468図)

位置 70区Q・R-7・8グリッド。

主軸方位 (歒方向) 一。

遺物 無し。

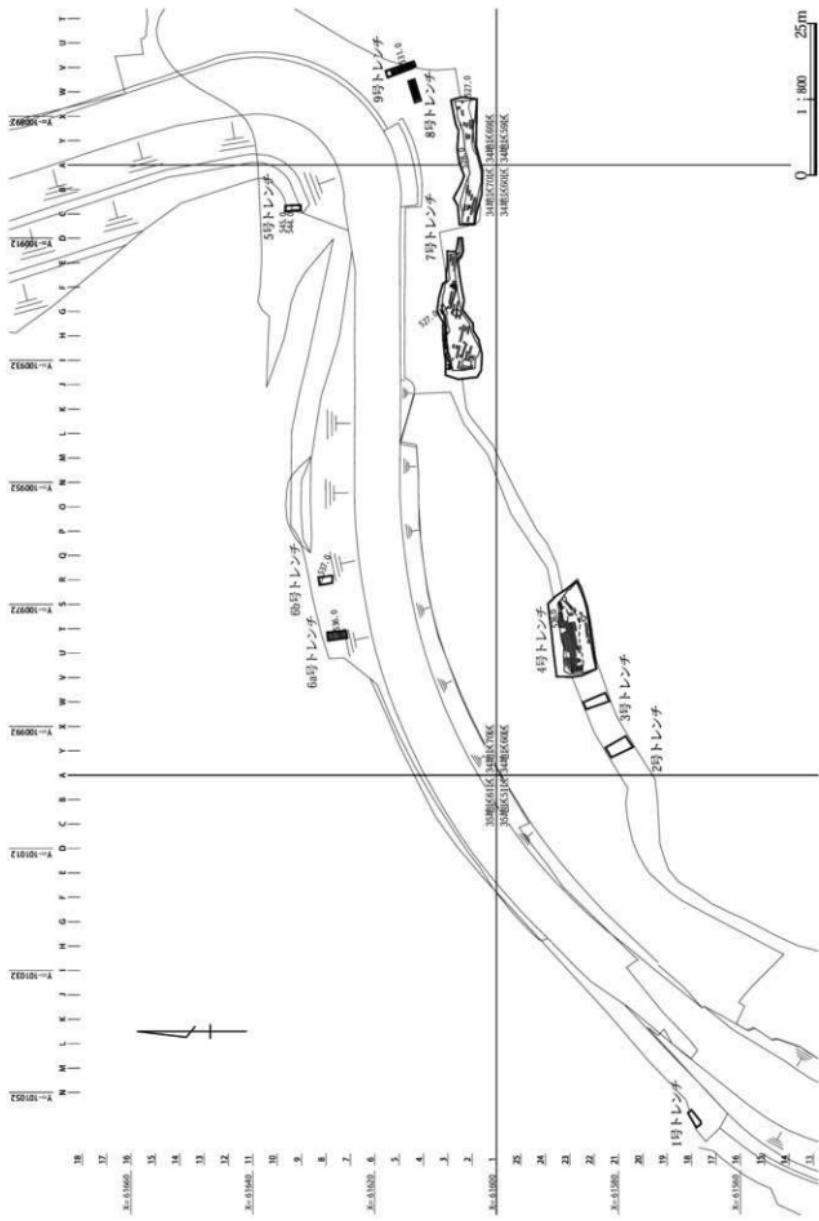
所見 6a号トレンチの東側、約8mの場所に設定、部分的に残る泥流は、残りが悪く攪乱を受けており、As-Aが僅かに確認され、かろうじて、東西方向の歒の痕跡が認められた。

7号トレンチ (第469・470図、PL.248)

位置 69区W-Y・70区A-I-1・2グリッド。

主軸方位 (歒方向) N-80°-W。

遺物 煙壇。



第467図 IX区全体図

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物

所見 傾斜が終わった平坦部に設定、東西に2か所を設定、両トレンチにおいて烟が確認されたため、いずれも拡張調査を実施した。泥流は比較的残ってはいたが、検出した烟については、歯の状況はあまり良好ではなかつた。

烟が途切れる山際には、石垣が見られた。検出した東西方向の歯はかなり荒れた状態で、所々が途切れている状況であった。

8号トレント (第469・470図、PL.248)

位置 69区V・W-4グリッド。

主軸方位 (歯方向) N-110°-W。

遺物 無し。

所見 7号トレントの北東部一段高くなった場所に設定、南東側は谷となっており、狭い僅かな平坦部である。

表土は角礫を含む崩落土で、近代の水路が検出された。その下部に泥流およびAS-Aに覆われた烟を確認した。歯はトレントと同方向に走り、かなり良好な状態で残っていた。

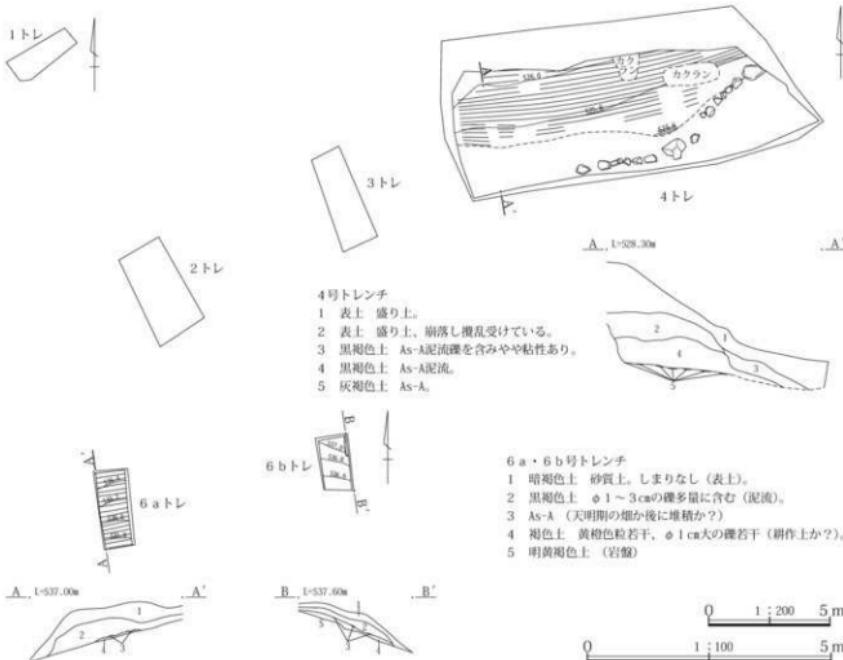
9号トレント (第469・470図、PL.248)

位置 69区U・V-4・5グリッド。

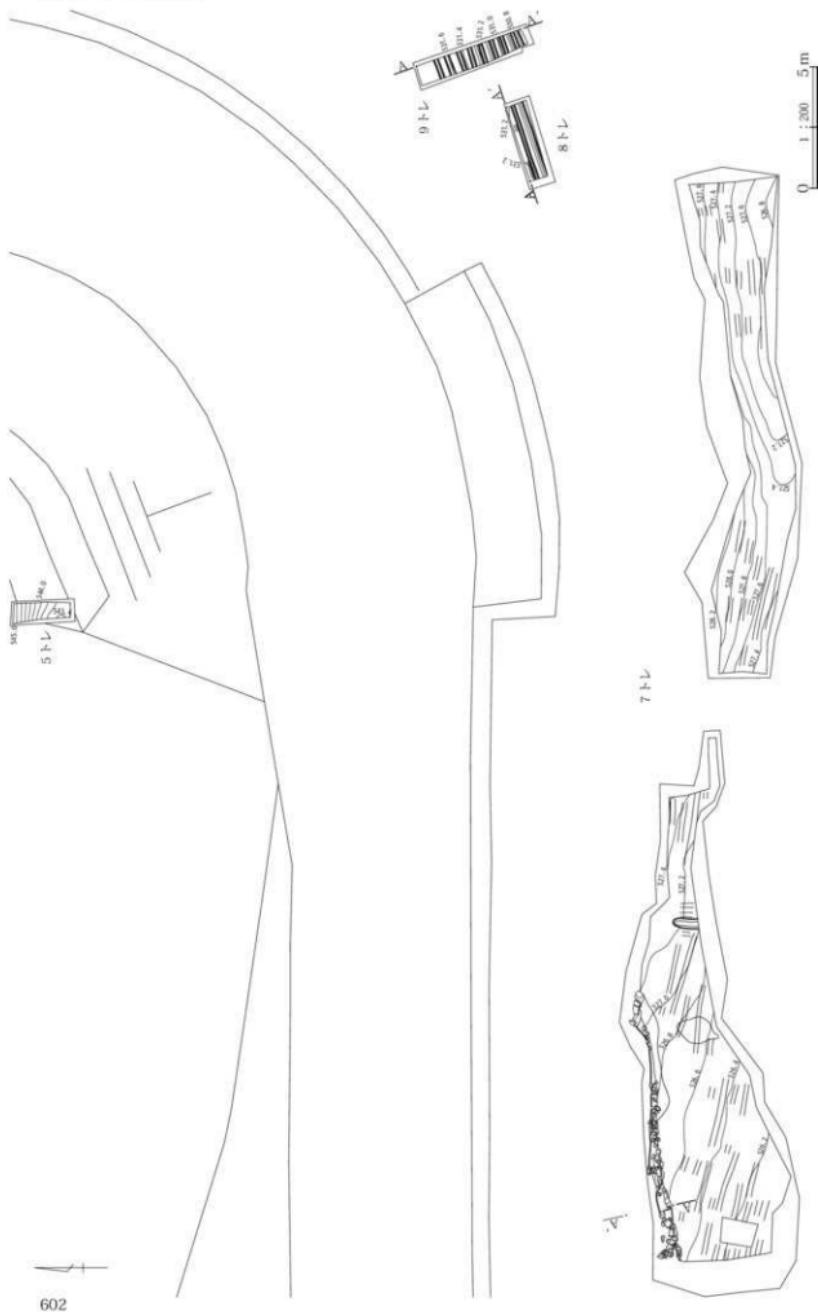
主軸方位 (歯方向) N-110°-W。

遺物 無し。

所見 8号トレントの東2mの位置に、直交方向に設定した。表土以下、埋没状況は8号と同様で、良好な状態の烟を検出、歯方向は8号とほぼ同じで、形状も似ていることから、同一の烟とみられる。



第468図 IX区トレント (1)

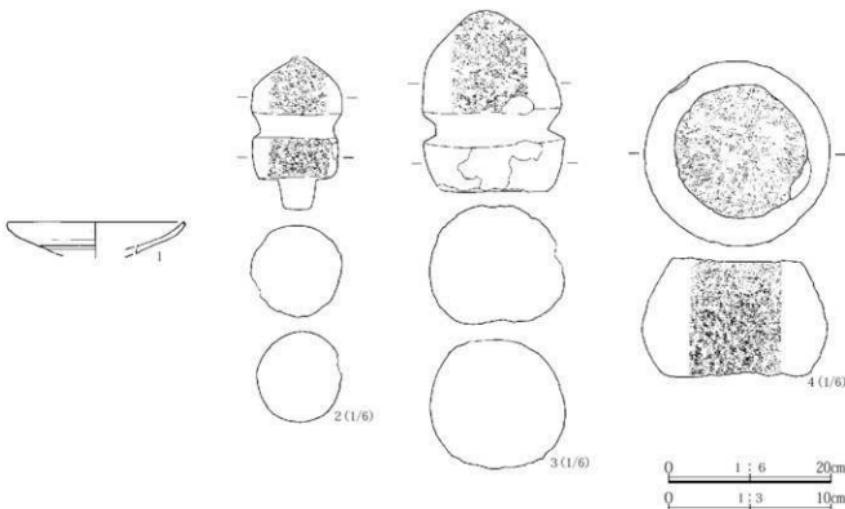


第469図 IX区トレーナ (2)

第3節 V・VII・IX区第1面から発見された遺構と遺物



第470図 IX区トレンチ（3）



第471図 IX区遺構外出土遺物

第14表 第1面 IX区 遺物観察表

遺構外

種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 底部	出土位置 表土	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第471図 PL.252	1	陶器 灯明皿	7トレ 底部	口 (10.8) 成 器 -	-	-	輪軸施釉。	輪口・美濃器
第471図 PL.252	2	五輪塔 空風輪	表土 完形	長 19.0 厚 - 径 11.3 重 2460	-	粗粒輝石安山岩	中央にくびれ溝、宝珠部分外周削り有り、ホゾは円柱状で 底部はややみみあり。	
第471図 PL.252	3	五輪塔 空風輪	表土 完形	長 22.5 厚 - 径 16.4 重 6800	-	溶結凝灰岩	宝珠部分先端部尖る、一部に不定型な凹みあり。溝は広く 深い、風輪部は下部がやや小さく作られ、底部は平らで、 ホゾは無い。梵字見られず。	
第471図 PL.252	4	五輪塔 水輪	表土 完形	長 14.9 厚 - 径 22.9 重 10900	-	粗粒輝石安山岩	上下面は平らに成形、上面部の径がやや小さく作られる、 中央やや下で最大径を示す。文字等は見られず。	

第4章 調査成果とまとめ

平成27(2015)年度以降の東宮遺跡V～IX区における発掘調査では、それぞれの調査区から、第1面(近世、天明泥流下)の遺構が、V・VI・VII区から第2面(中近世)、V・VIII区から第3面(縄文時代後期)と第4面(縄文時代中期)の遺構と遺物が確認された。このうち、V～VII区第1面とV・VIII区第2面については、『東宮遺跡(4)』2018にて報告済みである。

よって、本書においてはV・IX区第1面、VIII区第2面、V・VIII区第3面および第4面について、平成28～30年度(一部31年度調査分を含む)調査成果およびまとめを行うこととする。

第1節 江戸時代の調査成果とまとめ

1 第1面の調査成果とまとめ

V区の1面については、一部未調査地として残っている電柱敷部分の調査を行い、平成28年度に調査した遺構の一部である畠と溝を検出した。

VII区ではかなり起伏の見られる地形に、過年度に調査が行われた建物の続きである、32～38号までの7棟の建物を確認したが、33号については、かなりの削平を受けており、建物と確認することはできなかった。

これらの建物の他、畠、石垣、切石石組遺構、復旧坑等を検出した。

建物(屋敷)は旧町道に沿うように、作られていた。町道下の調査では、当時の道と側面石組の溝が確認された。

検出された道は、現在の道をトレースする形で作られていることが確認できた。

検出された建物の内訳は、主屋と考えられるものが、32号建物、36号建物、倉と考えられるのが、35号建物、33号建物で、他は付属屋ないしは作業小屋と考えられる。

32号建物は単独の屋敷として考えられる要素を持っているが、36号建物は道を挟んで位置する1号屋敷(東宮遺跡(2)2012)の付属屋と考えられる。この1号屋敷に付帯する建物としては、38号建物の他、同じく道を挟んでいるが、33号建物(倉)および37号建物も作業小屋の可能性が高い。

35号建物は小規模ながら、切り石を持った構造、内部の集石などから倉と考えられる。32号建物とは位置的に関連は薄く、むしろ、道を挟んで平成26年度に調査が行われた、4号屋敷に関連する倉と考えるのが妥当であろう。

畠

検出された道に沿って建てられた主屋や倉の周辺に検出された畠は小区画で、I・IV区の建物周辺の畠に似る。自家消費用の作物用と考えられ、東側の吾妻川までの範囲については比較的大きな畠が広がっている。

今回の調査で確認された建物群は、東宮遺跡における東端の居住部を確認できたといえる。

また、36号建物の北東端については、溝、畠が確認されたものの、建物類については、検出されず、やや傾斜を持って低くなっていることから、居住域からは外れた場所と考えられる

石垣

各建物の東側は畠境に石垣を設けている、また、32号建物の北東部に作られた石垣は、やや雑な作りで、使用されている石も地山礫が多く、一部崩落が見られたが、かなりの高さを有し、東に行くほど高く作られていた。

泥流埋没後に掘られた復旧坑は、これら石垣の際まで確認されている。

石垣に関しては、39号石垣が注目される、当初泥流除去直後には、石垣の両端部分のみ確認された状況が見られ、37号建物の東側にあり、建物の敷地を画するように、部分的に屈曲が見られ、中央部分が途切れているように観察された。さらにこの途切れた部分から東側に膨らむよう張り出した部分が見られ、高さ1.4m程のマウンド状を呈していた。

マウンド上面の北東部分にL字の小規模な石垣が確認されている、この石垣を通る東西方向のわずかに窪む道状の遺構も確認されている。マウンド上および斜面部にも部分的に歓サクが見られたことから、泥流直前には狭いながらも耕作地として利用されていたことが窺える。

このマウンドと石垣との関連を調べるために、立ち割

を行なったところ、途切れていると思われた部分に、高さ1.6mもの石垣が構築されていることが判明した。

石垣はマウンド部分ではほぼ完全に埋められていたのである。堆積土の観察では、上層部には若干の焼土を含む耕土と見られる土が見られ、下層部のほとんどは攪乱された土で一気に埋められた状況が看取されている。

検出した石垣はほぼ垂直に積まれ、裏込めもしっかりととなされており、積まれた石に風化や崩れなどが全く見られないことから、構築後まもなく埋められたものと考えられる。

埋められた理由については、現在のところ明らかではない。

1号切石石組遺構は45号畠の北西端、道寄りに作られている、 $1.2 \times 1.5\text{m}$ 、高さ0.35mの切り石をほぼ方形に組んだ遺構である。基礎には手前側に2石を置き、上面を水平に保っている。切り石の外面は平らに削った面で組まれているが、内面は自然面を残し、ひし形状に穴が開いており、泥流主体の砂礫混土、小砾が入り込んでいた。

遺構は畠の端に作られているが、一部入り込んだ位置に在り、畠は直近にまで作られている。道との間には通路状の隙間が確保されていることなどから、何らかのこの地域における信仰対象物が置かれていたことが考えられる。

畠は建物近くに作られたVII区および他区の畠は小規模なものが多く、大区画の畠はIII・V・VI区の畠とI・IV区の建物からやや距離のある畠に似る。

以上の調査結果からVII区において検出された一連の建物は、すでに調査が行われたI・IV区の集落の続きであり、東宮集落の街道沿い東端の様子が明らかになった。

2 第2面の調査成果とまとめ

V区の2面で検出された遺構については、浅く不定形な土坑群が部分的にまとめて検出された。V区およびVII区2面の遺構については、連続する状況が見られる。

さらに第400図に見られるように、西から東に向かう緩傾斜地に土坑、ピット群が広がっていることが看取される。

VII区において検出された畠はVII区の西側と北東側の傾斜の裾野部分に見られる。

走行は南東方向である、いずれも残存の状況は悪い、畠

を覆う砂質土であり、洪水による流出砂土と見られる。

土坑の多くは浅く、いずれも不定長円形を呈すものがほとんどで、部分的に集中して分布する傾向が見られる。遺物もほとんど見られない、時期は近世に帰属するものが多いとみられるが、一部に焼土を伴い、礫を伴うもの(129号土坑)もあり、中世に遡る可能性を残す。

ピットについては、東宮遺跡(4)に多くを報告しているが、本書においてもV区の追加ピットを多く記載している、そのほとんどが近世に帰属するものと考えられる。時期に関しては不明なものも多い。

これらのピットに関しては、径20~25cmで深さは、10~30cmを超えるものと多様である。いずれも出土遺物に関しては、縄文土器片を作出するものも見られるが、多くは混入したものと考えられる。ごく一部に、青磁片、須恵器片を作っているものが存在しており、時期認定の参考となる。

また、これらのピットについては、その分布に規則性は無く、建物等の柱穴である可能性は低い。

さらに、重複するものもほとんど見られず、ごく短期間に掘り込まれたと考えられるが、用途、性格については不明である。

V区では、平成28年度、一部未調査部分として残されていた電柱敷き部分の、2面において、1面の溝の下位に並行して暗渠状の溝が検出された、この溝は28年度に調査が行われた25号溝の延長部にあたる。また、この溝に合流して検出された11号溝(平成28年度調査の継ぎ部分)は、礫を並べた上に蓋状の礫を被せた暗渠構造を示す。合流部には大きな平石が置かれていたことから、両遺構は同時に構築されたものと考えられる。

水場遺構について

VII区において検出された特異な遺構としては、水場遺構があげられる。1面調査後下面の調査時に確認した。検出された場所は、緩やかな舌状に北東へ張り出した場所の南側基部に位置する。傾斜自体は東に下がっている場所であるが、遺構の軸は北東に向けて作られていた。

1号暗渠の北東部に、板を方形に組んだ樹状のものが大小2つ並ぶよう作られている。

暗渠からの水を一時的に溜め、利用していたことが考えられる。時期は江戸時代である。

この場所は伏流水が多く、調査時にも湧き出す水に悩まされた場所でもあり、当時の人も湧水の処理には様々な工夫が要求されていたものと考えられる。

事実、暗渠と見られる礫を多く含む溝状遺構が、北東方向に複数検出されている。東側に続くV区においても多くの暗渠構造の溝が確認されている。

同面の調査では、V区においては、複数の焼土遺構が検出されているが、ほとんどは時期、用途不明なものが多い。その中で、1号焼土については、長円形の掘り込みに焼土と炭化物、礫が確認された。出土遺物は土師器甕の破片が出土している。平安期の堅穴建物の竈の可能性も指摘しておきたい。

第2節 繩文時代の調査成果とまとめ

1 繩文時代の遺構検出の経緯

東宮遺跡における最初の調査は、平成8年度に進入路の建設に伴う調査が行われ、小範囲部分ではあったが、天明泥流に埋没した江戸時代の畠が確認された。

この結果から、東宮遺跡においては、広く天明泥流下の遺構の存在が予想されていた。

その後、平成19~21年度に比較的広範囲にわたる調査が行われ、天明泥流によって埋まった当時の建物を始め道、水路、畠等が検出され、遺構に伴って多くの生活具なども発見されたことから、大きな話題となった。

さらに平成26年度には、村の中央を走る道に沿って広がる畠が広く調査され、当時の村の様子を知る貴重な発見となった。こうした発見から、東宮遺跡に関しては、天明泥流に埋没した江戸時代の集落遺跡という、認識が強く持たれていた。

平成27年度に、今回報告する、V区東側の一部で国道拡幅に伴う調査が行われ、やはり天明泥流下の畠を検出、さらに下面の調査を行ったが、明らかな遺構に関しては確認されなかったものの、縄文土器の出土を確認している。

今回の報告対象である、V区は江戸時代の村落、建物がまとまって確認された当時の村落中心部からはやや外れた、東に向かいやすくなったり、吾妻川寄りの河岸段丘上に位置する。

平成28年度に調査が開始され、調査区ほぼ全面において、天明泥流に埋まった江戸時代の畠、および復旧坑が検

出された。

さらに下面の調査では、やはり江戸時代に行われた、造成工事の痕跡、建物、ピット、墓坑、溝などが検出された。その後、さらに下面の調査を進めた時点で、調査区の西寄り部分において、縄文時代の列石の一部である、礫の並びや土器の集中部の確認、さらには堅穴建物、配石等が検出され、縄文時代の遺構の存在が明らかになった。

調査期間もないことから、翌年度の調査に向けた確認調査を1月の冬場に実施し、東側に複数の列石の存在や新たな配石を確認した。

平成29年度になり、3面および4面の縄文時代の調査を本格的に開始した。

調査区での主要な遺構である列石は、大規模なもの3列を確認し、それぞれに関連する、堅穴建物や配石が付帯して確認された。

調査を進める中で、列石、配石を構築する以前の堅穴建物も多く存在していることも明らかになってきた。列石を作る際に壊されたものも含め、堅穴建物が複数確認されている。

2 列石

V区においては、規模の大きな主要列石は、比高を有し3列が確認された。

それぞれの列石が作られた地形は、東に向かい緩やかに傾斜を有し、列石は等高線に載る状況でおおむね、同心円状に構築されている。それぞれの列石の上段と下段部の比高は約1~0.6mで、上段側程高低差を有す。列石間は、ほぼ平坦な空間を作り出される形となっている。それぞれの列石と列石の距離は、3号と5号は約8m、5号と6号の間は約16mを測る。

各列石は一見すると、同じような構造、形状に見えるが、詳細に観察してみると、個々の礫の積み方、大きさ走行、形状が個別部分によって違いが認められる。

列石の主軸方向については、比較的直線に近く作られている部分は、ほぼ北に向いており、弧状部分は北から約30°東に向いている。

3号列石については、付帯する堅穴建物の構造に取り込まれている部分と、列石本体の部分の区別が難しい部分が多く、特に北側については、堅穴建物が列石とつながる場所の構造は判別しがたいといえる。この部分に廻し

ては、列石の幅が広く下段部には複数の配石が作られており、明らかに列石構築時に作られたと思われるものが多く存在する。



写真1

また、列石の構築法に関し、3号については、竪穴建物に関連すると思われる礫および列石を構成する上部の礫を取り除くと、基部の構造が明らかになった。

この構造から、列石を作るにあたって、最初の作業工程として観察される。

列石を構築する時点では、かつて作られていた、中期の遺構については、度重なる山崩れによる砂礫層により、埋没していたと考えられ、東に緩やかな傾斜を持つ地形が広がっていたものと想像される。

列石を作る最初の工程は、まず列石の位置を決めたものと思われ、当然付帯する竪穴建物との位置関係も決めていったものと考えられる。

次に列石の基礎部分の作り方であるが、検出された部分の状況から、まず、地山をほぼ垂直に切り土し、比較的大きな礫、複数面に平らな面を持つ、座りの良いものを選び、直線的に横に配列し、それぞれの石の上にやや小ぶりの礫を敷きならべ、ある程度上面を平坦にするという意識があったものと考えられる、石垣状の基礎構造をしている。(写真1)

これら基礎部分の列石は基本的には直線を連続した様子が見られる。

これらの上にのせられた礫については、付帯して作られた竪穴建物や配石遺構等を構築する際に、用いられた礫が、繰り返して積まれた結果、最終的な列石構造が作られたものと考えられる。

こうした観点で、列石の構造を見ると、図に見られる様に、部分部分で形状に違いがある、直線的な部分や弧状を

呈す部分、幅に関しても広狭が見られる。

こうしたことからも列石、特に3号列石に関しては、基礎部分はほぼ同時に作られたが、その後に徐々に作り足されたものと考えられる。

列石を含めた遺構の残存状況を見ると、調査区の南西半分は、東および南東部に比し標高にして1~2m以上高くなっている、28年度の調査においても縄文の遺構検出は少ない、列石部分は残りも悪く、礫も点在して確認された状況である。列石を覆う土に関して、北東側と比して、1m近い厚さの違いが認められる。

次に5号列石についてその構造を考えて見たい。

3号列石の東側に作られたもので、ほぼ平行に構築されている、列石間の間隔は北側がやや広く、約8mで、南側は約5mである。

この5号列石の形状に関しては全体には僅かな弧状を呈す北半分と、比較的直線的な南側とに分かれ。さらに特徴的な構造として、南側に作られた鉤状の構造が注目



写真2

される。(写真2)直線的な作りの端にひときわ大型のやや平坦な角礫が置かれ、この南側が西に張り出した鉤状になっており、礫の積み方も異なっていた。

この鉤状構造の南側に延びる列石は直線的な作りで、検出された礫は一段積みで、3号列石の基部構造に近似する。

この列石は鉤状構造から6m程で終わっていた。

削平されたことも考えられるが、構築当初もここで終わっていた可能性が高い。

さて、前述した鉤状構造について考えてみたい、明らかに何らかの意図をもって作られたものであることは明らかであろうが、精查を行う中で結論は得られなかった。下部にも明確な土坑や遺物は見られなかった。

西側の3号列石にはこうした構造は見られない、9号、10号配石がやや離れて位置しているが、関連性は不明である。3号列石の西に1号竪穴建物がほぼ軸線を同じくして検出されているが、詳細は不明である。



写真3

鉤状構造右側に据えられた大型の礫(写真3)は重さが350kgを超えていたが、この礫の下には平坦な礫が置かれ



写真4

た状態で出土しており、石の上面は磨り面として使用された痕跡があり極めて平滑な面が認められている。(写真4)

本文中でも述べたが、この大型礫に関しては、写真にも見られるように、列石上に斜めに覆うように検出、下部は一部が地面に入り込む状況を示していることなどから、列石の上下間を行き来するための通路として機能していた可能性を指摘しておきたい。

さらに、5号列石の構造を概観してみると、全体的にはかなり崩れた部分もあり、判然としない部分も見られる。3号との違いは付帯する竪穴建物が少なく、配石も極めて少ない点が指摘できる。

列石の北端部に風倒木が重複しており、かなり壊されている。列石の北端は3号とほぼ同一位置で終わってい

ることも注目される。

また、端には平石が並んだ19号配石が存在する。

列石構造については、列石を構成している上部の礫を取り除いたところ、下部にはほぼ等間隔に置かれた、やや長



写真5

さのある大型礫が確認された。(写真5)

これらの礫は、川原石ではなく、地山中より掘り出された礫と見られる。

何れも列石の掘方下段部に中心方向に向かって横倒しの状態で出土している。

それぞれの礫の間隔はおよそ5~6mで、列石構築時の起点としての用をなしていた可能性がある。

最も東側に検出された6号列石は、5号列石からは東に約17~20m離れて作られている。緩く弧状を呈し礫は不規則に並び幅広の構造であるが、北側は礫が少なくなっている、ほとんど礫のない部分があり、さらに北側には竪穴建物に伴う列石が伸びている、その先については未調査のため不明である。

列石間の平坦部はかなり広く取られ、平坦に整地された様子も窺え、配石等の遺構もないことから広場的な空間として意識されていた可能性が高いと思われる。

6号列石の東側については、調査範囲内において列石は確認されなかったが、複数の配石遺構が点在していた。これらの配石は3号列石などに見られた列石に付帯するものとは位置、構造が異なっている。列石からは離れており、比較的規模が大きく作られている。特に29号配石は複数の川原石を平に敷き西側に立石を持つ構造で、列石の弧状中心部線に軸方向が沿っている点が注目される。

列石に用いられた礫について、地山中の礫も多く使われているが、川原石も少なからず使われている、こうした川原石は東を流れる吾妻川から運ばれたことは想像に難

くない。

これらの列石に使われた礫について、確認された5号と6号列石の石について重量を計測した結果について述べておく。

それぞれに使われていた石の総点数、総重量は5号が609個、総重量14264.8kg(14.265t)、6号が922個、総重量9340.9kg(9.341t)であった。

計測した石については明らかに列石の構築材と考えられるもので、およそ0.5kg以下のものについては除外した。

また、一部調査途中で除去されてしまったものもあり、必ずしも構築時の状況でないことを了解願いたい。

使用された石の平均重量は、5号が23.42kg、6号は10.13kgと2倍以上の差が認められた。

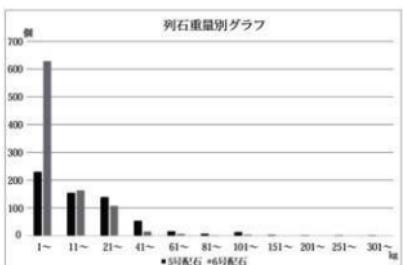
重さ100kgを超える石の数を見ると、5号列石が18個であるのに対し、6号では3個と少ない。6号列石に使用された最も重い石は、列石の東に近接する24号配石に用いられたものである。

また、5号列石中において最も重い石は、本文中でも触れているが、鉤状張り出し構造の右に置かれていた角礫で352kgを測る。

さらに、100kg超えの礫は、列石中に在って、配石(立石)としたものや、列石下部にほぼ等間隔に置かれていた石などである。

列石の規模、形状も異なっており一概に比較は難しいが、礫の選別は、列石の構築目的や構造の違いが表れているとみられる。

以下に5号・6号列石の重量分布グラフを示す。明らかに6号に使われた石数は多いものの、小振りなものが多く使われていることが窺われる。



それぞれの列石に付帯する竪穴建物の時期もほぼ合致している。

3号列石の上位には複数の竪穴建物が並んでいたものと思われる。さらに下段部にも5号列石との間に竪穴建物が存在していたのであろう。列石及び竪穴建物は5号と3号はほぼ同時期あるいは、わずかな時間差で構築されたものと考えられる。

3 配石

東宮遺跡における配石については、先述した列石との相互関係が窺われ、これらの列石に伴う配石についても初出は同時と考えられる。竪穴建物に関しては複数回の建て替えや拡張あるいは縮小などが確認されていることから、継続的に部分的な作り替えや、付け足しが考えられ、配石なども新たに作り足されたものが存在すると考えられる。配石遺構は31基を確認したが、このうち2基(12号、30号配石)は竪穴建物の関連部分として欠番とした。

これら配石については、個々の前後関係については明らかにし得ないものの、列石下部に礫を共有する形で作られたものに関しては古く位置付けられよう。

配石の分布を概観してみると、3号列石に付帯するもののが多く見られ、丸石、立石を伴うものが複数作られている。配石の総数30基のうち、19基が列石中、あるいは列石下辺部に接して構築されており、数基がやや離れて位置する。このように多くが3号列石に伴っており、なおかつ列石北半分に集中して作られている。

5号列石については、先述した鉤状遺構と、北端部に19号配石が見られ、列石中に立石と思われるもの2基が検出されたに過ぎない。

6号列石の東側には複数の礫を円形、方形、不定形に配した配石が点在し、3号・5号列石に付帯して確認された配石とは、形態も異なっている。

これらの配石は6号列石と有機的な関連を持っていたものと考えられる。列石は時間的には3号・5号に先行して作られたものと考えられる。列石中には配石と思われるものは見られず、唯一24号配石とした、大型礫とこれを囲う礫を持つ造構があるが、列石を挟んで西側に位置する18号竪穴建物との関連が強く考えられる。

6号列石の作られた場所は、度重なる山崩れによる砂礫土により埋没が進み、新たな列石をより高い西側に構築していくものと考えられる。

のことから、列石の東側に位置する、27・28・29・31号配石は6号列石とともに古く位置づけられる。

配石の構造は大きく次のように分類できる。

1類. 比較的大きな丸石を中心に置き周囲に礫を多重に巡らす。

2類. 立石の基部に礫をめぐらす、手前に平石を置くものもあり。

3類. 矩形あるいは規則的に配置するもの

4類. 矩形を一部直線的に配するもの

5類. 矩形を不定形に配するもの。

6類. 大きな礫を置き周囲に礫を巡らすもの。

配石1類、2類は圧倒的に3号列石下縁部に並ぶようになされたものが多く、他の列石にほとんど見られない。2類とした立石を持つものは、根元を礫で方形に囲い、手前に平らな石を据えるものがある。

3類としたものは9・10号等である、列石とはやや離れており、川原石を方形または並列に配す。4類は19号配石が相当する、立石などは見られず、やや扁平な川原石を直線的に並べる。

5類・4類との判別はしがたいものの、礫の並びは整然とはしていないものの、明らかに矩形を意識した配列を有す、立石と思われる礫も見られ、埋甃が近接して確認されている。列石とは離れた位置に在る。

6類は6号列石から東側に単独に作られたものが多い。

のことから、明らかにそれぞれの列石と配石の関連性に違いが見られる。これが時期的なものであることは想像されるが、列石の持つ意味にも違いがあるのかもしれない。

列石中の配石として認定したものについては、立石と考えられるものも多く存在する、特に5号列石中の22号・23号配石など比較的大型礫の立石である。その他にも、遺構とは認定しなかったものの、立石と思われる礫が点在しており、列石の構築時には多くの立石が存在していたと思われる。



写真6

配石下に土坑が確認されたものは僅かであった。しかも明らかなものとしては、2号配石(写真6)下に検出された土坑で、1号配石土坑(写真7)とした。



写真7

長方形に掘り込まれた土坑の壁に平石を立てた構造で、奥には蓋石と思われる平たい石が載せられていた。特に2号配石とその下部において検出された1号配石土坑は列石と同時期と見てよいであろう。

また、4号竪穴建物内に検出された11号配石も壁に平石が配された配石土坑の可能性が高い。検出時上部に小礫が集中して見られた。底部に部分的にではあるが平石が散かれている。

4 穫穴建物

竪穴建物については、列石に付帯して作られたと思われるものに、3号列石上段（3号・11号・5号・6号・7号等）があげられる。これらの竪穴建物については複数回の建て替えや、配石、列石の重複などにより、構築時の様子を把握するには至らず、規模や、形状については不明な点も多い。また、11号の上に確認された4号に関しては形状等は明確にできなかった。本址は3面調査開始後、最も早い時点で確認されたものであるが、2号・3号列石とした周縁との関係なども、不明な点が多い。また、西側に重複する11号配石は配石土坑の可能性が高い。

南に離れて位置する1号竪穴建物については、3号列石とやや離れ、むしろさらに東に確認された8号列石との関連を想起させる。これらの竪穴建物の時期を見ると、列石上段部に構築された建物が比較的新しいとみられ、最上部の4号はさらに新しい可能性がある。

いずれの竪穴建物も列石との関連が想定され、東側の張り出し部が列石に繋がる構造と考えられる。

竪穴建物前の列石の構造は左右に延びる列石と、石を階段状に積む構造が見られ、さらには両側に立石を立てていたと思われる状況が看取された。

竪穴建物の変遷

東宮遺跡では3面で確認された、列石、配石が注目され、調査が行われたが、最終的にはこうした列石、配石の下部にも多くの中期の遺構が確認調査されている。

竪穴建物は後期の遺構により壊されたものが多く、現状をつかめないものも存在するが、比較的残りの良かつたものもあり、集落の様子を窺い知ることができる。

V区において検出された竪穴建物は、中期後半期に出現し、終末期から後期初頭においては遺構数が減じたものの、後期前半期に再び集落の拡大が見られ、列石や配石なども多く構築された。竪穴建物の棟数は、この両拡大期のものが、ほぼ同数確認されている。

当初調査区の主に西側部分において確認された列石、および竪穴建物は後期のものが主体であった、中期の竪穴建物が確認されたのは、調査区の南側のやや高くなつた部分において、トレーナによる下部の確認調査を実施したところ、30~50cm下位において土器片がまとまって

確認されたことにより、中期の遺構が存在する可能性が高まり、さらにその範囲は北側にも広がっていることが明らかになったのである。

V区において検出した縄文時代の竪穴建物については、おおむね以下のI~V期に分類可能である。

I期 中期後様（加曾利E3式期）

II期 中期末（加曾利E4式期）

III期 後期初頭（称名寺1・2式期）

IV期 後期前葉（堀之内1・2式期）

V期 後期中葉（加曾利b1式期）

V区における中期の遺構、特に竪穴建物の分布状況を見ると、吾妻川に沿った段丘上を南北に連なるように作られていたことが明らかになっている。

今回報告を行ったV区の東側および西側のVII区においても、列石や竪穴建物などの遺構が連続しており、本遺跡が広範囲に居住空間として機能していたことが明らかとなつた。

調査区内における該期の分布状況を概観すると、北側部分に多く集中して確認されていることがわかる。この部分では重複関係を有すもの多く、継続性が窺われる。

さらに、南側にも点在しており、令和元年度の調査では東側の川寄りの場所においても複数の竪穴建物が確認されていることから、吾妻川を起点とする弧状の分布範囲が想定される。分布が薄い場所については、列石構築時の整地による削平等も考えられる。

中期になると、竪穴建物は急減している。散石竪穴建物である27・44・83号および70・79号竪穴建物が相当する。調査区南東部に僅まりが見られるものの、数は少ない。列石との関連性は見られないことから6号列石構築以前と考えられ、比較的小規模な集団による居住が行われていたものと考えられる。

後期初頭になると、数はあまり多くはないものの、遺構分布に広がりを見せる。竪穴建物は調査区の南端部から北側にまで点在する。また18号竪穴建物は6号列石弧状部の頂点に位置し、強い関連性が認められることから、6号列石はこの時期に構築されたことが考えられよう。

同様の竪穴建物としては、6号列石に付随する、18号および北側には23号が列石の上段部に位置し、下段部には南から比較的大型の竪穴建物82号、80号、77号が位置する。いずれも列石構築時に作られたものと考えられる。さら

に、該期の竪穴建物は上段部に広く点在して構築されている。

当該期の竪穴建物の特徴として、その多くが柄鏡型の敷石竪穴建物であるという点を指摘できよう、形状は大きく主体部が隅丸方形を呈すものと、円形のものに大別される。

壁下に廻る周縁の存在も特徴としてあげられる。

また、南に検出された8号・31号竪穴建物は、標高の高い部分において確認された。埋土が厚く角礫を含む山崩れの土で埋まった状態で、周辺にも多くの摩耗した土器片が認められ、かなり急激に埋まったことが想定される。北東部に一部確認された8号列石との関連も検討する必要がある。

その後、おそらく山崩れにより集落がほぼ埋没状態となつたため、一時期居住が行われなかつた期間が存在したものと考えられるが、地勢が落ち着いた時点で、後期前半期に再び集落の形成が開始されたものと考えられる。まずは5号列石、続いて3号列石を構築、この際傾斜地部分を切土し、列石を構築し、竪穴建物等を作つていったものと考えられる。

ただし、3・5号列石よりも古く作られたと考えられる6号列石であるが、北端部に位置する19号竪穴建物については、出土遺物から判断するに、時期的に後期前半期に比定されるもので、張り出し部に敷かれた敷石はその作りから列石と同時期に構築されたものと考えられる。

この所見から考えるに、6号列石の弧状部と途切れている部分を境に、北端部については若干の時間差を考える必要があるかもしない。

後期前半期の竪穴建物の多くは、5号列石から西側の高い場所に構築されており、東側にはほとんど作られていない。列石からは離れて位置する30号竪穴建物に関しては、形状、作りがやや異質である点や、隣接する26号配石との関連などを考慮すれば、通常の竪穴建物とは違う用途が想定される。

該期の竪穴建物については、2～4回の拡張または建て替えが行われているものが多く見られる。特に3号列石に付帯する建物についてはより顕著に認められた。

V区内において、最も上位に確認された4号竪穴建物は、手前側にある3号・11号竪穴建物の中心線上に構築されており、比高を有していることから、新たに構築された竪穴建物は、より上位に移つていったことが読み取れる。

平成31年度に本区の西側および東側調査区の調査を行い、本区の続きとなる遺構を検出しており、出土遺物を見る限りでは、新しくなるようである。

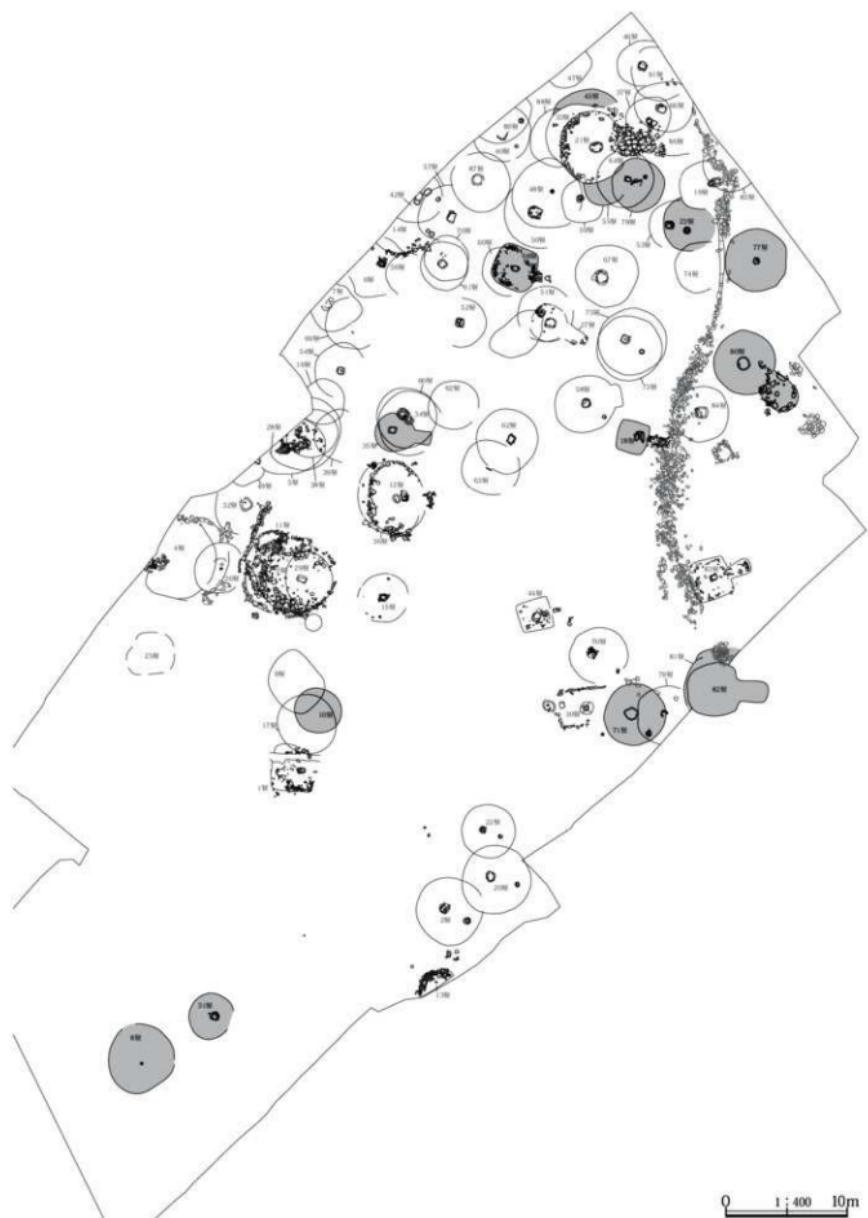
また、東側の旧国道側には竪穴建物および列石や配石の広がり等が確認され、中期の遺構についても東側の吾妻川側に多く検出されており、列石構築前の集落構造がより鮮明となった。令和元年度の調査成果の詳細については、東宮遺跡(6)の報告書に記載の予定である。



第472図 V区竪穴建物時期別分布図（Ⅰ期）



第473図 V区竪穴建物時期別分布図（Ⅱ期）



第474図 V区竪穴建物時期別分布図（Ⅲ期）



第475図 V区竪穴建物時期別分布図 (IV・V期)

第5章 三ッ堂岩陰の調査

第1節 調査の経緯

三ッ堂岩陰は、吾妻川左岸の川原畠村から、つづら折りになった町道を、三平I遺跡へと上る途中の左側に位置する。幅38m、高さ28mの大岩の南側面下にある僅かな平坦面に、昔は三つのお堂（観音堂、阿弥陀堂、毘沙門堂）が並んで居たことから三ッ堂と呼ばれた。

その背面の岩を棚状にくりぬき、そこに70体もの石仏を並べ地元の信仰の場となっていた。

三ッ堂の百八灯と呼ばれる200年以上続く行事は、お盆の8月、観音堂においてお盆の送り火として子供を中心となって行われた。

三ッ堂脇には詣り墓と呼ばれる墓石群があつて、死者を埋めた墓（埋め墓）は別に在る。これは両墓制と呼ばれ、この地域の特色でもあった。

お堂、石仏群はダム建設に伴い、代替え地に移転されている。

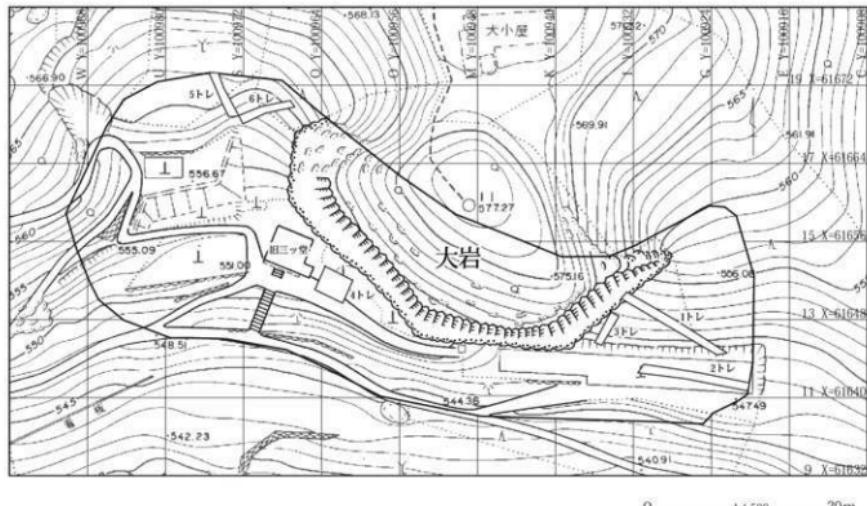
調査は、お堂のあった場所を中心に行われ、現地表面以下を掘り下げ、いわゆる岩陰遺跡の可能性も含め、調査を行った。

その結果、表土下の岩陰の奥行きはほとんど無く、比較的浅いレベル位置で岩盤が露出したことから、岩陰遺跡の可能性は無くなかった。

また、遺構・遺物に関しても以下に提示する江戸時代以外の遺物は確認できなかった。

第2節 発見された遺構と遺物

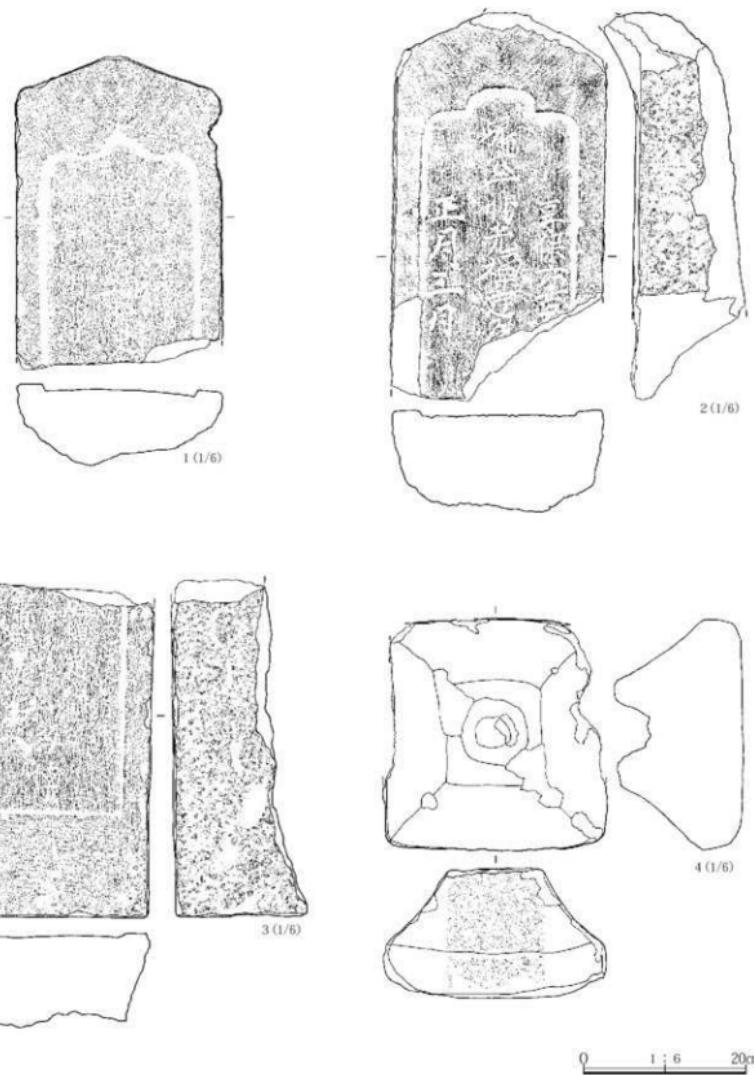
三ッ堂岩陰においては、現表土中から石造物等が出土した。出土した石造物の紀年銘から、現表土は江戸時代中期（享保7（1722）年）以降の崩落土であることが確認された。なお、現表土下は岩盤である。遺構は確認されなかった。



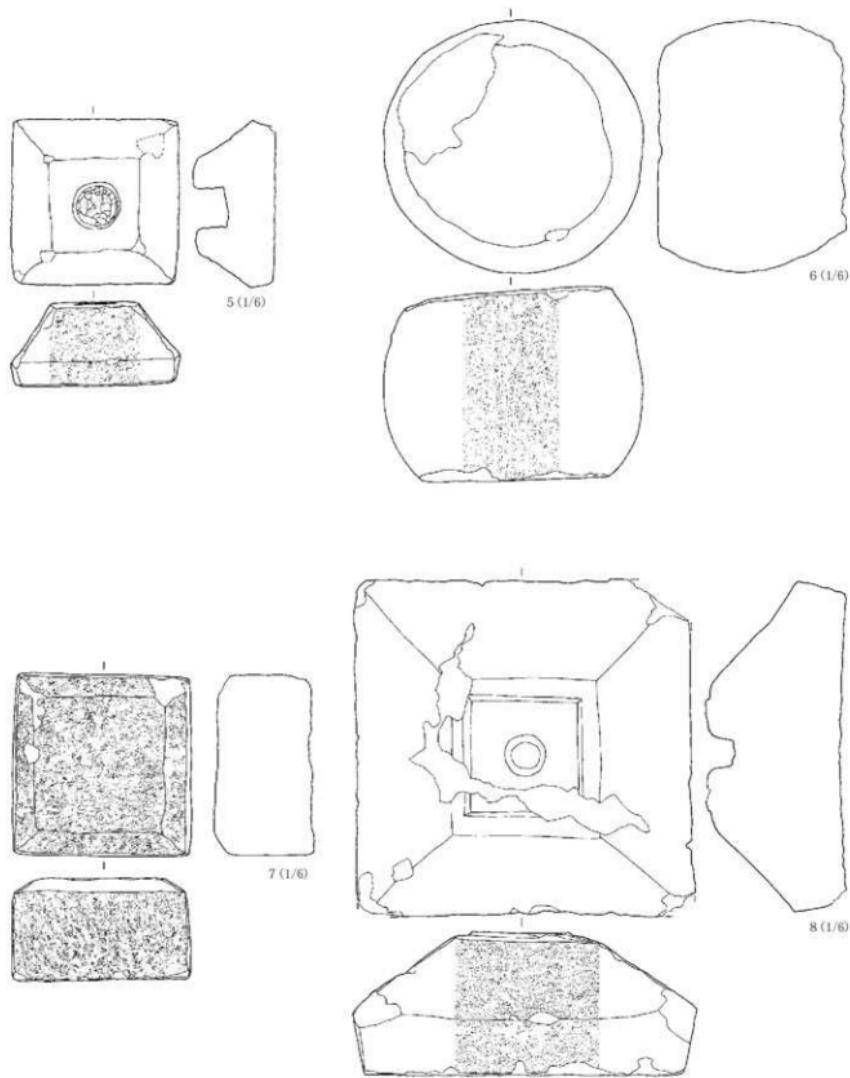
第476図 三ッ堂岩陰全体図

出土遺物は、墓石3点（1～3）・五輪塔火輪2点（4・5）・五輪塔水輪1点（6）・五輪塔地輪1点（7）・宝

塔1点（8）・台座2点（9・10）、錢貨1点（11）を図示した。墓石3点には紀年銘が刻まれている。

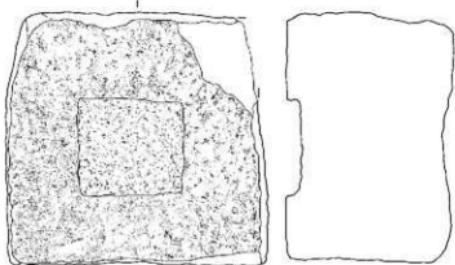


第477図 三ッ堂岩陰出土遺物（1）

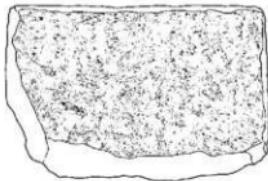


0 1 : 6 20cm

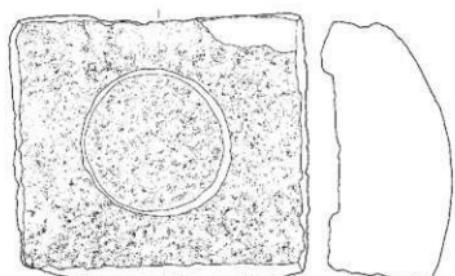
第478図 三ッ堂岩陰出土遺物（2）



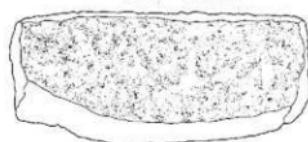
9(1/6)



10(1/6)



11(1/1)



11(1/1)



第479図 三ッ堂岩陰出土遺物（3）

写 真 図 版

東 宮 遺 跡



1 遺跡遠景(東上空より)



2 遺跡遠景(東より)



1 遺跡遠景(南東上空より)



2 遺跡遠景(西上空より)



1 遺跡全景(上空より)



2 遺跡全景(東上空より)



1 遺跡全景(上空より)



2 遺跡全景(東より)



3 遺跡全景(東より)



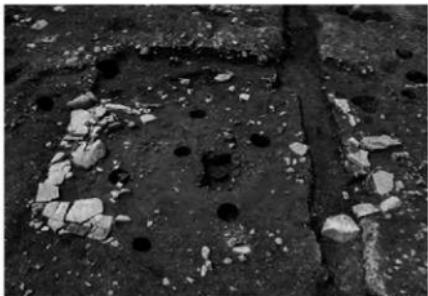
4 遺跡全景(北東より)



5 遺跡全景(南東より)



1 V区 1号竪穴建物全景(東より)



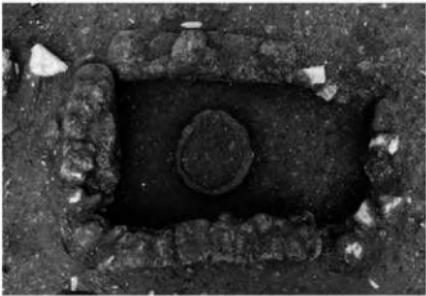
2 V区 1号竪穴建物全景(東より)



3 V区 1号竪穴建物かセクション(東より)



4 V区 1号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区 1号竪穴建物炉かセクション(南より)



1 V区2号竪穴建物全景(南東より)



2 V区2号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



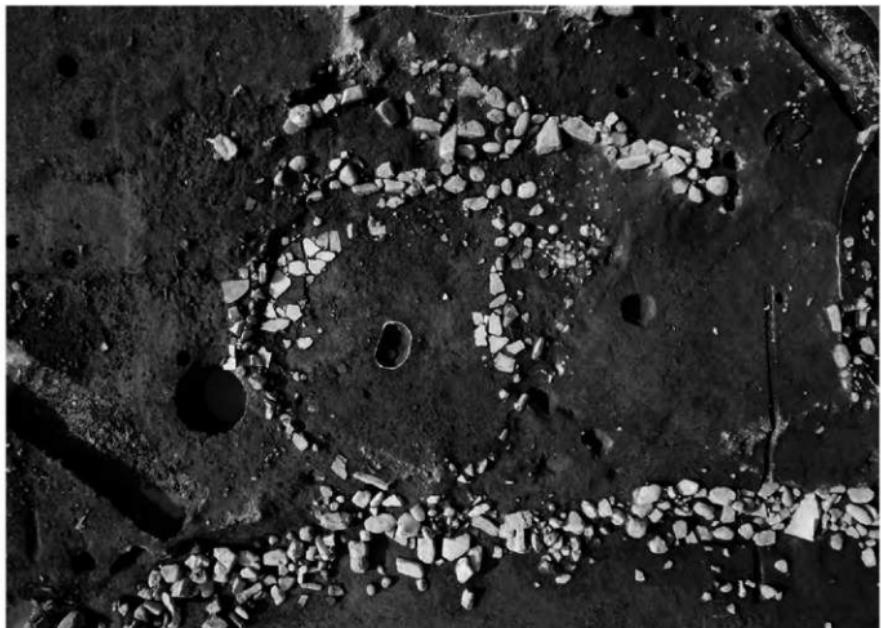
3 V区2号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



4 V区2号竪穴建物炉全景(南東より)



5 V区2号竪穴建物理痕断ち割り(南より)



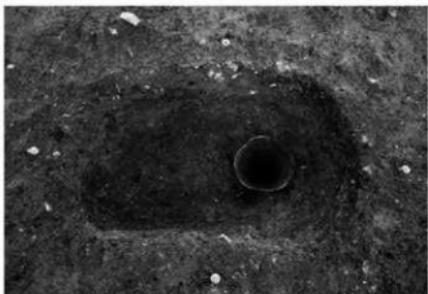
1 V区3号竪穴建物全景(南東より)



2 V区3号竪穴建物全景(南東より)



3 V区3号竪穴建物遺物出土状態(南より)



4 V区3号竪穴建物炉全景(南より)



5 V区3号竪穴建物掘方全景(南東より)



1 V区4号竪穴建物全景(東より)



2 V区4号竪穴建物全景(上空より)



1 VI区5号竪穴建物全景(東より)



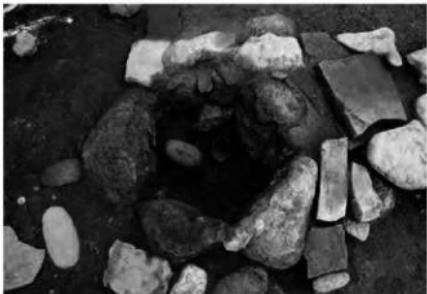
2 VI区5号竪穴建物遺物出土状態(南より)



3 VI区5号竪穴建物遺物出土状態(南より)



4 VI区5号竪穴建物遺物出土状態(南より)



5 VI区5号竪穴建物炉全景(南より)



1 V区 6号竪穴建物全景(南東より)



2 V区 6号竪穴建物炉全景(南東より)



3 V区 7号竪穴建物全景(南東より)



4 V区 7号竪穴建物遺物出土状態(南より)



5 V区 7号竪穴建物全景(南東より)



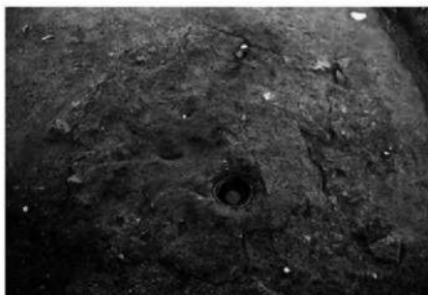
1 V区8号竪穴建物全景(東より)



2 V区8号竪穴建物遺物出土状態(南より)



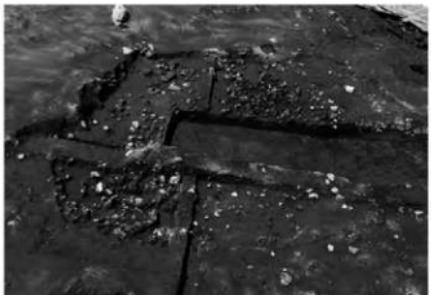
3 V区8号竪穴建物がセクション(南より)



4 V区8号竪穴建物炉体土器検出状況(南東より)



5 V区8号竪穴建物炉体土器検出状況(南東より)



1 V区9号竪穴建物遺物出土状態(南より)



2 V区10号竪穴建物遺物出土状態(南より)



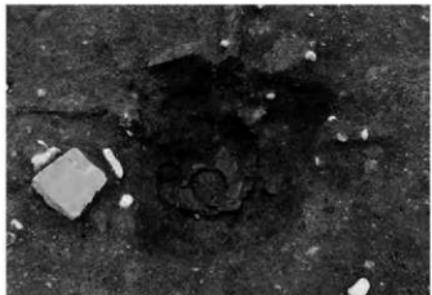
3 V区11号竪穴建物全景(南東より)



4 V区11号竪穴建物立石検出状態(南東より)



5 V区11号竪穴建物石棒出土状態(南東より)



1 V区11号竪穴建物炉全景(南東より)



2 V区11号竪穴建物全景(東より)



3 V区12号竪穴建物全景(東より)



4 V区12号竪穴建物炉検出状況(南より)



5 V区12号竪穴建物全景(東より)



1 V区13号竪穴建物セクション(東より)



2 V区13号竪穴建物全景(東より)



3 V区14号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区14号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



5 V区14号竪穴建物遺物出土状態(北より)



6 V区14号竪穴建物セクション(南東より)



7 V区14号竪穴建物炉体土器検出状況(東より)



8 V区14号竪穴建物炉体土器(東より)



1 V区15号竪穴建物全景(東より)



2 V区15号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区15号竪穴建物埋廻セクション(南より)



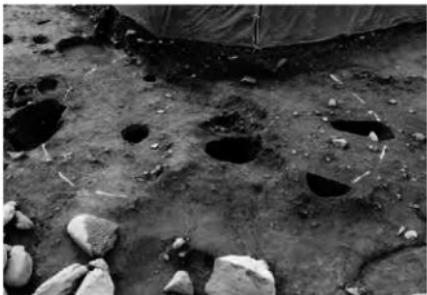
4 V区15号竪穴建物理発出状況(東より)



5 V区15号竪穴建物理発出状況(南東より)



1 VI区16号竪穴建物全景(東より)



2 VI区16号竪穴建物全景(東より)



3 VI区17号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 VI区17号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区18号竪穴建物遺物出土状態(東より)



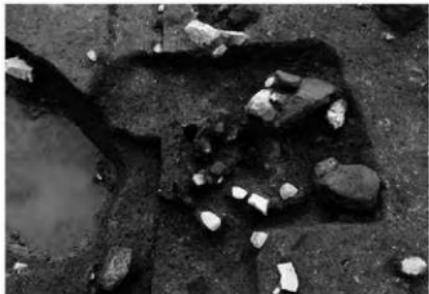
1 V区18号竪穴建物全景(東より)



2 V区18号竪穴建物石囲い道構および框石(東より)



3 V区18号竪穴建物張り出し部立石および24号配石(東より)



4 V区18号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区18号竪穴建物石囲い道構全景(東より)



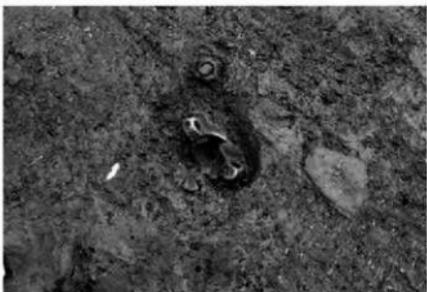
1 V区19号竪穴建物全景(南東より)



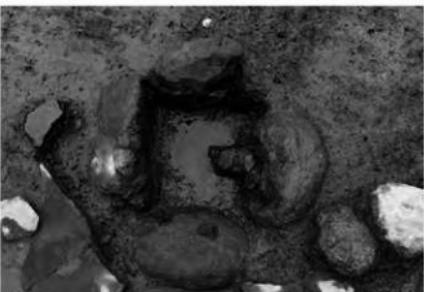
2 V区19号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



3 V区19号竪穴建物全景(南東より)



4 V区19号竪穴建物遺物出土状態(南より)



5 V区19号竪穴建物炉全景(南東より)



1 V区20号竪穴建物全景(南東より)



2 V区20号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



3 V区20号竪穴建物遺物出土状況(南より)



4 V区20号竪穴建物炉セクション(南より)



5 V区20号竪穴建物物理痕セクション(東より)



1 V区21号竪穴建物全景(東より)



2 V区21号竪穴建物セクション(東より)



3 V区21号竪穴建物セクション(北より)



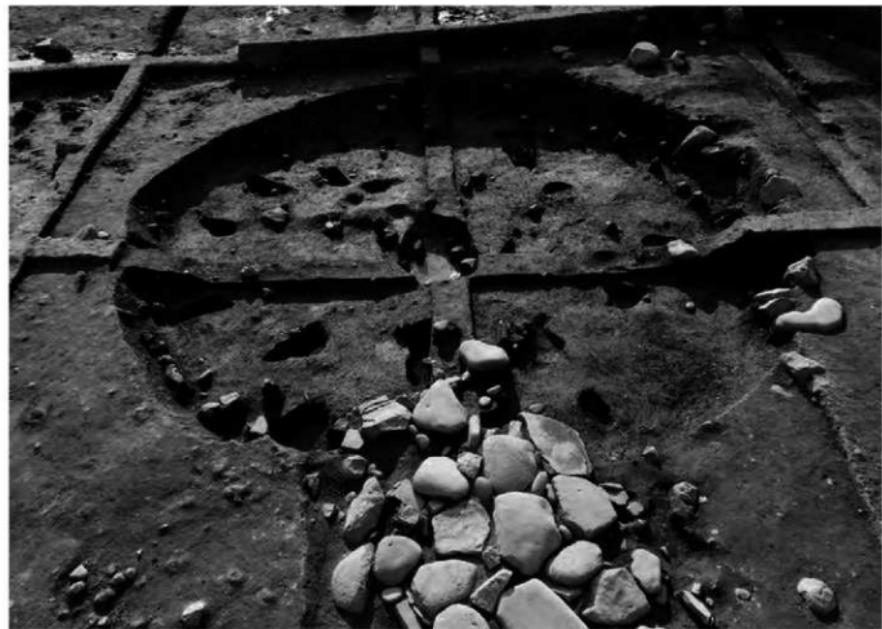
4 V区21号竪穴建物全景(東より)



5 V区21号竪穴建物主体部全景(東より)



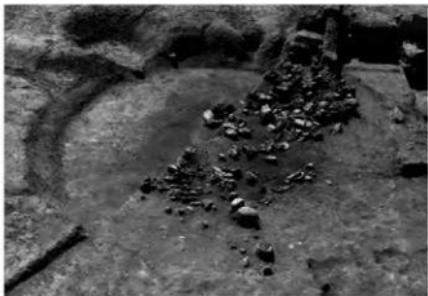
1 V区21号壁穴建物全景(上空より)



2 V区21号壁穴建物主体部撮方(東より)



1 V区22号竪穴建物全景(東より)



2 V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区22号竪穴建物遺物出土状態(南より)



4 V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)



1 VI区22号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



2 VI区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 VI区22号竪穴建物遺物出土状態(南東より)



4 VI区22号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区22号竪穴建物炉全景(東より)



6 VI区22号竪穴建物埋甕出土状態(東より)



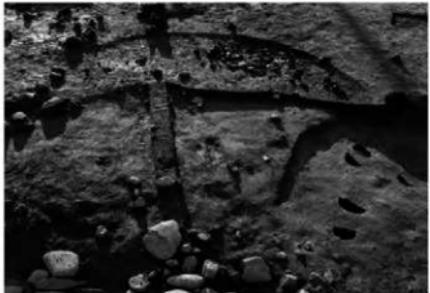
7 VI区22号竪穴建物埋甕セクション(北東より)



8 VI区22号竪穴建物埋甕全景(北東より)



1 VI区23号竖穴建物全景(東より)



2 VI区23号竖穴建物遺物出土状態(東より)



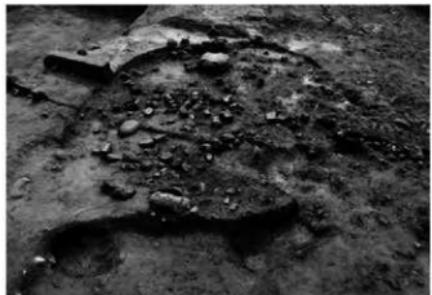
3 VI区23号竖穴建物遺物出土状態(東より)



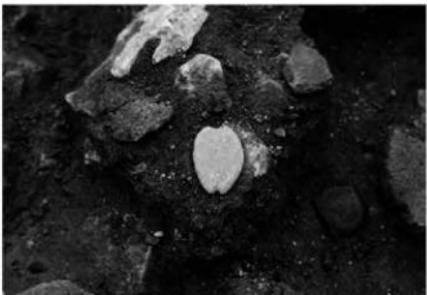
4 VI区23号竖穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区23号竖穴建物遺物出土状態(東より)



1 V区25号竪穴建物遺物出土状態(南より)



2 V区25号竪穴建物遺物出土状態(南より)



3 V区26号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区26号竪穴建物全景(東より)



5 V区27号竪穴建物全景(南東より)



1 V区27号竪穴建物全景(北西より)



2 V区27号竪穴建物周縁検出状態(南東より)



3 V区27号竪穴建物周縁検出状態(北より)



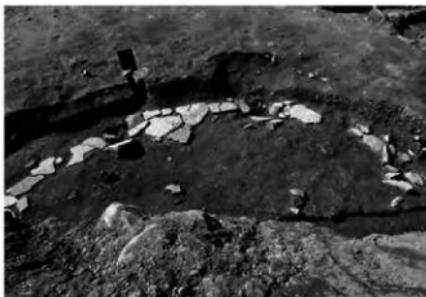
4 V区27号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



5 V区27号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区28号竪穴建物全景(東より)



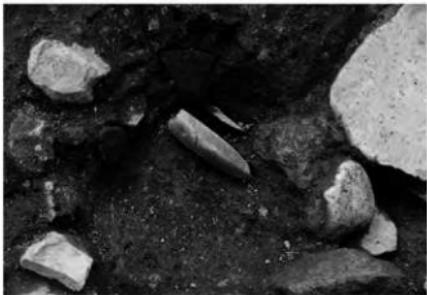
2 V区28号竪穴建物北側全景(南より)



3 V区28号竪穴建物北側全景(北西より)



4 V区28号竪穴建物遺物出土状態(東より)



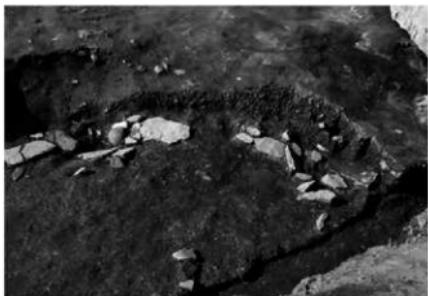
5 V区28号竪穴建物遺物出土状態(東より)



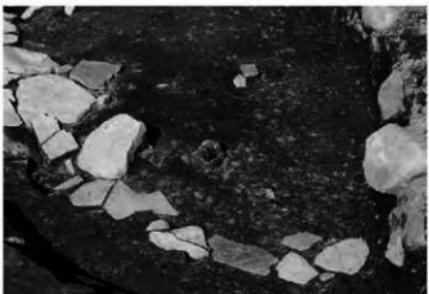
1 V区28号竪穴建物全景(東より)



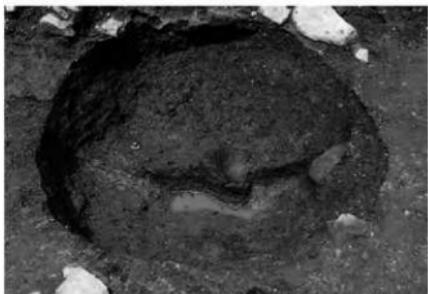
2 V区28号竪穴建物散石検出状況(南より)



3 V区28号竪穴建物散石検出状況(南より)



4 V区28号竪穴建物遺物出土状態(南西より)



5 V区28号竪穴建物炉全景(南より)



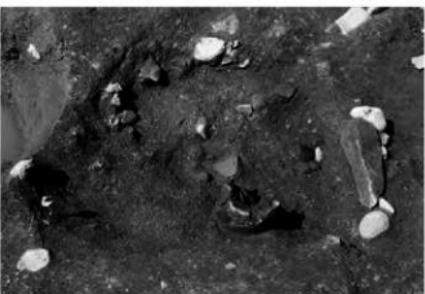
1 V区29号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区29号竪穴建物全景(東より)



3 V区29号竪穴建物断面セクション(南より)



4 V区29号竪穴建物全景(東より)



5 V区30号竪穴建物全景(東より)



1 V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区30号竪穴建物遺物出土状態(北より)



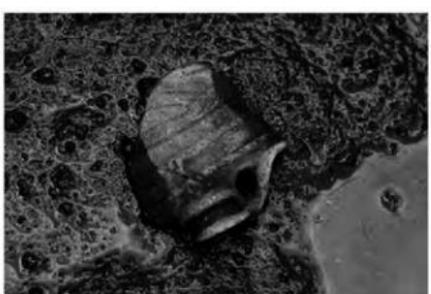
4 V区30号竪穴建物遺物炉全景(東より)



5 V区30号竪穴建物遺物出土状態(東より)



6 V区30号竪穴建物ピット11内遺物出土状態(東より)



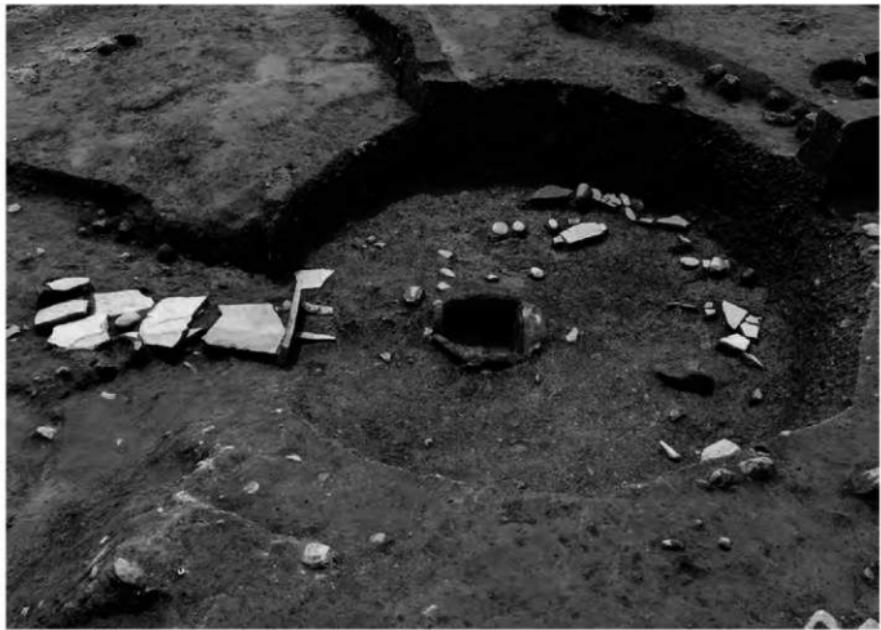
7 V区30号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



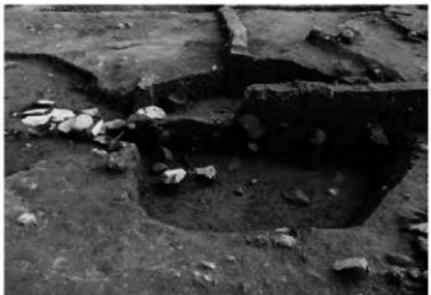
8 V区30号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区31号竪穴建物全景(東より)



2 V区31号竪穴建物全景(北東より)



1 VI区31号竪穴建物セクション(北東より)



2 VI区31号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 VI区31号竪穴建物張り出し部(東より)



4 VI区31号竪穴建物張り出し部(北西より)



5 VI区31号竪穴建物石囲い遺構セクション(東より)



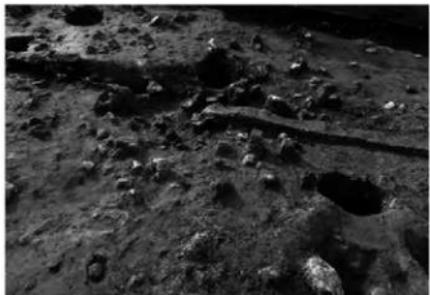
6 VI区31号竪穴建物がおよび石囲い遺構(南西より)



7 VI区31号竪穴建物炉セクション(北より)



8 VI区31号竪穴建物炉全景(東より)



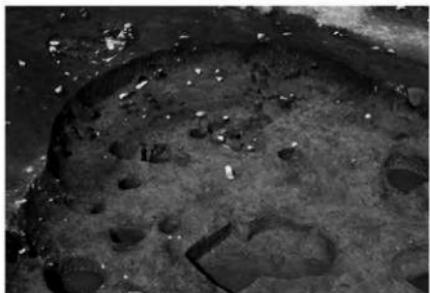
1 VI区32号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 VI区32号竪穴建物遺物全景(北東より)



3 VI区33号竪穴建物全景(南東より)



4 VI区33号竪穴建物掘方全景(南東より)



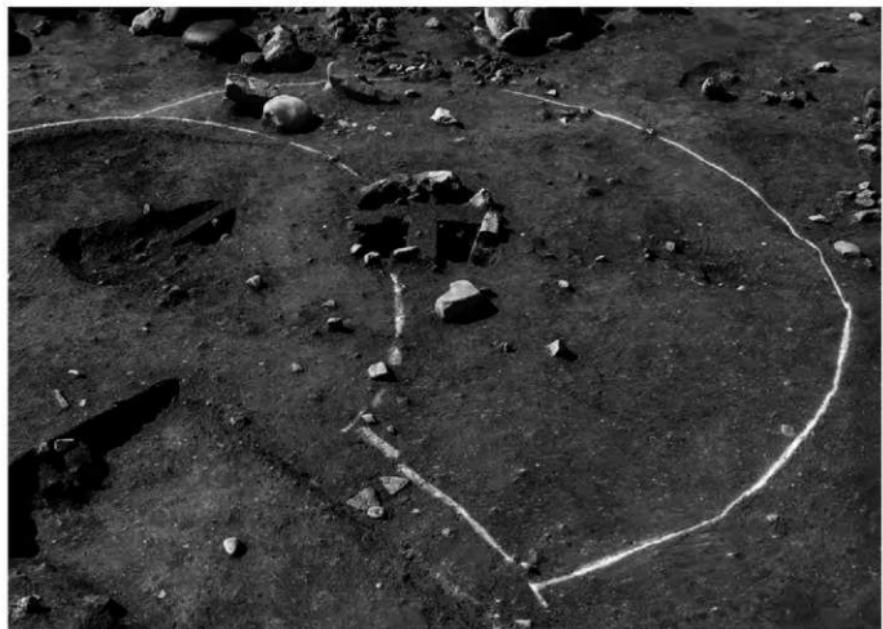
5 VI区33号竪穴建物遺物出土状態(東より)



1 VI区33号竪穴建物埋甕セクション(南東より)



2 VI区33号竪穴建物埋甕セクション(東より)



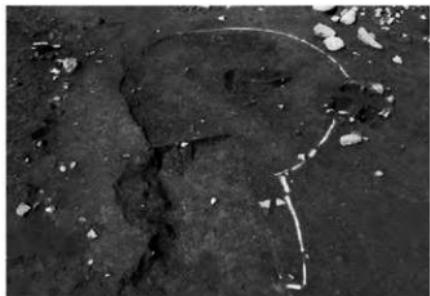
3 VI区34号竪穴建物全景(東より)



4 VI区34号竪穴建物炉セクション(南西より)



5 VI区34号竪穴建物炉全景(北より)



1 VI区35号竪穴建物全景(東より)



2 VI区35号竪穴建物遺物出土状態(東より)



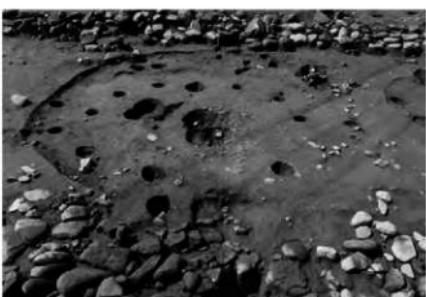
3 VI区35号竪穴建物が検出状況(東より)



4 VI区35号竪穴建物がセクション(北より)



5 VI区36号竪穴建物全景(東より)



6 VI区36号竪穴建物全景(東より)



7 VI区36号竪穴建物炉セクション(南より)



8 VI区36号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区37号竪穴建物全景(東より)



2 V区37号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区37号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区37号竪穴建物炉セクション(南より)



5 V区37号竪穴建物炉全景(北より)



1 V区38号竪穴建物全景(東より)



2 V区38号竪穴建物全景(東より)



3 V区38号竪穴建物埋甕炉全景(東より)



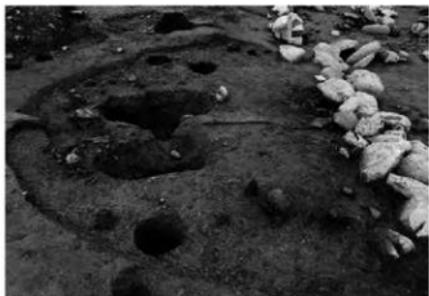
4 V区38号竪穴建物埋甕炉セクション(南より)



5 V区38号竪穴建物埋甕炉全景(東より)



1 V区39号竪穴建物全景(東より)



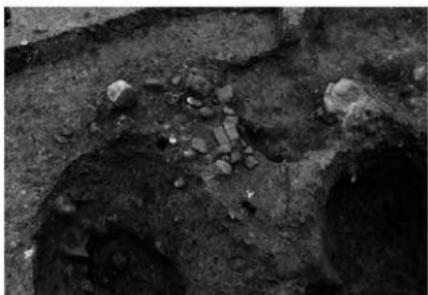
2 V区38号竪穴建物セクション(南より)



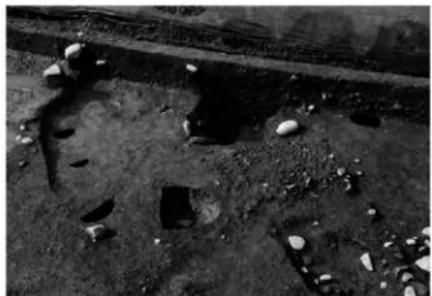
3 V区39号竪穴建物埋葬出土状態(東より)



4 V区39号竪穴建物埋葬セクション(東より)



5 V区39号竪穴建物遺物出土状態(東より)



1 V区40号竪穴建物全景(東より)



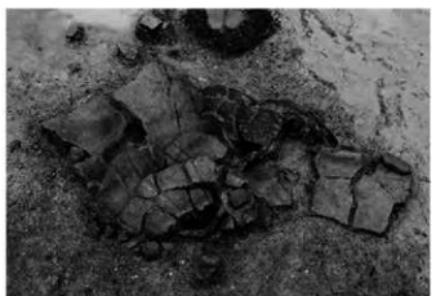
2 V区40号竪穴建物遺物出土状態(南より)



3 V区40号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区40号竪穴建物が全景(東より)



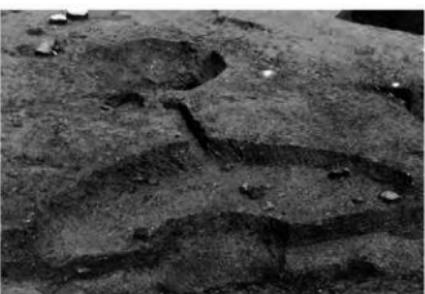
5 V区40号竪穴建物遺物出土状態(東より)



6 V区40号竪穴建物がセクション(北より)



7 V区40号竪穴建物埋め直セクション(南より)



8 V区40号竪穴建物全景北側(南より)



1 V区42号堅穴建物全景(東より)



2 V区42号堅穴建物全景(東より)



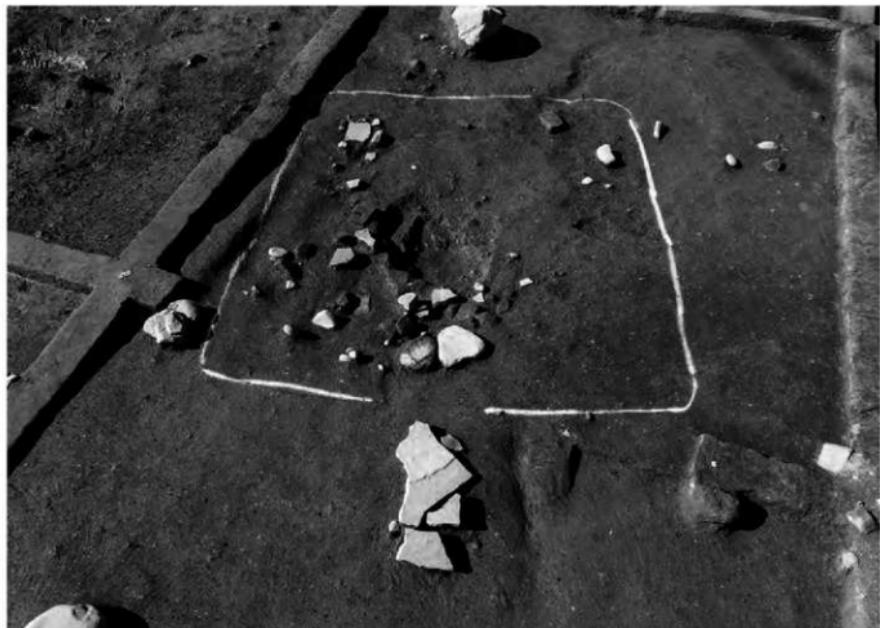
3 V区42号堅穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区42号堅穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区42号堅穴建物炉全景(東より)



1 V区44号堅穴建物全景(東より)



2 V区44号堅穴建物全景(東より)



3 V区44号堅穴建物セクション(南より)



4 V区44号堅穴建物遺物出土状態(東より)



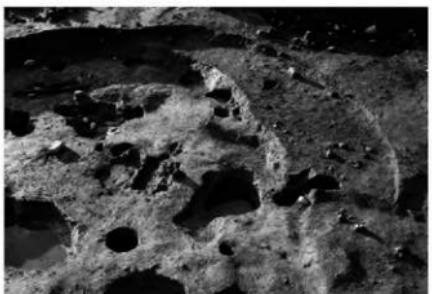
5 V区44号堅穴建物遺物出土状態(東より)



1 V区45号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区45号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区45号竪穴建物全景(東より)



4 V区45号竪穴建物遺物出土状態(西より)



5 V区46号竪穴建物全景(東より)



1 V区46号竪穴建物全景(東より)



2 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



6 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



7 V区46号竪穴建物遺物出土状態(東より)



8 V区46号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区47号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区47号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)



4 V区47号竪穴建物北側遺物出土状態(西より)



5 V区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)



6 V区47号竪穴建物北側遺物出土状態(南より)



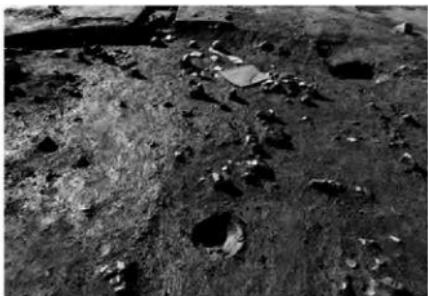
7 V区47号竪穴建物北側遺物出土状態(西より)



8 V区47号竪穴建物北側全景(北東より)



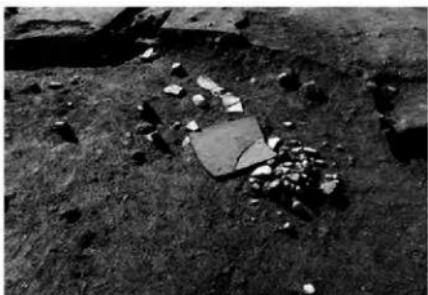
1 V区48号竪穴建物全景(東より)



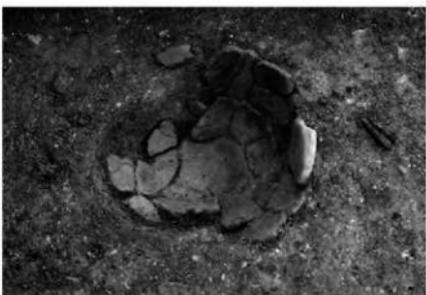
2 V区48号竪穴建物遺物出土状態(東より)



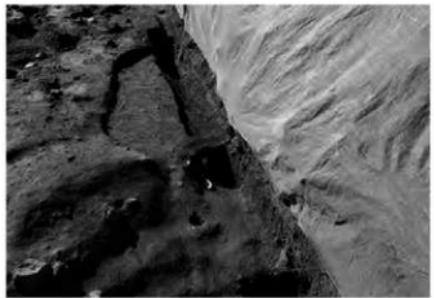
3 V区48号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区48号竪穴建物敷石検出状態(東より)



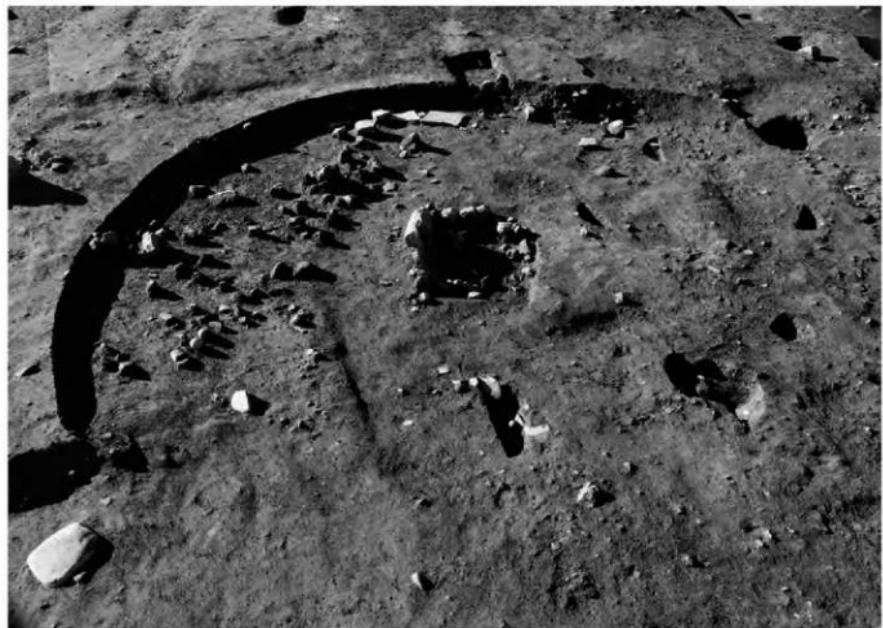
5 V区48号竪穴建物物理甕炉(東より)



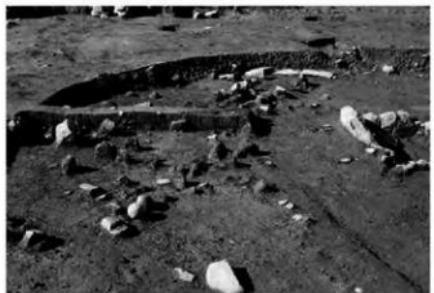
1 VI区49号竪穴建物全景(北東より)



2 VI区49号竪穴建物か(東より)



3 VI区50号竪穴建物全景(東より)



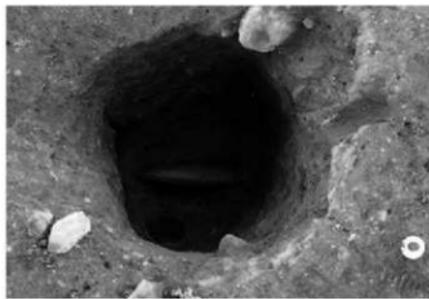
4 VI区50号竪穴建物セクション(東より)



5 VI区50号竪穴建物敷石検出状況(東より)



1 V区50号竪穴建物全景(東より)



2 V区50号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区50号竪穴建物セクション(東より)



4 V区50号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区50号竪穴建物炉概方(北より)



1 V区51号竪穴建物全景(東より)



2 V区51号竪穴建物セクション(南より)



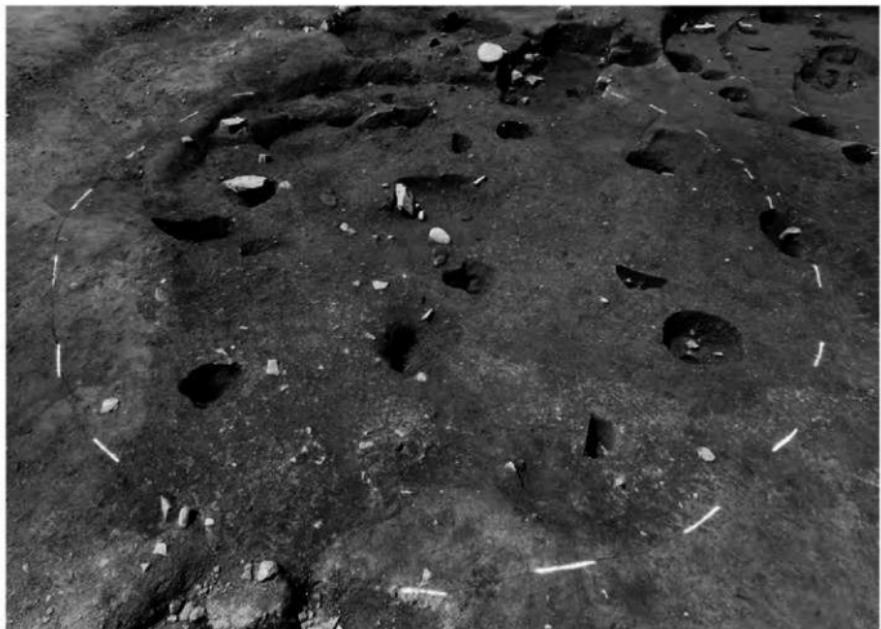
3 V区51号竪穴建物セクション(南より)



4 V区51号竪穴建物炉体土器セクション(南より)



5 V区51号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区52号竪穴建物全景(東より)



2 V区52号竪穴建物全景(東より)



3 V区52号竪穴建物遺物出土状態(東より)



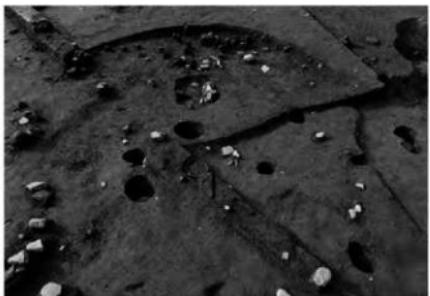
4 V区52号竪穴建物炉セクション(東より)



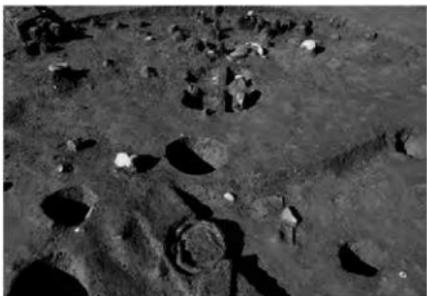
5 V区52号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区53号竪穴建物全景(東より)



2 V区53号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区53号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区53号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区53号竪穴建物理窯(東より)



1 V区54号竪穴建物全景(東より)



2 V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)



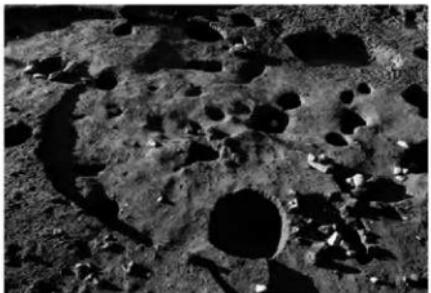
3 V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区54号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区54号竪穴建物炉セクション(南より)



1 V区55号竪穴建物全景(東より)



2 V区55号竪穴建物セクション(東より)



3 V区55号竪穴建物遺物出土状態(東より)



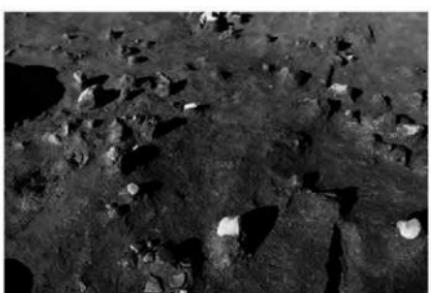
4 V区55号竪穴建物が全景(東より)



5 V区56号竪穴建物全景(東より)



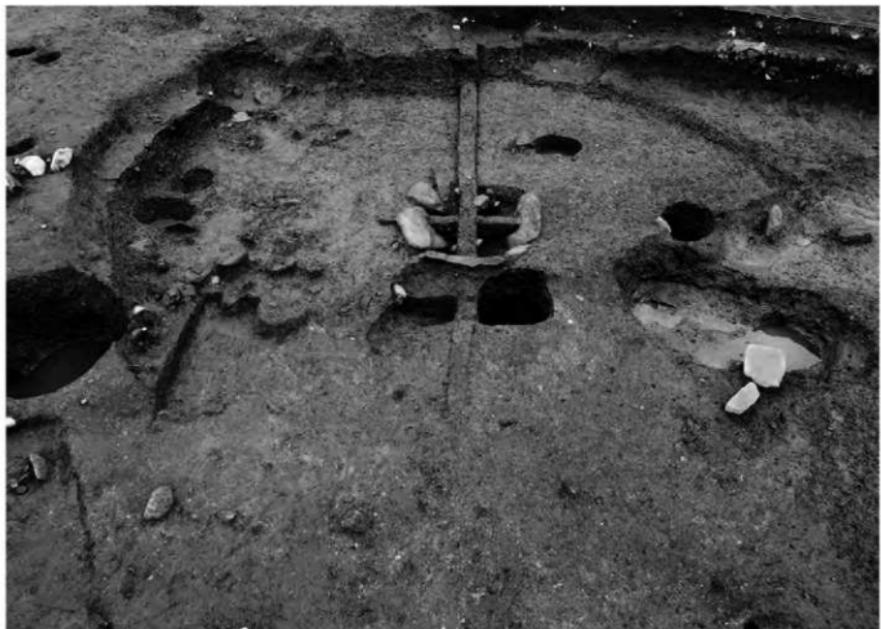
6 V区56号竪穴建物遺物出土状態(東より)



7 V区56号竪穴建物遺物出土状態(東より)



8 V区56号竪穴建物炉セクション(南より)



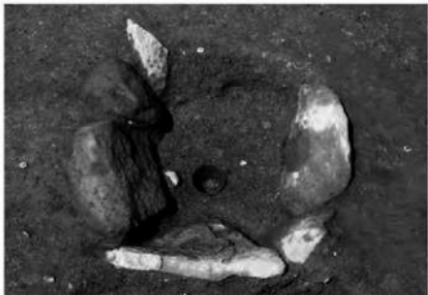
1 V区57号竪穴建物全景(東より)



2 V区57号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区57号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区57号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区57号竪穴建物炉体土器出土状態(北東より)



1 VI区58号竪穴建物全景(東より)



2 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



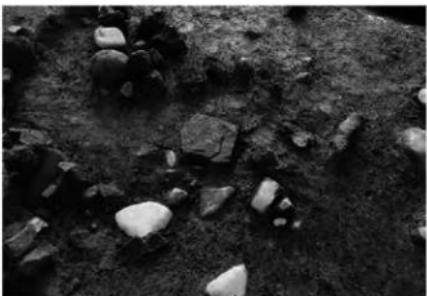
4 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



1 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 VI区58号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 VI区58号竪穴建物がセクション(東より)



5 VI区58号竪穴建物遺物全景(東より)



6 VI区58号竪穴建物埋甕検出状況(東より)



7 VI区58号竪穴建物埋甕検出状況(東より)



8 VI区58号竪穴建物埋甕セクション(南より)



1 V区59号竪穴建物全景(東より)



2 V区59号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区59号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



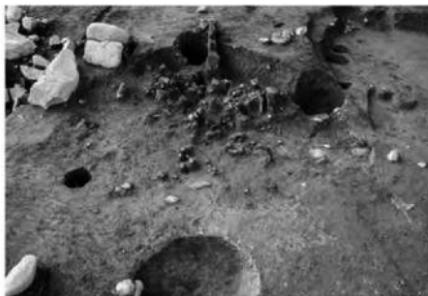
4 V区59号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



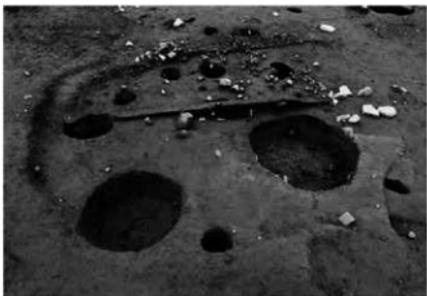
5 V区59号竪穴建物炉全景(南より)



1 V区60号竪穴建物全景(東より)



2 V区60号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区60号竪穴建物セクション(南より)



4 V区60号竪穴建物炉セクション(南より)



5 V区60号竪穴建物炉全景(南より)



1 V区61号壁穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区61号壁穴建物セクション(南より)



3 V区61号壁穴建物炉セクション(東より)



4 V区61号壁穴建物炉全景(西より)



5 V区61号壁穴建物炉掘方(西より)



1 V区62号竪穴建物全景(東より)



2 V区62号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区62号竪穴建物敷石(東より)



4 V区62号竪穴建物炉全景(東より)



5 V区62号竪穴建物炉体土器セクション(南東より)



1 V区63号竪穴建物全景(東より)



2 V区63号竪穴建物セクション(東より)



3 V区63号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区63号竪穴建物炉セクション(東より)



5 V区63号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区64号竪穴建物全景(東より)



2 V区64号竪穴建物6号全景(東より)



3 V区64号竪穴建物6号断面セクション(東より)



4 V区64号竪穴建物1号埋甕(東より)



5 V区64号竪穴建物2号埋甕(東より)



1 V区66号竪穴建物全景(東より)



2 V区66号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区66号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 V区66号竪穴建物炉セクション(南より)



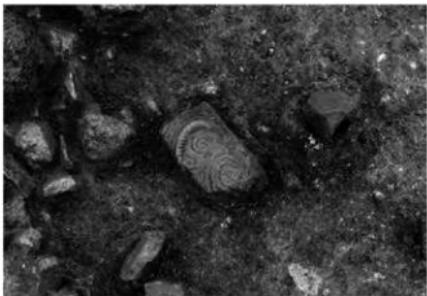
5 V区66号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区67号竪穴建物全景(東より)



2 V区67号竪穴建物遺物出土状態(東より)



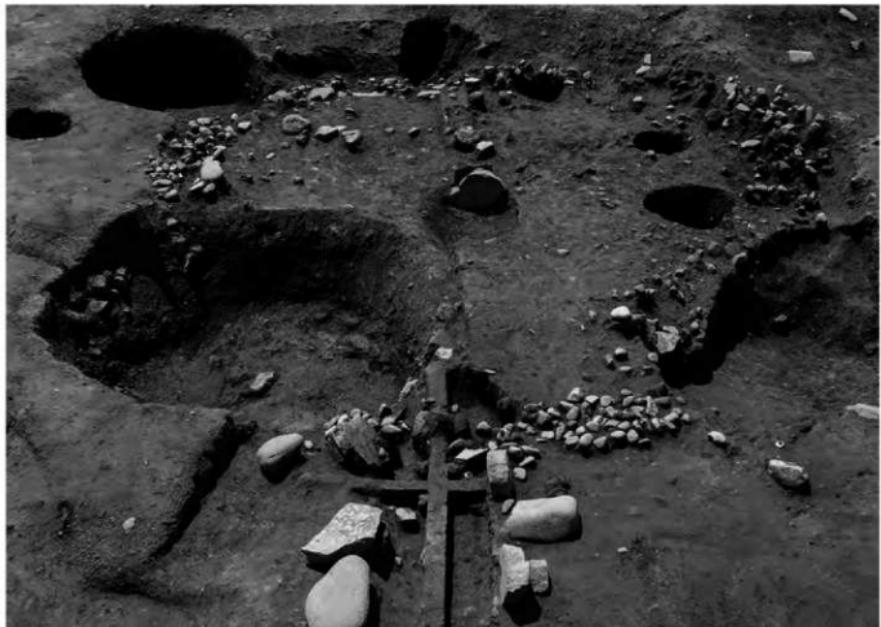
3 V区67号竪穴建物遺物出土状態(東より)



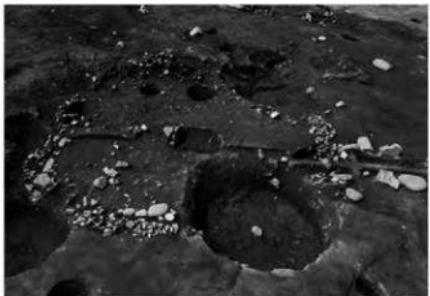
4 V区67号竪穴建物炉検出状況(東より)



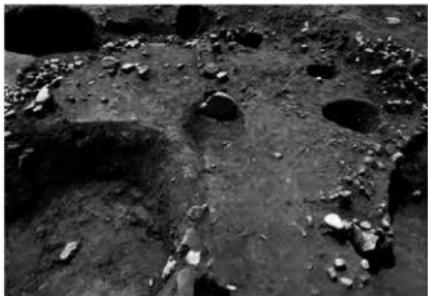
5 V区67号竪穴建物炉全景(東より)



1 V区68号竪穴建物全景(東より)



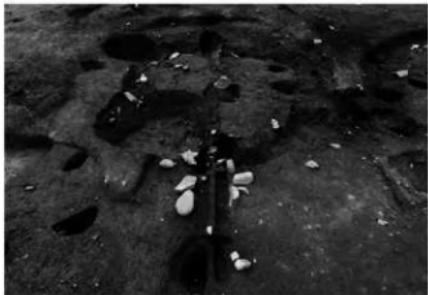
2 V区68号竪穴建物全景(南より)



3 V区68号竪穴建物主体部全景(東より)



4 V区68号竪穴建物接合部(東より)



5 V区68号竪穴建物掘方全景(東より)



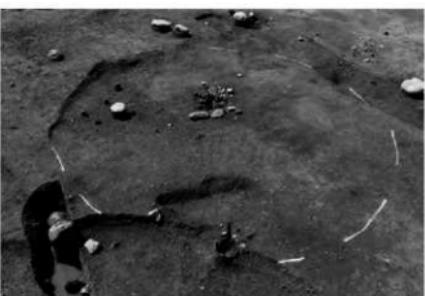
1 V区69号竪穴建物全景(東より)



2 V区69号竪穴建物炉全景(東より)



3 V区70号竪穴建物全景(東より)



4 V区70号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区70号竪穴建物全景(東より)



6 V区70号竪穴建物炉検出状況(東より)



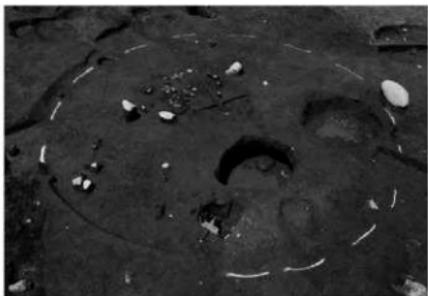
7 V区70号竪穴建物炉全景(東より)



8 V区70号竪穴建物理発全景(東より)



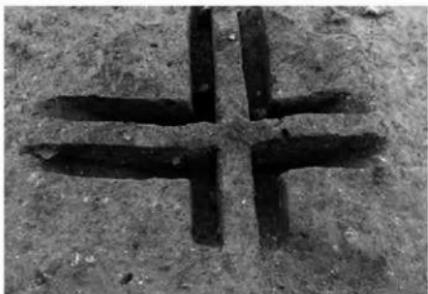
1 V区71号竪穴建物全景(東より)



2 V区71号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区71号竪穴建物炉全景(東より)



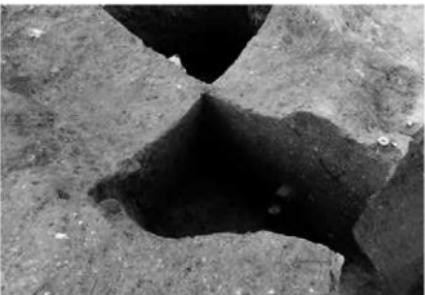
4 V区71号竪穴建物炉掘方セクション(東より)



5 V区71号竪穴建物炉掘方セクション(南より)



1 V区71号竪穴建物かづか方遺物出土状態(北より)



2 V区71号竪穴建物かづか方セクション(南より)



3 V区71号竪穴建物かづか方遺物出土状態(北より)



4 V区71号竪穴建物かづか方全景(北より)



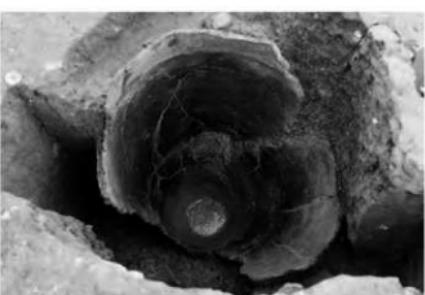
5 V区71号竪穴建物埋甕検出状況(東より)



6 V区71号竪穴建物埋甕セクション(東より)



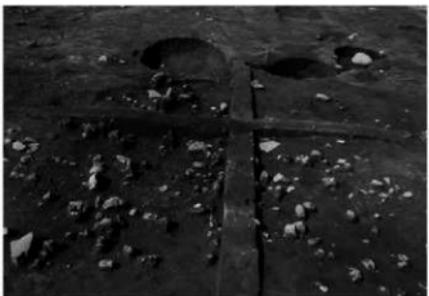
7 V区71号竪穴建物埋甕全景(東より)



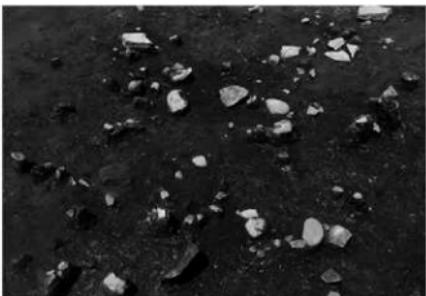
8 V区71号竪穴建物埋甕全景(東より)



1 V区73号竪穴建物全景(東より)



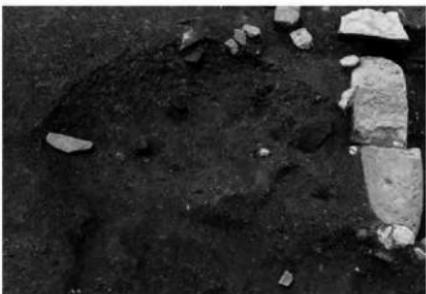
2 V区73号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区73号竪穴建物遺物出土状態(東より)



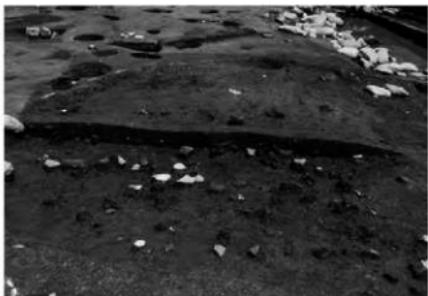
4 V区73号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



5 V区73号竪穴建物炉全景(東より)



1 VI区74号竖穴建物全景(東より)



2 VI区74号竖穴建物セクション(南より)



3 VI区74号竖穴建物遺物出土状態(南より)



4 VI区74号竖穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区74号竖穴建物遺物出土状態(東より)



1 V区75号竪穴建物全景(東より)



2 V区75号竪穴建物炉道物出土状態(東より)



3 V区75号竪穴建物炉全景(北より)



4 V区75号竪穴建物理痕セクション(東より)



5 V区75号竪穴建物理痕(東より)



1 V区76号竪穴建物全景(東より)



2 V区76号竪穴建物周溝セクション(南より)



3 V区76号竪穴建物セクション(西より)



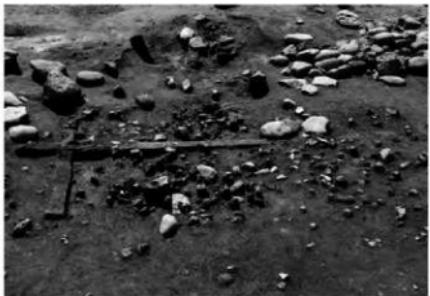
4 V区76号竪穴建物炉(東より)



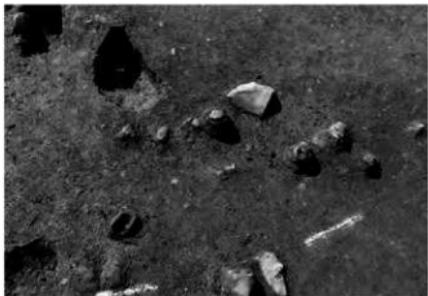
5 V区76号竪穴建物炉全景(東より)



1 VI区77号竪穴建物全景(東より)



2 VI区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 VI区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 VI区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 VI区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)



1 V区77号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区77号竪穴建物2号遺物出土状態(東より)



3 V区77号竪穴建物1号埋甕検出状況(東より)



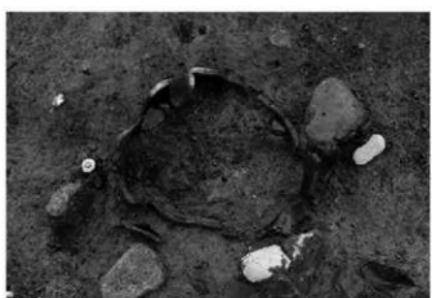
4 V区77号竪穴建物1・2号埋甕出土状況(北東より)



5 V区77号竪穴建物1号埋甕セクション(北より)



6 V区77号竪穴建物1号埋甕出土状態(東より)



7 V区77号竪穴建物2号埋甕検出状況(東より)



8 V区77号竪穴建物2号埋甕セクション(北東より)



1 VI区78号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 VI区78号竪穴建物遺物全景(東より)



3 VI区78号竪穴建物遺物出土状態(東より)



4 VI区78号竪穴建物遺物全景(東より)



5 VI区79号竪穴建物全景(東より)



1 V区79号竪穴建物全景(北西より)



2 V区79号竪穴建物掘方全景(東より)



3 V区79号竪穴建物セクション(北東より)



4 V区79号竪穴建物炉セクション(北東より)



5 V区79号竪穴建物炉全景(東より)



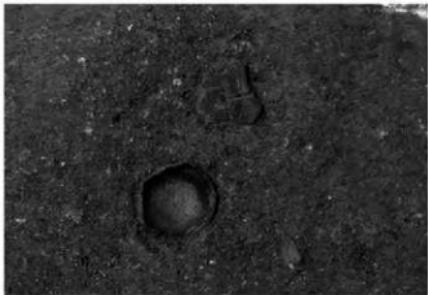
1 V区80号竪穴建物全景(東より)



2 V区80号竪穴建物全景(東より)



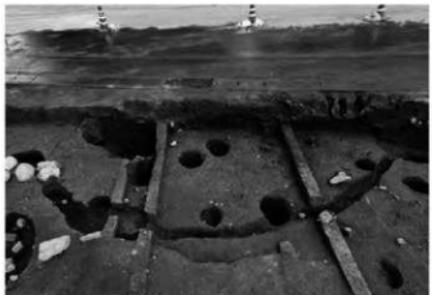
3 V区80号竪穴建物全景(東より)



4 V区80号竪穴建物遺物出土状態(東より)



5 V区80号竪穴建物炉遺物出土状態(東より)



1 VI区81号竪穴建物全景(北東より)



2 VI区81号竪穴建物全景(南東より)



3 VI区82号竪穴建物全景(北西より)



4 VI区82号竪穴建物全景(北東より)



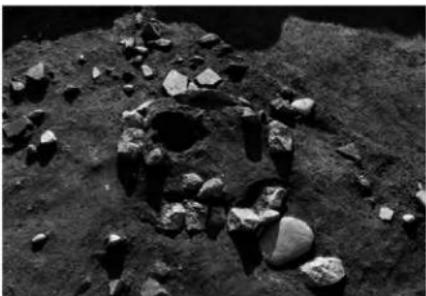
5 VI区82号竪穴建物全景(南東より)



1 V区82号竪穴建物全景(東より)



2 V区82号竪穴建物主体部全景(東より)



3 V区82号竪穴建物石囲い遺構検出状況(東より)



4 V区82号竪穴建物石囲い遺構検出状況(南より)



5 V区82号竪穴建物炉全景(南西より)



1 V区83号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区83号竪穴建物全景(東より)



1 V区83号竪穴建物遺物出土状態(東より)



2 V区83号竪穴建物全景(東より)



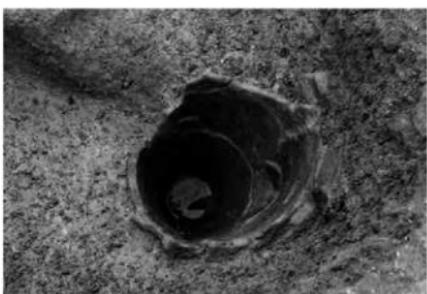
3 V区83号竪穴建物張り出し部(東より)



4 V区83号竪穴建物張り出し部敷石検出状況(東より)



5 V区83号竪穴建物張り出し部埋甕検出状況(東より)



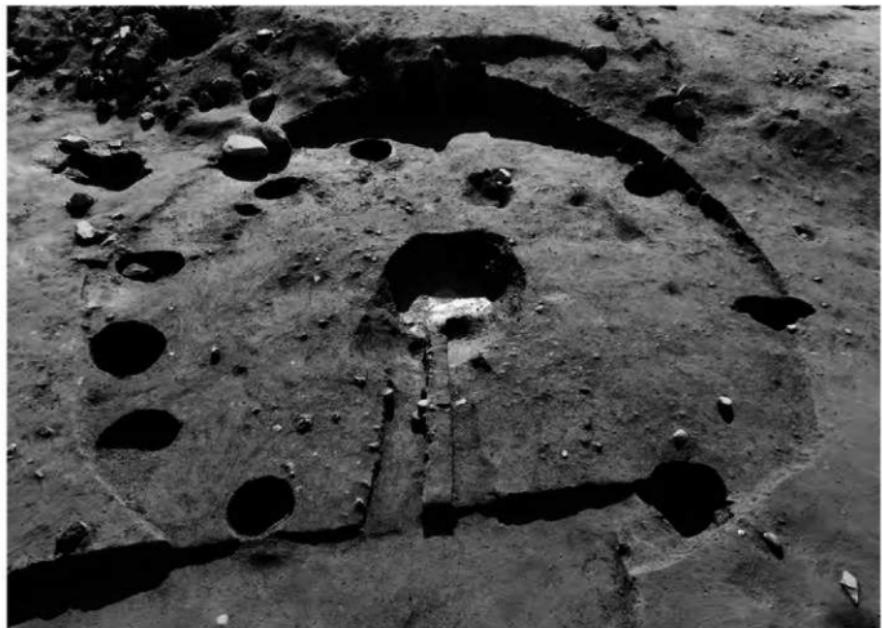
6 V区83号竪穴建物張り出し部埋甕出土状態(東より)



7 V区83号竪穴建物張り出し部埋甕セクション(東より)



8 V区83号竪穴建物掘方全景(東より)



1 V区84号竖穴建物全景(東より)



2 V区84号竖穴建物セクション(北より)



3 V区84号竖穴建物セクション(北より)



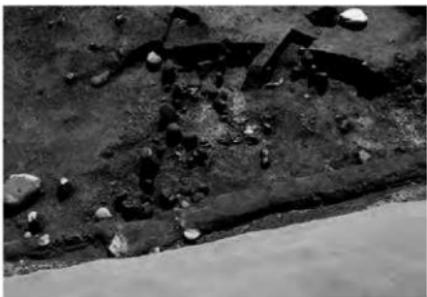
4 V区84号竖穴建物炉全景(東より)



5 V区84号竖穴建物掘方全景(東より)



1 V区85号竪穴建物全景(南東より)



2 V区85号竪穴建物遺物出土状態(東より)



3 V区85号竪穴建物遺物出土状態(北東より)



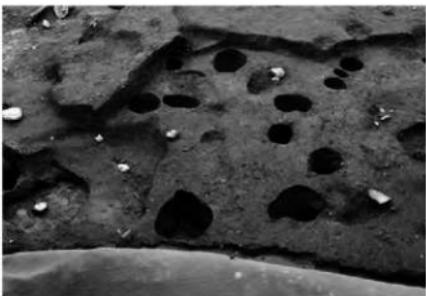
4 V区85号竪穴建物黒曜石片出土状況(東より)



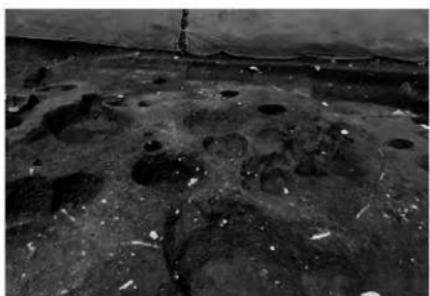
5 V区85号竪穴建物遺物出土状態(北より)



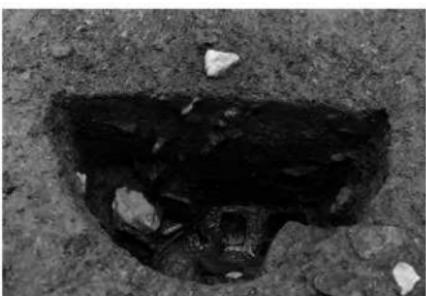
1 V区86号竪穴建物全景(南東より)



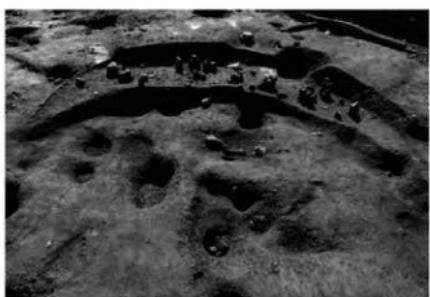
2 V区86号竪穴建物全景(北東より)



3 V区87号竪穴建物全景(東より)



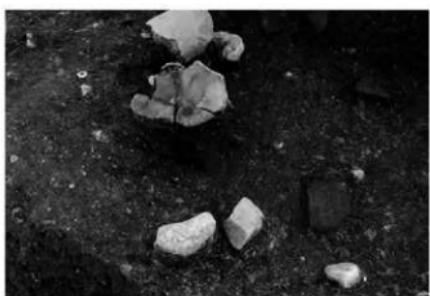
4 V区87号竪穴建物ピット内遺物出土状態(東より)



5 V区88号竪穴建物遺物出土状態(東より)



6 V区88号竪穴建物全景(東より)



7 V区88号竪穴建物遺物出土状態(東より)



8 V区88号竪穴建物炉セクション(東より)



1 V区89号竖穴建物全景(南東より)



2 V区89号竖穴建物東全景(東より)



3 V区89号竖穴建物全景(南より)



4 V区89号竖穴建物埋理発出状況(南東より)



5 V区89号竖穴建物埋理発出状況(東より)



1 V区90号墳穴建物全景(東より)



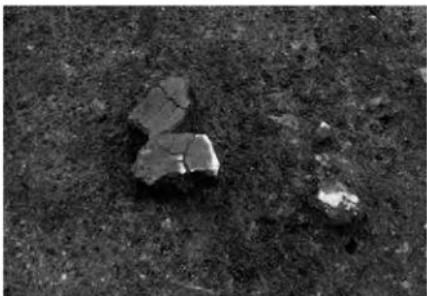
2 V区91号墳穴建物全景(東より)



1 VI区92号竪穴建物全景(南東より)



2 VI区92号竪穴建物遺物出土状態(南より)



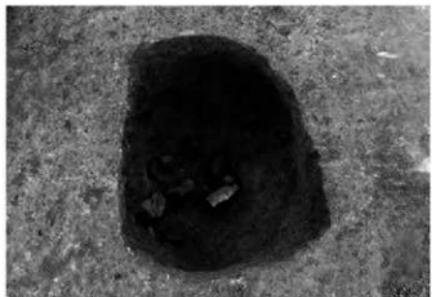
3 VI区92号竪穴建物遺物出土状態(東より)



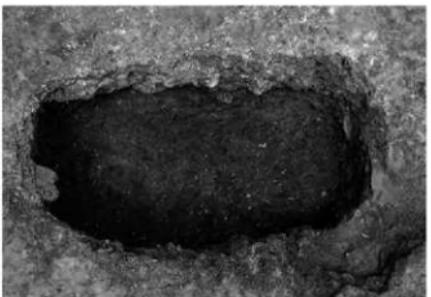
4 VI区92号竪穴建物遺物出土状態(西より)



5 VI区92号竪穴建物遺物出土状態(南より)



1 90号土坑全景(東より)



2 92号土坑全景(東より)



3 94号土坑全景(東より)



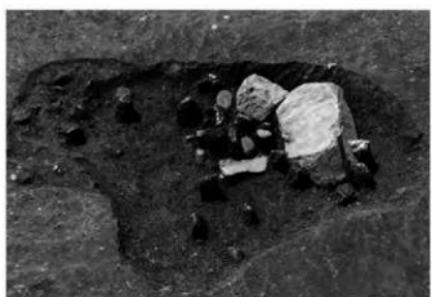
4 121号土坑全景(東より)



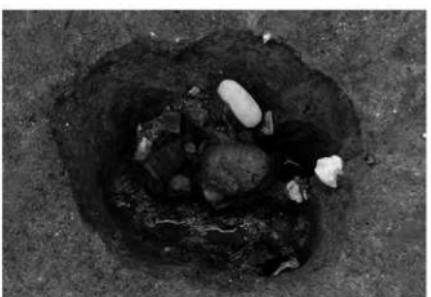
5 126号土坑遺物出土状態(南より)



6 128号土坑全景(南より)



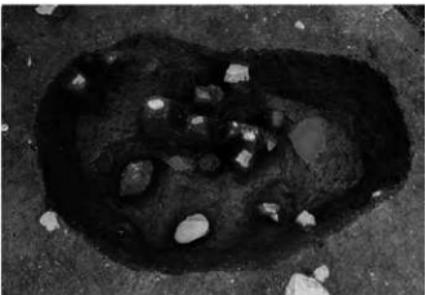
7 131号土坑遺物出土状態(東より)



8 132号土坑遺物出土状態(東より)



1 132号土坑全景(東より)



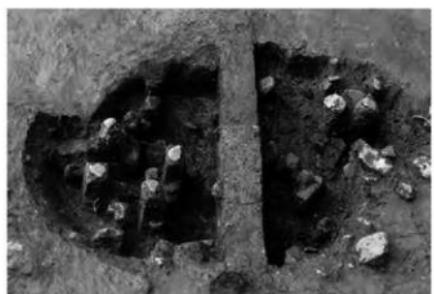
2 133号土坑遺物出土状態(東より)



3 134号土坑セクション(東より)



4 134号土坑セクション(東より)



5 135号土坑遺物出土状態(東より)



6 135号土坑全景(東より)



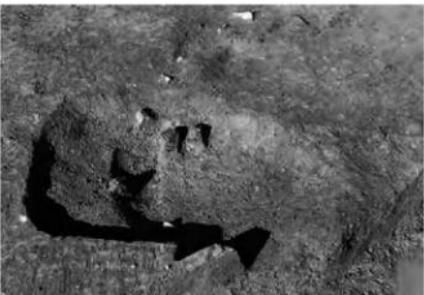
7 136号土坑セクション(東より)



8 137号土坑セクション(南より)



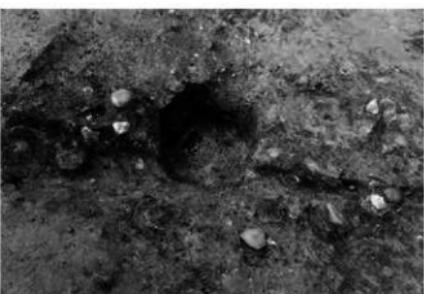
1 138号土坑遺物出土状態(東より)



2 139号土坑全景(西より)



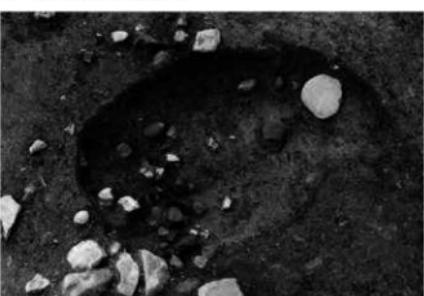
3 140号土坑遺物出土状態(東より)



4 141号土坑全景(南より)



5 141号土坑遺物出土状態(南より)



6 142号土坑全景(北より)



7 142号土坑遺物出土状態(北より)



8 143号土坑遺物出土状態(東より)



1 143号土坑遺物出土状態(東より)



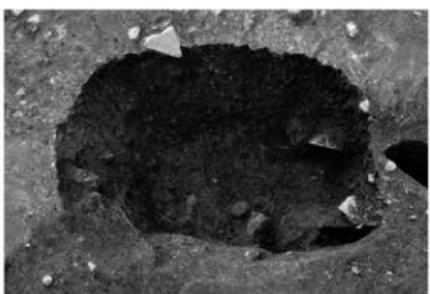
2 143号土坑全景(南より)



3 144号土坑遺物出土状態(南より)



4 144号土坑全景(東より)



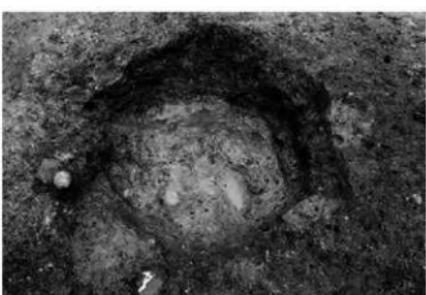
5 145号土坑全景(東より)



6 146号土坑遺物出土状態(南より)



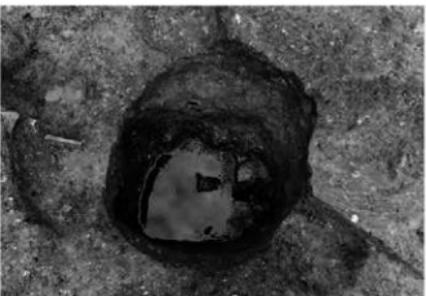
7 146号土坑遺物出土状態(南より)



8 146号土坑全景(南より)



1 147号土坑全景(東より)



2 148号土坑全景(東より)



3 149号土坑遺物出土状態(東より)



4 150号土坑全景(南より)



5 151号土坑全景(東より)



6 151号土坑遺物出土状態(東より)



7 151号土坑遺物出土状態(東より)



8 151号土坑遺物出土状態(東より)



1 152号土坑セクション(南より)



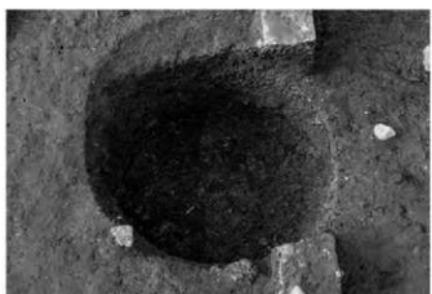
2 153号土坑全景(東より)



3 154号土坑遺物出土状態(南より)



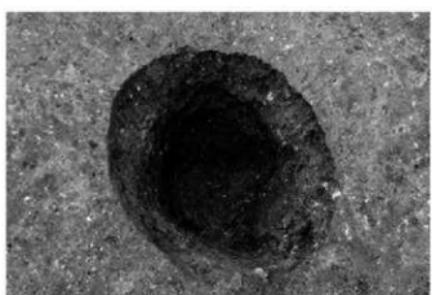
4 155号土坑全景(南より)



5 156号土坑全景(東より)



6 157号土坑全景(東より)



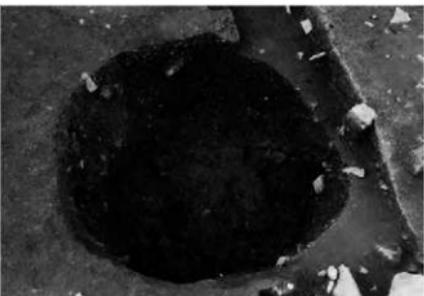
7 158号土坑全景(東より)



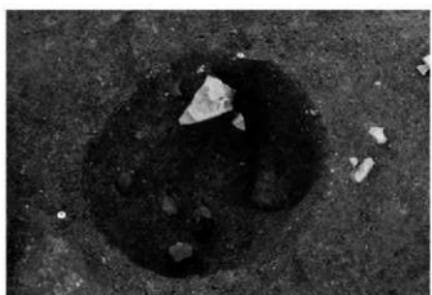
8 159号土坑全景(東より)



1 160号土坑セクション(東より)



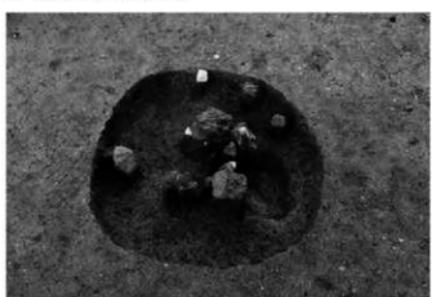
2 160号土坑全景(東より)



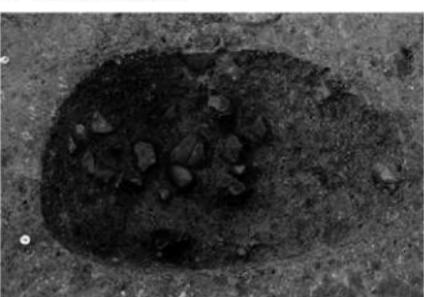
3 161号土坑全景(東より)



4 162号土坑全景(東より)



5 163号土坑遺物出土状態(東より)



6 164号土坑遺物出土状態(東より)



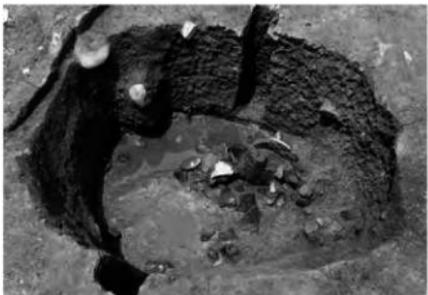
7 165号土坑セクション(東より)



8 165号土坑遺物出土状態(東より)



1 166号土坑セクション(南より)



2 166号土坑全景(西より)



3 167号土坑遺物出土状態(南より)



4 167号土坑遺物出土状態(南より)



5 168号土坑全景(東より)



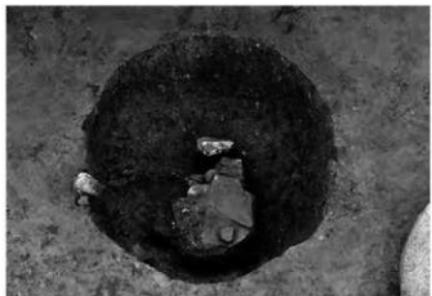
6 169号土坑遺物出土状態(北より)



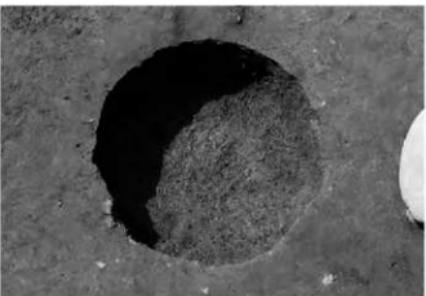
7 169号土坑遺物出土状態(南より)



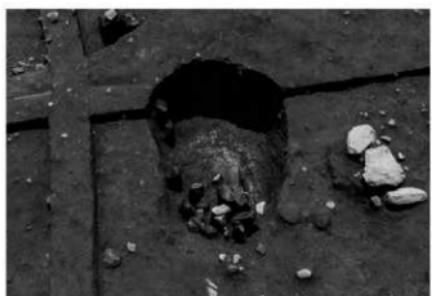
8 169号土坑全景(南より)



1 170号土坑遺物出土状態(東より)



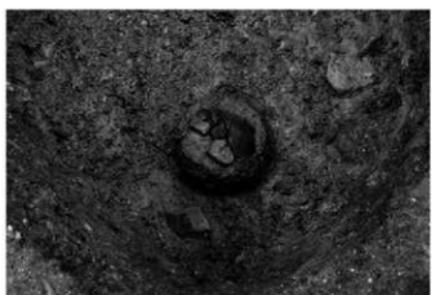
2 170号土坑全景(東より)



3 171号土坑遺物出土状態(北より)



4 171号土坑全景(北より)



5 171号土坑遺物出土状態(北より)



6 171号土坑全景(北より)



7 172号土坑セクション(南より)



8 172号土坑遺物出土状態(東より)



1 173号土坑遺物出土状態(南東より)



2 173号土坑遺物出土状態(南より)



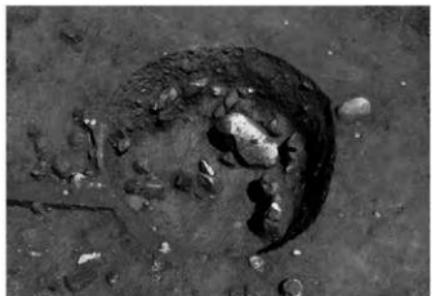
3 173号土坑遺物出土状態(南東より)



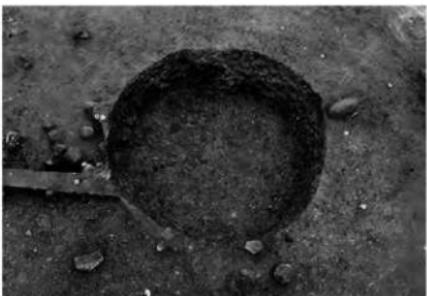
4 173号土坑遺物出土状態(南東より)



5 173号土坑遺物出土状態(南東より)



1 173号土坑遺物出土状態(南西より)



2 173号土坑全景(南西より)



3 174号土坑全景(南西より)



4 175号土坑遺物出土状態(西より)



5 176号土坑遺物出土状態(北より)



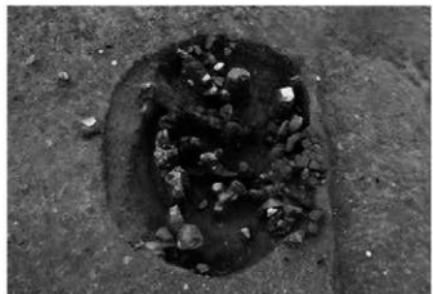
6 176号土坑全景(北より)



7 177号土坑遺物出土状態(東より)



8 177号土坑遺物出土状態(東より)



1 178号土坑遺物出土状態(東より)



2 179号土坑遺物出土状態(南より)



3 180号土坑遺物出土状態(北より)



4 180号土坑全景(東より)



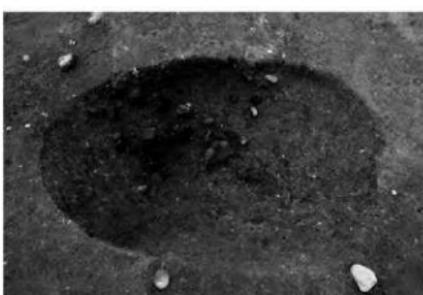
5 181号土坑遺物出土状態(東より)



6 182号土坑遺物出土状態(東より)



7 183号土坑遺物出土状態(東より)



8 184号土坑全景(東より)



1 185号土坑セクション(南より)



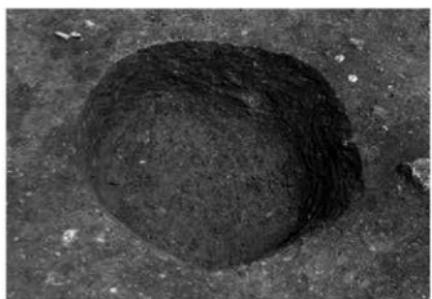
2 186号土坑遺物出土状態(南東より)



3 186号土坑全景(東より)



4 187号土坑遺物出土状態(東より)



5 187号土坑全景(南より)



6 188号土坑セクション(南より)



7 188号土坑遺物出土状態(南より)



8 189号土坑遺物出土状態(東より)



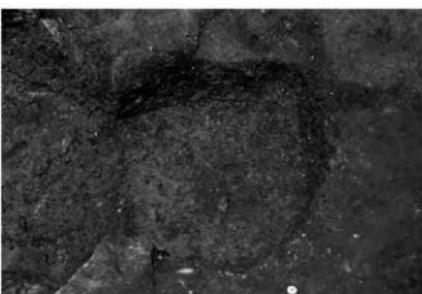
1 190号土坑全景(東より)



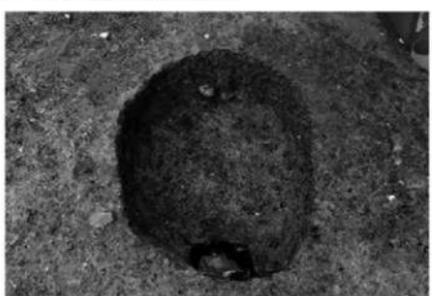
2 191号土坑遺物出土状態(東より)



3 192号土坑遺物出土状態(東より)



4 193号土坑全景(東より)



5 194号土坑全景(東より)



6 195号土坑遺物出土状態(東より)



7 196号土坑セクション(西より)



8 197号土坑遺物出土状態(東より)



1 198号土坑遺物出土状態(東より)



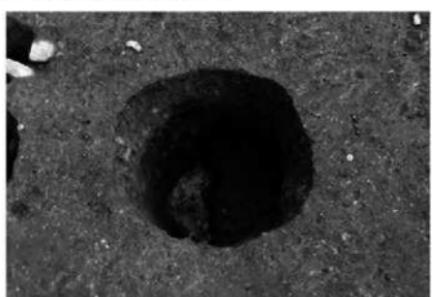
2 199号土坑遺物出土状態(東より)



3 200号土坑セクション(西より)



4 201号土坑セクション(北より)



5 201号土坑全景(東より)



6 202号土坑全景(西より)



7 202号土坑遺物出土状態(西より)



8 203号土坑全景(北東より)



1 204号土坑全景(東より)



2 205号土坑全景(東より)



3 206号土坑遺物出土状態(南より)



4 207号土坑遺物出土状態(南より)



5 208号土坑全景(北より)



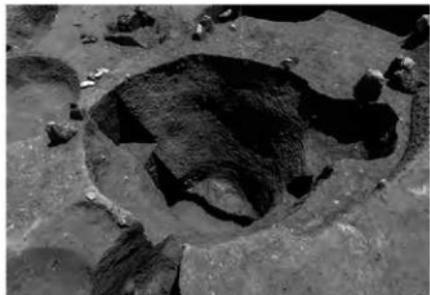
6 209号土坑全景(南より)



7 209号土坑遺物出土状態(南より)



8 209号土坑遺物出土状態(南より)



1 210号土坑全景(西より)



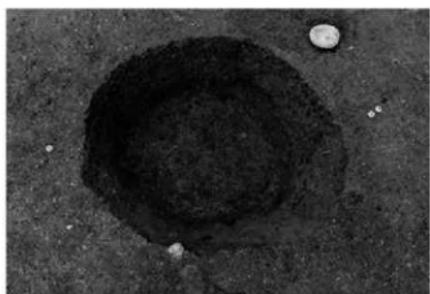
2 210号土坑セクション(北西より)



3 210号土坑遺物出土状態(北東より)



4 211号土坑全景(南より)



5 212号土坑全景(南より)



6 213号土坑セクション(東より)



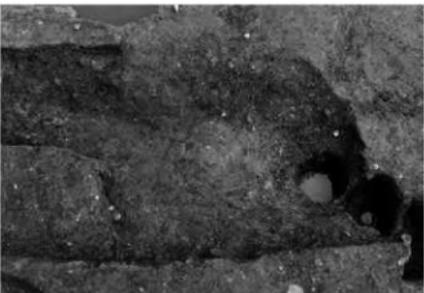
7 214号土坑全景(南より)



8 215号土坑遺物出土状態(南より)



1 216号土坑全景(南より)



2 217号土坑全景(西より)



3 218号土坑全景(東より)



4 219号土坑セクション(西より)



5 220号土坑遺物出土状態(東より)



6 220号土坑全景(東より)



7 221号土坑セクション(東より)



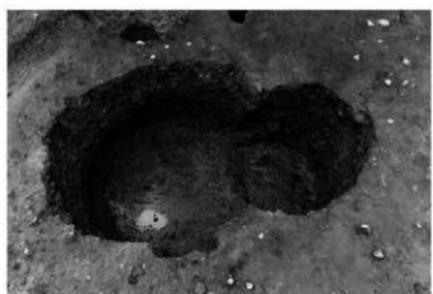
8 222号土坑遺物出土状態(南より)



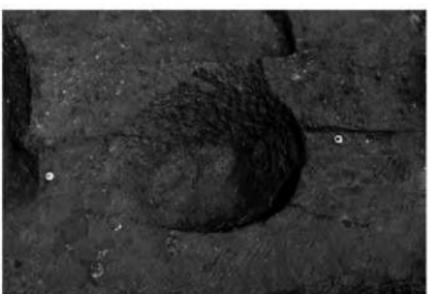
1 223号土坑遺物出土状態(南より)



2 223号土坑全景(南より)



3 224号土坑全景(東より)



4 225号土坑全景(南より)



5 227号土坑遺物出土状態(西より)



6 228号土坑セクション(南西より)



7 228号土坑遺物出土状態(南西より)



8 228号土坑全景(南西より)



1 229号土坑セクション(南より)



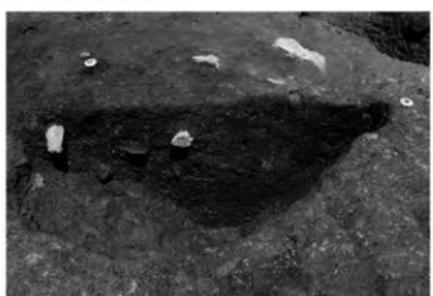
2 230号土坑全景(西より)



3 231号土坑全景(東より)



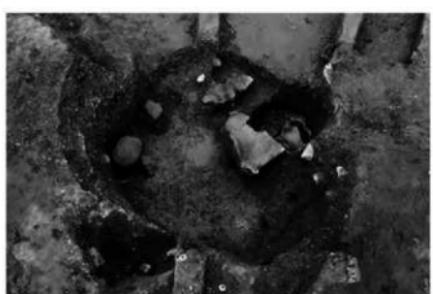
4 232号土坑セクション(西より)



5 233号土坑セクション(南より)



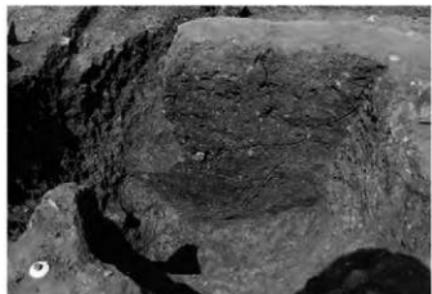
6 234号土坑セクション(南より)



7 234号土坑遺物出土状態(西より)



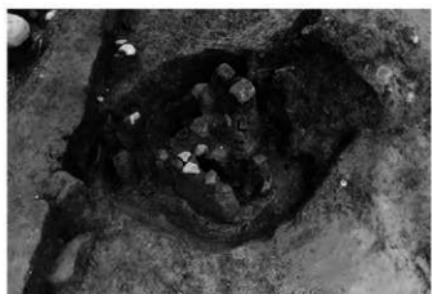
8 234号土坑遺物出土状態(南より)



1 235号土坑セクション(東より)



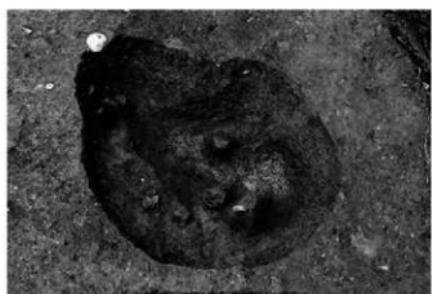
2 235号土坑全景(東より)



3 236号土坑遺物出土状態(北より)



4 237号土坑全景(南より)



5 238号土坑全景(南より)



6 239号土坑全景(北より)



7 240号土坑セクション(東より)



8 240号土坑遺物出土状態(東より)



1 241号土坑全景(東より)



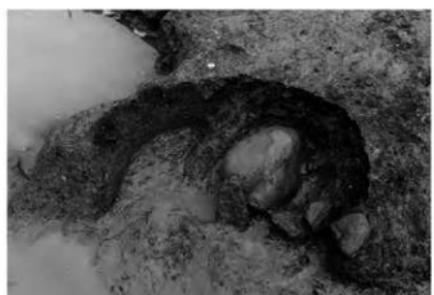
2 242号土坑セクション(南より)



3 242号土坑全景(東より)



4 243号土坑全景(北より)



5 244号土坑遺物出土状態(西より)



6 244号土坑全景(西より)



7 245号土坑セクション(東より)



8 245号土坑遺物出土状態(東より)



1 245号土坑遺物出土状態(南より)



2 245号土坑遺物出土状態(南より)



3 245号土坑遺物出土状態(西より)



4 245号土坑遺物出土状態(南より)



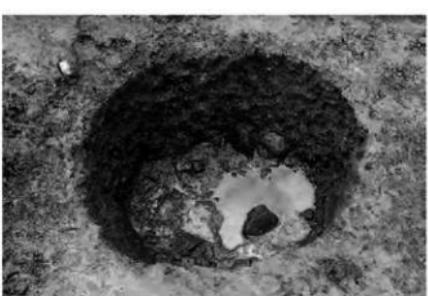
5 245号土坑全景(南より)



6 246号土坑遺物出土状態(東より)



7 247号土坑セクション(南より)



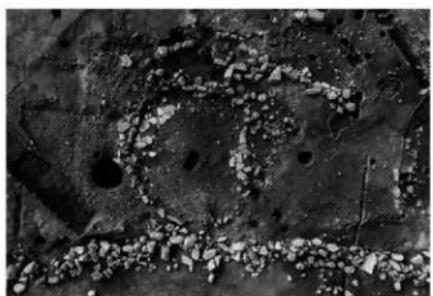
8 247号土坑全景(南より)



1 1号列石(東より)



2 1号列石(東より)



3 2・3号列石、3・V区11号竪穴建物全景(上空より)



4 2号列石全景(東より)



5 3号列石全景(上空より)



1 3号列石全景(上空より)



2 3号列石全景(東より)



1 3号列石、5号列石(北より)



2 3号列石(南より)



1 3号列石、4号列石全景(東より)



2 3号列石全景(北より)



3 3号列石、配石(東より)



4 3号列石基礎石状態(東より)



5 3号列石基礎石状態(東より)



6 3号列石基礎石状態(東より)



7 3号列石基礎石状態(東より)



8 3号列石基礎石状態(東より)



1 3号・4号列石、配石状況(東より)



2 4号列石全景(東より)



3 5号列石全景(南より)



4 5号列石セクション(南東より)



5 5号列石張り出し部(上空より)



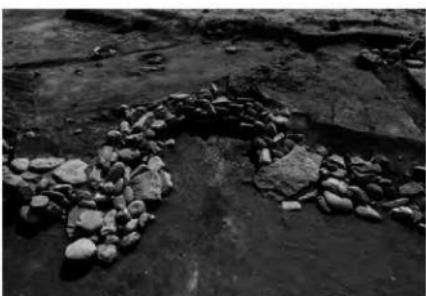
1 5号列石部分(南東より)



2 5号列石部分(東より)



3 5号列石張り出し部セクション(南より)



4 5号列石張り出し部(東より)



5 5号列石南端部(南より)



6 5号列石張り出し部大石状況(南東より)



7 5号列石張り出し部大石下集石出土状態(東より)



8 5号列石掘方面、大型礫配置状況(南東より)



1 6号列石(手前)全景(東より)



2 6号列石全景(北より)



3 6号列石、29号配石全景(東より)



4 8号列石全景(東より)



5 8号列石全景(南より)



1 3号列石と配石(東より)



2 1号配石、3号列石(東より)



3 1号配石全景(東より)



4 2号配石全景(東より)



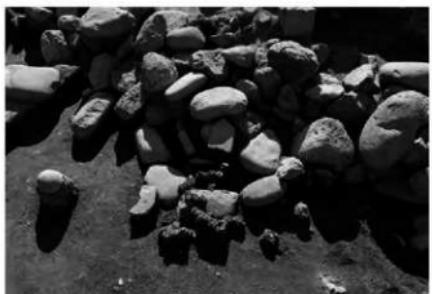
5 2号配石全景(東より)



1 3号配石全景(東より)



2 3号配石全景(東より)



3 4号配石全景(東より)



4 4号配石全景(東より)



5 5号配石全景(東より)



6 5号配石全景(東より)



7 6号配石全景(東より)



8 6号配石全景(東より)



1 7号配石全景(東より)



2 7号配石全景(東より)



3 7号配石全景(東より)



4 7号配石セクション(南より)



5 8号配石全景(東より)



6 8号配石セクション(東より)



7 9号配石全景(南より)



8 9号配石セクション(南より)



1 10号配石全景(南より)



2 9・10号配石全景(南より)



3 11号配石全景(南東より)



4 11号配石掘方セクション(南東より)



5 11号配石全景(南より)



6 11号配石掘方(南より)



7 13号配石全景(南東より)



8 13号配石全景(東より)



1 14号配石全景(東より)



2 14号配石全景(東より)



3 14号配石全景(東より)



4 14号配石全景(東より)



5 15号配石全景(東より)



6 15号配石全景(東より)



7 16号配石全景(東より)



8 16号配石全景(東より)



1 17号配石全景(東より)



2 17号配石全景(南より)



3 18号配石セクション(東より)



4 18号配石セクション(南より)



5 19号配石全景(東より)



6 19号配石部分(東より)



7 20号配石全景(東より)



8 20号配石全景(東より)



1 21号配石全景(東より)



2 21号配石セクション(南より)



3 22号配石全景(南東より)



4 23号配石全景(東より)



5 24号配石全景(東より)



6 24号配石下埋甃検出状況(東より)



7 24号配石下埋甃検出状況(東より)



8 24号配石下埋甃セクション(東より)



1 25号配石全景(東より)



2 25号配石セクション(東より)



3 26号配石全景(南東より)



4 26号配石全景(南より)



5 26号配石全景(南東より)



1 26号配石セクション(南東より)



2 26号配石全景(東より)



3 26号配石部分(東より)



4 26号配石立石1セクション(東より)



5 26号配石立石2セクション(東より)



6 26号配石埋甕検出状況(東より)



7 26号配石埋甕セクション(東より)



8 26号配石埋甕出土状態(東より)



1 27号配石全景(東より)



2 27号配石セクション(東より)



3 27号配石全景(東より)



4 28号配石セクション(東より)



5 28号配石全景(東より)



1 29号配石全景(東より)



2 29号配石全景(南東より)



3 29号配石セクション(南より)



4 29号配石、V区80号堅穴建物張り出し部(南東より)



5 31号配石全景(南東より)



1 1号配石土坑全景(南東より)



3 1号配石土坑全景(南東より)



2 1号配石土坑全景(南東より)



4 1号配石土坑全景(南西より)



1 2号配石土坑遺物出土状態(東より)



2 2号配石土坑全景(東より)



3 1号埋甕検出状況(東より)



4 1号埋甕セクション(東より)



5 15号焼土セクション(東より)



6 16号焼土全景(南より)



7 17号焼土全景(南より)



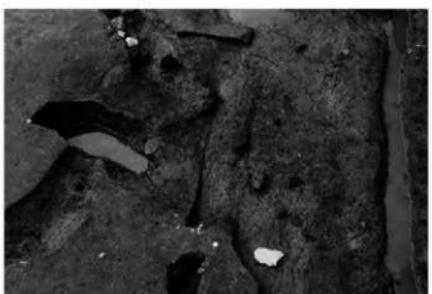
8 18号焼土セクション(南より)



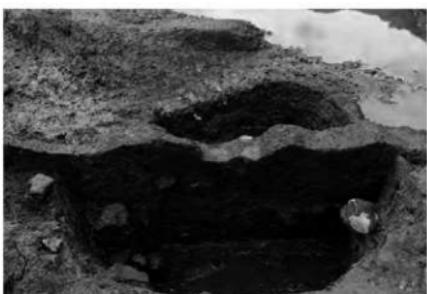
1 18号焼土全景(南西より)



2 19号焼土遺物出土状態(東より)



3 20号焼土遺物出土状態(東より)



4 20号焼土セクション(東より)



5 道構外遺物出土状態(北より)



6 道構外遺物出土状態(北より)



7 VI区トレンチ(西より)



8 VI区トレンチ礫出土状態(北西より)



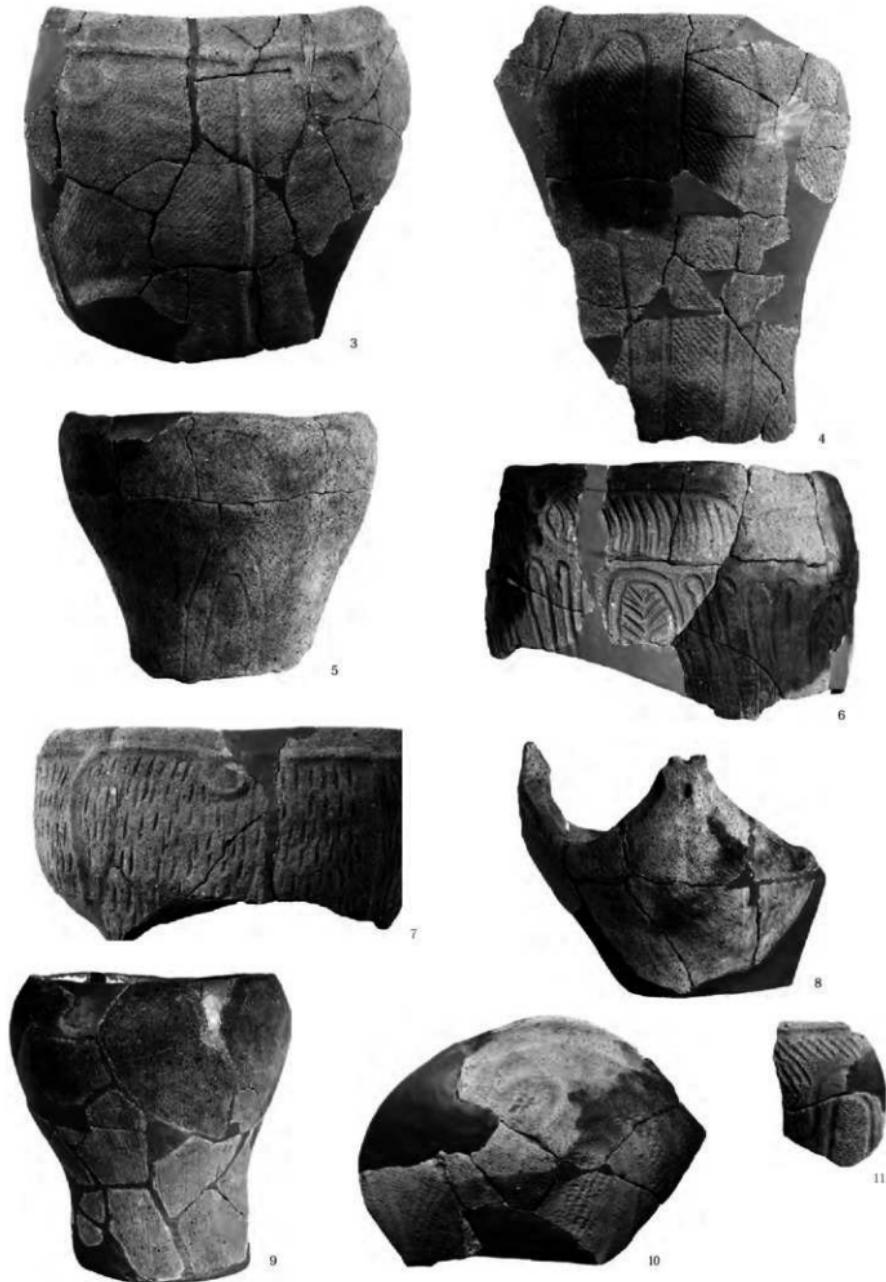
V区1号壁穴建物



V区2号壁穴建物



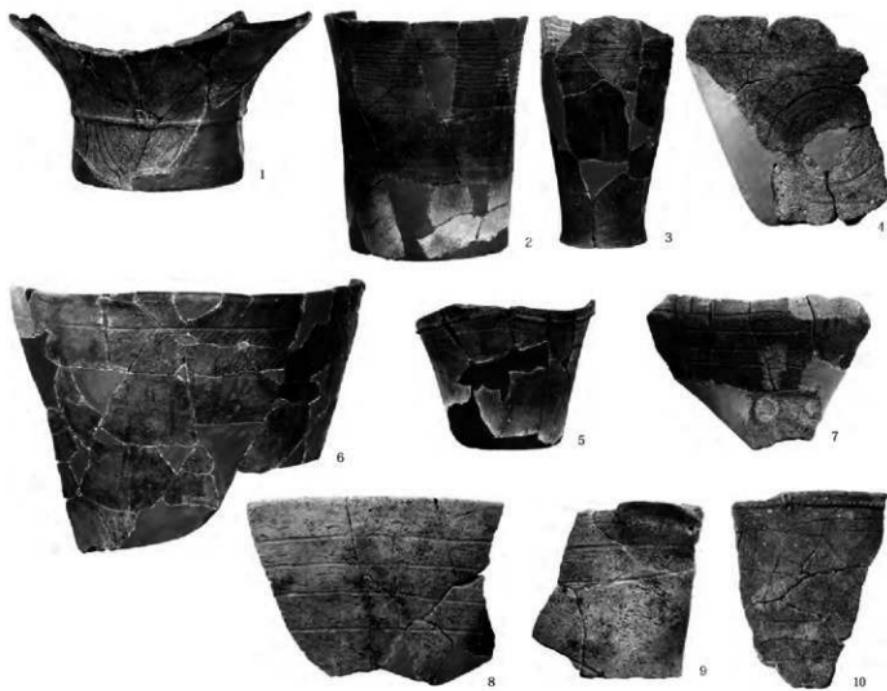
2



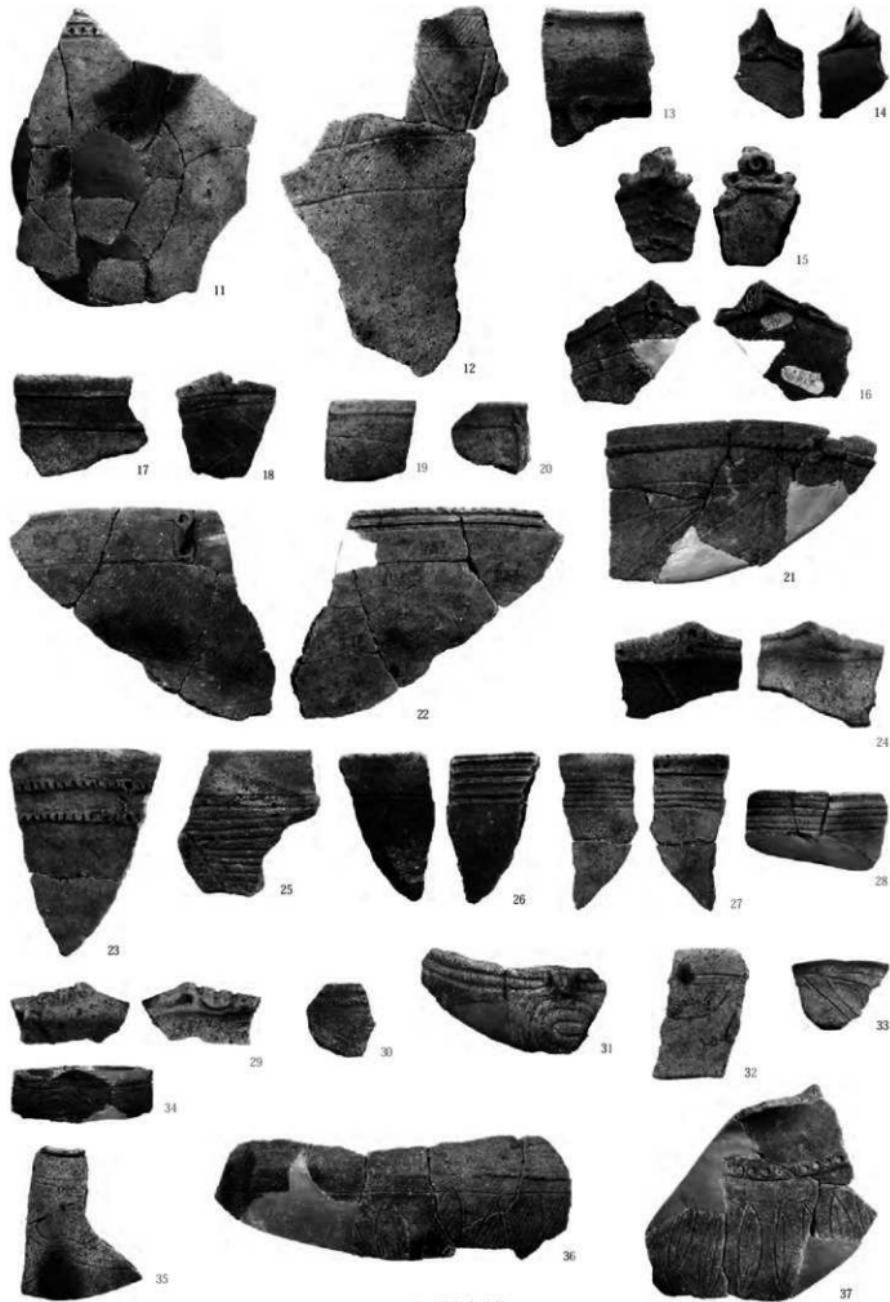
V区 2号竖穴建筑



VI区 2号竖穴建物



V区 3号竖穴建物

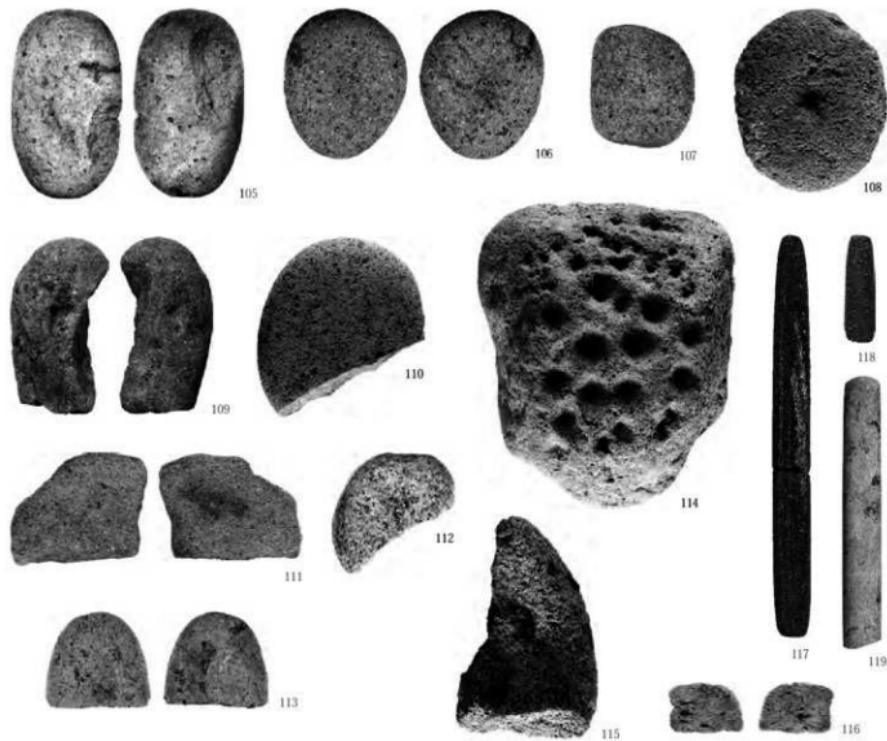


V区3号整穴建物



V区 3号竖穴建物

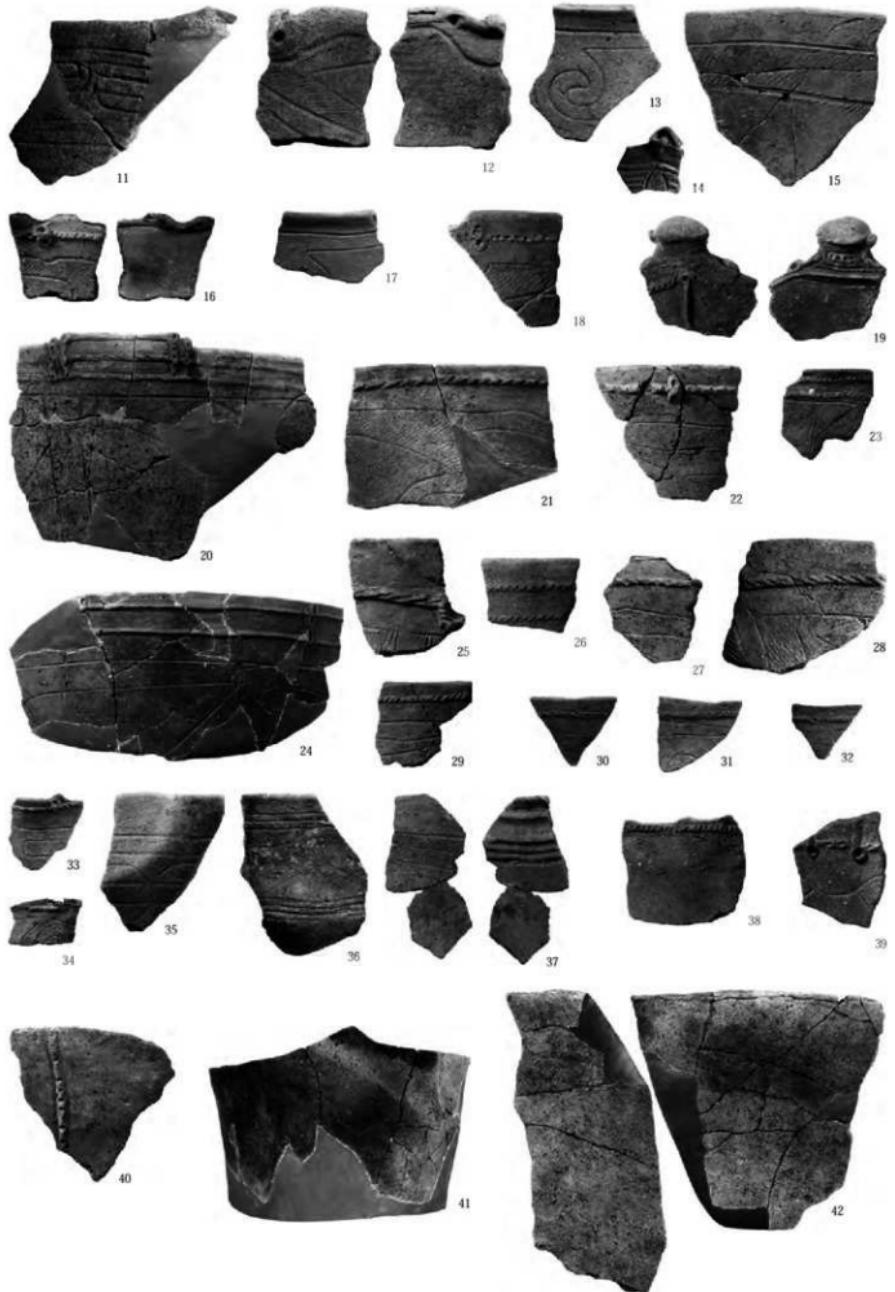




V区3号竖穴建物



V区4号竖穴建物



V区 4号整穴建物



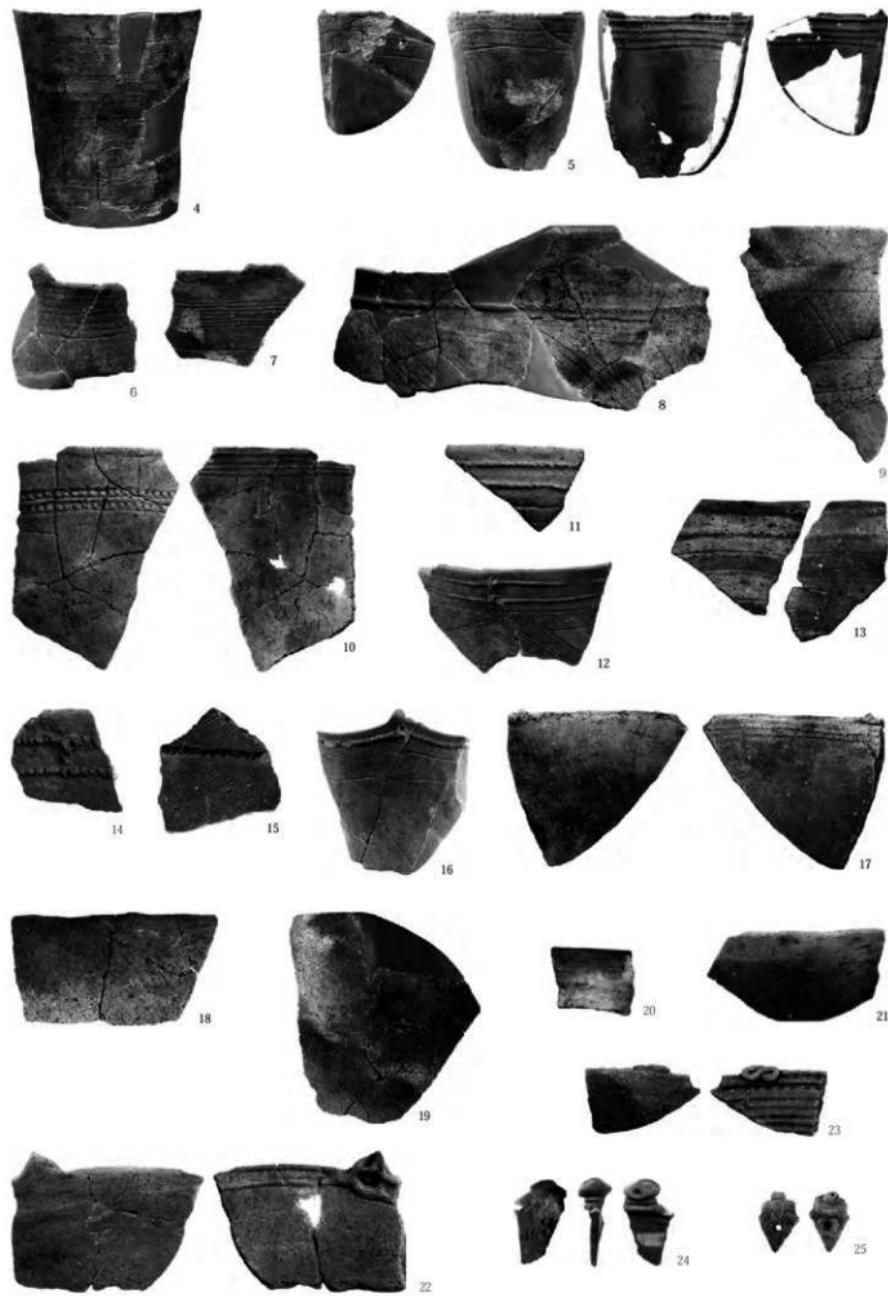
V区 4号竖穴建筑



V区4号竖穴建物



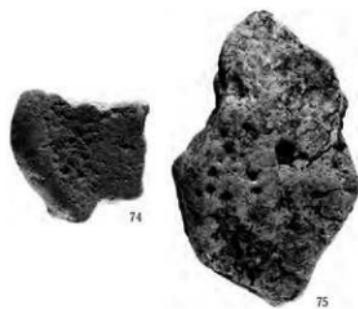
V区5号竖穴建物



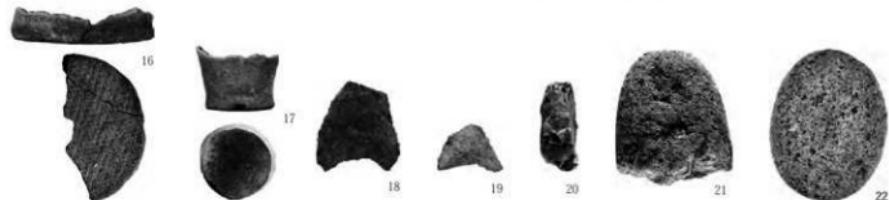
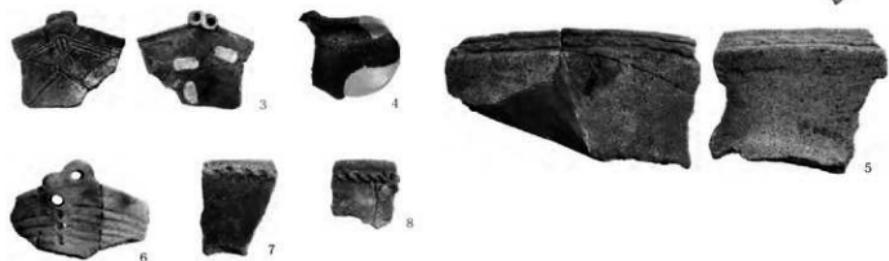
V区 5号竖穴建物



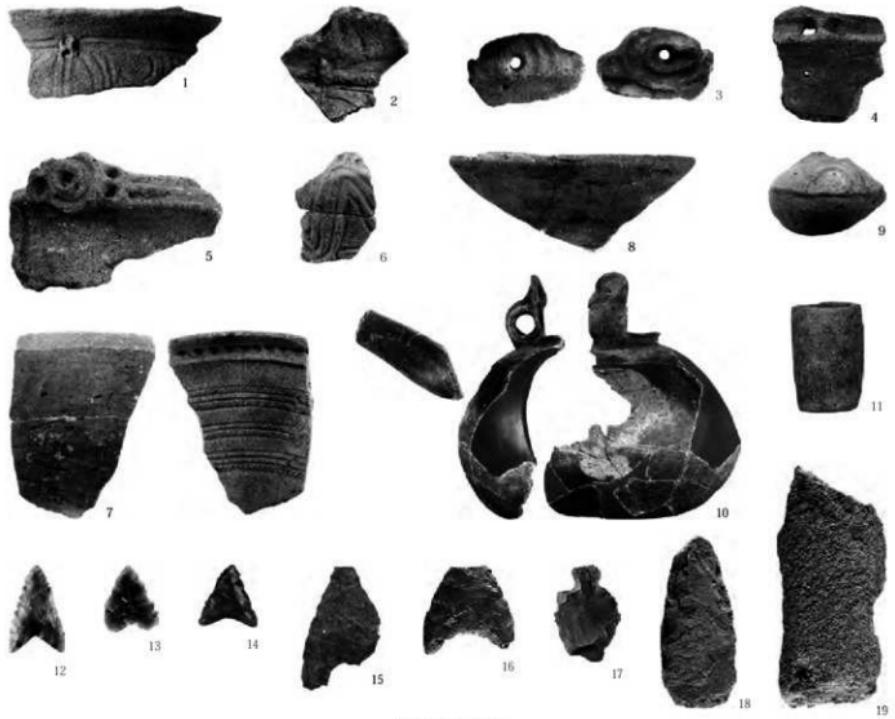
V区5号竖穴建筑



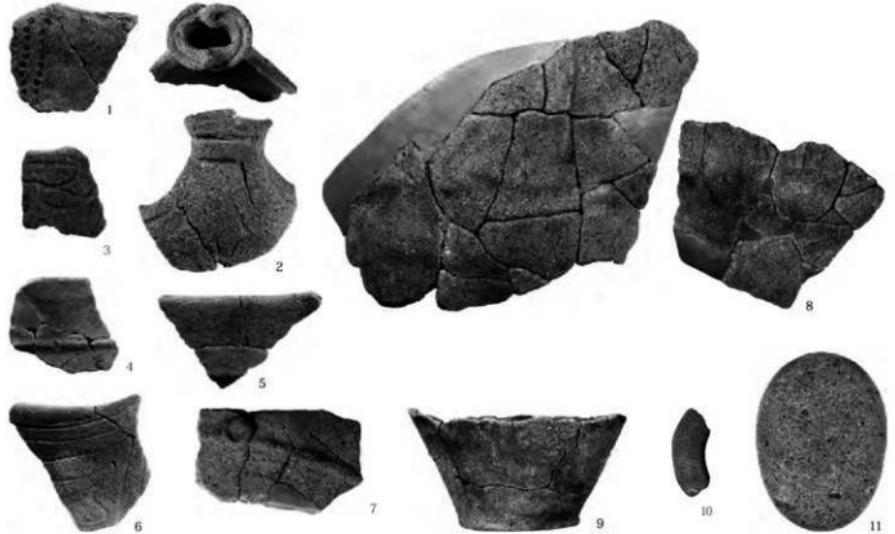
V区 5号竖穴建筑物



V区 6号竖穴建筑物



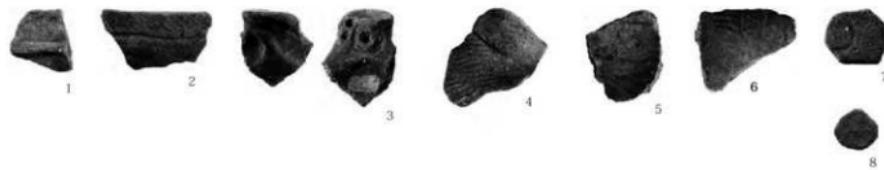
V区 7号竖穴建物



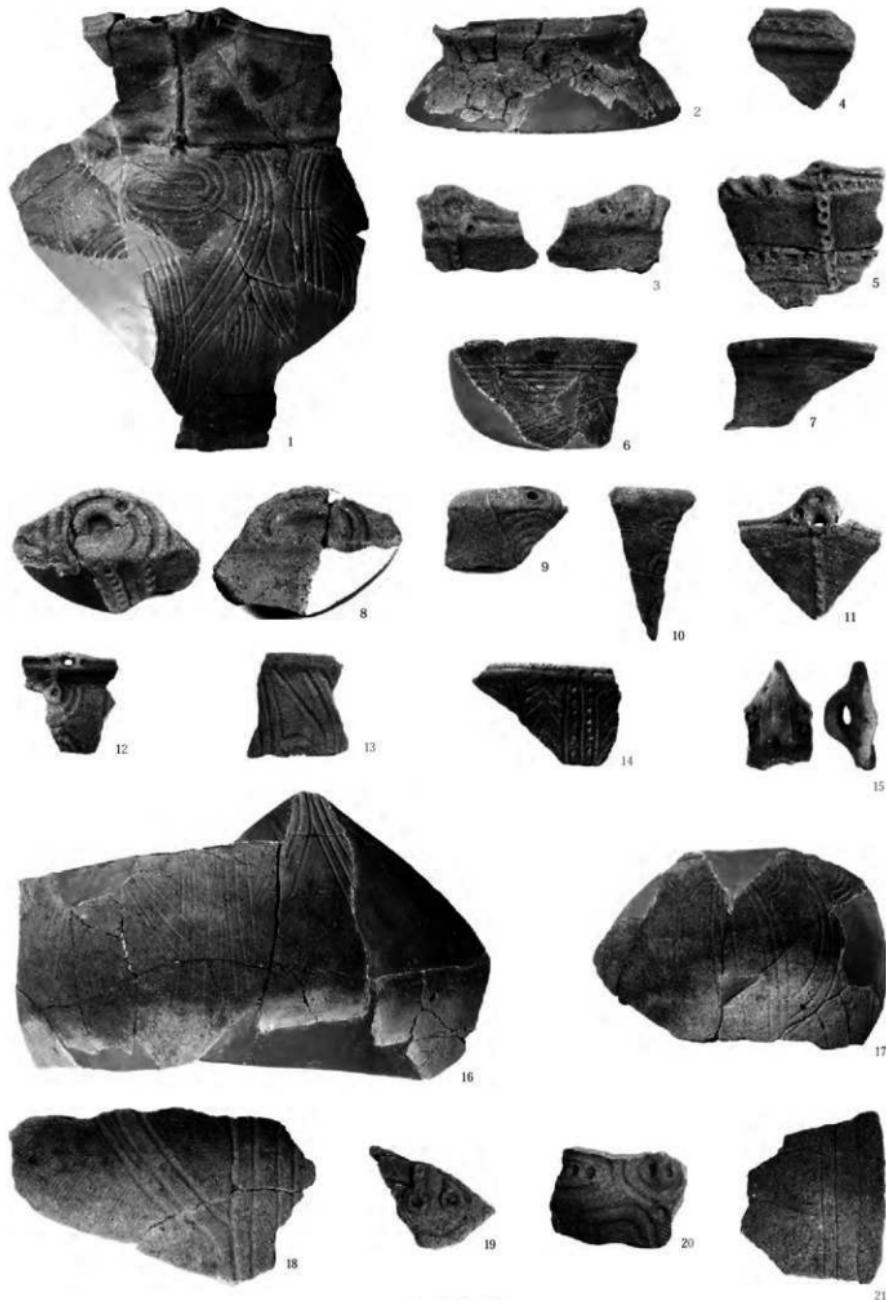
V区 8号竖穴建物



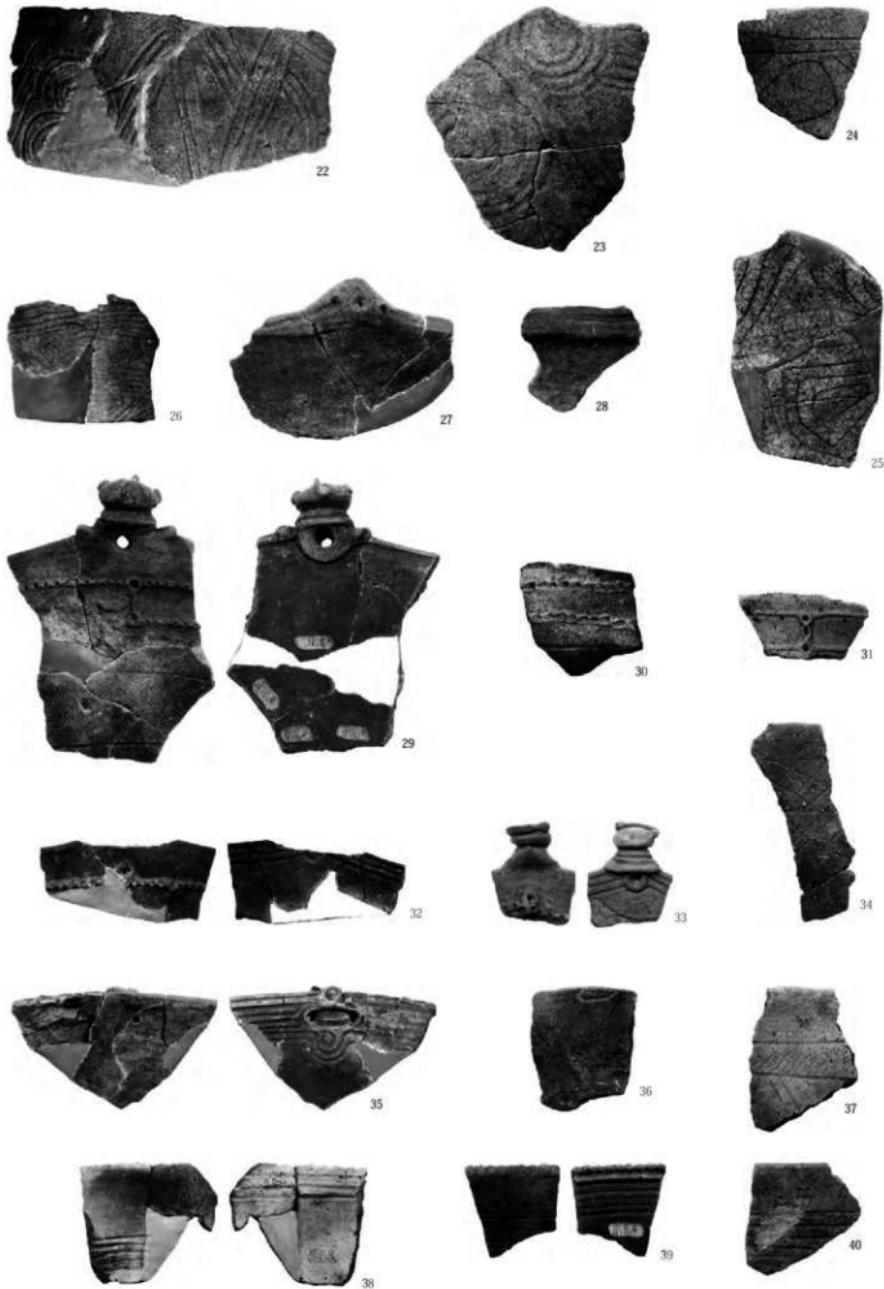
V区9号竖穴建筑物



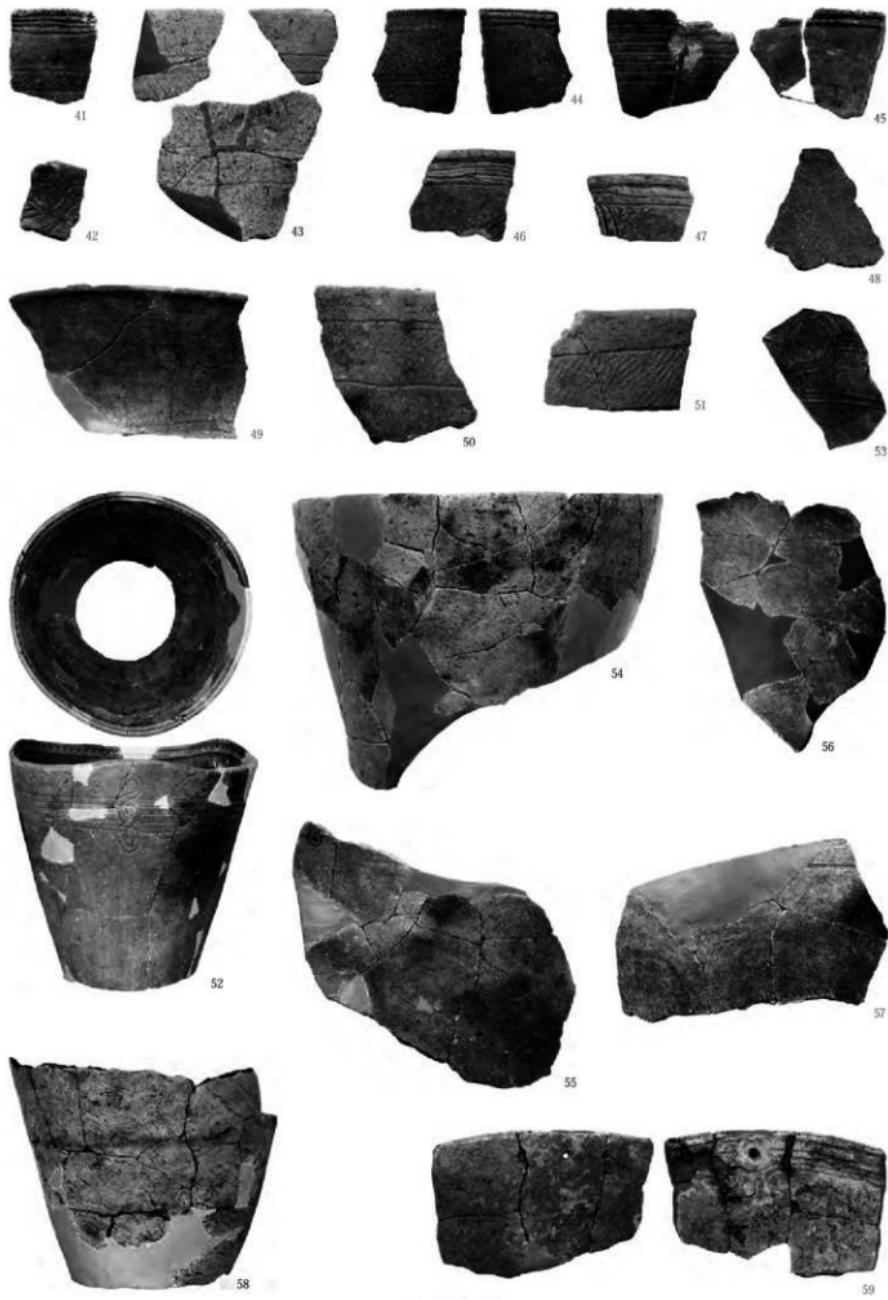
V区10号竖穴建筑物



V区11号整穴建物



V区11号整穴建物



V区11号竖穴建物



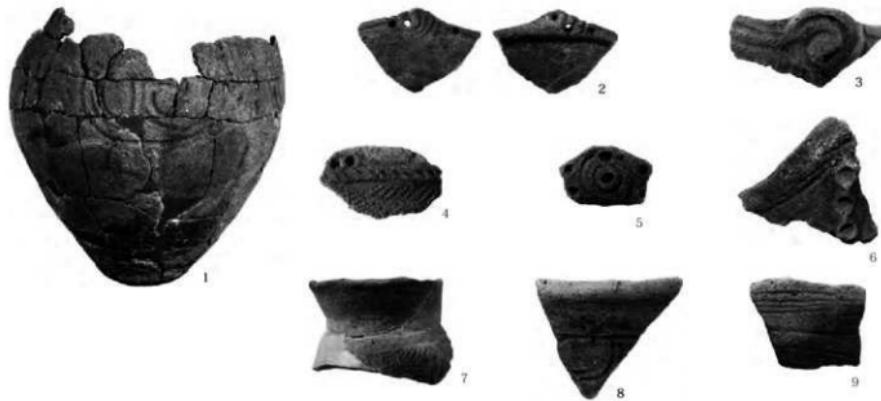
V区11号竖穴建物



V区12号竖穴建物



V区13号竖穴建物



V区14号竖穴建物



V区14号竖穴建筑



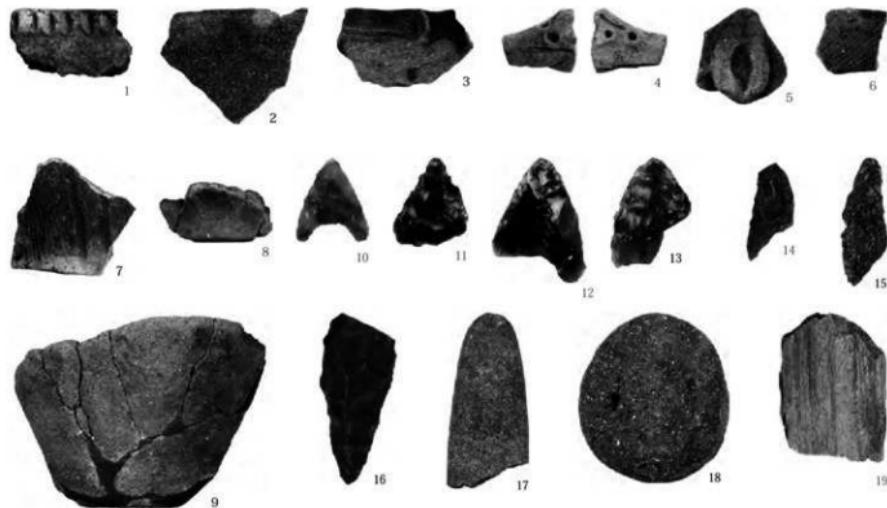
V区15号竖穴建物



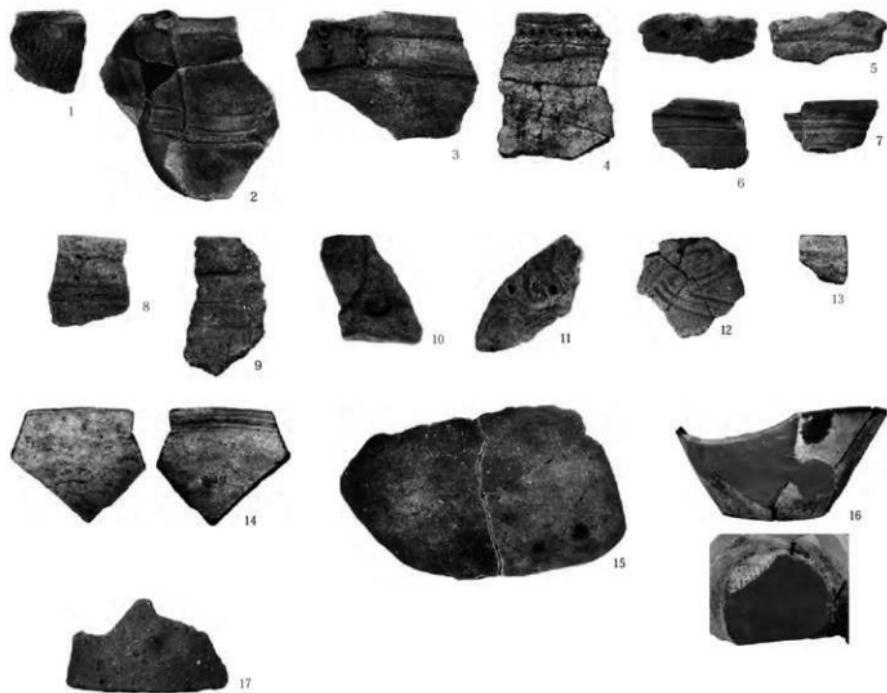
V区16号竖穴建物



V区17号竖穴建物



V区18号竖穴建物



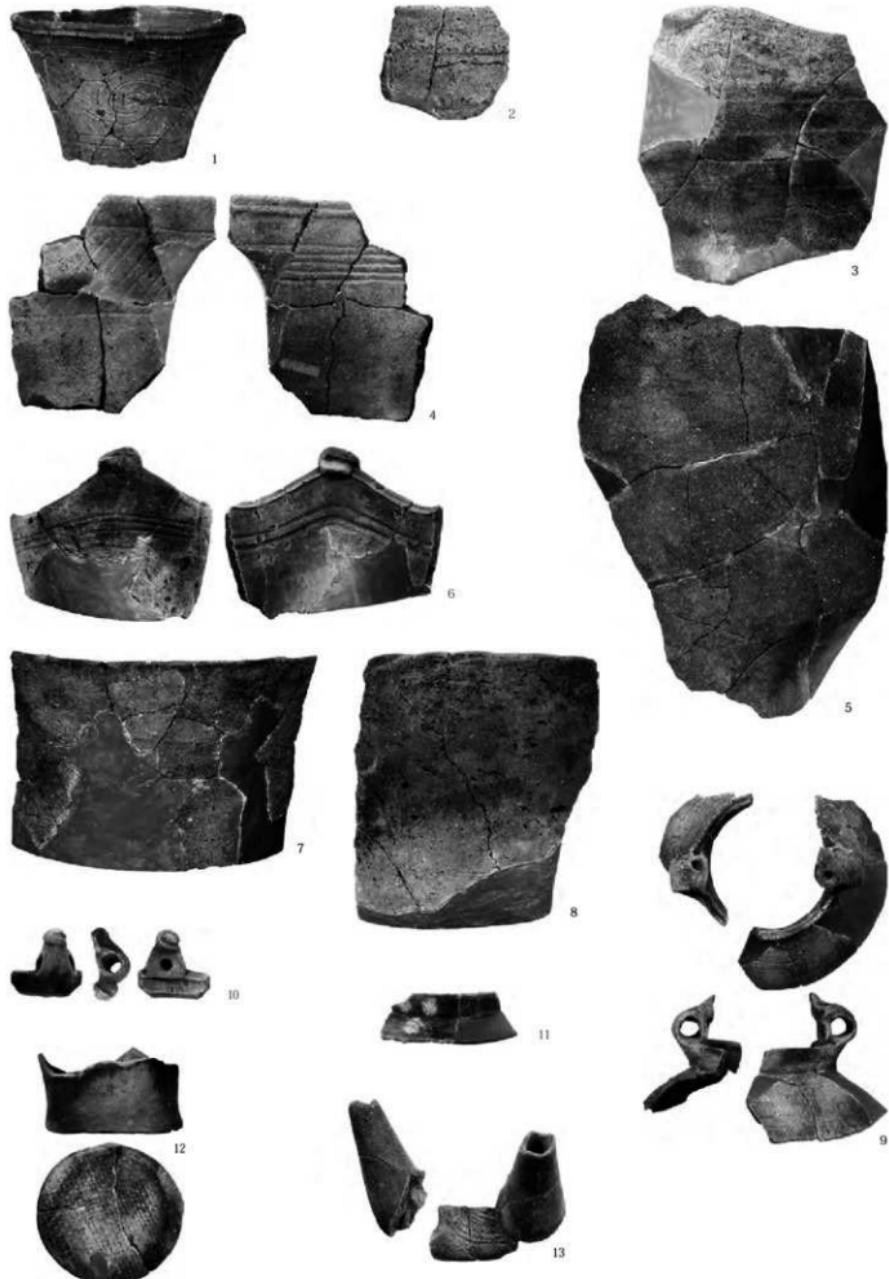
V区19号竖穴建物



V区19号窖穴建物



V区20号窖穴建物







1



2



3



4

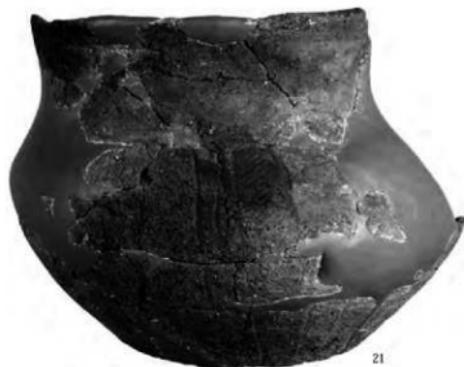


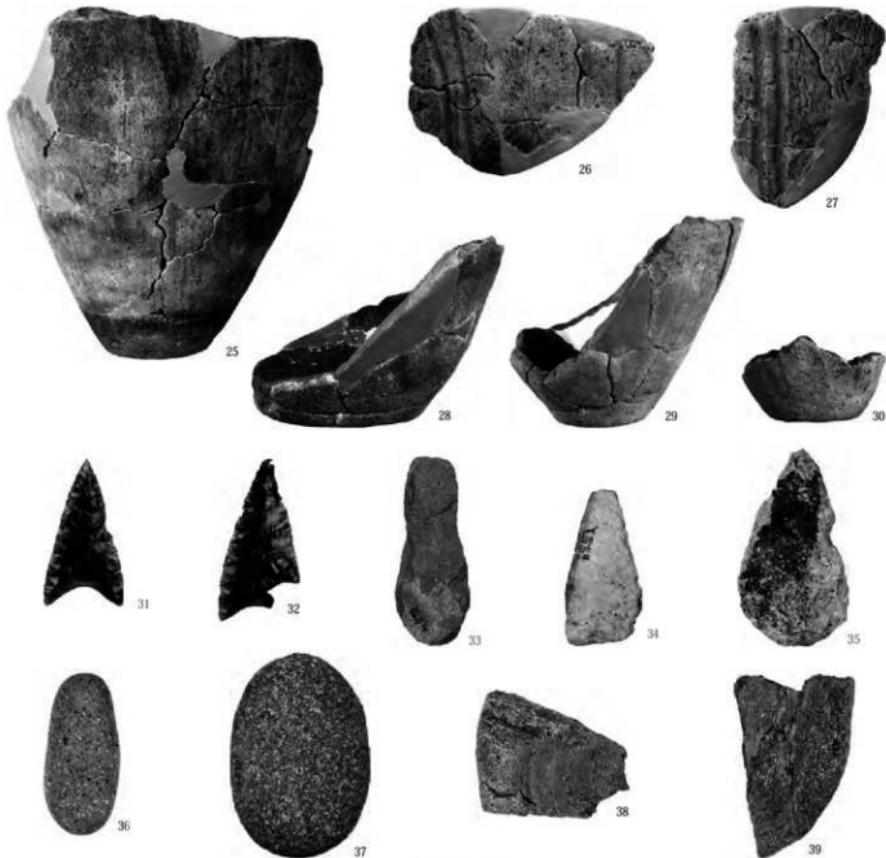
5



6







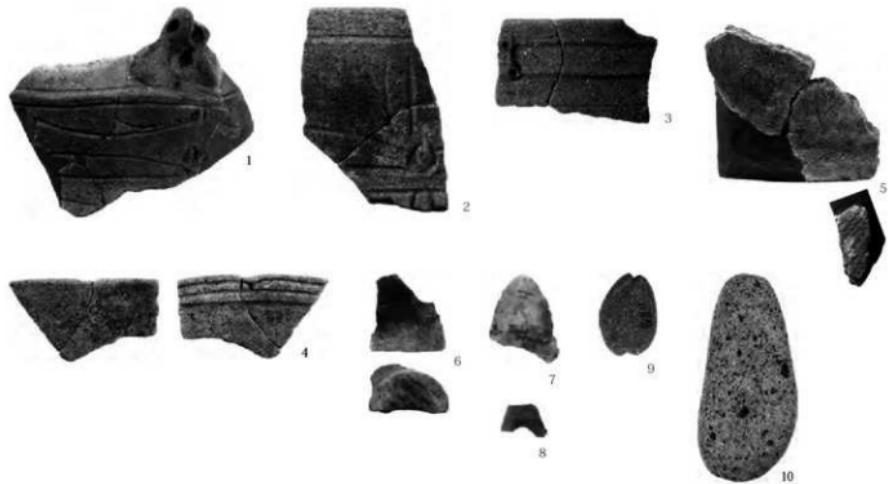
V区22号竖穴建物



V区23号竖穴建物



V区23号竖穴建物



V区25号竖穴建物



1



2

V区26号整穴建物



1



2

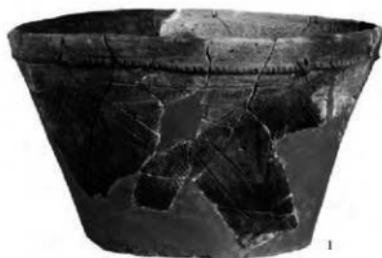


3



5

V区27号整穴建物



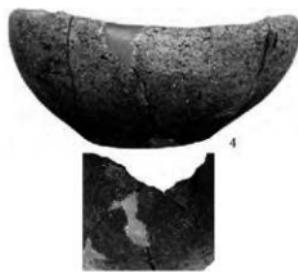
1



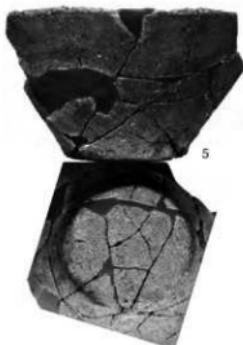
2



3



4

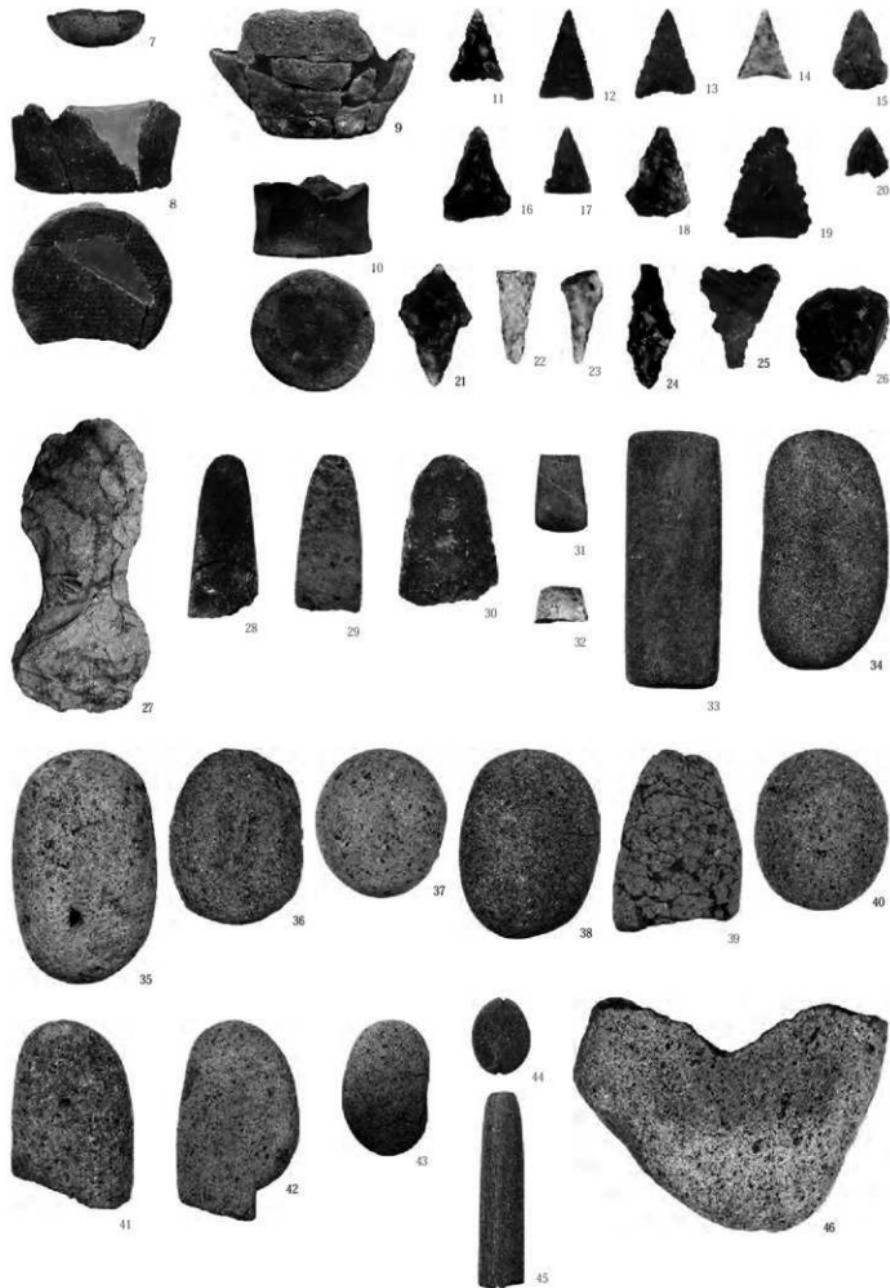


5



6

V区28号整穴建物



V区28号竖穴建物



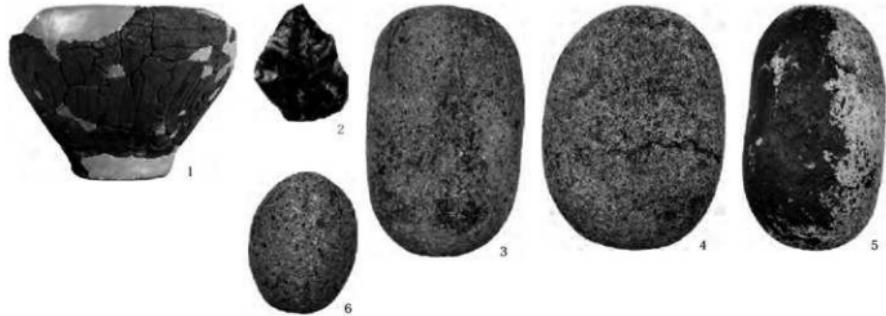
V区29号竖穴建物



V区30号竖穴建物



V区30号竖穴建物



V区31号竖穴建物



V区32号竖穴建筑物



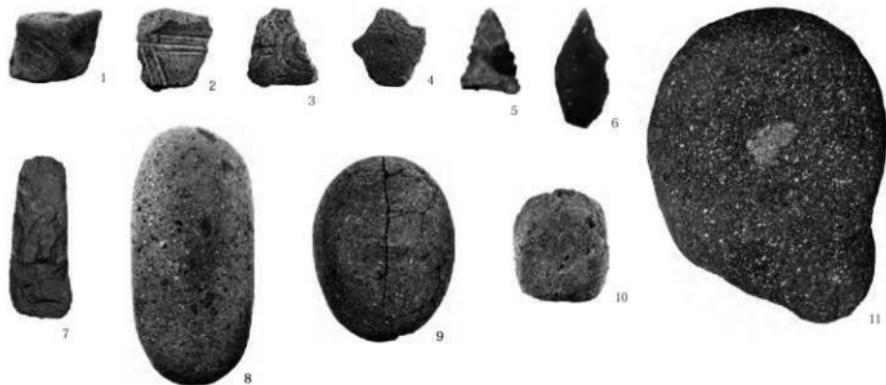
V区33号竖穴建筑物



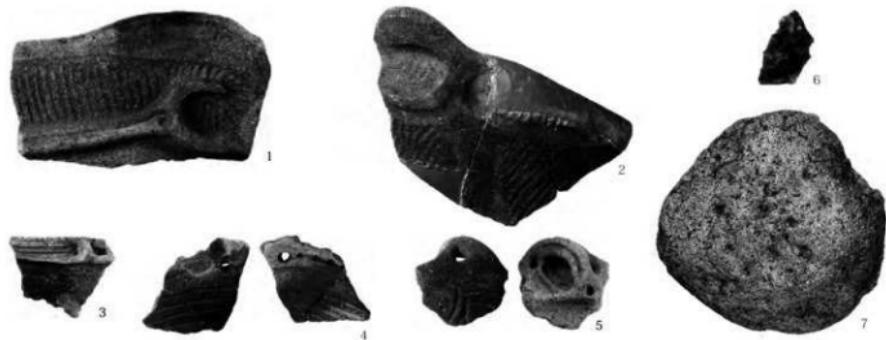
V区34号竖穴建筑物



V区35号竖穴建筑物



V区36号竖穴建物



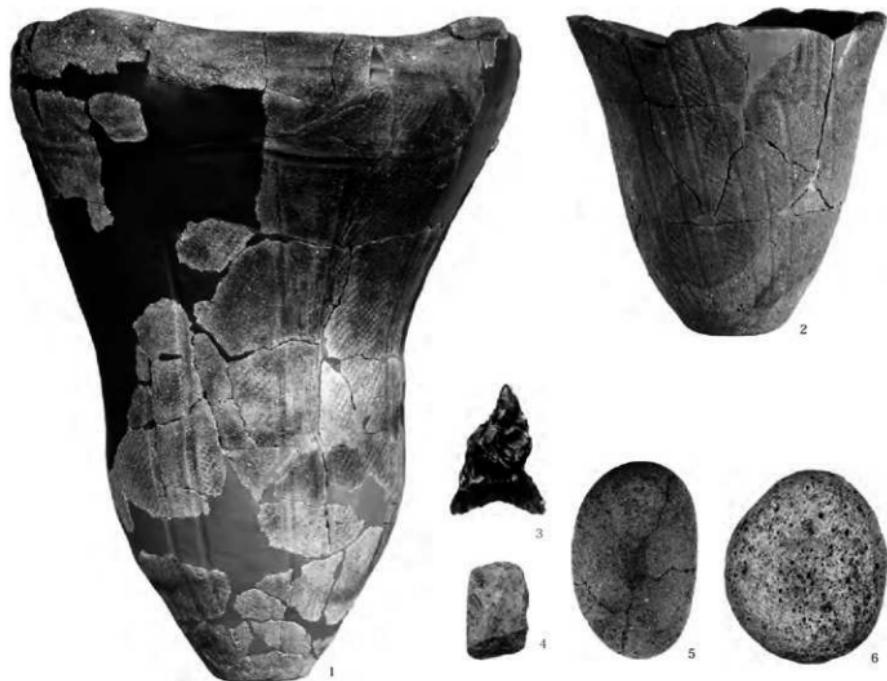
V区37号竖穴建物



V区38号竖穴建物



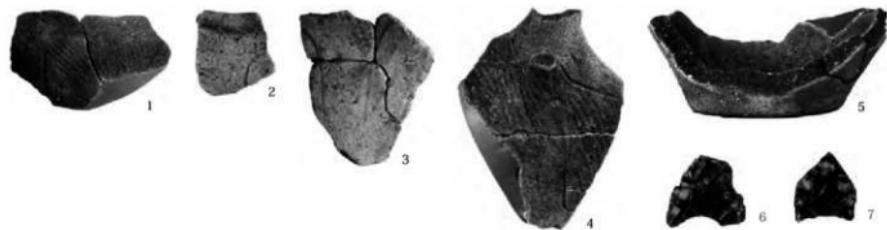
V区39号竖穴建物



V区40号竖穴建物



V区42号竖穴建物



V区44号竖穴建物



8



9



10

V区44号竖穴建物



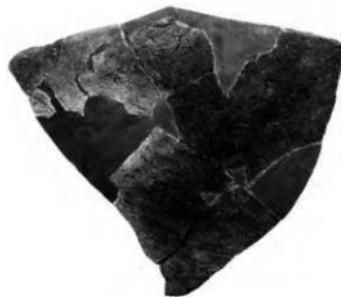
1



2



3



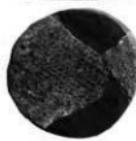
4



5



6



7



8

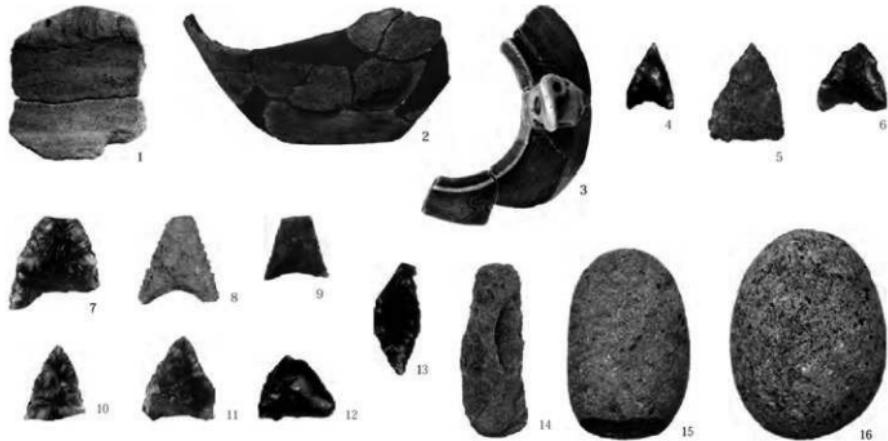
V区45号竖穴建物



V区46号竖穴建筑物



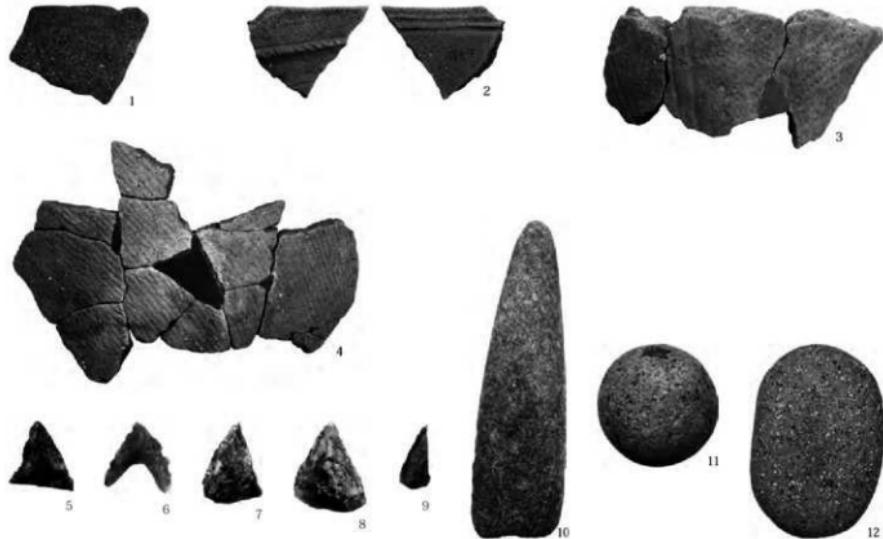
V区47号竖穴建筑物



V区48号竖穴建物



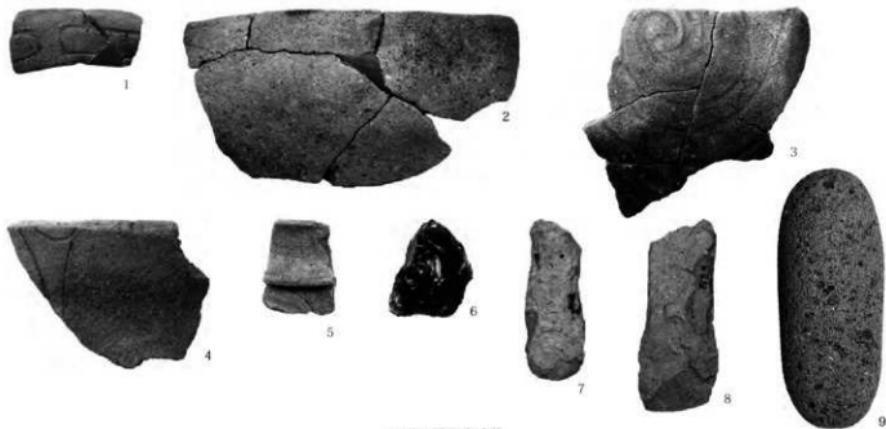
V区48号竖穴建物



V区50号竖穴建物



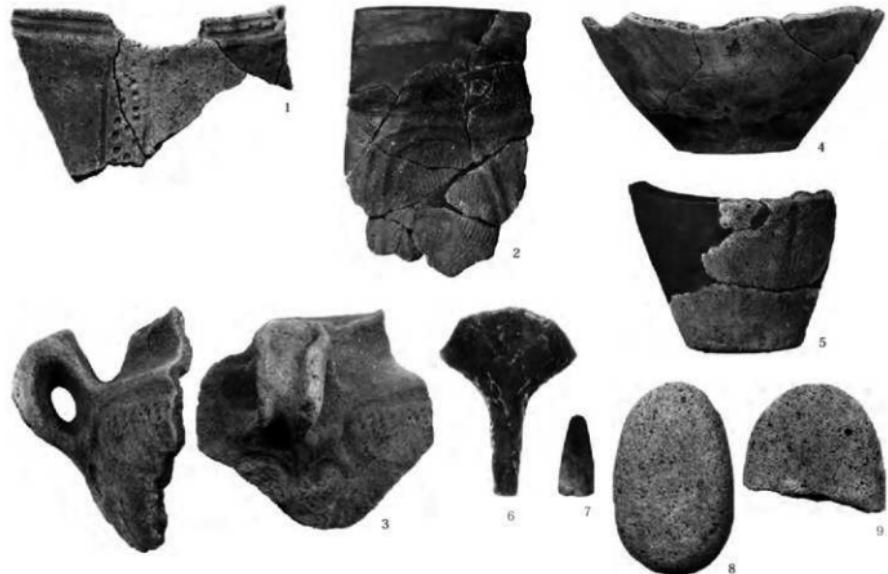
V区51号竖穴建物



V区52号竖穴建物



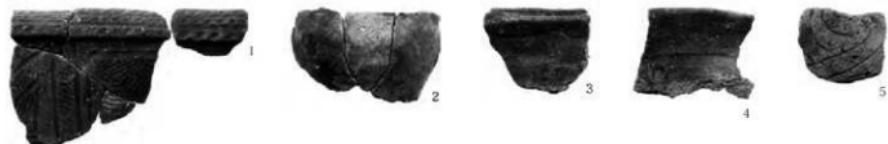
V区53号竖穴建物



V区54号整穴建物



V区55号整穴建物



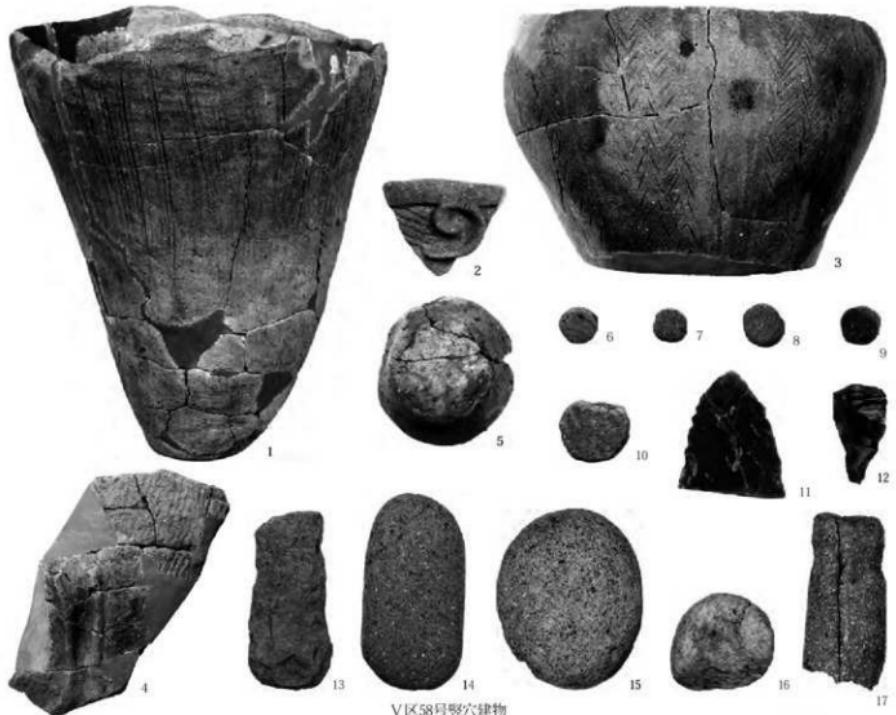
V区56号整穴建物



V区57号整穴建物



V区57号壁穴遗物



V区58号竖穴建物



V区59号竖穴建物



V区60号竖穴建物



V区61号竖穴建物



V区62号竖穴建物



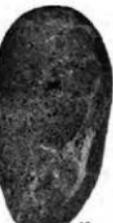
V区62号竖穴建物



V区63号竖穴建物



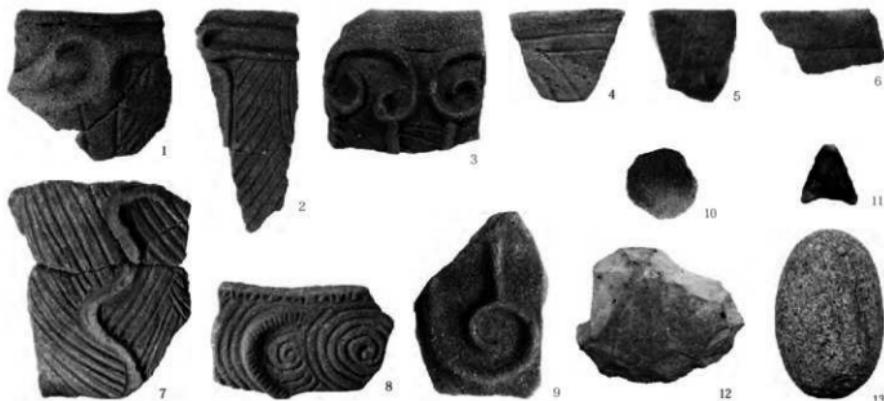
10



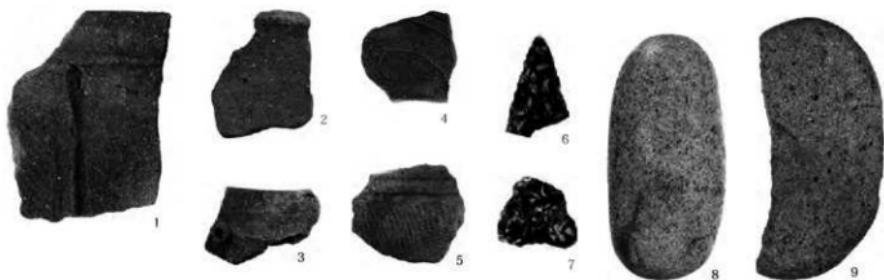
V区64号竖穴建物



V区66号竖穴建物



V区67号竖穴建物



V区68号竖穴建物



V区69号竖穴建物



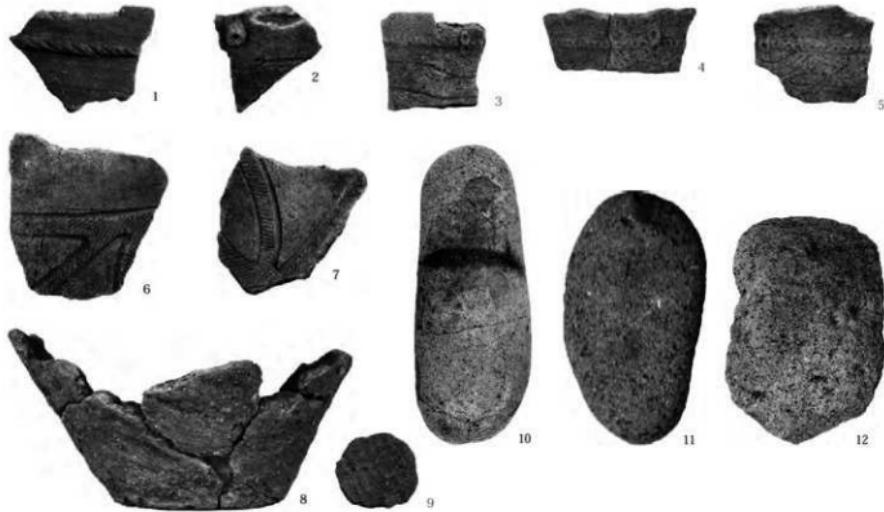
V区70号竖穴建物



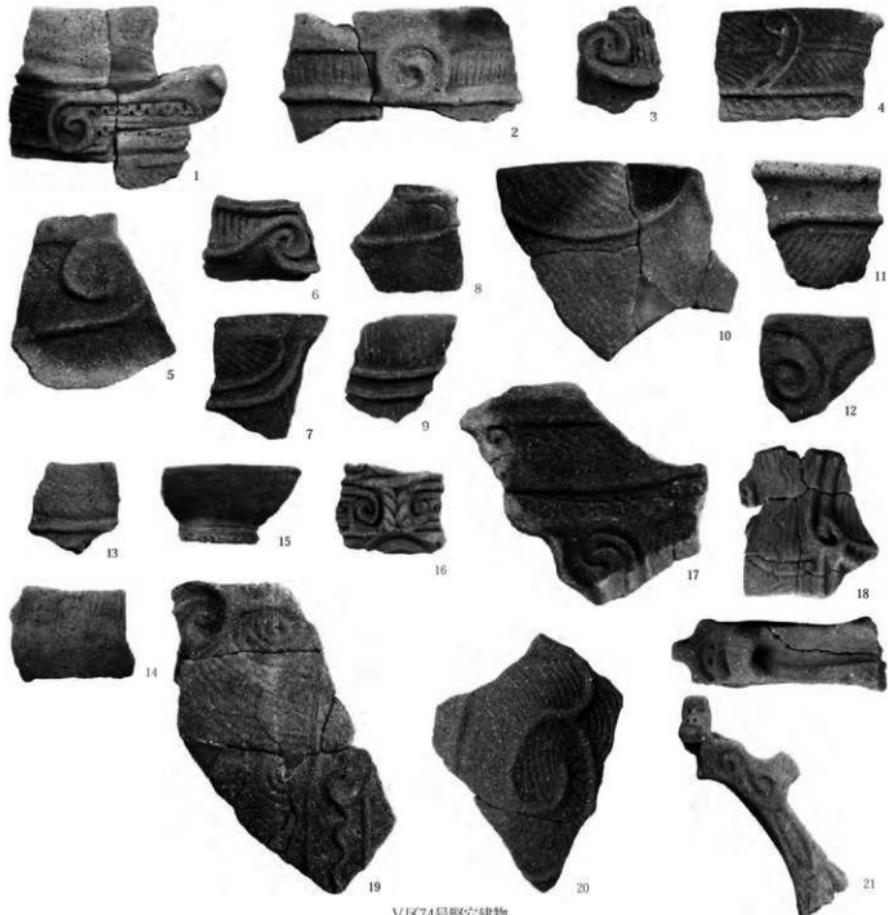
V区71号竖穴建物



V区71号窑穴建物



V区73号窑穴建物



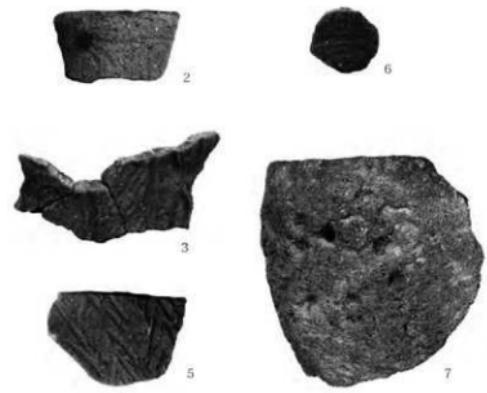
V区74号竖穴建物



V区75号竖穴建物



4



V区75号竖穴建物



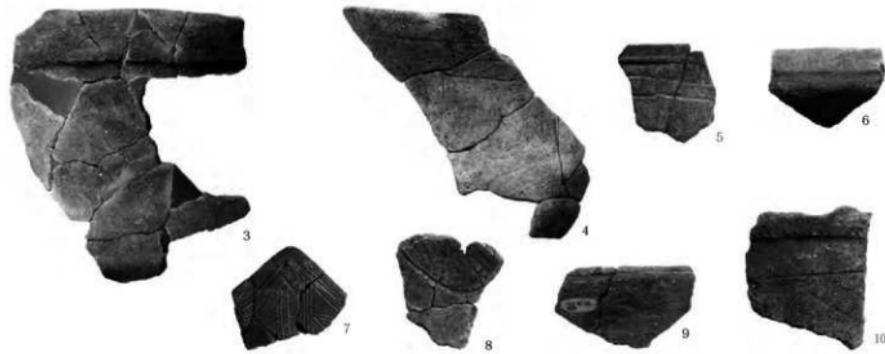
V区76号竖穴建物



V区77号竖穴建物



V区77号竖穴建物



V区78号竖穴建物



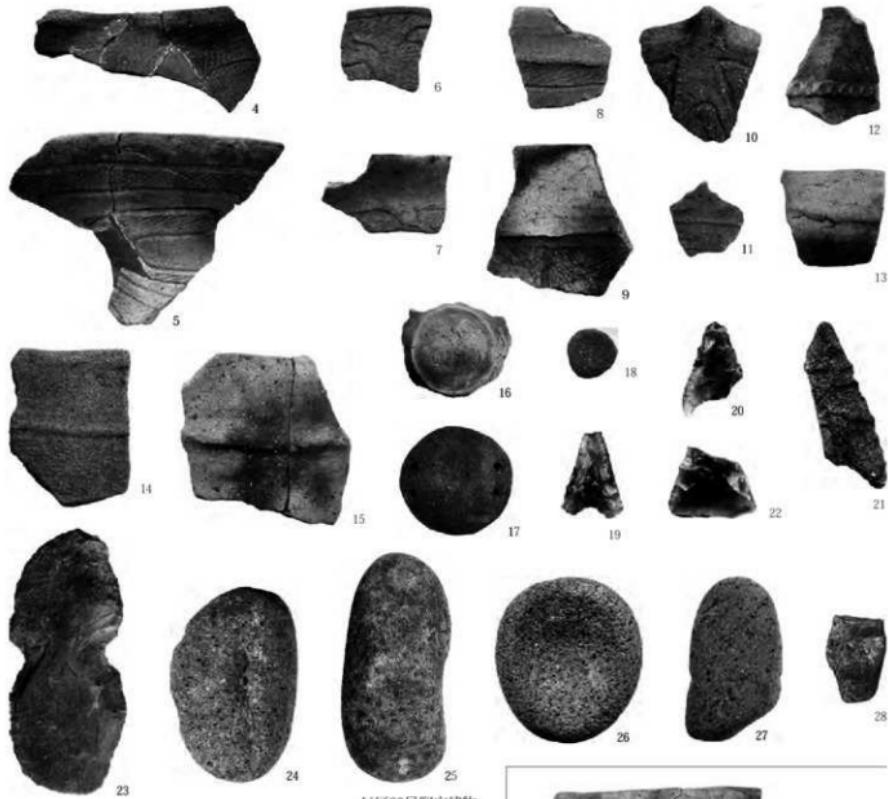
V区78号竖穴建物



V区79号竖穴建物



V区80号竖穴建物



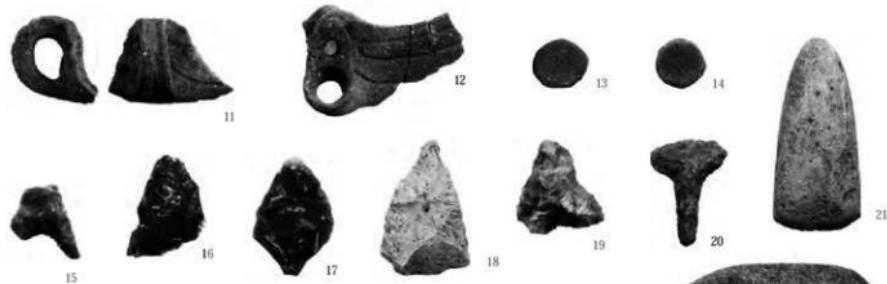
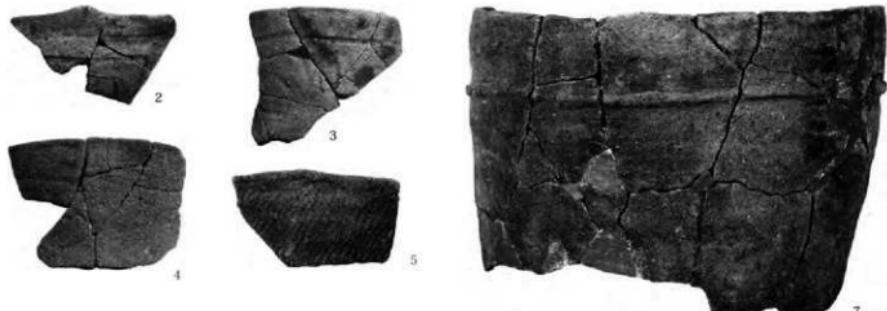
V区80号竖穴建物



V区81号竖穴建物



V区82号竖穴建物



V区82号竖穴建物



V区83号竖穴建物



V区83号竖穴建物



V区84号竖穴建物



V区86号竖穴建物

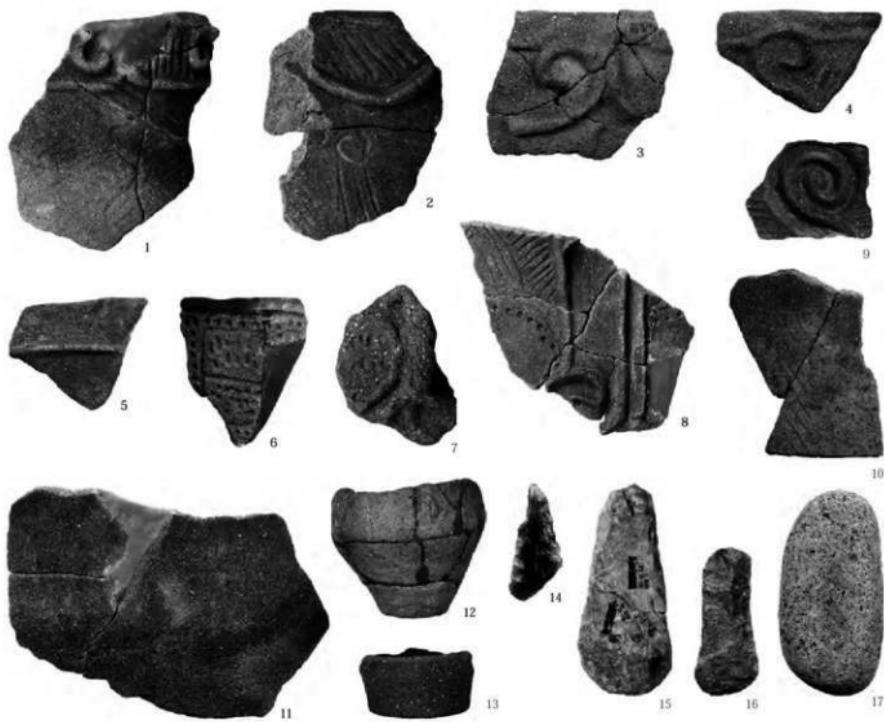
V区85号竖穴建物



17



V区87号竖穴建物



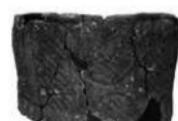
V区88号竖穴建物



V区89号竖穴建物



V区89号竖穴建物



V区90号竖穴建物



V区91号竖穴建物



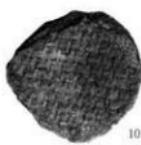
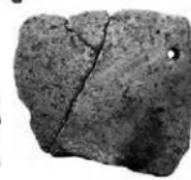
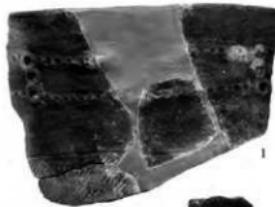
V区92号竖穴建筑物



V区94号土坑



V区90号土坑



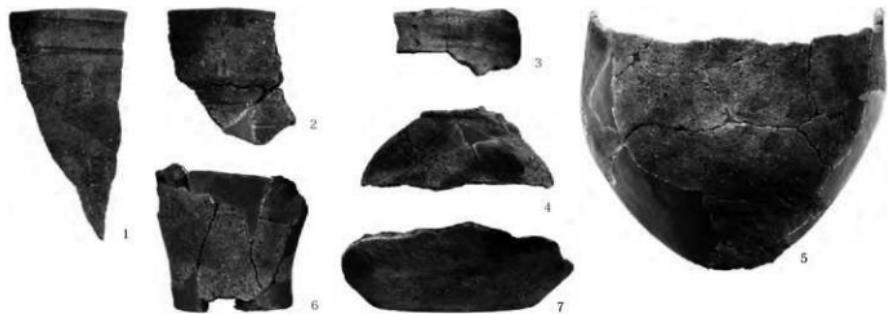
V区126号土坑



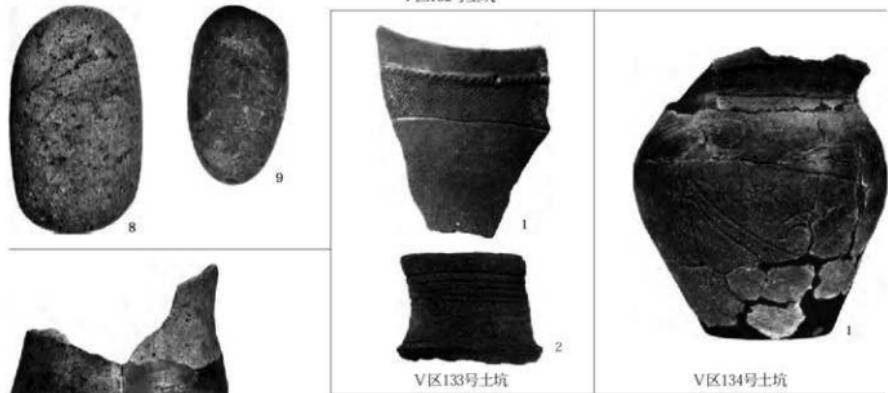
V区128号土坑



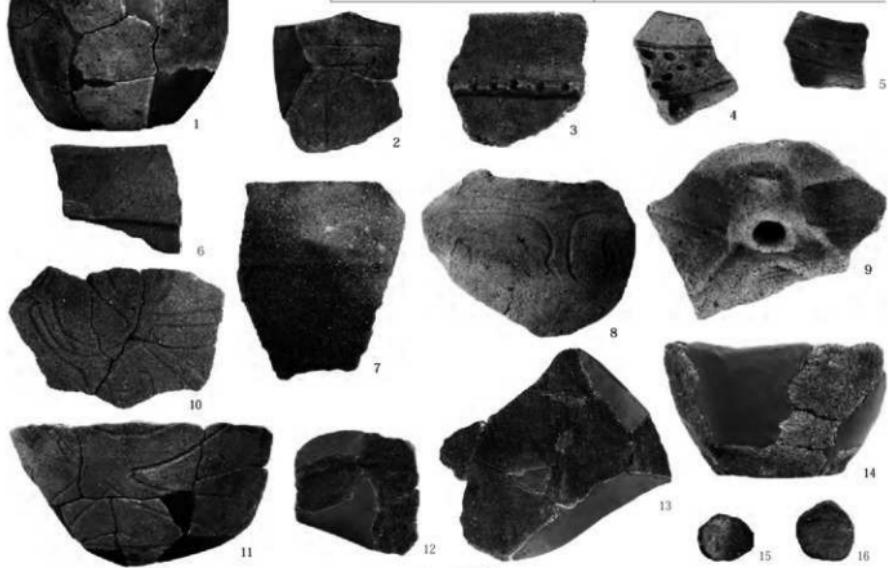
V区131号土坑



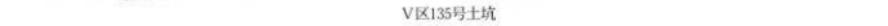
V区132号土坑



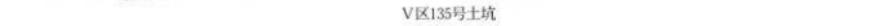
V区133号土坑



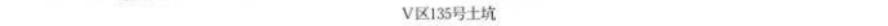
V区134号土坑



V区135号土坑



V区135号土坑



V区135号土坑



V区136号土坑



V区137号土坑



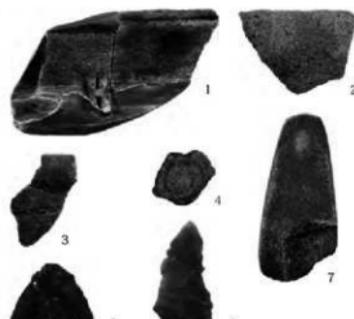
V区139号土坑



V区140号土坑



V区141号土坑



V区138号土坑



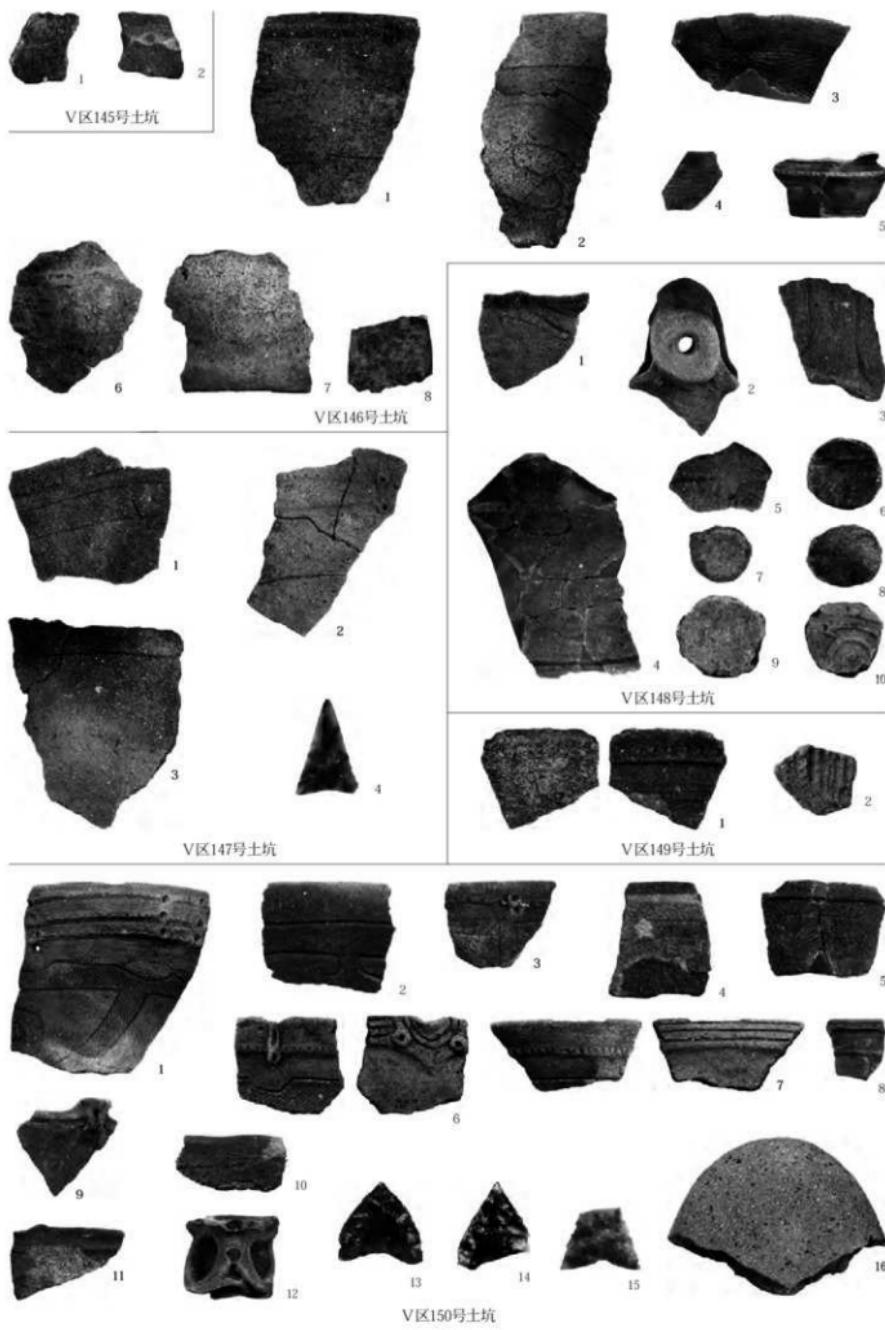
V区143号土坑

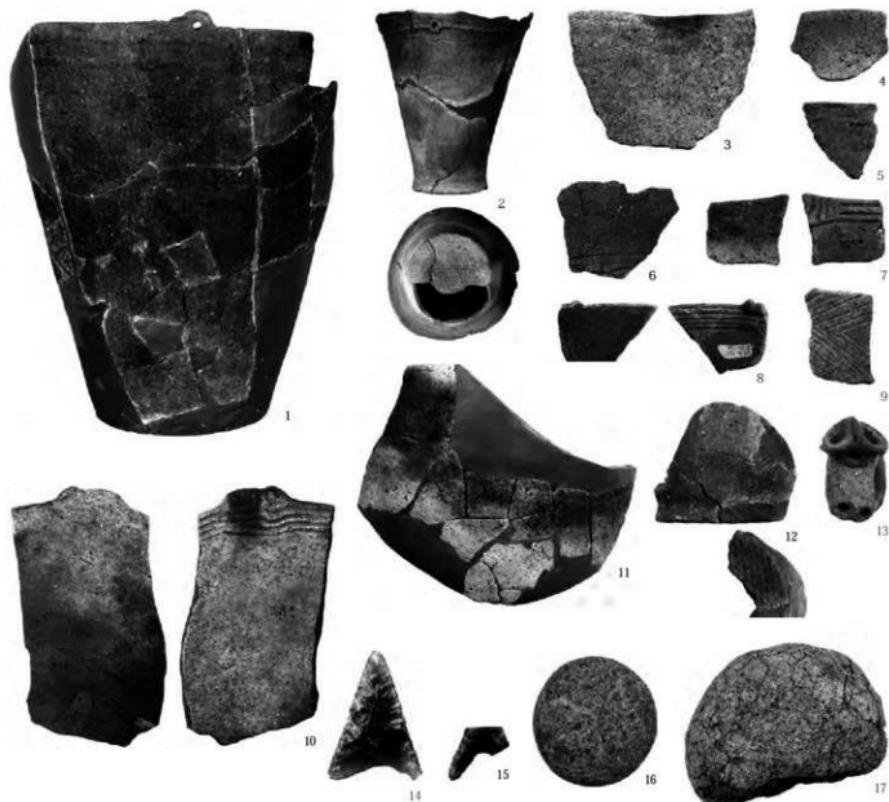


V区142号土坑



V区144号土坑





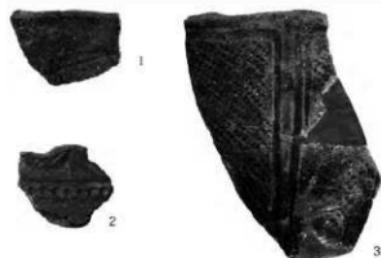
V区151号土坑



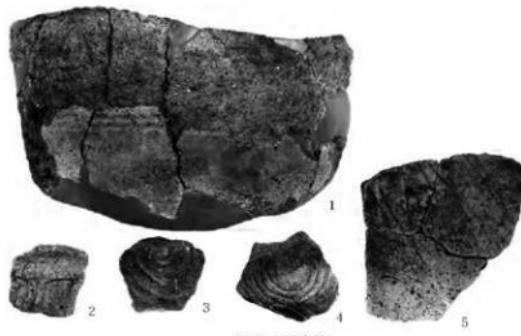
V区153号土坑



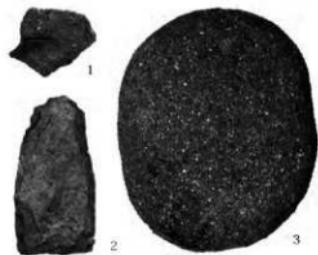
V区155号土坑



V区154号土坑



V区156号土坑



V区157号土坑



V区160号土坑



V区158号土坑



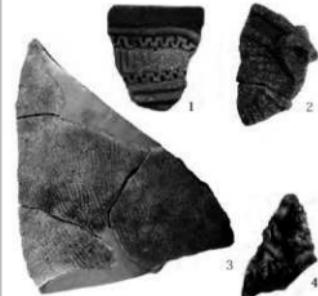
V区161号土坑



V区162号土坑



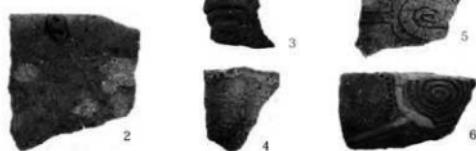
V区163号土坑



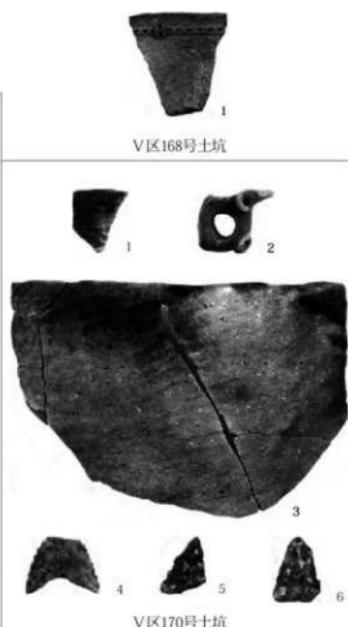
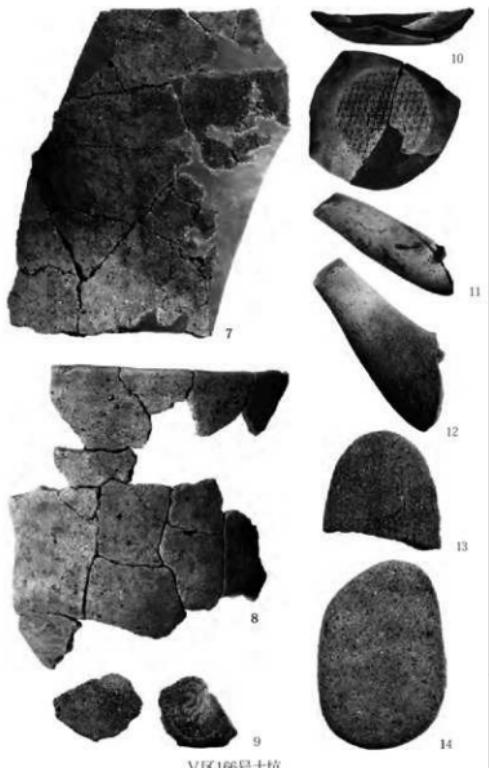
V区164号土坑



V区166号土坑



V区165号土坑





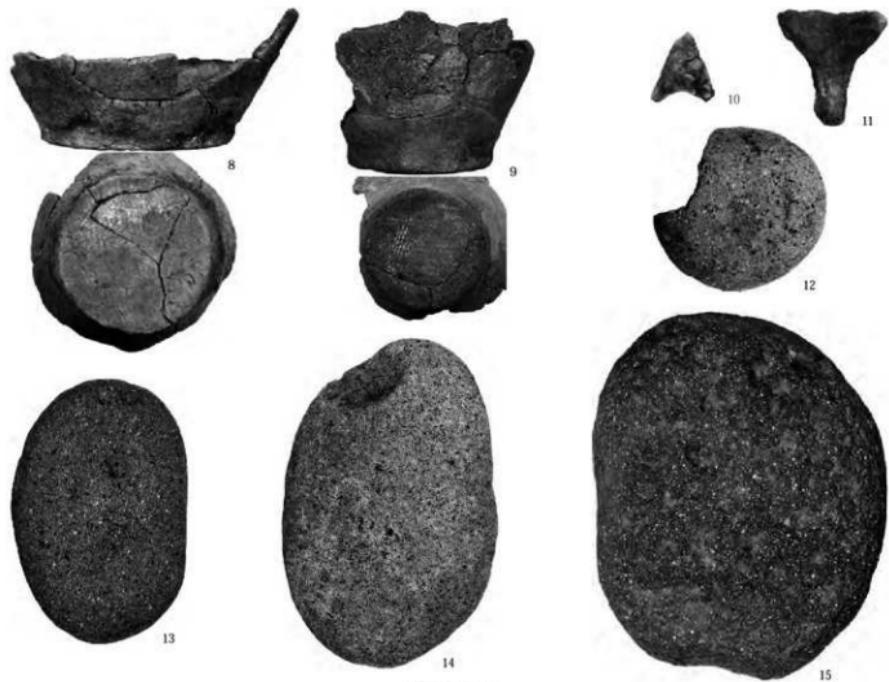
V区172号土坑



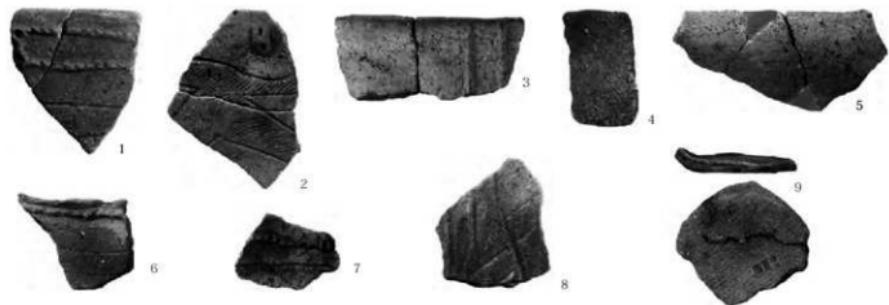
V区173号土坑



V区177号土坑



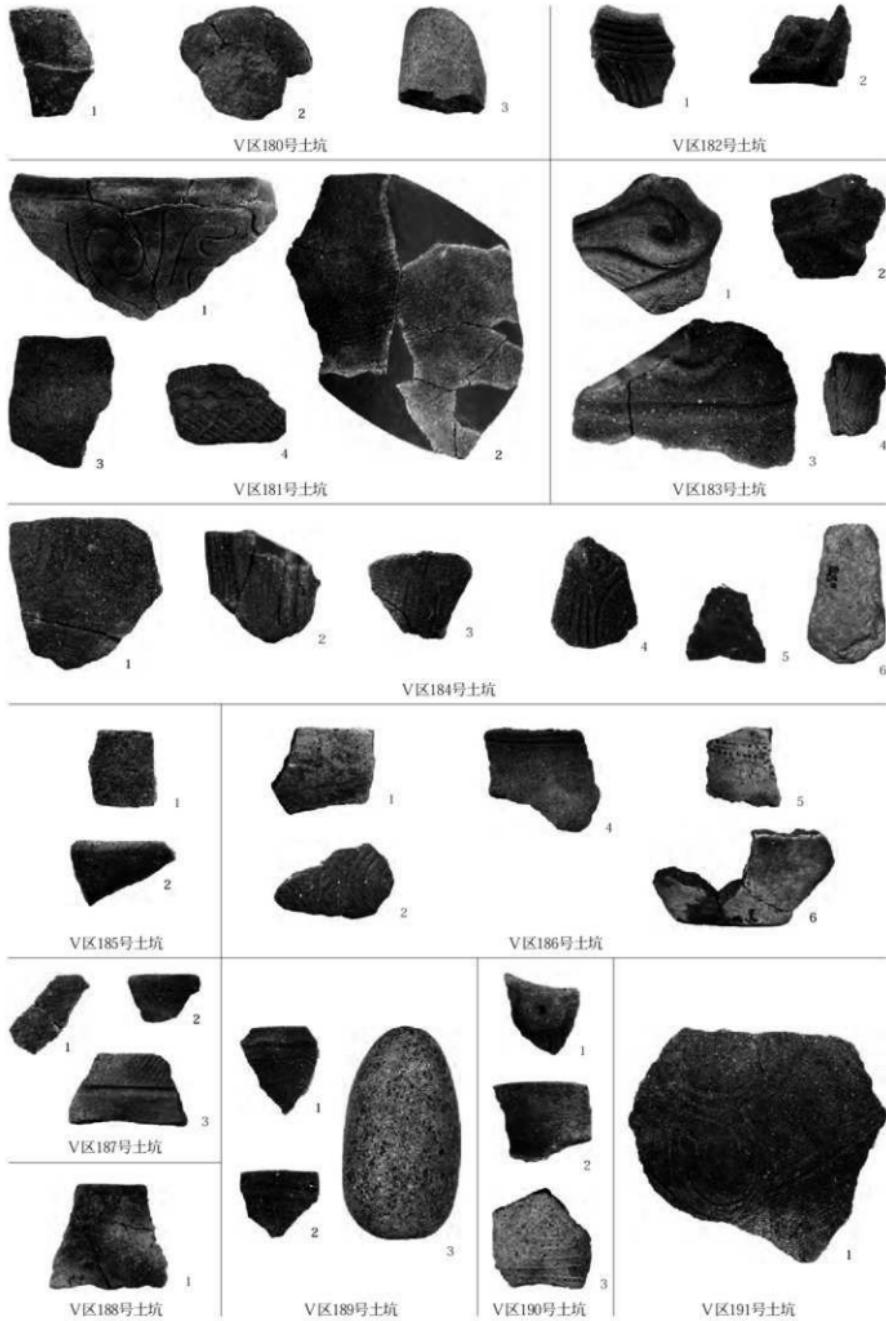
V区177号土坑

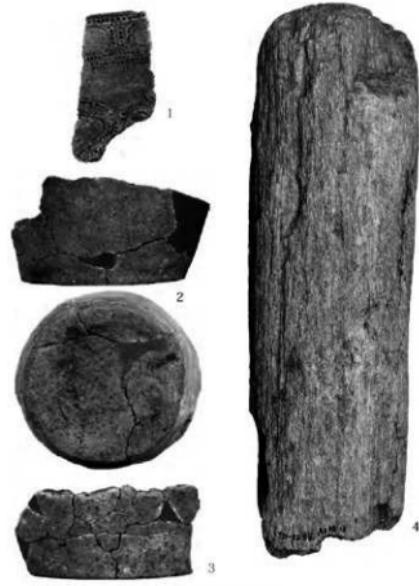


V区178号土坑



V区179号土坑





V区192号土坑



V区194号土坑

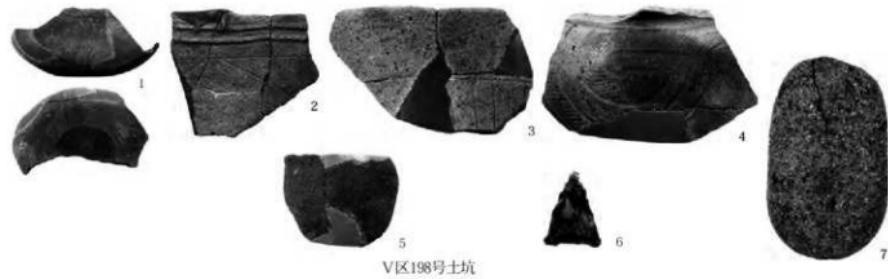


V区195号土坑



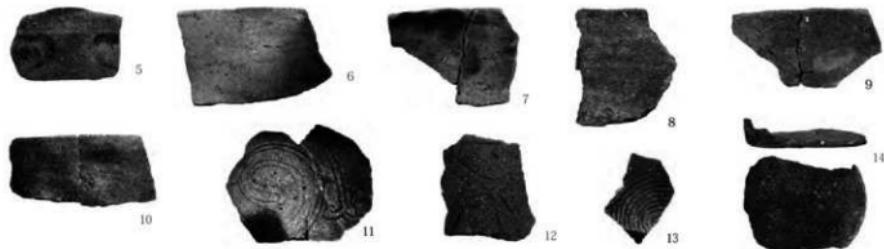
V区196号土坑

V区197号土坑



V区198号土坑





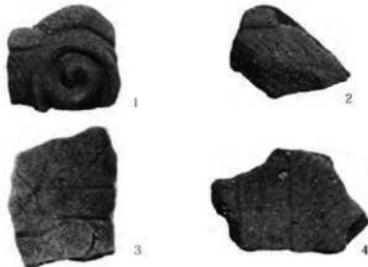
V区209号土坑



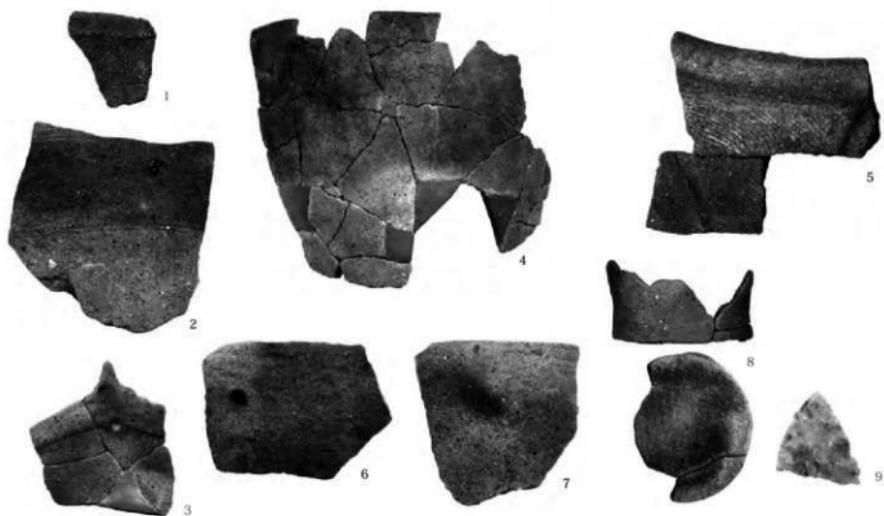
V区211号土坑



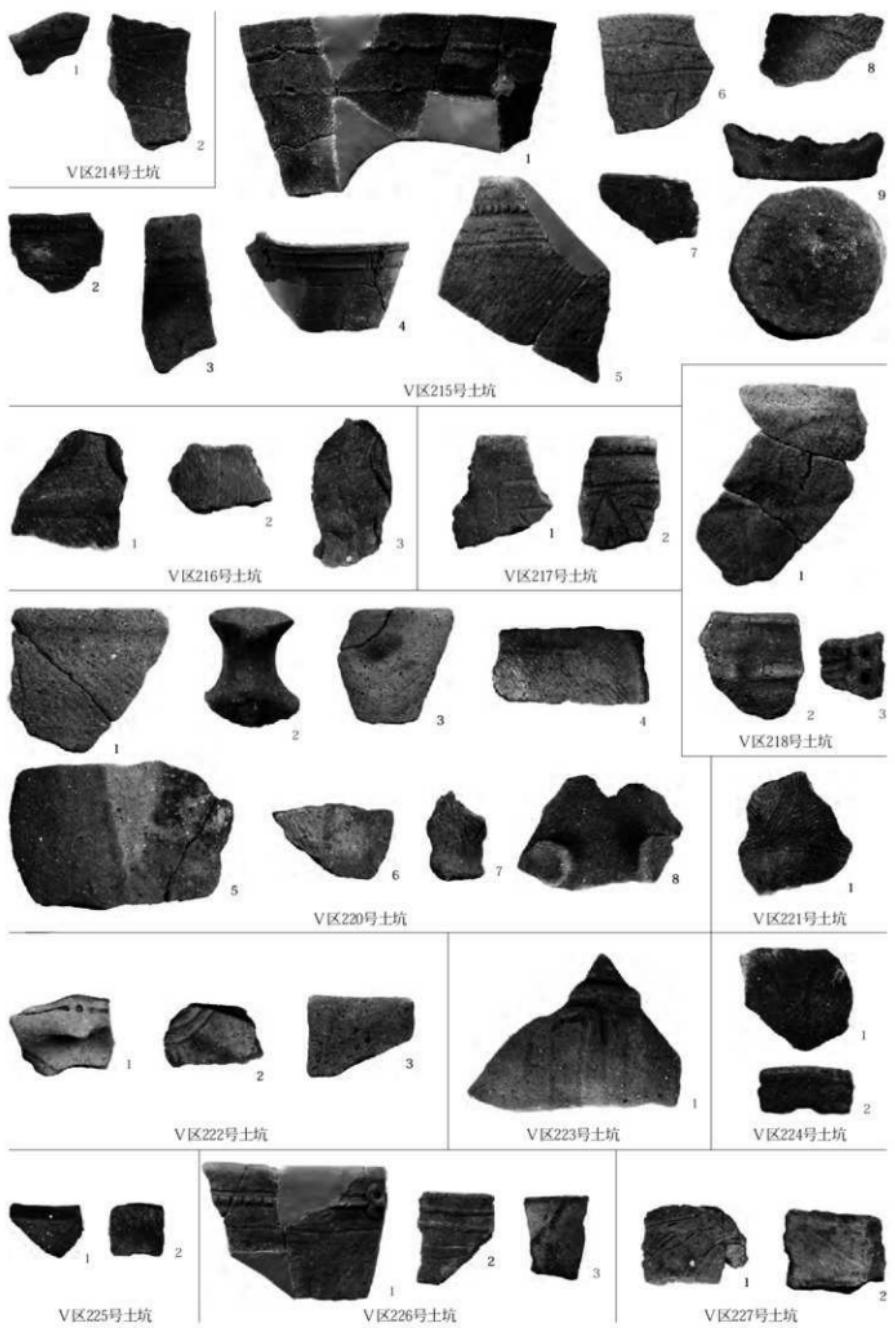
V区210号土坑

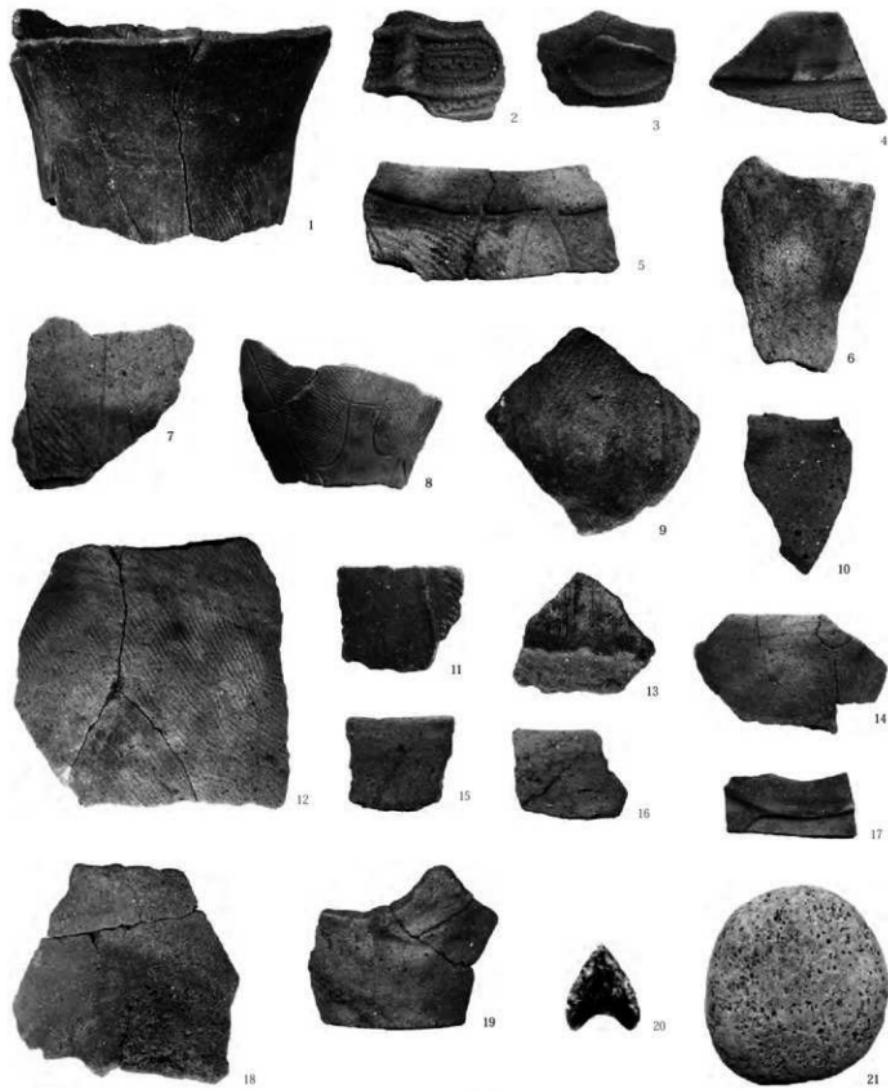


V区212号土坑



V区213号土坑





V区228号土坑



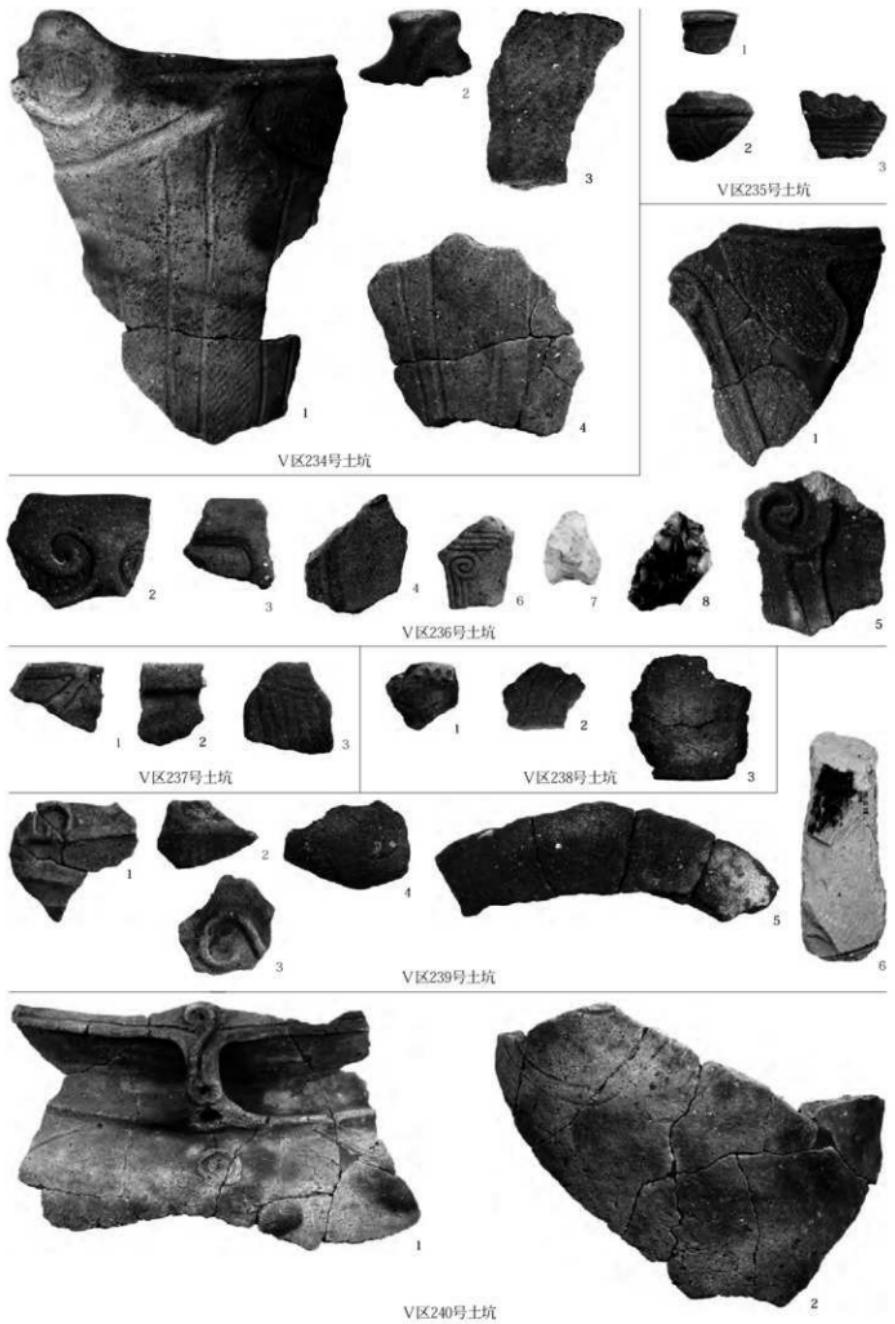
V区230号土坑

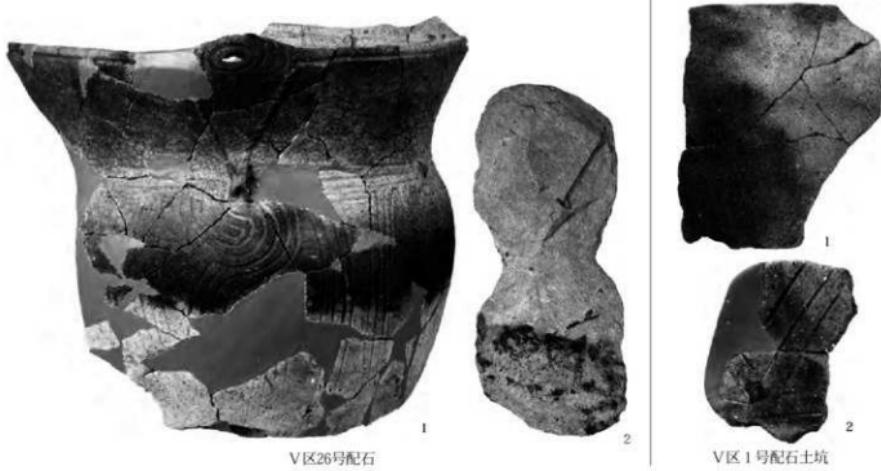
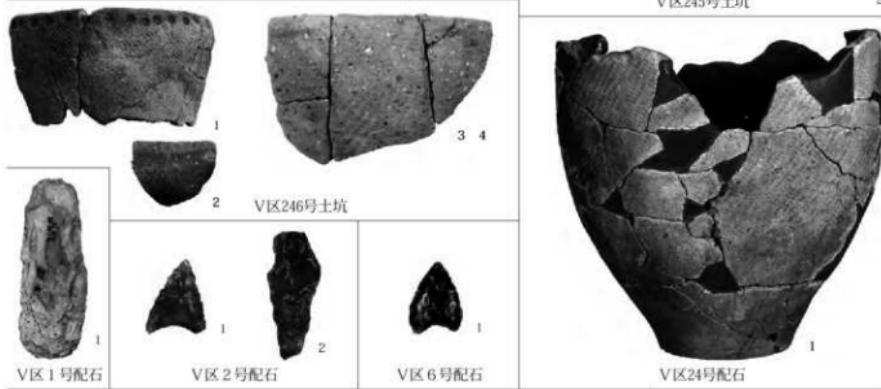
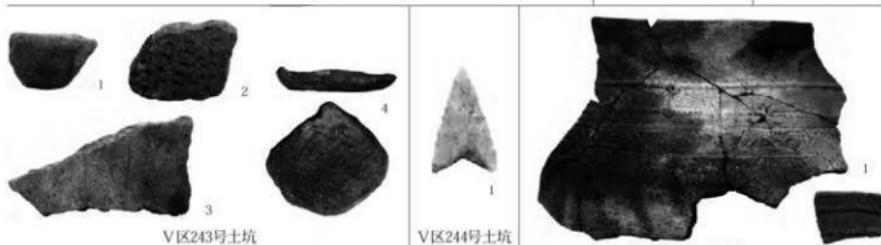


V区231号土坑



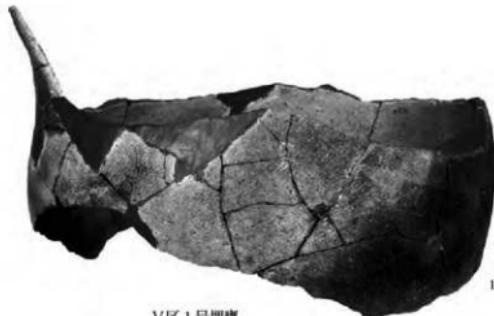
V区233号土坑



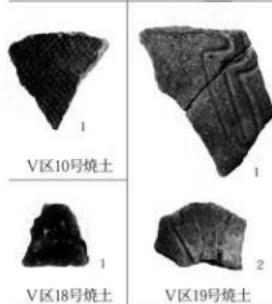




V区 2号配石土坑



V区 1号埋葬

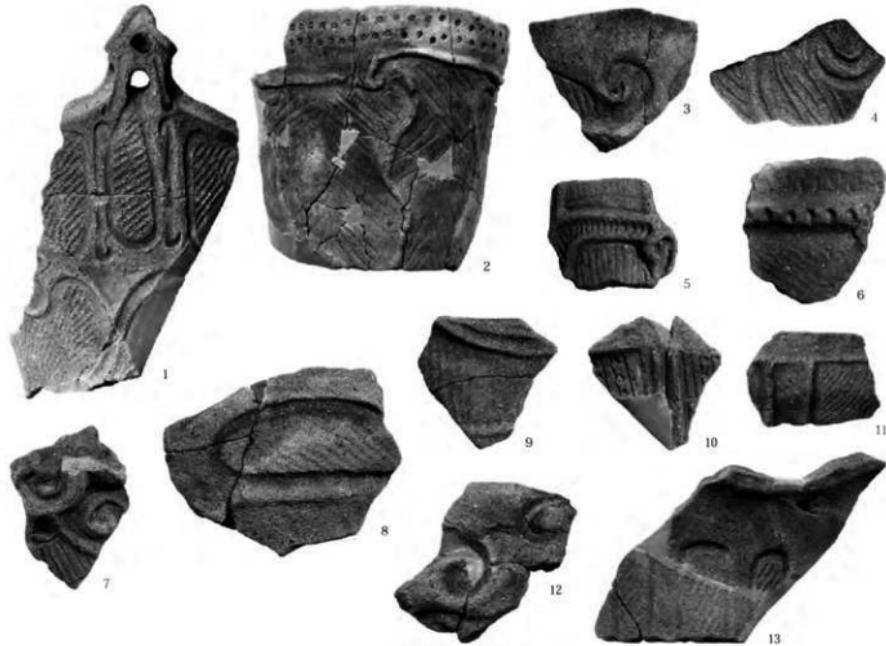


V区10号烧土



V区19号烧土

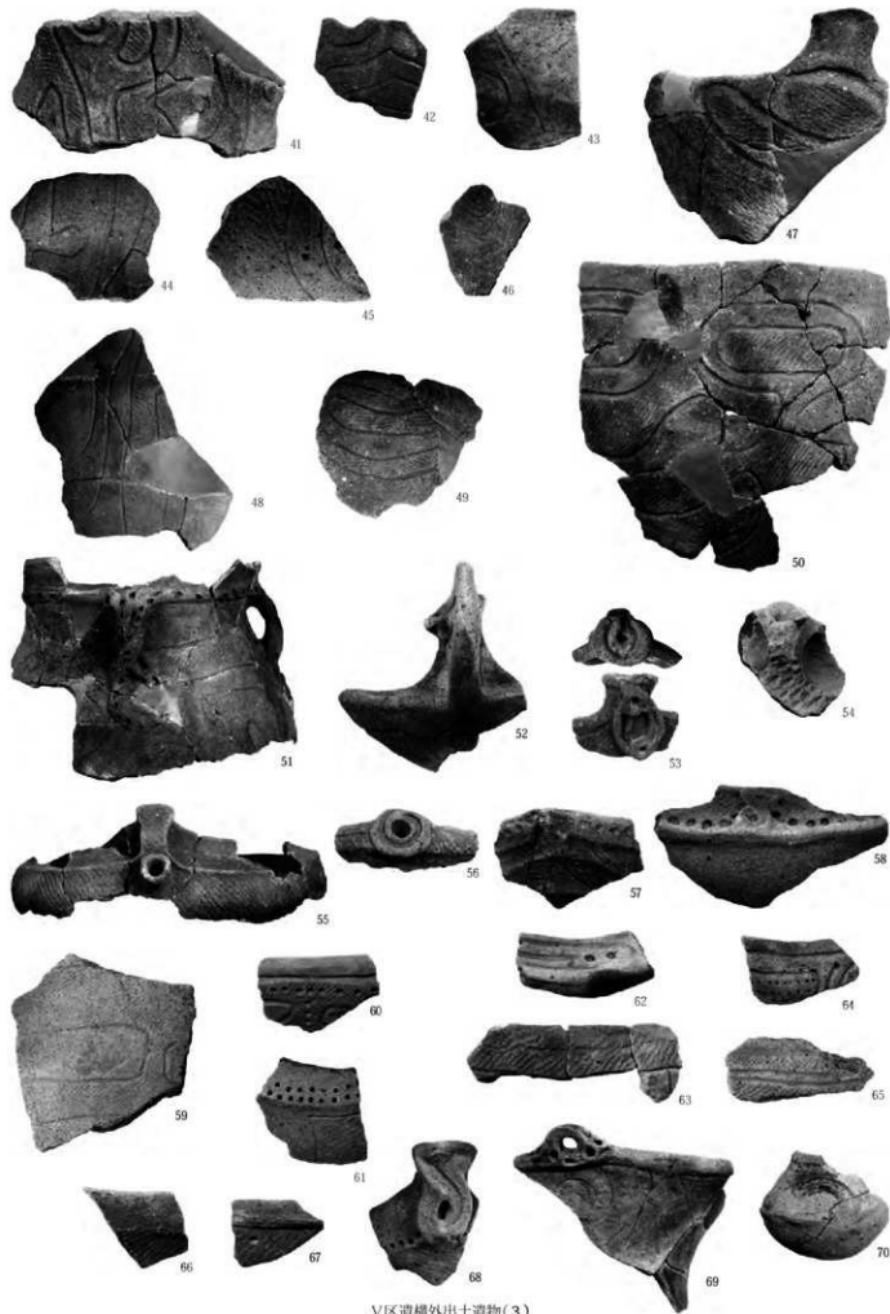
V区20号烧土



V区遗构外出土遗物(1)



V区遺構外出土遺物(2)



V区遺構外出土遺物(3)



V区遺構外出土遺物(4)

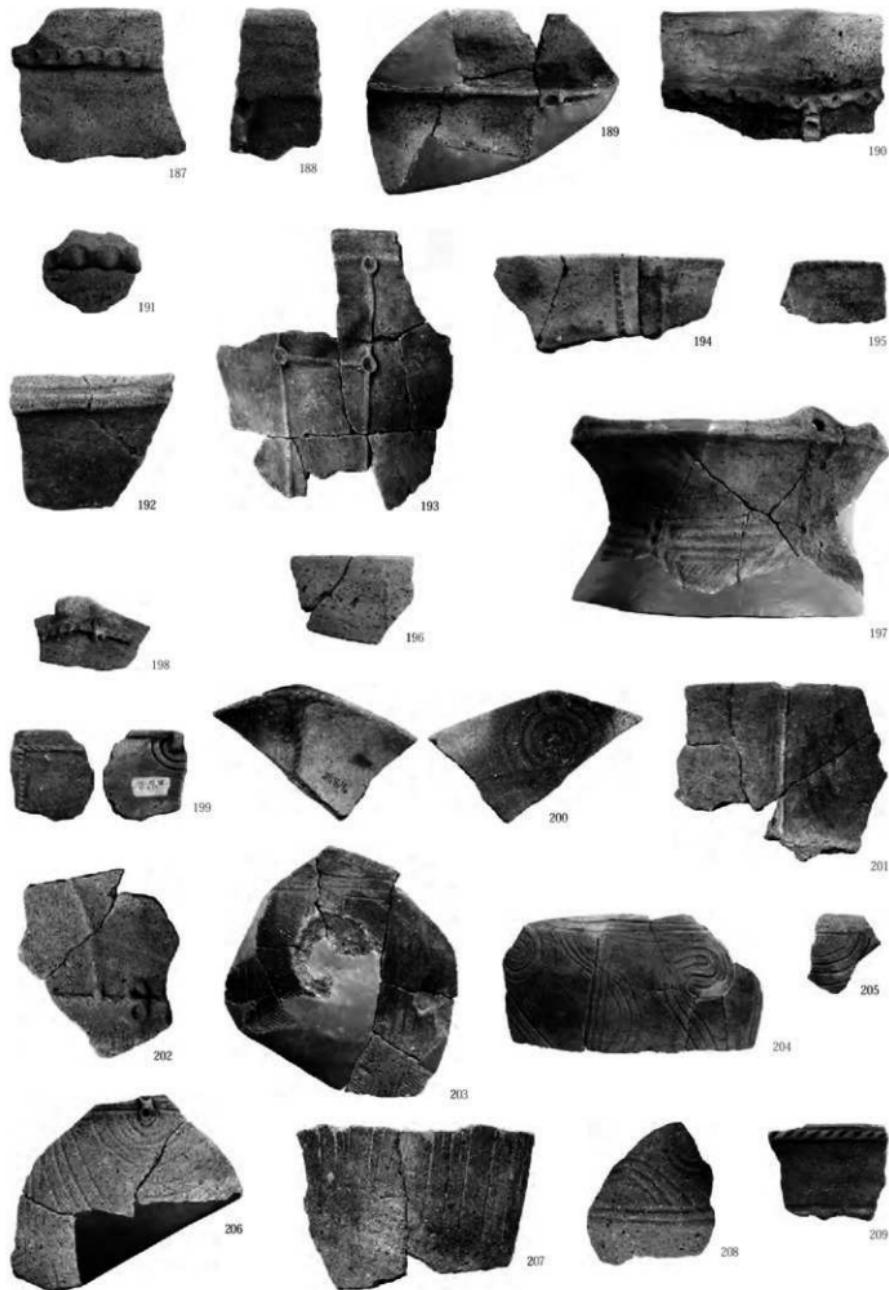


V区遺構外出土遺物(5)

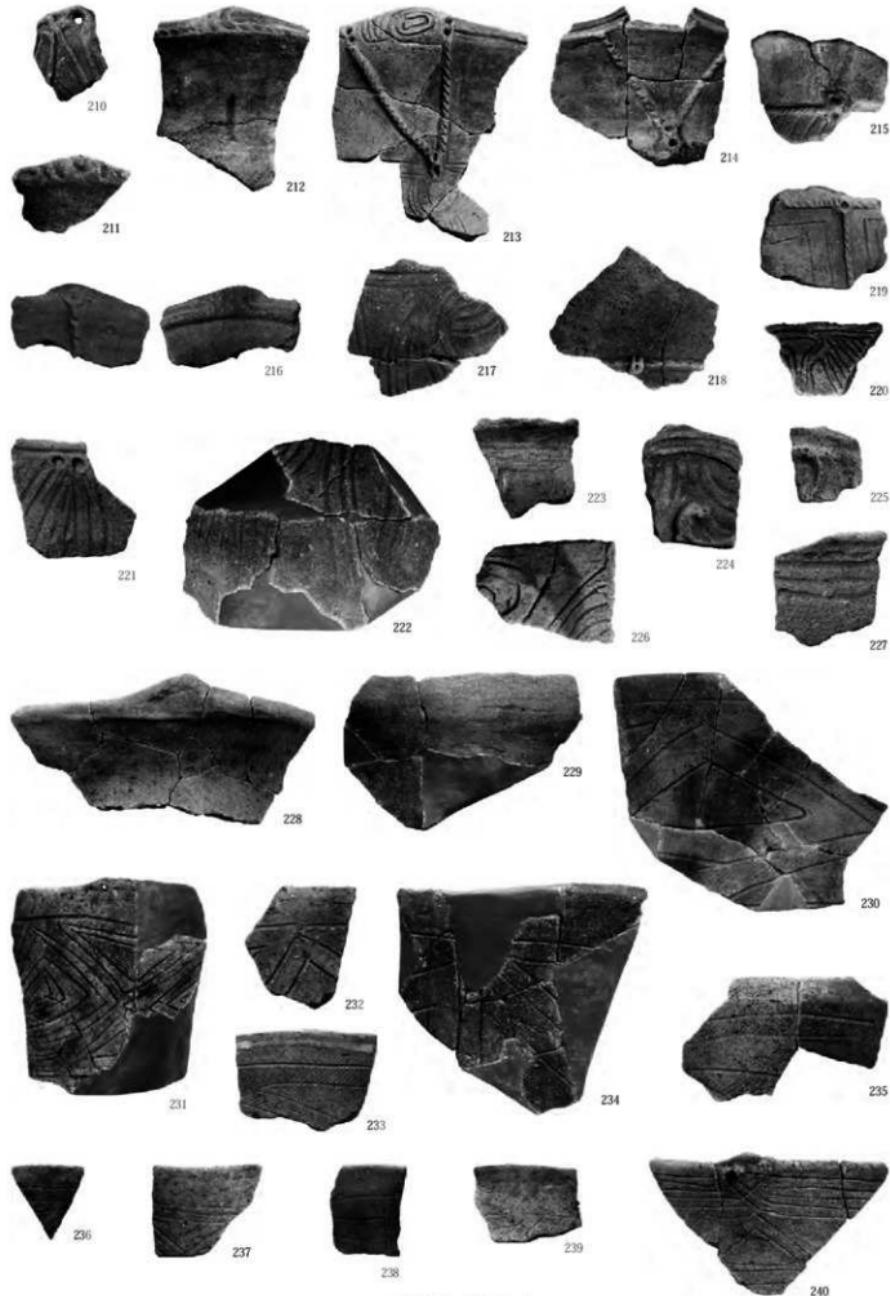


V区遺構外出土遺物(6)

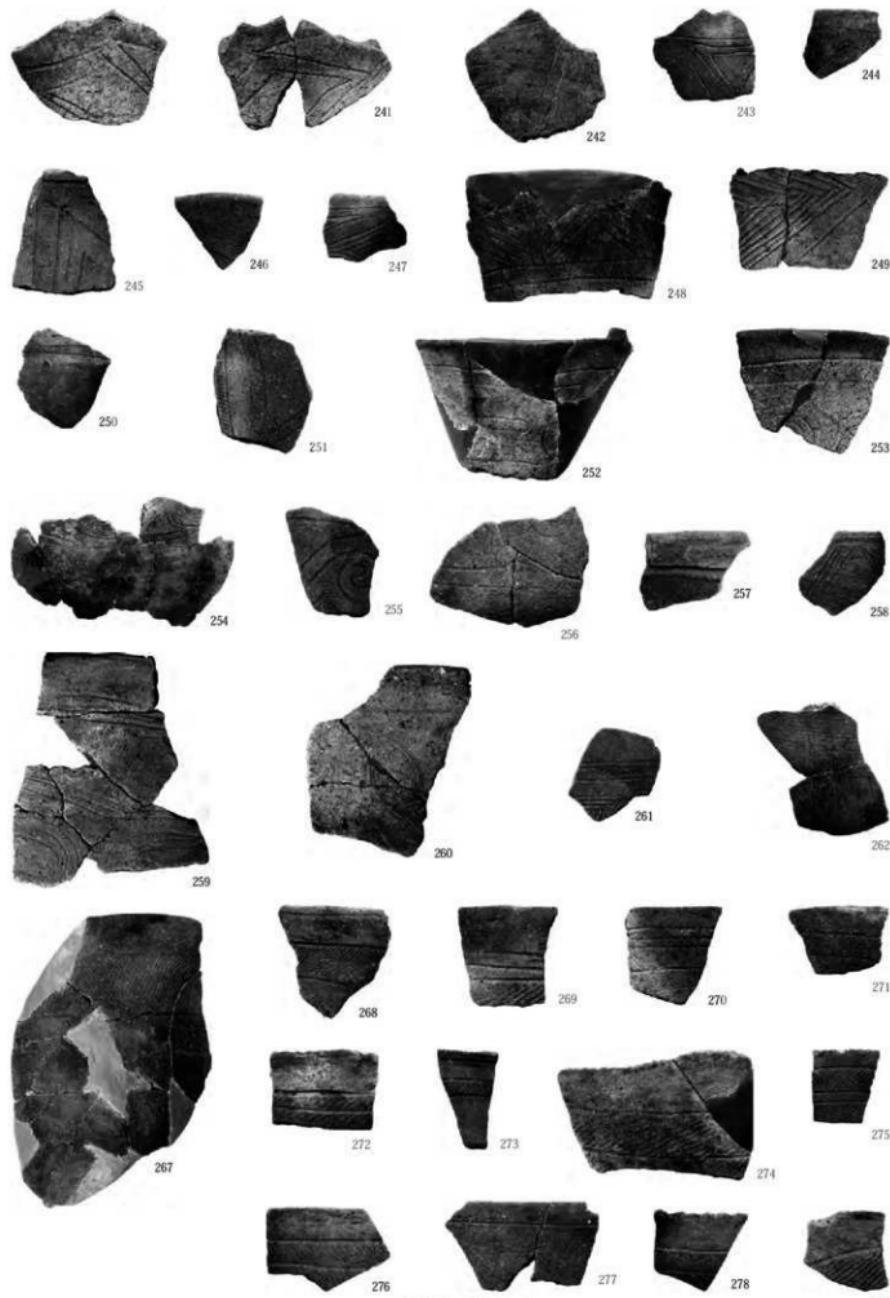




V区遺構外出土遺物(8)



V区遺構外出土遺物(9)



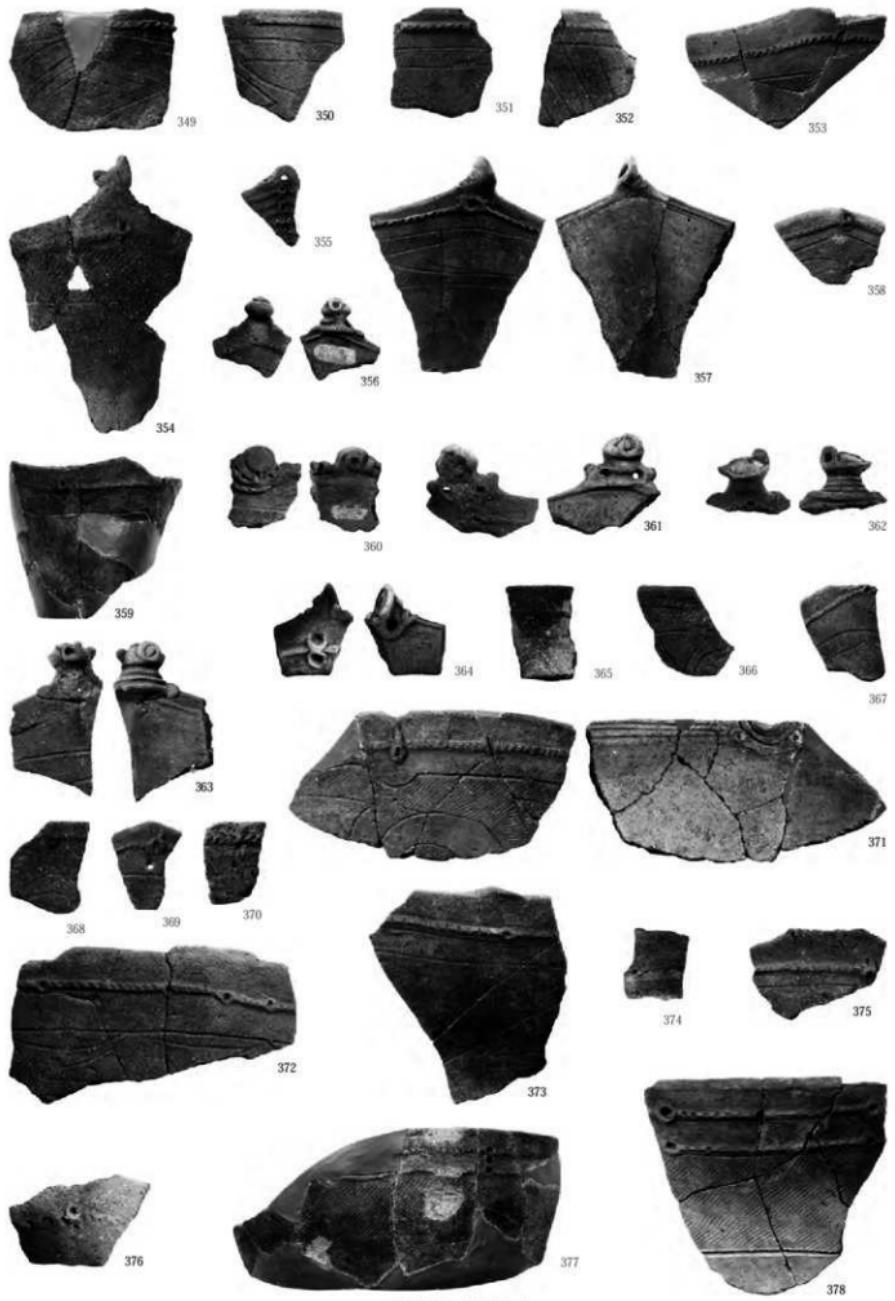
V区遺構外出土遺物(10)



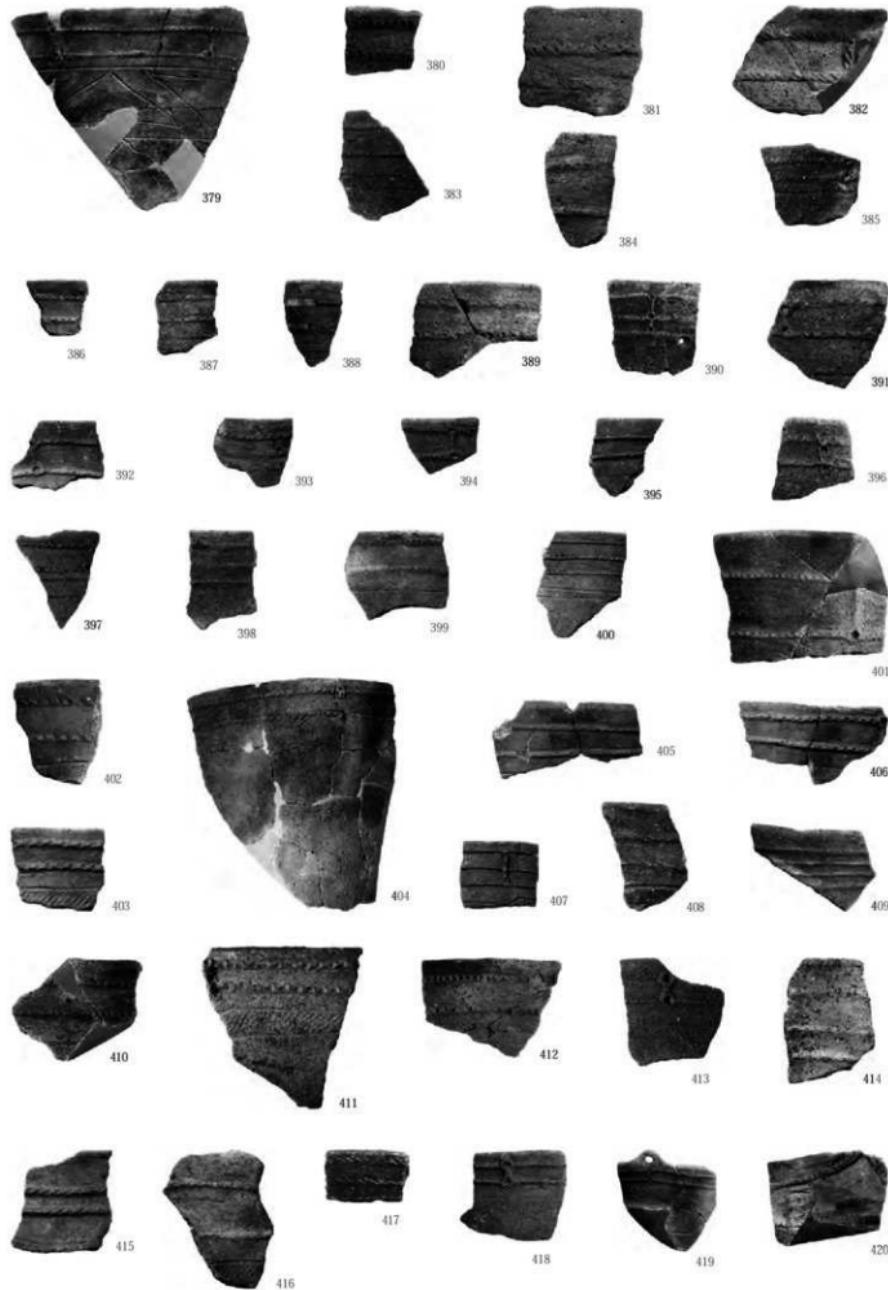
V区遺構外出土遺物(11)



V区遺構外出土遺物(12)



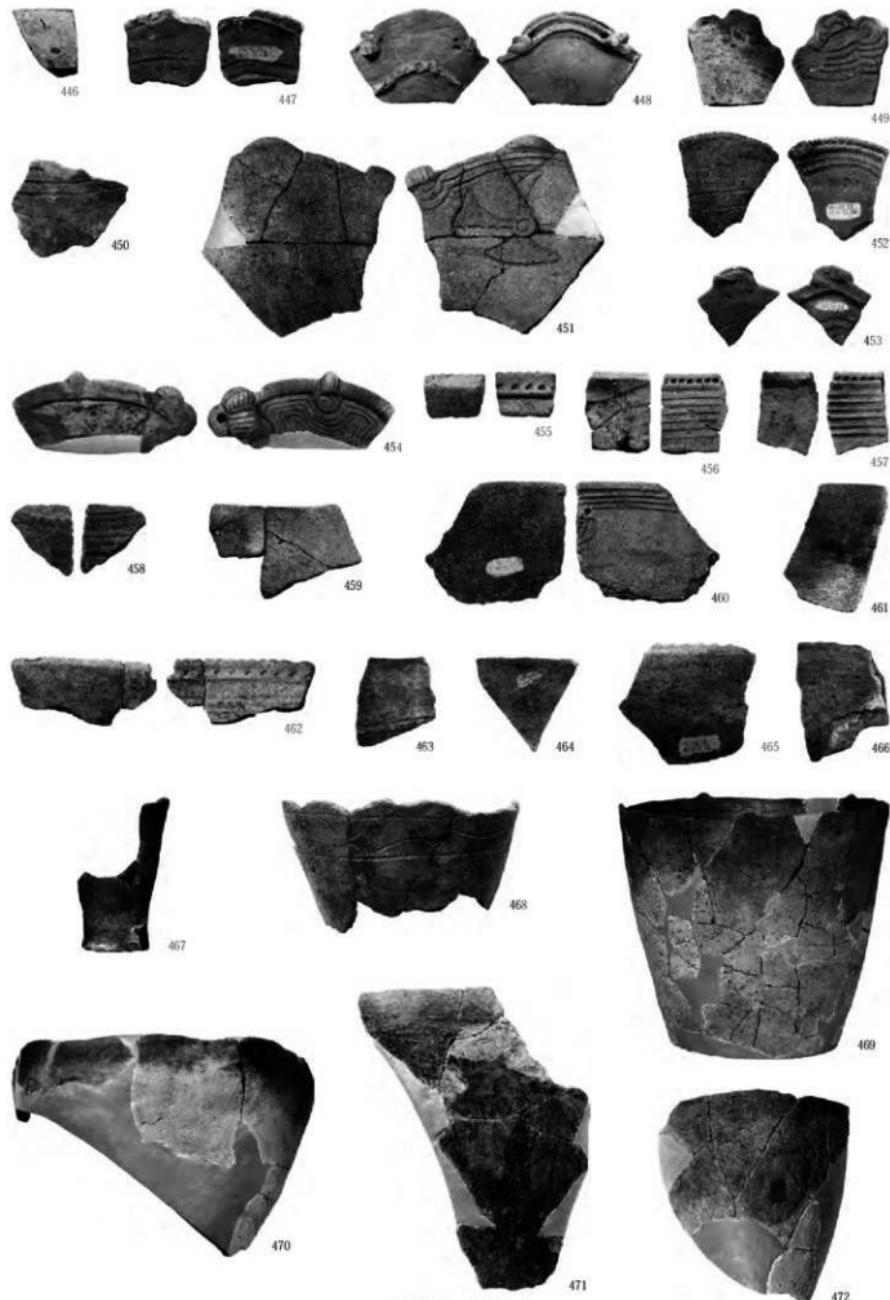
V区遺構外出土遺物(13)



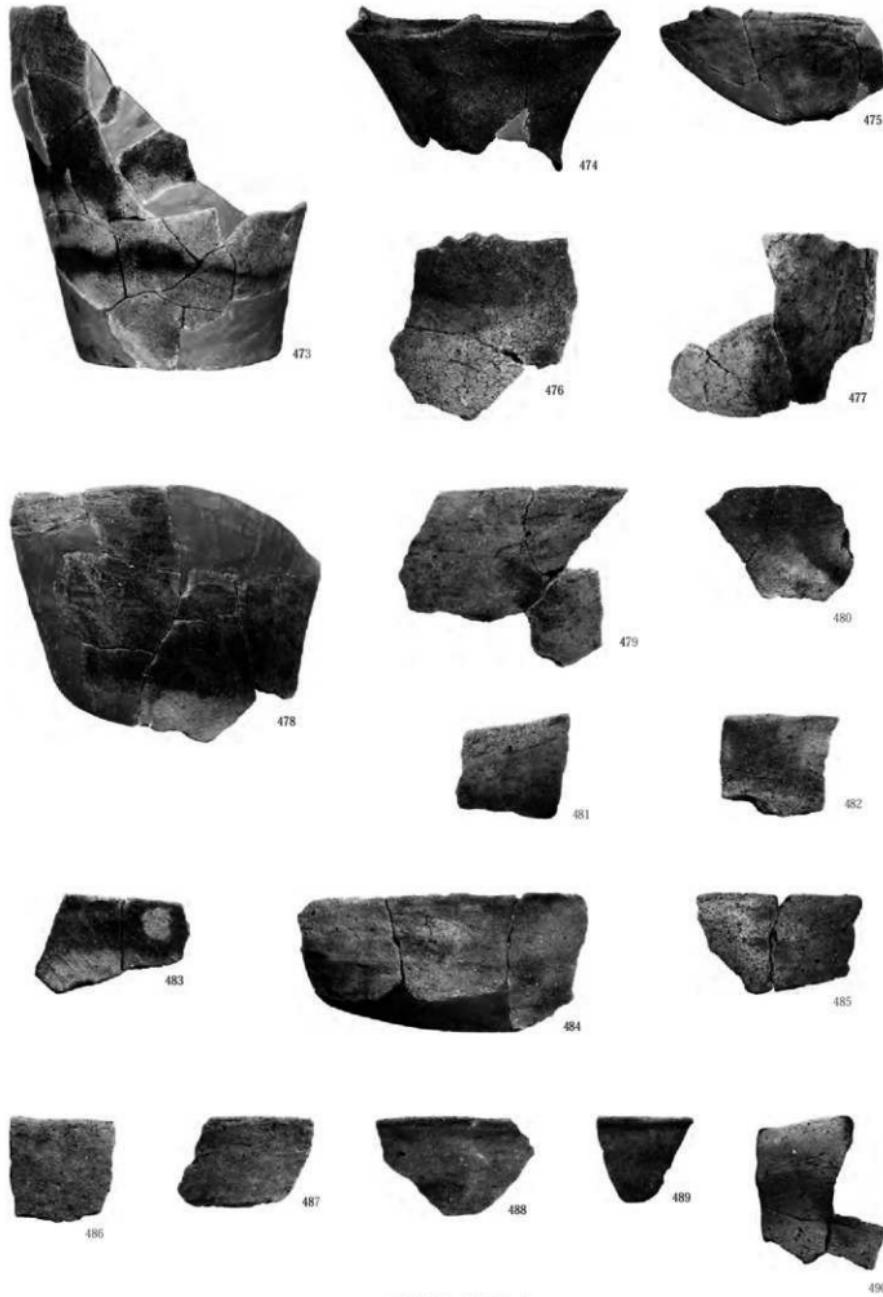
V区遺構外出土遺物(14)

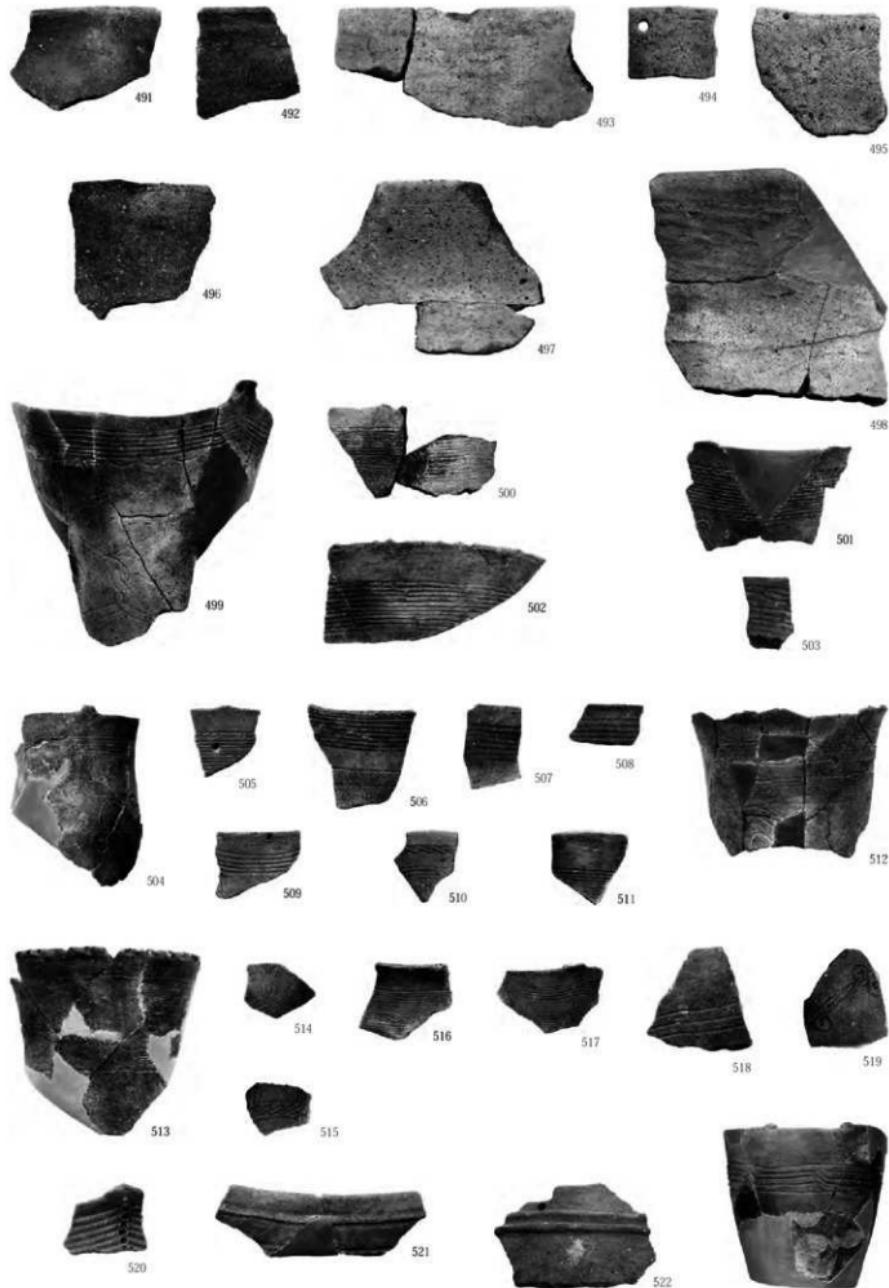


V区遺構外出土遺物(15)



V区遺構外出土遺物(16)





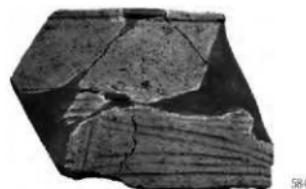
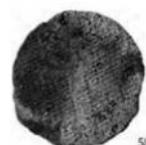
V区遺構外出土遺物(18)



V区遺構外出土遺物(19)



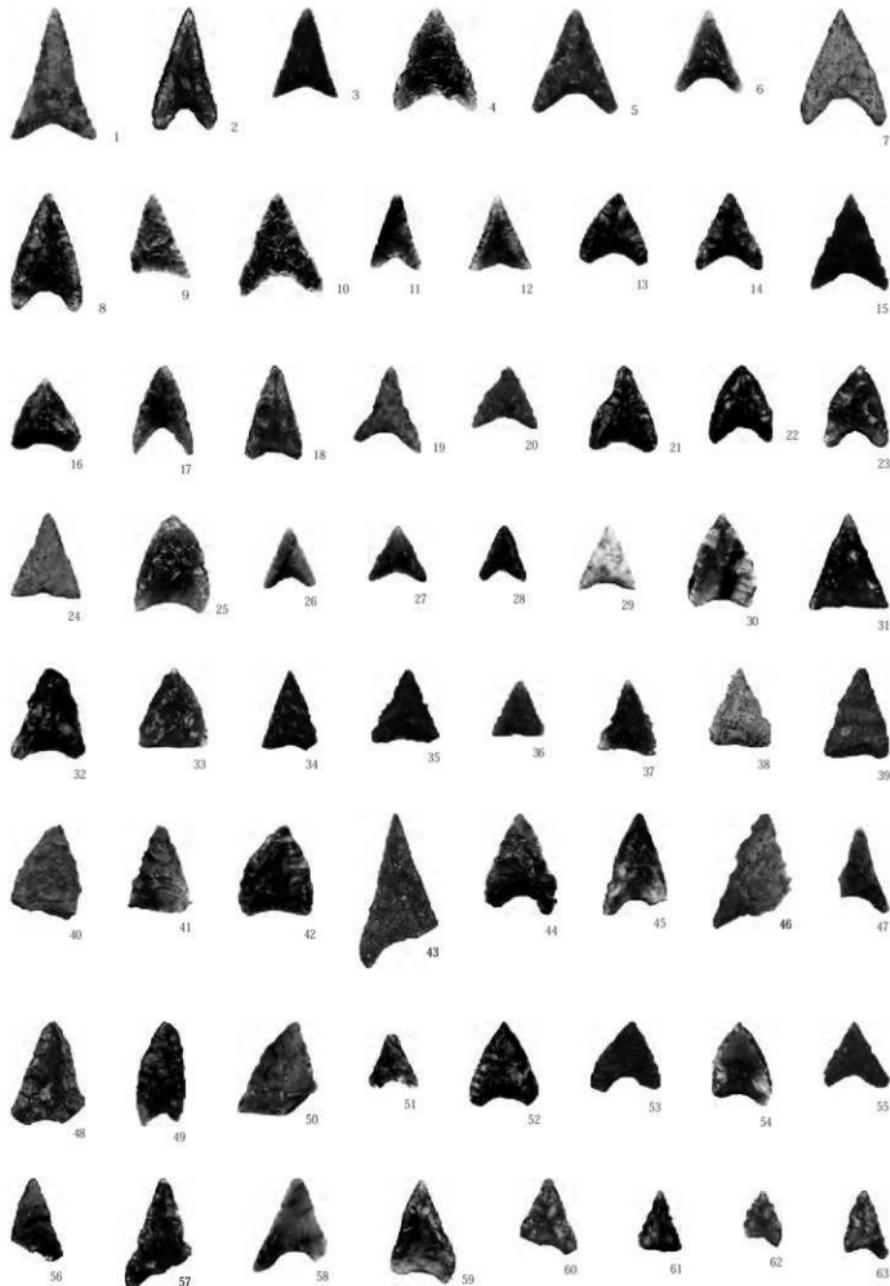
V区遺構外出土遺物(20)



V区遺構外出土遺物(21)



VI区遺構外出土遺物



V区遗構外出土遺物(22)





V区遺構外出土遺物(24)



V区遗構外出土遺物(25)



1 V区25・31号溝検出状況(東より)



2 V区25号溝全景(南東より)



3 V区31号溝全景(西より)



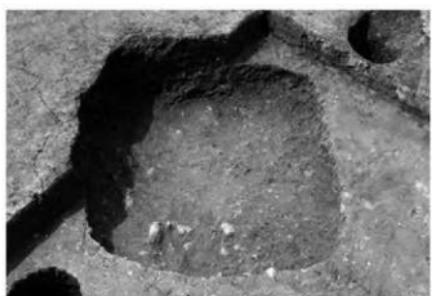
4 V区31号溝遺物出土状態(東より)



5 V区31号溝セクション(北より)



6 V区31号溝全景(北より)



7 V区89号土坑全景(南より)



8 V区91号土坑全景(西より)



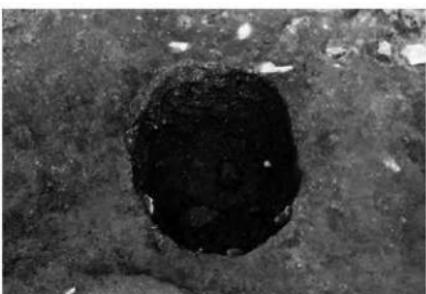
1 95号土坑全景(西より)



2 111号土坑全景(東より)



3 120号土坑全景(東より)



4 123号土坑全景(南より)



5 127号土坑礫出土状態(南より)



6 129号土坑セクション(北西より)



7 129号土坑遺物出土状態(北より)



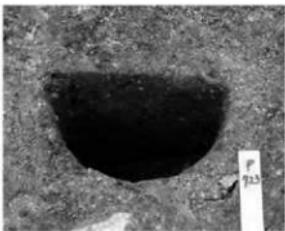
8 130号土坑礫出土状態(東より)



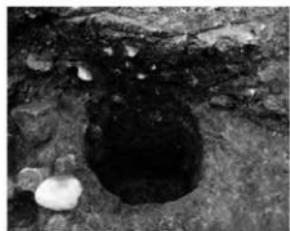
1 2面ピット群(南より)



2 2面ピット群(南より)



3 723号ピットセクション(南東より)



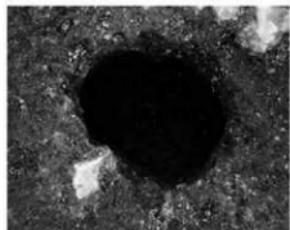
4 961号ピット全景(南より)



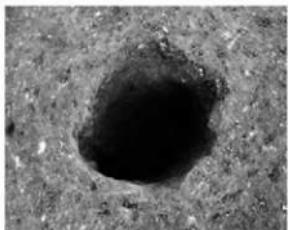
5 983号ピット全景(南より)



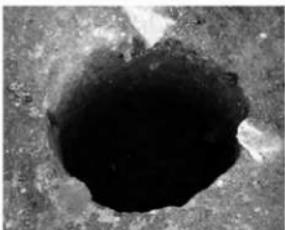
6 983号ピットセクション(南より)



7 987号ピット全景(南より)



8 988号ピット全景(南より)



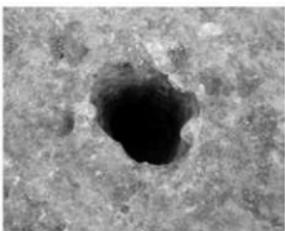
9 992号ピット全景(南より)



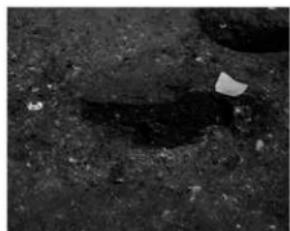
10 998・999号ピット全景(南より)



11 1000号ピットセクション(南より)



12 1003号ピット全景(北東より)



13 1004号ピットセクション(西より)



14 1004・1022・1026号ピット全景(南より)



15 41V-10グリッドピット群(東より)



1 3号土坑セクション(南より)



2 3号土坑全景(南より)



3 4号土坑セクション(南より)



4 4号土坑全景(南より)



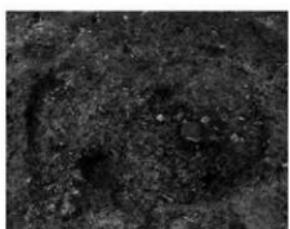
5 5号土坑全景(南より)



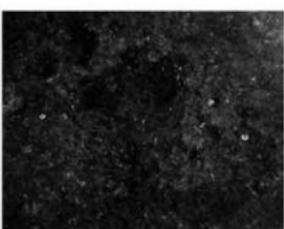
6 6号土坑セクション(南より)



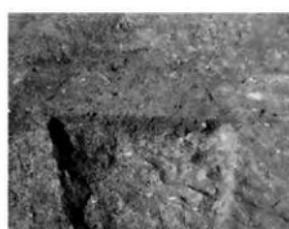
7 6号土坑全景(南より)



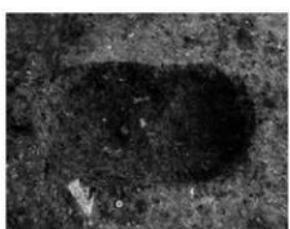
8 7号土坑全景(東より)



9 8号土坑全景(南より)



10 9号土坑セクション(南より)



11 10号土坑全景(南より)



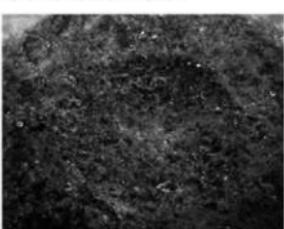
12 11号土坑全景(南より)



13 12号土坑セクション(西より)



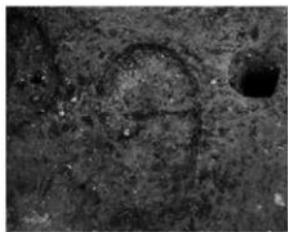
14 12号土坑全景(南東より)



15 13号土坑全景(西より)



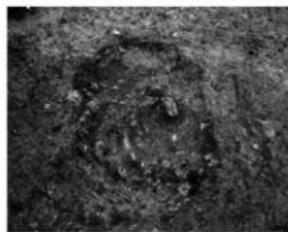
1 14号土坑全景(西より)



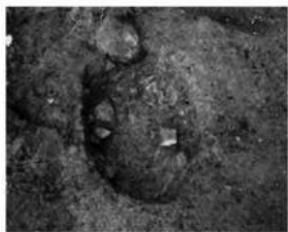
2 15号土坑全景(南より)



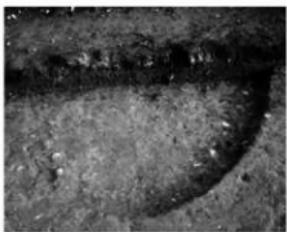
3 16号土坑全景(南東より)



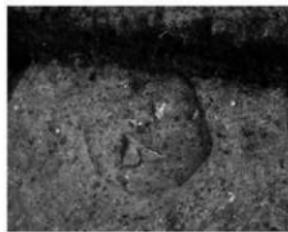
4 17号土坑全景(西より)



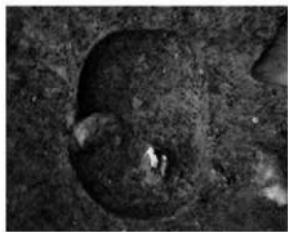
5 18号土坑全景(西より)



6 19号土坑全景(北より)



7 20号土坑全景(北より)



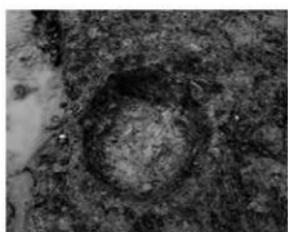
8 21号土坑全景(南西より)



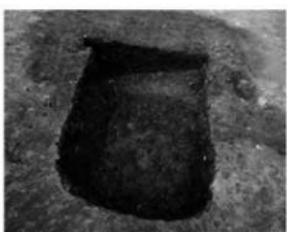
9 22号土坑全景(南より)



10 23号土坑全景(南より)



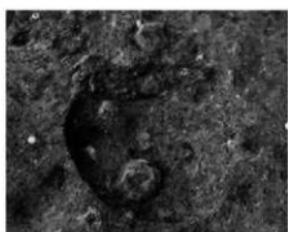
11 25号土坑全景(南東より)



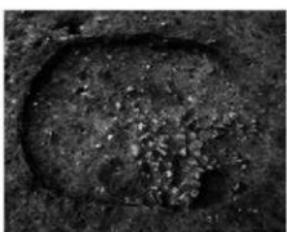
12 26号土坑セクション(西より)



13 26号土坑全景(西より)



14 27号土坑全景(南より)



15 28号土坑全景(南より)



1 1号焼土セクション(南より)



2 2号焼土セクション(西より)



3 3号焼土セクション(南より)



4 3号焼土全景(南より)



5 1号水場遺構全景(東より)



6 1号水場遺構全景(北西より)



7 1号水場遺構板材検出状態(南より)



8 1号水場遺構全景(北西より)



1 24号溝・畠全景(南東より)



2 24号溝・畠および5号列石(北西より)



1 V区(4面)・VII区(1面)全景(上空より)



2 32号建物全景(上空より)



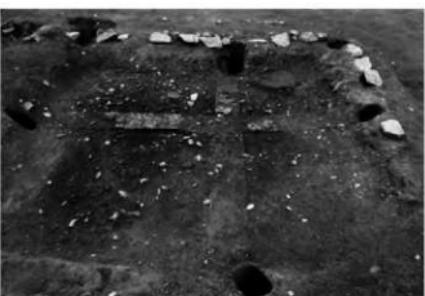
1 32号建物全景(南東より)



2 32号建物囲炉裏・竈(東より)



3 32号建物囲炉裏・竈全景(東より)



4 32号建物馬屋全景(東より)



5 32号建物北側全景(南東より)



6 32号建物囲炉裏全景(南東より)



7 32号建物囲炉裏セクション(南より)



8 32号建物竈全景(南より)



1 32号建物竈全景(東より)



2 32号建物竈断ち割り状況(東より)



3 32号建物竈構築材状況(東より)



4 32号建物遺物出土状態(西より)



5 32号建物遺物出土状態(北より)



6 32号建物遺物出土状態(南より)



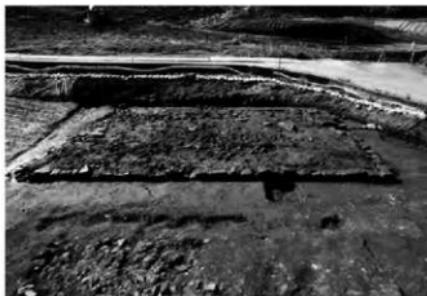
7 32号建物遺物出土状態(南より)



8 32号道検出状況(南より)



1 33号建物全景(上空より)



2 33号建物全景(南より)



3 33号建物全景(北より)



4 33号建物全景(南より)



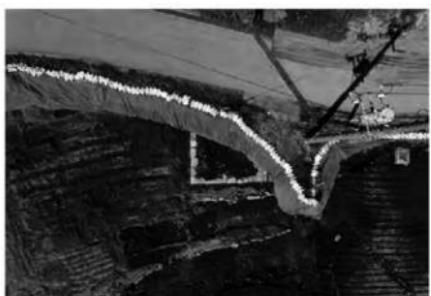
5 33号建物全景(北より)



1 34号建物全景(北より)



2 34号建物全景(南より)



3 35号建物全景(上空より)



4 35号建物全景(南より)



5 36号建物全景(上空より)



6 36号建物全景(南より)



7 36号建物全景(南西より)



8 36号建物建築材出土状態(北東より)



1 33・37号建物全景北(東より)



2 37号建物全景北(東より)



3 1号切石石組遺構全景(東より)



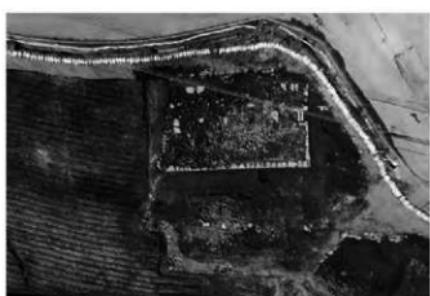
4 1号切石石組遺構全景(東より)



5 35号石垣全景(南より)



6 36号石垣全景(北東より)



7 33・37号建物・39号石垣検出状況(上空より)



8 39号石垣検出状況(北東より)



1 39号石垣検出状況(東より)



2 39号石垣全景(東より)



3 39号石垣全景(東より)



4 39号石垣全景(東より)



5 煙・復旧坑全景(上空より)



1 2・3号復旧坑・38号石垣全景(南西より)



2 2号復旧坑全景(東より)



3 45号煙全景(西より)



4 47・48号煙全景(東より)



5 53号煙全景(南より)



6 53・54号煙全景(北東より)



7 2面確認1号トレンチ(南より)



8 2面確認2号トレンチ(西より)



1 IX区 4号トレンチ烟確認状況(西より)



2 IX区 4号トレンチ烟確認状況(北より)



3 IX区 5号トレンチ全景(北西より)



4 IX区 6号トレンチ烟検確認状況(東より)



5 IX区 4号トレンチ烟全景(南より)



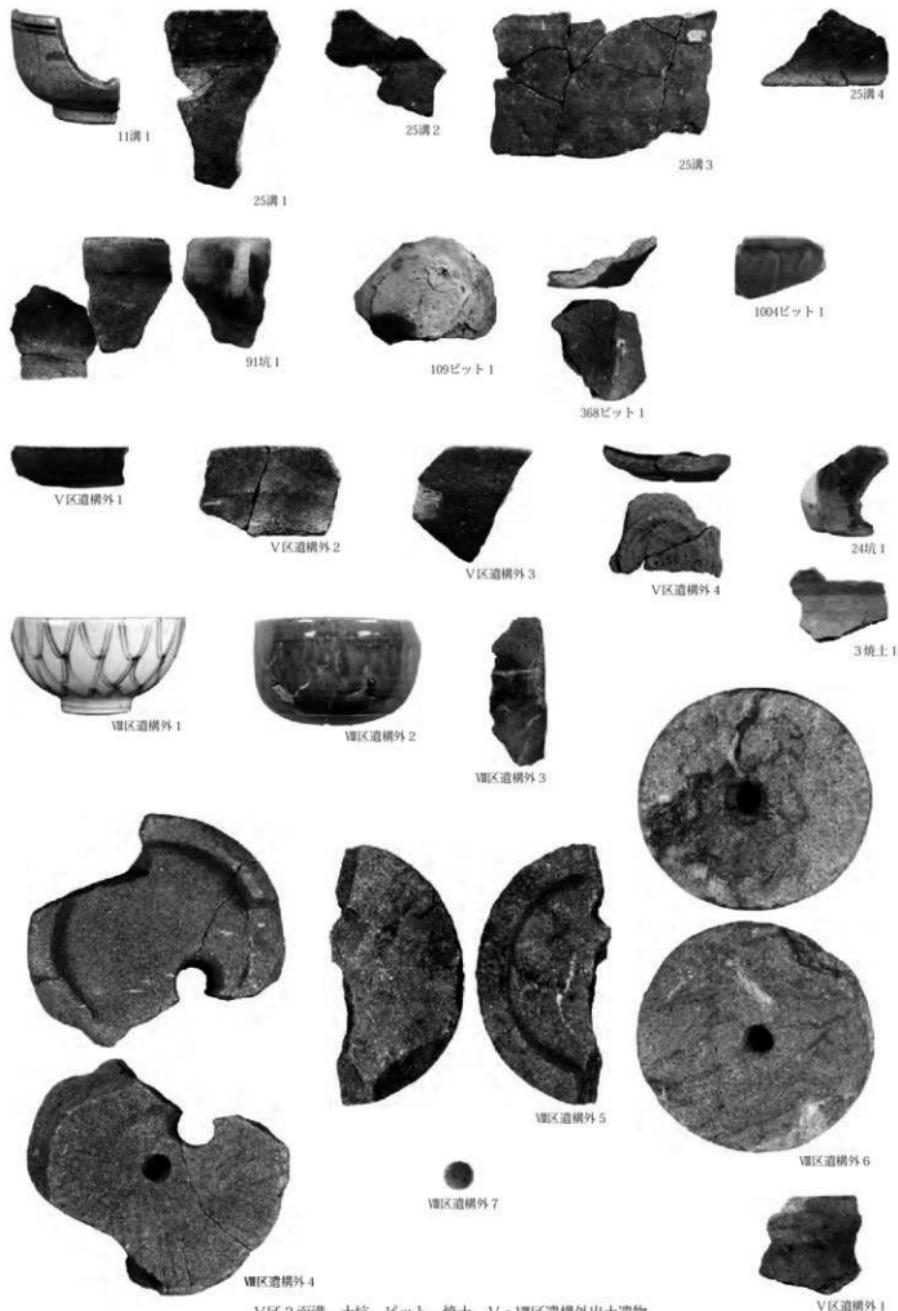
6 IX区 4号トレンチ全景(西より)

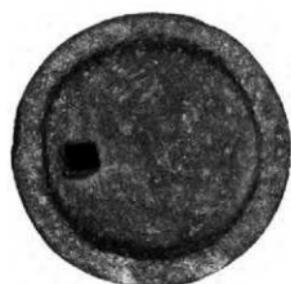
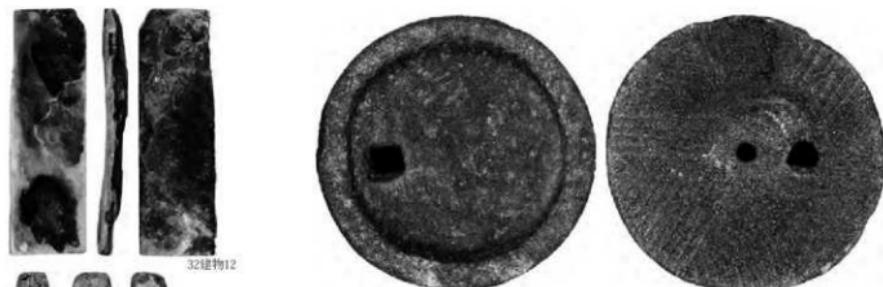


7 IX区 8号トレンチ烟確認状況(東より)

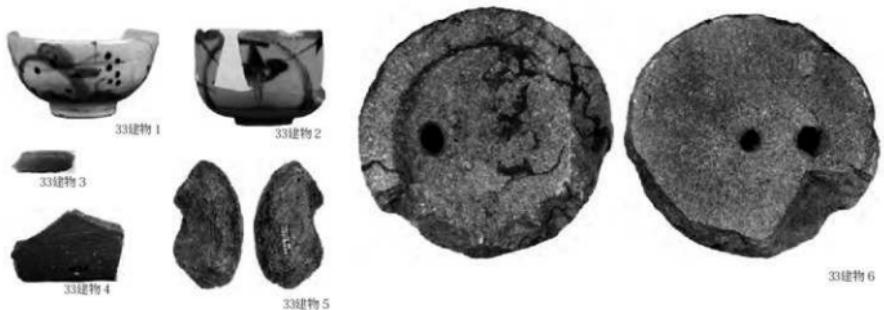


8 IX区 9号トレンチ烟確認状況(東より)

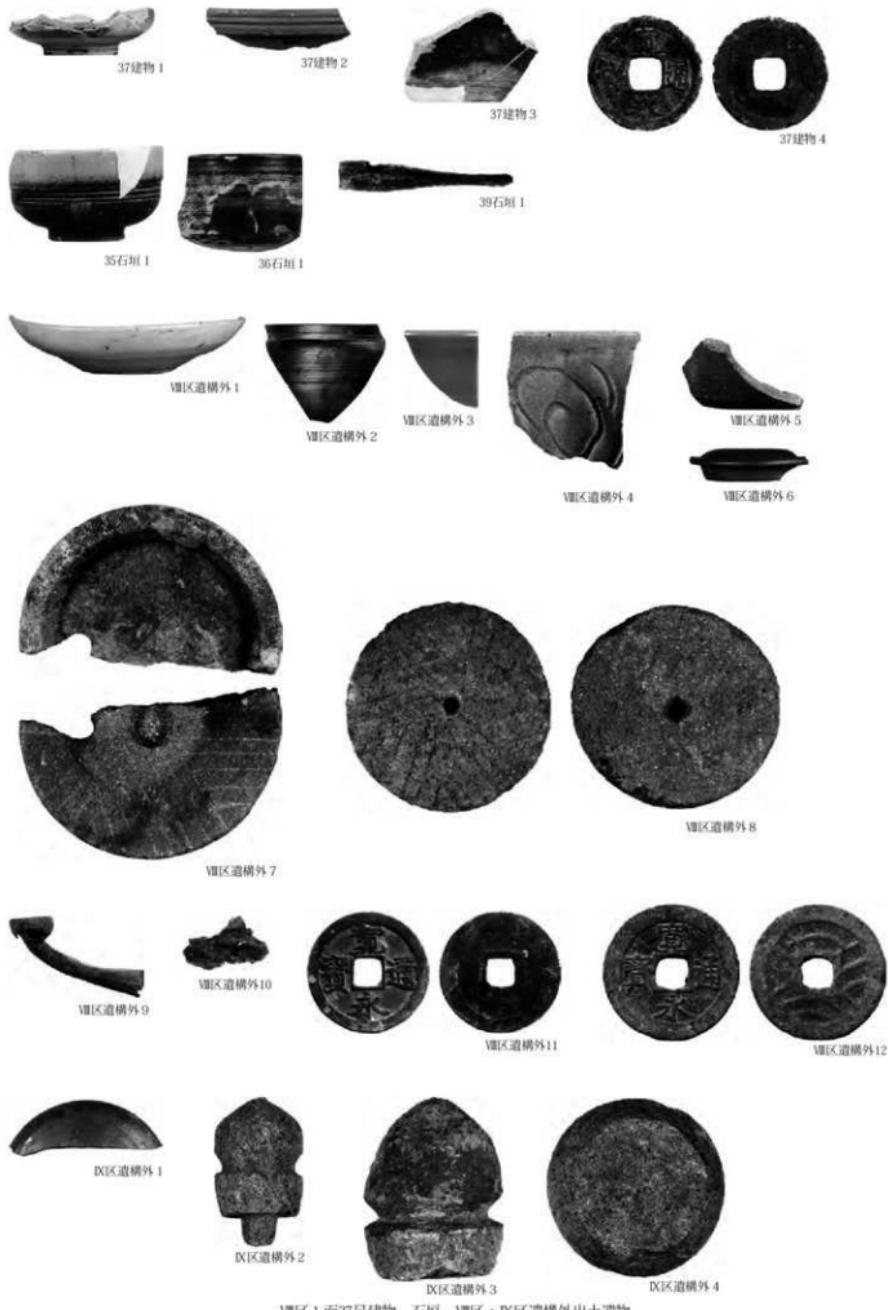




VII区 1面32号建物出土遺物

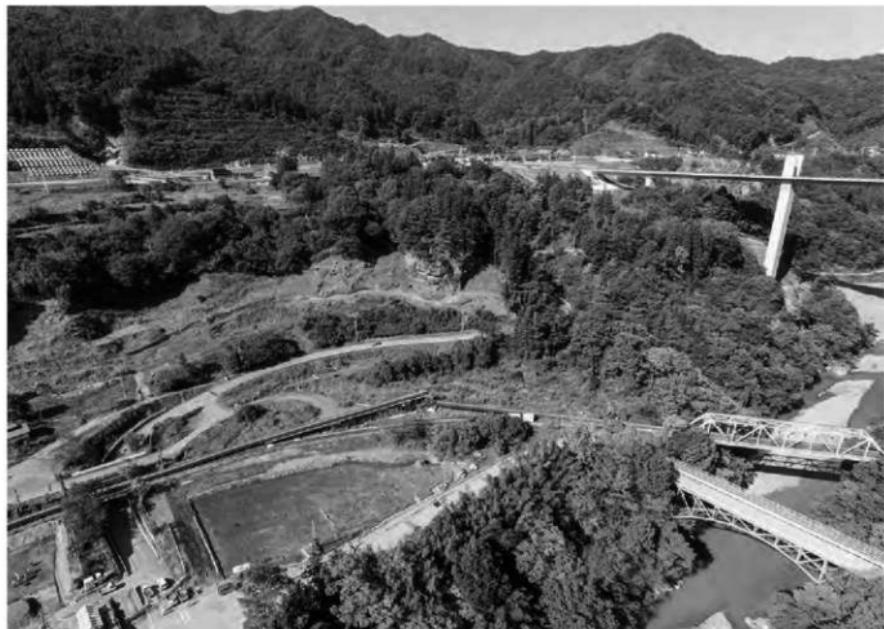


VII区 1面32 ~ 34 • 36号建物出土遺物



写 真 図 版

三 ツ 堂 岩 陰



1 遺跡遠景(東より)



2 岩陰遠景(東より)



1 岩陰近景(東より)



2 1号トレンチ(北より)



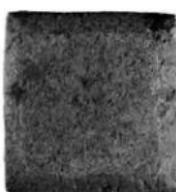
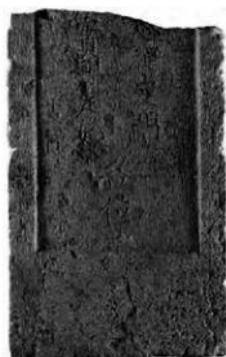
3 2号トレンチ(南東より)



4 3号トレンチ(南西より)



5 4号トレンチ(東より)



出土遺物(1)



10



11

出土遺物(2)

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	ひがしみやいせきかっこご・みつどういわかげ
書名	東宮遺跡（5）・三ッ堂岩陰
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	74
シリーズ名	公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	675
編著者名	小野和之・都木直人・田村博
編集機関	公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20210324
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひがしみやいせき
遺跡名	東宮遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠
市町村コード	10424
遺跡番号	0208
北緯（世界測地系）	363307
東経（世界測地系）	1384206
調査期間	20160401-20161231, 20170401-20171231, 20180401-20180930
調査面積	33605(29421)
調査原因	ダム建設
種別	包蔵地/集落/墳墓/生産遺跡
主な時代	縄文/中世/近世
遺跡概要	集落－縄文－竪穴建物92+土坑－列石7+配石30+配石土坑2+焼土8+縄文土器+石器/中世－土坑+ピット+焼土/集落－近世－建物6+石垣6+道1+暗渠2+切り石石組遺構1+水場遺構1/生産遺跡－烟4+陶磁器+金属器
特記事項	V区・VII区の第1面（近世、天明泥流下）・第2面（中世）は『東宮遺跡（4）』に掲載。
要約	縄文時代中期の集落、複数の列石および配石と縄文時代後期の集落。江戸時代天明泥流で埋没した集落跡、煙等。
遺跡名ふりがな	みつどういわかげ
遺跡名	三ッ堂岩陰
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠
市町村コード	10424
遺跡番号	0012
北緯（世界測地系）	363312
東経（世界測地系）	1384208
調査期間	20161006-20161130
調査面積	1,504
調査原因	ダム建設
種別	包蔵地
主な時代	近世
遺跡概要	包蔵地－近世－石製品
特記事項	旧三ッ堂（觀音堂）移転後の跡地にあたる。
要約	近世の石製品出土。

公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第675集

東宮遺跡(5) 三ッ堂岩陰

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第74集

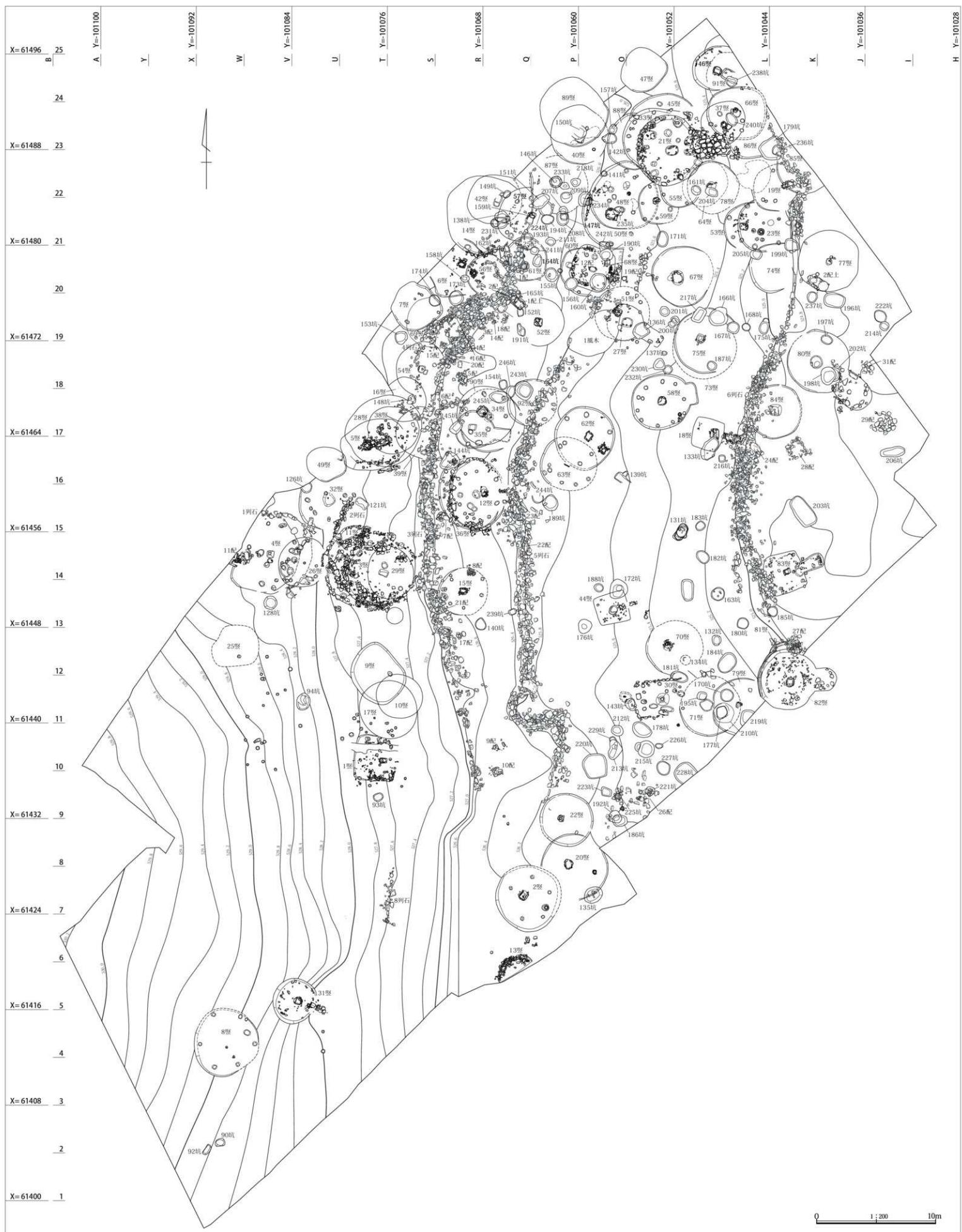
令和3(2021)年3月17日 発行
令和3(2021)年3月24日 発行

編集・発行／公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県邑楽市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>
自刷／ジャーナル印刷株式会社



付図1 東宮遺跡V区第3・4面全体図 (1:200)



付図2 東宮遺跡第1面(天明泥流下)全体図 (1:800)

